

第1.2-100表 城山南断層による地震の不確かさを考慮した断層パラメータ
(断層傾斜角の不確かさを考慮したケース)

項目			設定値	
巨視的パラメータ	断層位置	東端	北緯	33° 24' 16"
			東経	130° 07' 39"
		西端	北緯	33° 29' 22"
			東経	129° 56' 30"
	走向 (度)			118.6
	傾斜角 (度)			60
	ずれの種類			左横ずれ
	断層上端深さ (km)			3
	断層長さ (km)			19.7
	断層幅 (km)			19.7
	断層面積 (km ²)			388.09
	剛性率 (N/m ²)			3.31×10 ¹⁰
	S波速度 (km/s)			3.5
	地震モーメント (N・m)			8.38×10 ¹⁸
	平均すべり量 (cm)			65.3
平均応力降下量 (MPa)			2.67	
短周期レベル (N・m/s ²)			1.08×10 ¹⁹	
微視的パラメータ	アスペリティ	地震モーメント (N・m)		3.03×10 ¹⁸
		面積 (km ²)		69.88
		平均すべり量 (cm)		131.2
		実効応力 (MPa)		14.80
	背景領域	地震モーメント (N・m)		5.35×10 ¹⁸
		面積 (km ²)		318.21
		平均すべり量 (cm)		50.8
		実効応力 (MPa)		2.70
その他のパラメータ	破壊伝ば速度 (km/s)		2.52	
	破壊開始点		第1.2-212図参照	
	破壊伝ば様式		放射状	
Q値			56f ^{1.5}	

第1.2-101表 竹木場断層による地震の不確かさを考慮した断層パラメータ
(断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース)

項目			設定値	
巨視的パラメータ	断層位置	北端	北緯	33° 34' 57"
			東経	129° 57' 39"
		南端	北緯	33° 24' 30"
			東経	129° 54' 21"
	走向 (度)			194.8
	傾斜角 (度)			80
	ずれの種類			右横ずれ
	断層上端深さ (km)			3
	断層長さ (km)			20.0
	断層幅 (km)			17.3
	断層面積 (km ²)			346.00
	剛性率 (N/m ²)			3.31×10 ¹⁰
	S波速度 (km/s)			3.5
	地震モーメント (N・m)			6.66×10 ¹⁸
	平均すべり量 (cm)			58.2
平均応力降下量 (MPa)			2.52	
短周期レベル (N・m/s ²)			9.97×10 ¹⁸	
微視的パラメータ	アスペリティ	地震モーメント (N・m)		2.23×10 ¹⁸
		面積 (km ²)		57.71
		平均すべり量 (cm)		117.0
		実効応力 (MPa)		15.10
	背景領域	地震モーメント (N・m)		4.43×10 ¹⁸
		面積 (km ²)		288.29
		平均すべり量 (cm)		46.4
		実効応力 (MPa)		2.70
その他のパラメータ	破壊伝ば速度 (km/s)		2.52	
	破壊開始点		第1.2-213図参照	
	破壊伝ば様式		放射状	
Q値			56f ^{1.5}	

第1.2-102表 城山南断層による地震の不確かさを考慮した断層パラメータ
(断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース)

項目			設定値	
巨視的パラメータ	断層位置	東端	北緯	33° 25' 06"
			東経	130° 08' 12"
		西端	北緯	33° 30' 17"
			東経	129° 56' 52"
	走向 (度)			118.6
	傾斜角 (度)			90
	ずれの種類			左横ずれ
	断層上端深さ (km)			3
	断層長さ (km)			20.0
	断層幅 (km)			17
	断層面積 (km ²)			340.00
	剛性率 (N/m ²)			3.31×10 ¹⁰
	S波速度 (km/s)			3.5
	地震モーメント (N・m)			6.43×10 ¹⁸
	平均すべり量 (cm)			57.2
平均応力降下量 (MPa)			2.50	
短周期レベル (N・m/s ²)			9.86×10 ¹⁸	
微視的パラメータ	アスペリティ	地震モーメント (N・m)		2.13×10 ¹⁸
		面積 (km ²)		56.05
		平均すべり量 (cm)		114.9
		実効応力 (MPa)		15.20
	背景領域	地震モーメント (N・m)		4.30×10 ¹⁸
		面積 (km ²)		283.95
		平均すべり量 (cm)		45.8
		実効応力 (MPa)		2.70
その他のパラメータ	破壊伝ば速度 (km/s)		2.52	
	破壊開始点		第1.2-214図参照	
	破壊伝ば様式		放射状	
Q値			56f ^{1.5}	

第1.2-103表 不確かさを考慮した検討用地震の諸元

(断層傾斜角の不確かさを考慮したケース)

検討用地震	マグニチュード M	等価震源距離 (km)
竹木場断層による地震	7.0	11.0
城山南断層による地震	7.0	19.9

(断層長さ及び震源断層の拡がりの不確かさを考慮したケース)

検討用地震	マグニチュード M	等価震源距離 (km)
竹木場断層による地震	7.0	12.8
城山南断層による地震	7.0	20.0

第1.2-104表 要素地震の震源パラメータ

項目		設定値
発生年月日		2005年3月22日
気象庁マグニチュード		5.4
震源位置	北緯	33° 43' 30"
	東経	130° 10' 36"
震源深さ (km)		10.5
走向 (度)		284 ; 14
傾斜 (度)		89 ; 85
すべり角 (度)		-5 ; -179
地震モーメント (N・m)		3.02×10^{16}
臨界振動数 (Hz)		0.672
平均すべり量 (cm)		7.68
実効応力 (MPa)		1.80

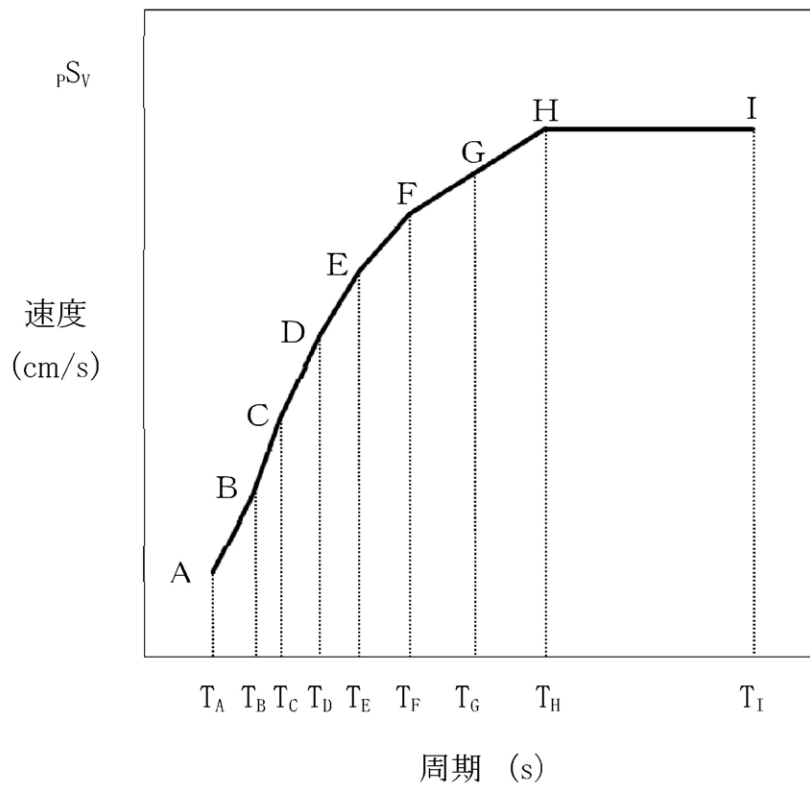
第 1.2-105 表 標準応答スペクトルの応答スペクトル値

標準応答 スペクトル	コントロールポイント									
	A		B		C		D		E	
	T _A	pS _V	T _B	pS _V	T _C	pS _V	T _D	pS _V	T _E	pS _V
水平方向	0.02	1.910	0.03	3.500	0.04	6.300	0.06	12.000	0.09	20.000
鉛直方向	0.02	1.273	0.03	2.500	0.04	4.400	0.06	7.800	0.09	13.000

標準応答 スペクトル	コントロールポイント							
	F		G		H		I	
	T _F	pS _V	T _G	pS _V	T _H	pS _V	T _I	pS _V
水平方向	0.15	31.000	0.30	43.000	0.60	60.000	5.00	60.000
鉛直方向	0.15	19.000	0.30	26.000	0.60	35.000	5.00	35.000

注) T_A~T_Iは周期(s)

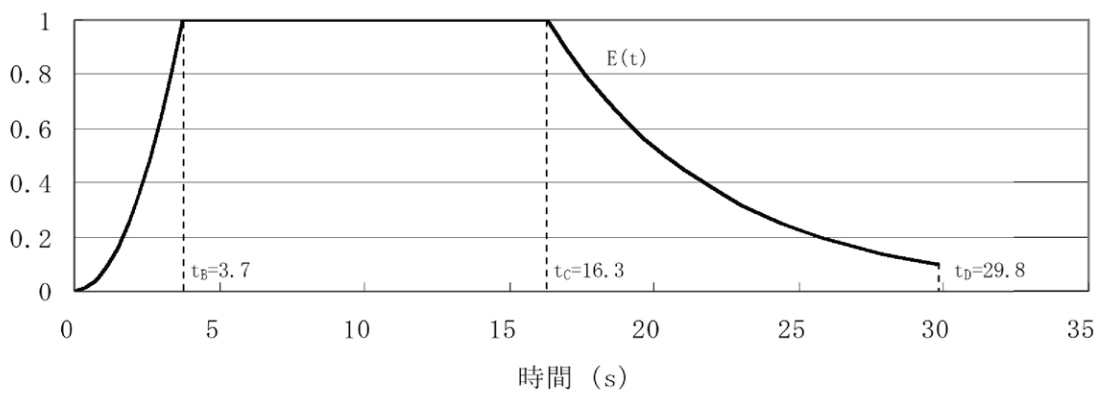
pS_Vは速度(cm/s)



擬似速度応答スペクトル

第 1.2-106 表 標準応答スペクトルに基づく地震基盤相当面における
 一様乱数の位相をもつ正弦波の重ね合わせによる模擬地震波の
 振幅包絡線の経時的変化

標準応答 スペクトル	継続時間 (s)	振幅包絡線の経時的変化(s)		
		t_B	t_C	t_D
水平方向	29.8	3.7	16.3	29.8
鉛直方向	29.8	3.7	16.3	29.8



$$t_B = 10^{0.5M-2.93}$$

$$t_C - t_B = 10^{0.3M-1.0}$$

$$t_D - t_C = 10^{0.17M+0.541\log X_{eq}-0.6}$$

$$\text{振幅包絡線} : E(t) = \begin{cases} (t/t_B)^2 & 0 < t \leq t_B \\ 1.0 & t_B < t \leq t_C \\ e^{\frac{\ln(0.1)}{t_D-t_C}(t-t_C)} & t_C < t \leq t_D \end{cases}$$

$$M = 7.0, X_{eq} = 10 \text{ (km)}$$

第1.2-107表 標準応答スペクトルに基づく地震基盤相当面における
模擬地震波の作成結果

(1) 一様乱数の位相をもつ正弦波の重ね合わせによる模擬地震波

標準応答 スペクトル	作成条件		作成結果		
	応答スペクトル	最大加速度 (cm/s ²)	応答スペクトル比	継続時間	SI比
水平方向	第1.2-105表	600	第1.2-237図	第1.2-106表	1.00
鉛直方向	第1.2-105表	400	第1.2-237図	第1.2-106表	1.01

(2) 実観測記録の位相を用いた模擬地震波

標準応答 スペクトル	作成条件		作成結果		
	応答スペクトル	最大加速度 (cm/s ²)	応答スペクトル比	継続時間	SI比
NS方向	第1.2-105表	600	第1.2-238図	第1.2-240図	1.00
EW方向	第1.2-105表	600	第1.2-238図	第1.2-240図	1.00
UD方向	第1.2-105表	400	第1.2-238図	第1.2-240図	1.00

$$R(T) = \frac{S_{v1}(T)}{S_{v2}(T)} \geq 0.85 \quad (0.02 \leq T)$$

ただし、T:周期 (s)

S_{v1}(T): 模擬地震波の応答スペクトル値

S_{v2}(T): 目標とする応答スペクトル値

$$SI比 = \frac{\int_{0.1}^{2.5} S_v(T) dt}{\int_{0.1}^{2.5} \bar{S}_v(T) dt} \geq 1.0$$

ただし、SI: 応答スペクトル強さ

S_v(T): 模擬地震波の応答スペクトル(cm/s)

\bar{S}_v (T): 目標とする応答スペクトル(cm/s)

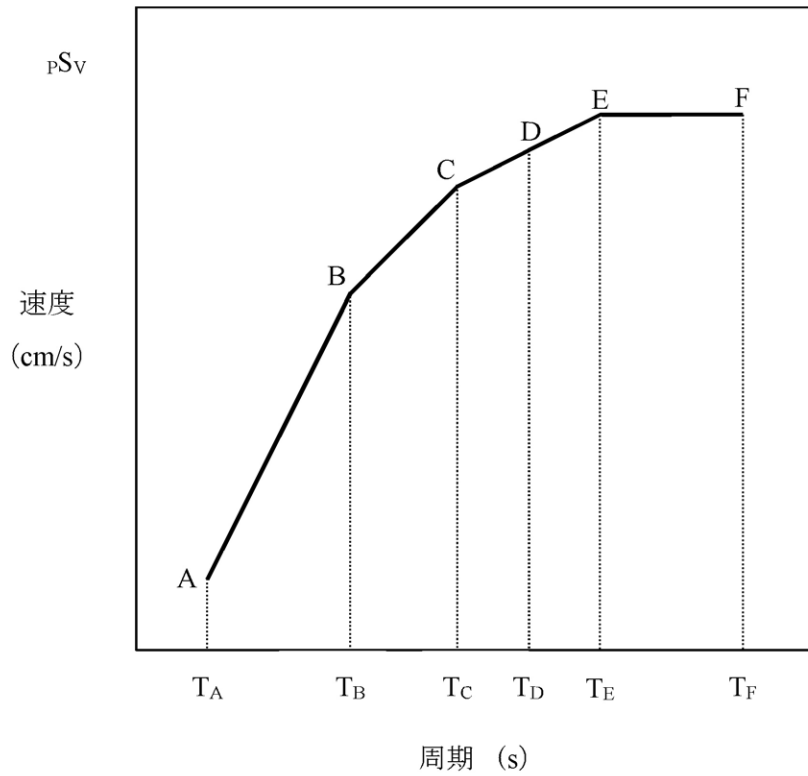
T: 固有周期(s)

第1.2-108表 応答スペクトルに基づく手法による基準地震動Ss-1の
設計用応答スペクトル値

基準地震動 Ss-1	コントロールポイント											
	A		B		C		D		E		F	
	T _A	pS _V	T _B	pS _V	T _C	pS _V	T _D	pS _V	T _E	pS _V	T _F	pS _V
Ss-1H	0.02	1.719	0.09	21.92	0.13	31.66	0.60	114.59	1.00	130.00	5.00	130.00
Ss-1V	0.02	1.146	0.09	14.61	0.13	21.11	0.60	76.40	1.00	86.67	5.00	86.67

注) T_A～T_Fは周期(s)

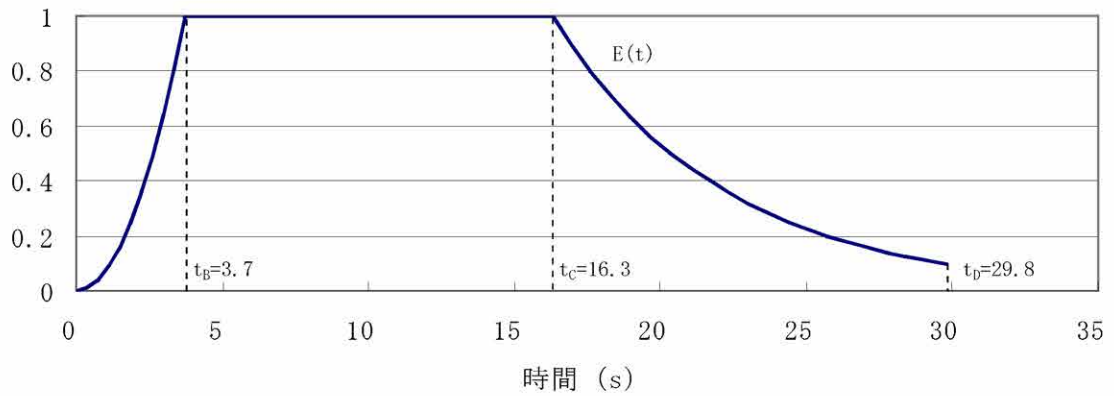
pS_Vは速度(cm/s)



擬似速度応答スペクトル

第1.2-109表 基準地震動Ss-1の設計用模擬地震波の振幅包絡線の経時的変化

基準地震動 Ss-1	継続時間 (s)	振幅包絡線の経時的変化(s)		
		t _B	t _C	t _D
Ss-1 _H	29.8	3.7	16.3	29.8
Ss-1 _V	29.8	3.7	16.3	29.8



$$t_B = 10^{0.5M-2.93}$$

$$t_C - t_B = 10^{0.3M-1.0}$$

$$t_D - t_C = 10^{0.17M+0.541\log X_{eq}-0.6}$$

$$\text{振幅包絡線} : E(t) = \begin{cases} (t/t_B)^2 & 0 < t \leq t_B \\ 1.0 & t_B < t \leq t_C \\ e^{\frac{\ln(0.1)}{t_D-t_C}(t-t_C)} & t_C < t \leq t_D \end{cases}$$

$$M = 7.0, X_{eq} = 10 \text{ (km)}$$

第1.2-110表 基準地震動Ss-1の設計用模擬地震波の作成結果

基準地震動 Ss-1	作成条件	作成結果			
	応答スペクトル	最大加速度 (cm/s ²)	応答スペクトル比	継続時間	SI比
Ss-1H	第1.2-108表	540	第1.2-264図	第1.2-109表	1.01
Ss-1V	第1.2-108表	360	第1.2-264図	第1.2-109表	1.00

$$R(T) = \frac{S_{v1}(T)}{S_{v2}(T)} \geq 0.85 \quad (0.02 \leq T)$$

ここで、T:周期 (s)

$S_{v1}(T)$: 模擬地震波の応答スペクトル値

$S_{v2}(T)$: 目標とする応答スペクトル値

$$SI比 = \frac{\int_{0.1}^{2.5} S_v(T) dt}{\int_{0.1}^{2.5} \bar{S}_v(T) dt} \geq 1.0$$

ここで、SI: 応答スペクトル強さ

$S_v(T)$: 模擬地震波の応答スペクトル(cm/s)

$\bar{S}_v(T)$: 目標とする応答スペクトル(cm/s)

T: 固有周期(s)

第1.2-111表 基準地震動の最大加速度

基準地震動				最大加速度 (cm/s ²)
応答スペクトルに基づく手法による基準地震動 Ss-1	設計用模擬地震波	水平方向	Ss-1 _H	540
		鉛直方向	Ss-1 _V	360
断層モデルを用いた手法による基準地震動 Ss-2 及び Ss-3	城山南断層による地震	水平方向 NS 成分	Ss-2 _{NS}	268
		水平方向 EW 成分	Ss-2 _{EW}	265
		鉛直方向 UD 成分	Ss-2 _{UD}	172
	竹木場断層による地震	水平方向 NS 成分	Ss-3 _{NS}	524
		水平方向 EW 成分	Ss-3 _{EW}	422
		鉛直方向 UD 成分	Ss-3 _{UD}	372
震源を特定せず策定する地震動による基準地震動 Ss-4、Ss-5 及び Ss-6	2004 年北海道留萌支庁南部地震を考慮した地震波	水平方向	Ss-4 _H	620
		鉛直方向	Ss-4 _V	320
	2000 年鳥取県西部地震を考慮した地震波	水平方向 NS 成分	Ss-5 _{NS}	528
		水平方向 EW 成分	Ss-5 _{EW}	531
		鉛直方向 UD 成分	Ss-5 _{UD}	485
	標準応答スペクトルを考慮した地震波	水平方向	Ss-6 _H	617
		鉛直方向	Ss-6 _V	441

第1.2-112表 解析用物性値設定の考え方

物性値 岩種・岩級		物理特性	強度特性			変形特性					
		密度 $\rho(\text{g/cm}^3)$	せん断強度 $\tau_0(\text{N/mm}^2)$	内部摩擦角 $\varphi(^{\circ})$	残留強度 $\tau(\text{N/mm}^2)$	動的変形特性			静的変形特性		
						動せん断弾性係数 $G_d(\times 10^3 \text{N/mm}^2)$	動ポアソン比 ν_d	減衰定数 $h(\%)$	静弾性係数 $E_s(\times 10^3 \text{N/mm}^2)$	静ポアソン比 ν_s	
砂岩	ⒶⒷ級	密度試験結果	岩盤せん断試験結果			PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			慣用値 ^{※1}	岩盤変形試験結果	一軸圧縮試験結果
	Ⓒ級	密度試験結果	岩盤せん断試験結果						慣用値 ^{※1}	岩盤変形試験結果	慣用値 ^{※1}
頁岩	ⒶⒷ級	密度試験結果	岩盤せん断試験結果			PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			慣用値 ^{※1}	岩盤変形試験結果	慣用値 ^{※1}
	Ⓒ級	密度試験結果	岩盤せん断試験結果						慣用値 ^{※1}	岩盤変形試験結果	慣用値 ^{※1}
玄武岩	Ⓐ級	密度試験結果	玢岩Ⓐ級を使用			PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			慣用値 ^{※1}	砂岩ⒶⒷ級に基づき算定	一軸圧縮試験結果
	Ⓑ級	密度試験結果	玢岩Ⓑ級を使用						慣用値 ^{※1}	砂岩ⒶⒷ級に基づき算定	一軸圧縮試験結果
	Ⓒ級	密度試験結果	玢岩Ⓒ級を使用						慣用値 ^{※1}	砂岩ⒶⒷ級に基づき算定	一軸圧縮試験結果
玢岩	Ⓐ級	密度試験結果	砂岩ⒶⒷ級に基づき算定			PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			慣用値 ^{※1}	砂岩ⒶⒷ級に基づき算定	一軸圧縮試験結果
	Ⓑ級	密度試験結果	砂岩ⒶⒷ級に基づき算定						慣用値 ^{※1}	砂岩ⒶⒷ級に基づき算定	一軸圧縮試験結果
	Ⓒ級	密度試験結果	岩盤せん断試験結果						慣用値 ^{※1}	岩盤変形試験結果	一軸圧縮試験結果
凝灰岩	Ⓒ級	密度試験結果	玄武岩Ⓒ級を使用			PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			慣用値 ^{※1}	玄武岩Ⓒ級を使用	玄武岩Ⓒ級を使用
八ノ久保砂礫層		密度試験結果	静的三軸圧縮試験結果			PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			慣用値 ^{※1}	砂岩ⒶⒷ級に基づき算定	慣用値 ^{※1}
シーム		密度試験結果	静的三軸圧縮試験結果			繰返し三軸試験結果	慣用値 ^{※1}	繰返し三軸試験結果	静的三軸圧縮試験結果	慣用値 ^{※1}	
断層		密度試験結果	静的三軸圧縮試験結果			繰返し三軸試験結果	慣用値 ^{※1}	繰返し三軸試験結果	静的三軸圧縮試験結果	慣用値 ^{※1}	
埋戻土 ^{※2}		密度試験結果	静的三軸圧縮試験結果			繰返し三軸試験結果	慣用値 ^{※1}	繰返し三軸試験結果	静的三軸圧縮試験結果	慣用値 ^{※1}	
マンメイドロック		慣用値 ^{※1}	—	—	—	E_s 及び ν_d より算定	慣用値 ^{※1}	慣用値 ^{※1}	設計基準強度より算定	慣用値 ^{※1}	

※1 原子力発電所の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価技術<技術資料>(土木学会原子力土木委員会、2009年2月)、岩盤斜面の安定解析と計測((社)土木学会、平成6年12)、原子力施設鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説((社)日本建築学会、2005制定)等を参考に設定。

※2 埋戻土については、原子炉周辺でサンプリングした試料による試験値を基に物性値を設定。新設の建物・構築物周辺においても、同等以上の強度特性を有する材料にて埋戻すこととしている。

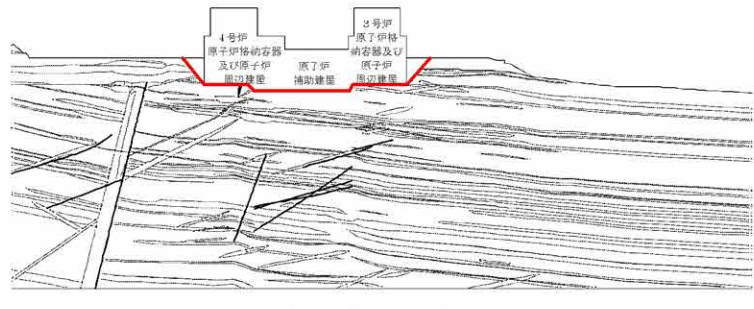
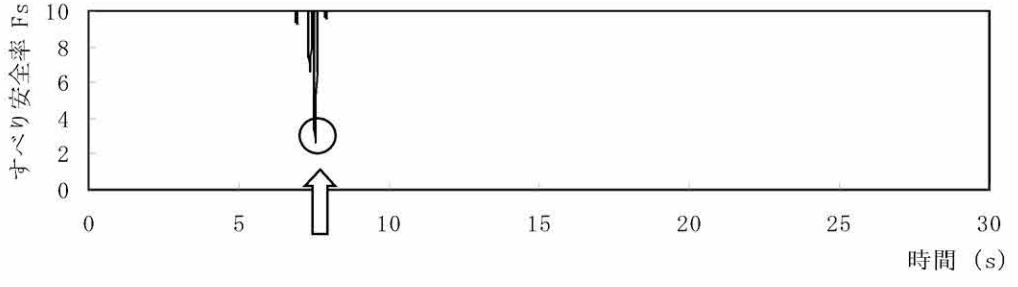
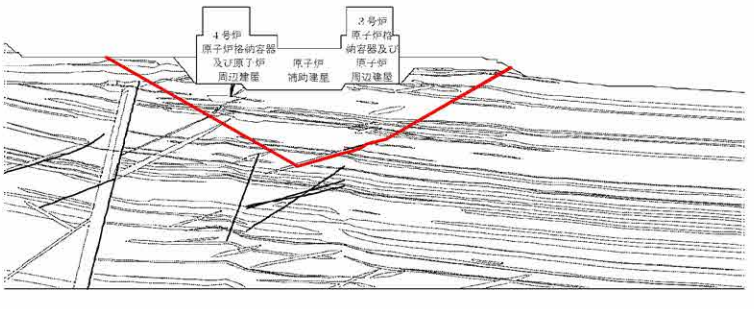
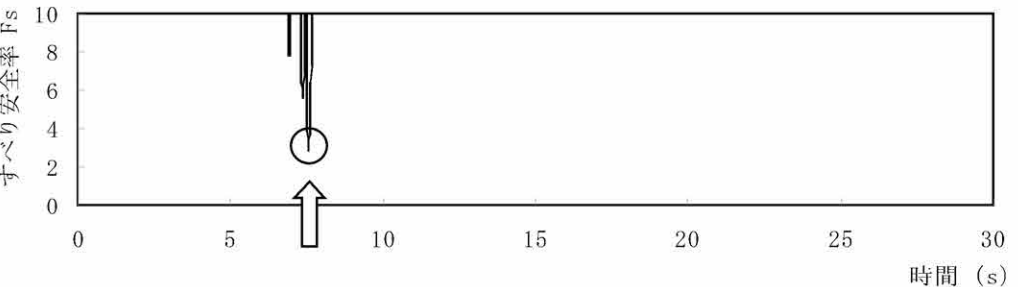
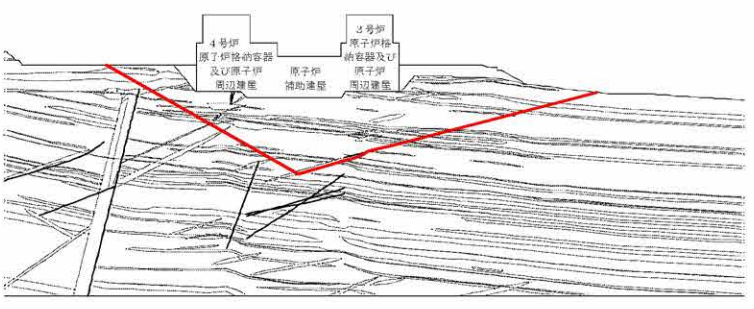
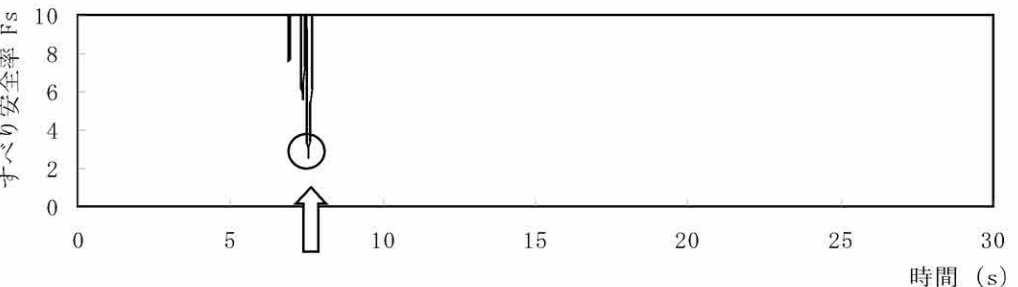
第1.2-113表 解析用物性値

物性値 岩種・岩級		物理特性	強度特性			変形特性					
			密度 $\rho(\text{g/cm}^3)$	せん断強度 $\tau_0(\text{N/mm}^2)$	内部摩擦角 $\varphi(^{\circ})$	残留強度 $\tau(\text{N/mm}^2)$	動的変形特性			静的変形特性	
		動せん断弾性係数 $G_d(\times 10^3 \text{N/mm}^2)$					動ポアソン比 ν_d	減衰定数 $h(\%)$	静弾性係数 $E_s(\times 10^3 \text{N/mm}^2)$	静ポアソン比 ν_s	
砂岩	①②級	2.39	0.84	56.4	$1.71\sigma^{0.82}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	1.88	0.25
	③級	2.27	0.30	22.6	$0.51\sigma^{0.35}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	0.45	0.30
頁岩	①②級	2.55	0.67	52.6	$1.50\sigma^{0.78}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	(層理に直角) 0.89 (層理に平行) 3.03	(層理に直角) 0.10 (層理に平行) 0.30
	③級	2.06	0.17	35.5	$0.73\sigma^{0.70}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	(層理に直角) 0.10 (層理に平行) 0.33	(層理に直角) 0.10 (層理に平行) 0.30
玄武岩	①級	2.82	2.51	56.4	$2.75\sigma^{0.80}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	3.73	0.22
	②級	2.45	1.86	56.4	$2.53\sigma^{0.78}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	2.64	0.26
	③級	2.01	0.42	41.5	$1.09\sigma^{0.50}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	0.22	0.33
玢岩	①級	2.70	2.51	56.4	$2.75\sigma^{0.80}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	4.79	0.27
	②級	2.68	1.86	56.4	$2.53\sigma^{0.78}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	1.82	0.29
	③級	2.12	0.42	41.5	$1.09\sigma^{0.50}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	0.28	0.36
凝灰岩	③級	1.90	0.42	41.5	$1.09\sigma^{0.50}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	0.22	0.33
八ノ久保砂礫層		2.00	0.27	21.4	$\sigma \tan 21.4^{\circ}$	PS検層による速度層毎のVs、Vp及び密度により算定			3	0.16	0.30
シーム		2.10	0.06	19.6	$\sigma \tan 19.6^{\circ}$	$G_0=0.308\sigma_m^{0.45}$ $G/G_0=1/(1+457\gamma^{0.76})$	0.45	$h=[\gamma/(1.803\gamma+0.006)+0.061] \times 100$	$0.051\sigma_3^{0.49}$	0.40	
断層		2.04	0.03	16.1	$\sigma \tan 16.1^{\circ}$	$G_0=0.287\sigma_m^{0.70}$ $G/G_0=1/(1+447\gamma^{0.82})$	0.45	$h=[\gamma/(4.609\gamma+0.007)+0.052] \times 100$	$0.076\sigma_3^{0.64}$	0.40	
埋戻土※1		1.99	0.02	28.3	$\sigma \tan 28.3^{\circ}$	$G_0=0.298\sigma_m^{0.86}$ $G/G_0=1/(1+457\gamma^{0.67})$	0.45	$h=[\gamma/(7.700\gamma+0.006)+0.026] \times 100$	$0.037\sigma_3^{0.65}$	0.40	
マンメイドロック		2.35	—	—	—	8.6	0.20	5	20.6	0.20	

G_0 :初期動せん断弾性係数 γ :せん断ひずみ σ :垂直応力 σ_m :平均主応力 σ_3 :最小主応力

※1 表土(盛土等を含む)の物性値については、埋戻土の物性値を用いる。

第 1.2-114 表(1) すべり安全率(X₃₄-X₃₄'断面)(その 1)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
1	 <p>建屋底面のすべり</p>	Ss-1	4.3	8.12	 <p>最小すべり安全率=2.7 (t=7.55 秒)</p>
		Ss-2	12.7	15.80	
		Ss-3	6.1	18.10	
		Ss-4	2.7	7.55	
		Ss-5 (NS)	5.5	7.01	
		Ss-5 (EW)	7.2	7.98	
		Ss-6	4.7	17.32	
2	 <p>断層・シームのすべり</p>	Ss-1	3.6	8.13	 <p>最小すべり安全率=2.8 (t=7.55 秒)</p>
		Ss-2	13.4	16.60	
		Ss-3	5.5	18.12	
		Ss-4	2.8	7.55	
		Ss-5 (NS)	5.3	7.02	
		Ss-5 (EW)	6.3	8.00	
		Ss-6	5.0	17.32	
3	 <p>断層・シームのすべり</p>	Ss-1	3.2	8.13	 <p>最小すべり安全率=2.6 (t=7.55 秒) (強度-1σの場合: 2.1)</p>
		Ss-2	10.4	16.60	
		Ss-3	4.8	15.75	
		Ss-4	2.6 (2.6 ^{※2})	7.55	
		Ss-5 (NS)	4.7	7.02	
		Ss-5 (EW)	5.6	8.03	
		Ss-6	4.2	17.31	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む

※2 応力再配分後のすべり安全率

----- 岩種・岩級区分線

— 断層・シーム

— すべり線

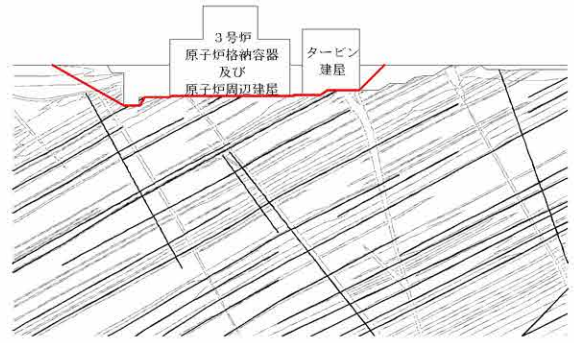
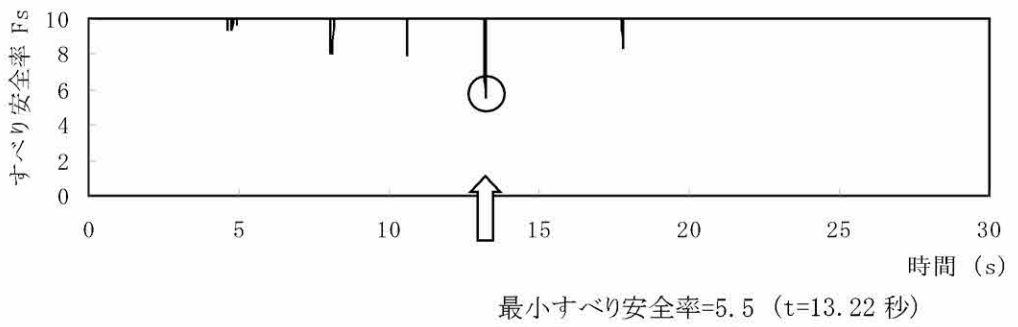
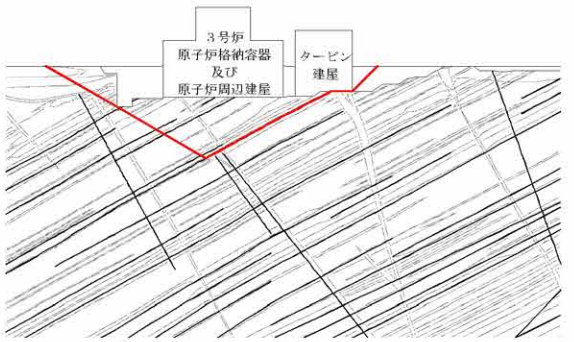
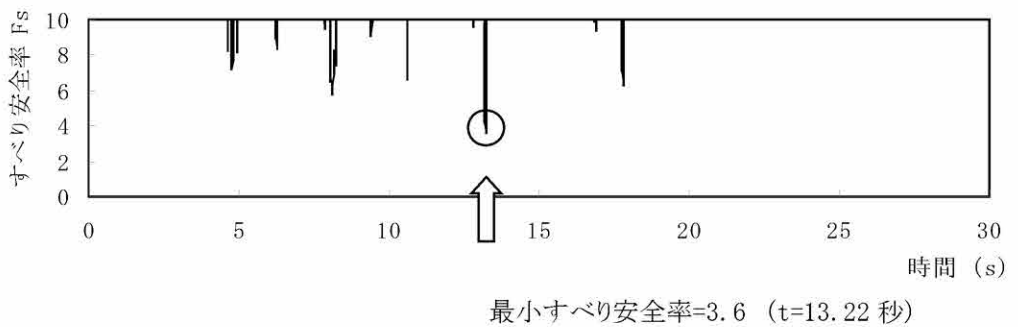
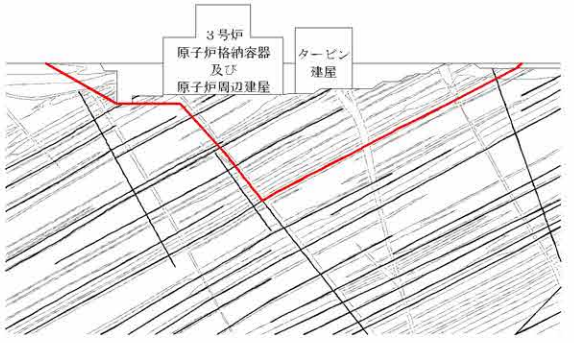
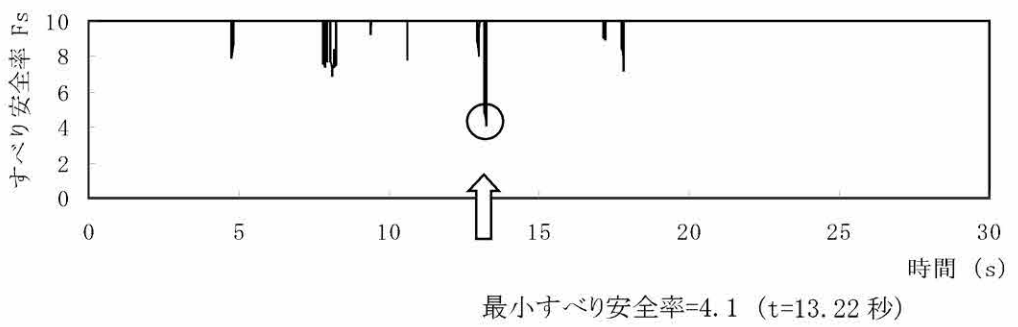
○ すべり安全率の最小値

第 1.2-114 表(2) すべり安全率(X₃₄-X₃₄'断面)(その 2)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
4	 <p data-bbox="617 676 884 709">断層・シームのすべり</p>	Ss-1	3.4	8.13	 <p data-bbox="2012 680 2410 714">最小すべり安全率=3.1 (t=7.55 秒)</p>
		Ss-2	9.6	16.60	
		Ss-3	4.9	18.10	
		Ss-4	3.1	7.55	
		Ss-5 (NS)	5.1	7.01	
		Ss-5 (EW)	5.6	8.02	
		Ss-6	4.9	17.30	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む - - - - - 岩種・岩級区分線 — 断層・シーム

第 1.2-114 表(3) すべり安全率(Y₃-Y₃'断面)(その 1)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
1	 <p>建屋底面のすべり</p>	Ss-1	5.5	13.22	 <p>最小すべり安全率=5.5 (t=13.22 秒)</p>
		Ss-2	14.5	11.83	
		Ss-3	8.2	13.93	
		Ss-4	6.3	7.51	
		Ss-5(NS)	8.6	6.94	
		Ss-5(EW)	8.6	6.38	
		Ss-6	6.4	17.28	
2	 <p>建屋底面+断層・シームのすべり</p>	Ss-1	3.6 (3.6 ^{※2})	13.22	 <p>最小すべり安全率=3.6 (t=13.22 秒) (強度-1σの場合: 2.6)</p>
		Ss-2	12.9	11.83	
		Ss-3	6.4	13.93	
		Ss-4	4.4	7.56	
		Ss-5(NS)	6.7	6.34	
		Ss-5(EW)	7.0	6.38	
		Ss-6	4.7	17.28	
3	 <p>建屋底面+断層・シームのすべり</p>	Ss-1	4.1	13.22	 <p>最小すべり安全率=4.1 (t=13.22 秒)</p>
		Ss-2	17.7	11.83	
		Ss-3	7.6	13.93	
		Ss-4	5.0	7.56	
		Ss-5(NS)	6.7	6.34	
		Ss-5(EW)	7.1	6.38	
		Ss-6	5.8	17.28	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む

※2 応力再配分後のすべり安全率

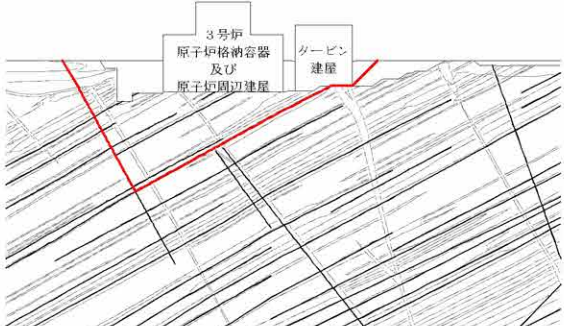
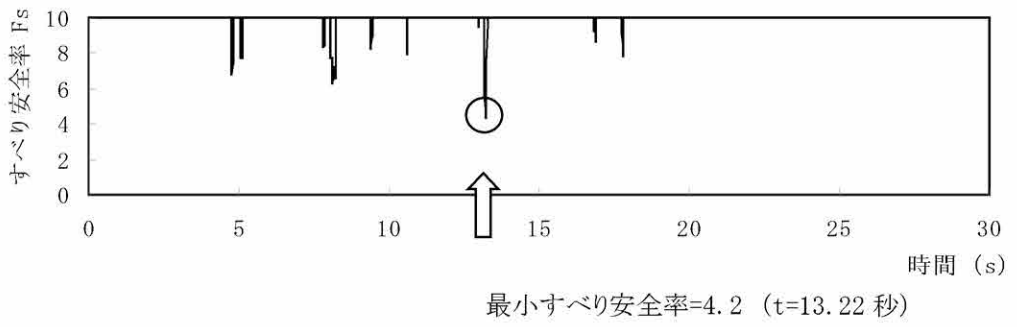
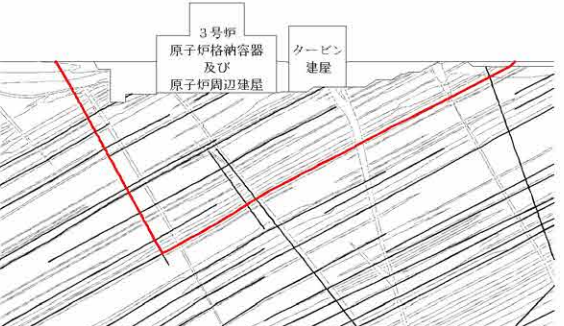
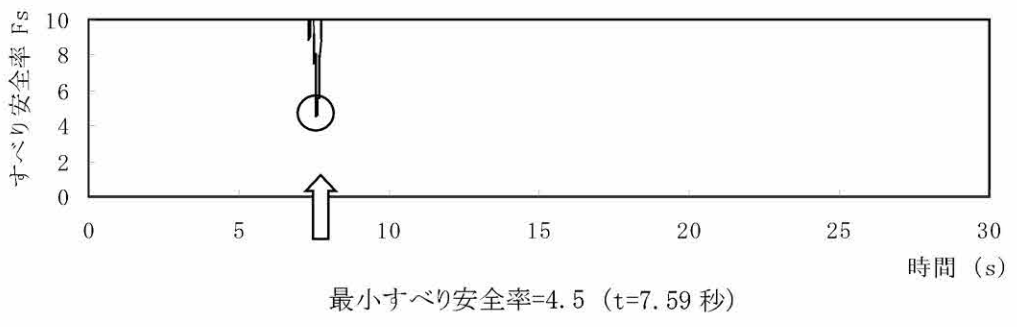
----- 岩種・岩級区分線

— すべり線

— 断層・シーム

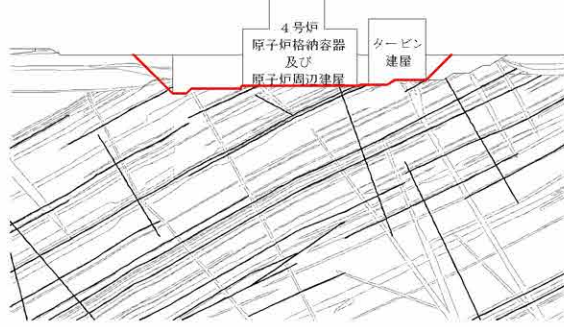
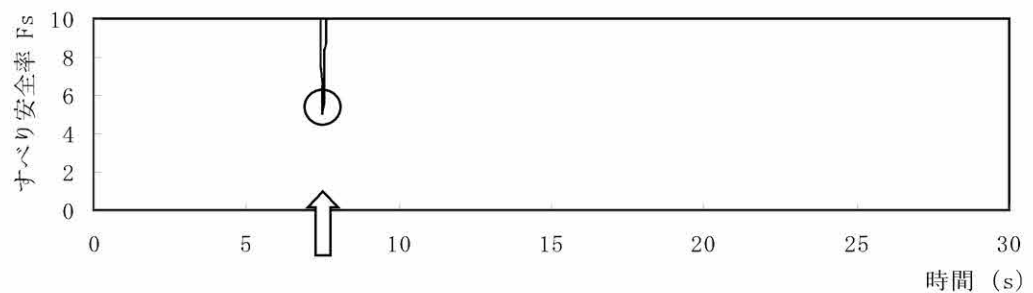
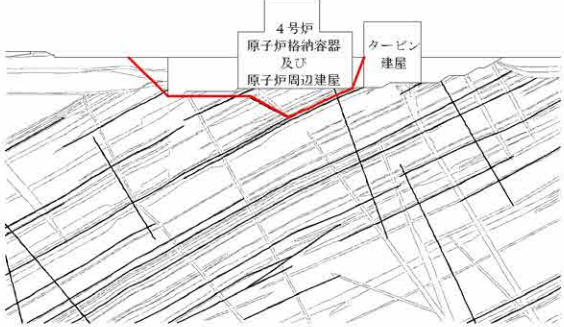
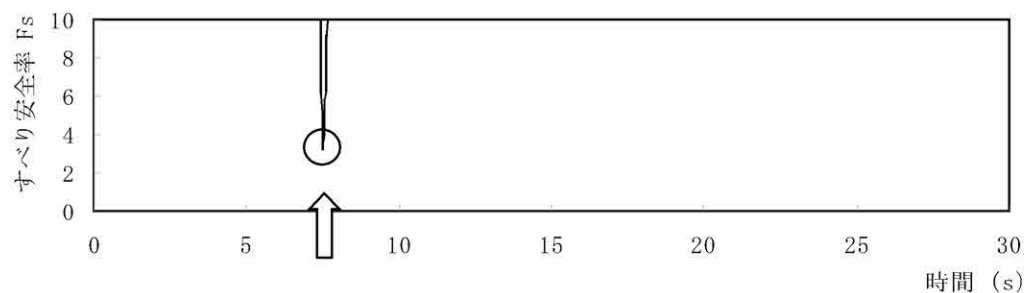
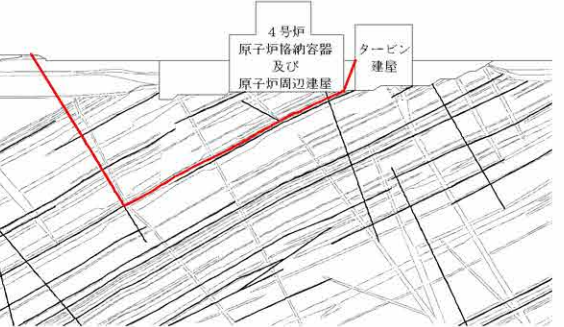
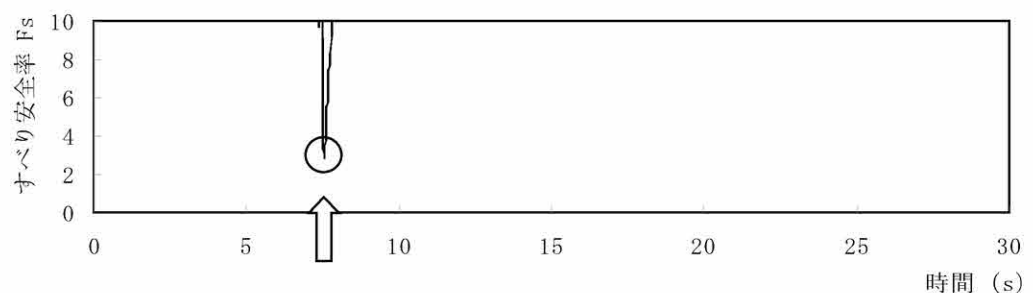
○ すべり安全率の最小値

第 1.2-114 表(4) すべり安全率(Y₃-Y₃'断面)(その 2)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
4	 <p>建屋底面+断層・シームのすべり</p>	Ss-1	4.2	13.22	 <p>最小すべり安全率=4.2 (t=13.22 秒)</p>
		Ss-2	12.7	11.82	
		Ss-3	8.0	13.94	
		Ss-4	4.6	7.57	
		Ss-5 (NS)	6.5	6.33	
		Ss-5 (EW)	7.3	6.68	
		Ss-6	5.7	17.28	
5	 <p>断層・シームのすべり</p>	Ss-1	4.8	8.17	 <p>最小すべり安全率=4.5 (t=7.59 秒)</p>
		Ss-2	13.9	19.54	
		Ss-3	10.1	17.91	
		Ss-4	4.5	7.59	
		Ss-5 (NS)	5.1	6.33	
		Ss-5 (EW)	5.7	6.37	
		Ss-6	6.3	9.61	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む - - - - - 岩種・岩級区分線 ——— すべり線 ——— 断層・シーム

第 1.2-114 表(5) すべり安全率(Y₄-Y₄'断面)(その 1)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
1	 <p>建屋底面のすべり</p>	Ss-1	5.2	13.22	 <p>最小すべり安全率=5.0 (t=7.51 秒)</p>
		Ss-2	13.6	11.84	
		Ss-3	6.5	13.94	
		Ss-4	5.0	7.51	
		Ss-5 (NS)	7.6	6.35	
		Ss-5 (EW)	7.3	6.38	
		Ss-6	6.0	17.28	
2	 <p>建屋底面+断層・シームのすべり</p>	Ss-1	3.4	13.22	 <p>最小すべり安全率=3.2 (t=7.51 秒)</p>
		Ss-2	10.2	11.84	
		Ss-3	4.4	13.94	
		Ss-4	3.2	7.51	
		Ss-5 (NS)	5.5	6.35	
		Ss-5 (EW)	5.4	6.39	
		Ss-6	4.2	17.28	
3	 <p>断層・シームのすべり</p>	Ss-1	3.3	13.23	 <p>最小すべり安全率=2.8 (t=7.55 秒) (強度-1σの場合: 2.3)</p>
		Ss-2	11.5	17.72	
		Ss-3	5.4	13.96	
		Ss-4	2.8 (5.9 ^{※2})	7.55	
		Ss-5 (NS)	4.5	7.01	
		Ss-5 (EW)	5.0	7.97	
		Ss-6	4.4	17.31	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む

※2 応力再配分後のすべり安全率

----- 岩種・岩級区分線

— 断層・シーム

— 断層・シーム

○ すべり安全率の最小値

第 1.2-114 表(6) すべり安全率(Y₄-Y₄'断面) (その 2)

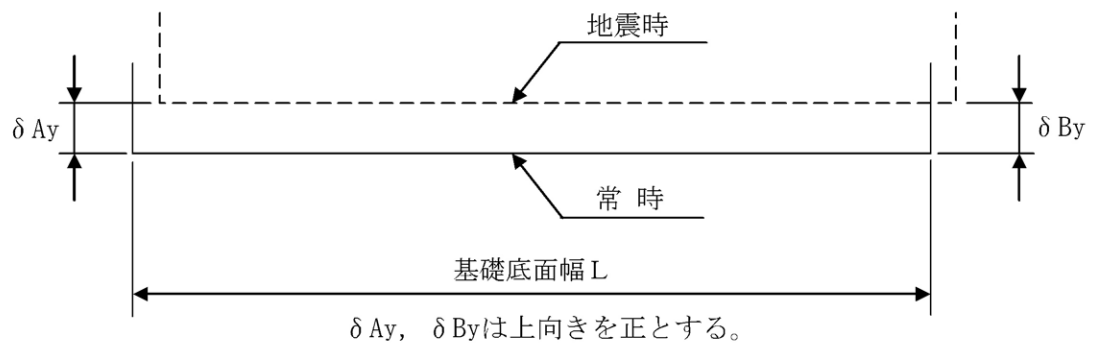
すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
4	 <p data-bbox="611 688 878 718">断層・シームのすべり</p>	Ss-1	4.2	13.23	 <p data-bbox="2036 688 2421 718">最小すべり安全率=3.5 (t=7.55 秒)</p>
		Ss-2	14.8	17.72	
		Ss-3	7.8	13.95	
		Ss-4	3.5	7.55	
		Ss-5 (NS)	5.6	7.01	
		Ss-5 (EW)	5.5	7.99	
		Ss-6	5.9	17.31	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む - - - - - 岩種・岩級区分線 — 断層・シーム

第 1.2-115 表(1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜
(X₃₄-X_{34'}断面、3号機)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
Ss-1	1.7	1/34,000
Ss-2	0.7	1/81,000
Ss-3	1.4	1/41,000
Ss-4	1.2	1/48,000
Ss-5 (NS)	0.8	1/71,000
Ss-5 (EW)	1.3	1/44,000
Ss-6	1.5	1/38,000

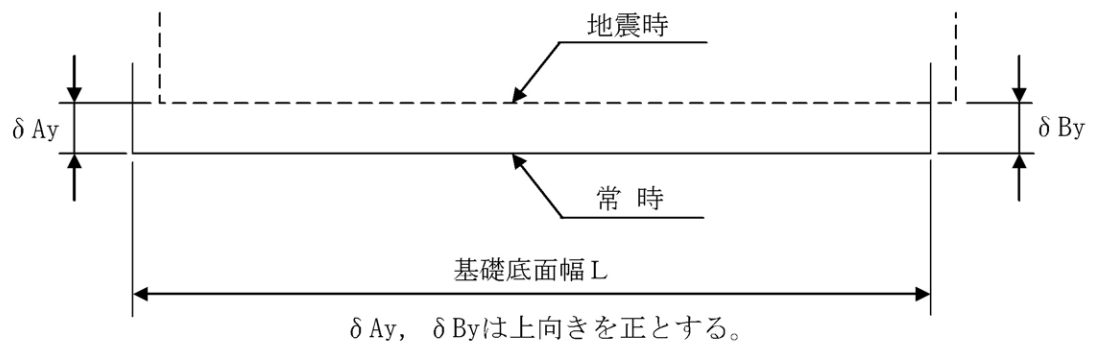
(記号の説明)



第 1.2-115 表(2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜
($X_{34}-X_{34}'$ 断面、4号機)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
Ss-1	3.3	1/24,000
Ss-2	0.9	1/87,000
Ss-3	1.9	1/41,000
Ss-4	5.3	1/15,000
Ss-5 (NS)	2.3	1/34,000
Ss-5 (EW)	1.9	1/41,000
Ss-6	2.5	1/31,000

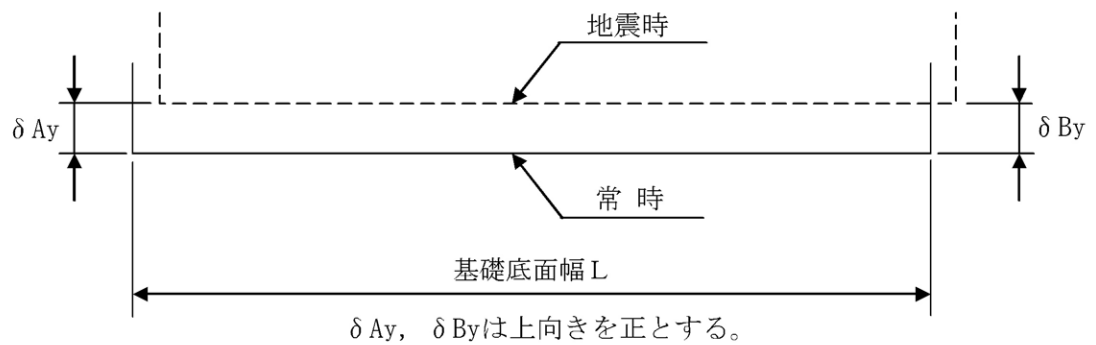
(記号の説明)



第 1.2-115 表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜
($Y_3 - Y_3'$ 断面、3号機)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
Ss-1	0.8	1/125,000
Ss-2	0.4	1/250,000
Ss-3	0.7	1/143,000
Ss-4	0.8	1/125,000
Ss-5 (NS)	0.8	1/125,000
Ss-5 (EW)	0.7	1/143,000
Ss-6	0.9	1/111,000

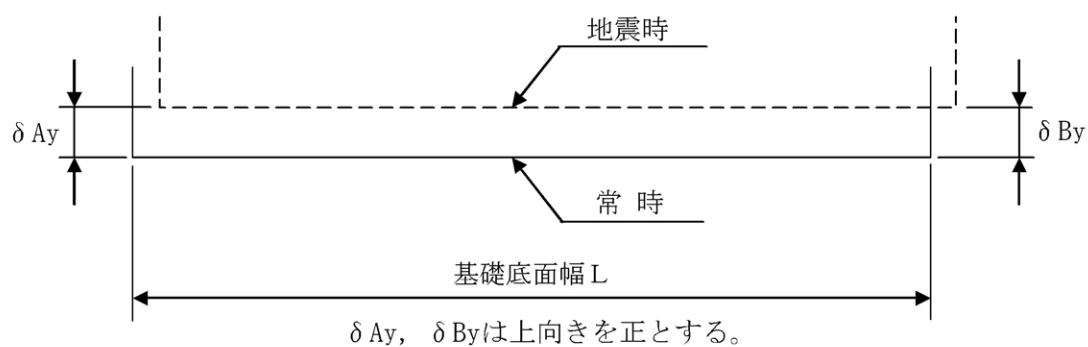
(記号の説明)



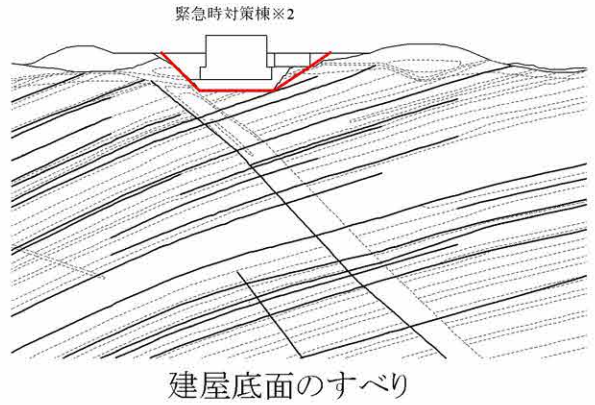
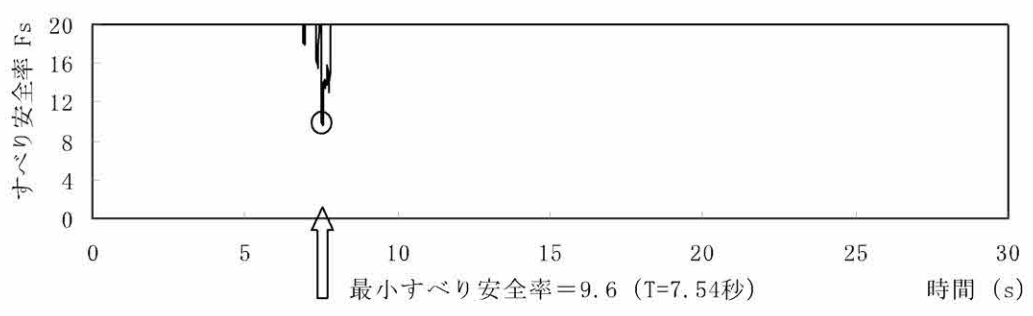
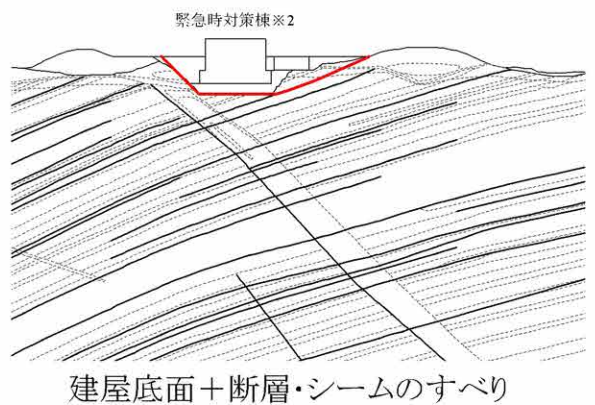
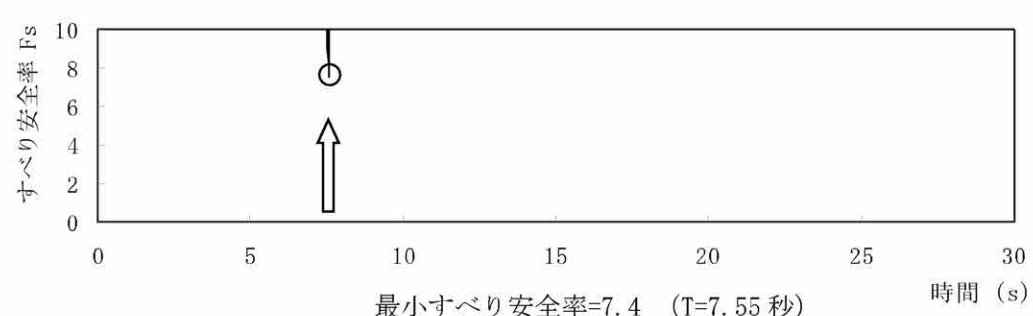
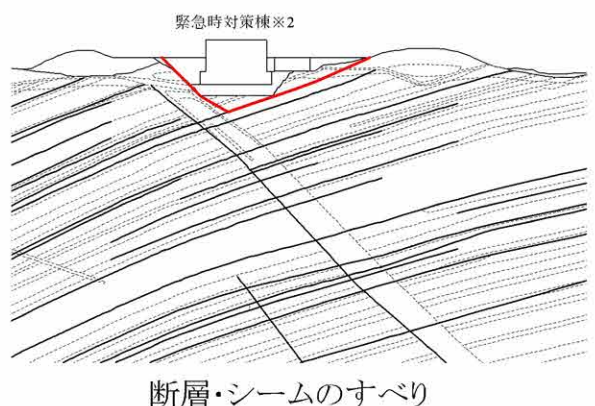
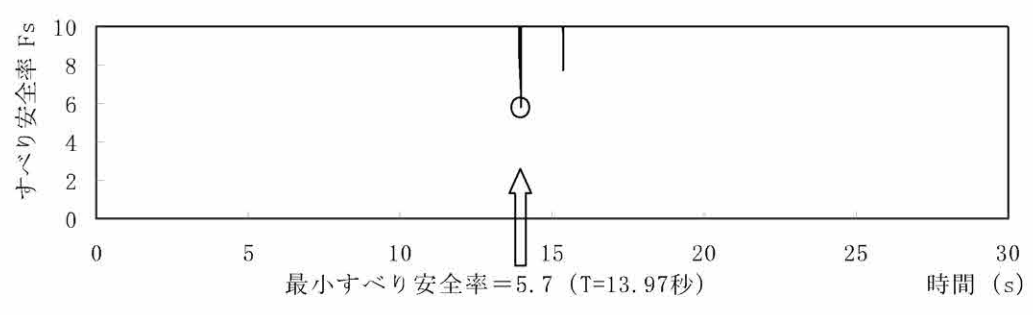
第 1.2-115 表(4) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜
($Y_4 - Y_4'$ 断面、4号機)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
Ss-1	1.1	1/86,000
Ss-2	0.4	1/237,000
Ss-3	0.9	1/105,000
Ss-4	1.5	1/63,000
Ss-5 (NS)	1.0	1/95,000
Ss-5 (EW)	0.8	1/119,000
Ss-6	1.5	1/63,000

(記号の説明)

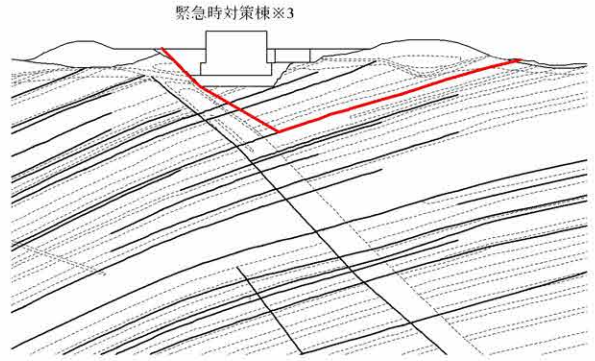
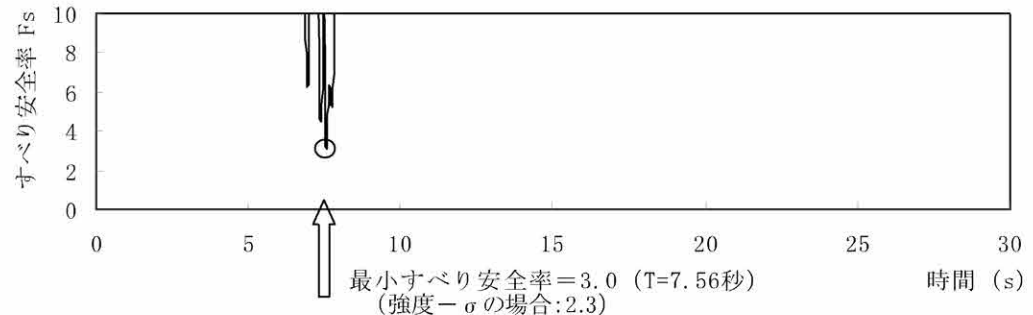
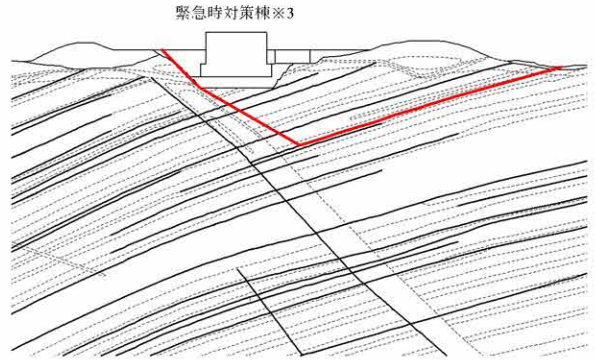
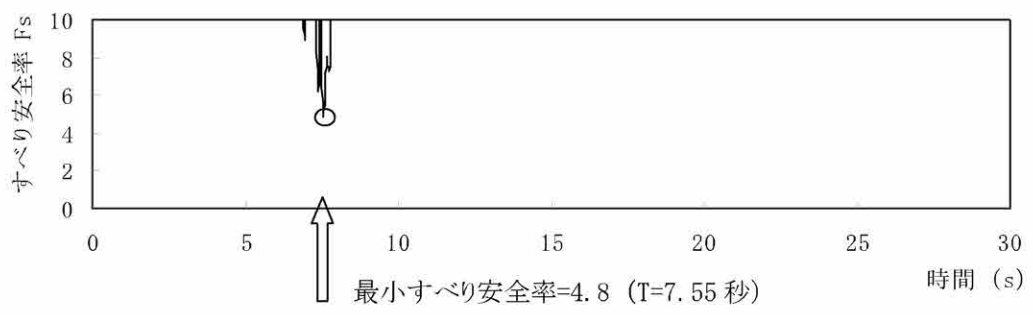


第 1.2-116 表(1) すべり安全率(Y_M-Y_M' 断面)(その 1)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
1		Ss-1	10.6	13.25	
		Ss-2	20.0 以上	11.94	
		Ss-3	12.4	13.96	
		Ss-4	9.6	7.54	
		Ss-5 (NS)	10.2	6.99	
		Ss-5 (EW)	10.9	6.41	
		Ss-6	10.2	17.31	
2		Ss-1	7.9	13.26	
		Ss-2	16.4	11.94	
		Ss-3	8.1	13.96	
		Ss-4	7.4	7.55	
		Ss-5 (NS)	8.4	6.99	
		Ss-5 (EW)	9.1	6.41	
		Ss-6	8.1	17.31	
3		Ss-1	6.0	13.26	
		Ss-2	12.7	11.86	
		Ss-3	5.7	13.97	
		Ss-4	6.1	7.56	
		Ss-5 (NS)	6.4	6.99	
		Ss-5 (EW)	7.2	6.41	
		Ss-6	6.1	17.32	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む
 ※2 評価時点においては運用開始していない。

第 1.2-116 表(2) すべり安全率($Y_M - Y_M$ 断面) (その 2)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
4	 <p>断層・シームのすべり</p>	Ss-1	3.3	13.26	 <p>最小すべり安全率=3.0 (T=7.56秒) (強度-σの場合:2.3)</p>
		Ss-2	9.5	11.86	
		Ss-3	3.5	13.96	
		Ss-4	3.0 (3.1 ^{※2})	7.56	
		Ss-5 (NS)	3.5	7.02	
		Ss-5 (EW)	3.4	7.98	
		Ss-6	3.4	17.32	
5	 <p>断層・シームのすべり</p>	Ss-1	4.9	13.25	 <p>最小すべり安全率=4.8 (T=7.55秒)</p>
		Ss-2	12.7	11.86	
		Ss-3	5.4	13.96	
		Ss-4	4.8	7.55	
		Ss-5 (NS)	5.3	7.02	
		Ss-5 (EW)	5.4	7.97	
		Ss-6	5.1	17.32	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む
 ※3 評価時点においては運用開始していない。

※2 応力再配分後のすべり安全率

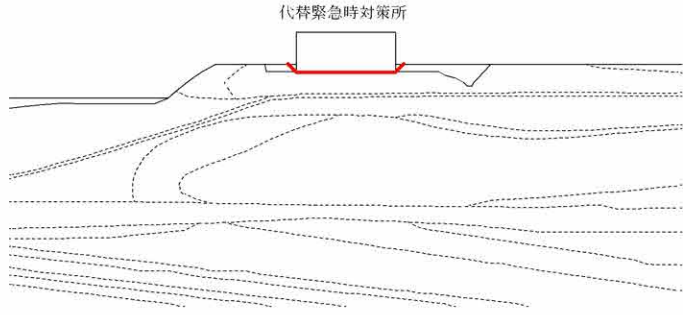
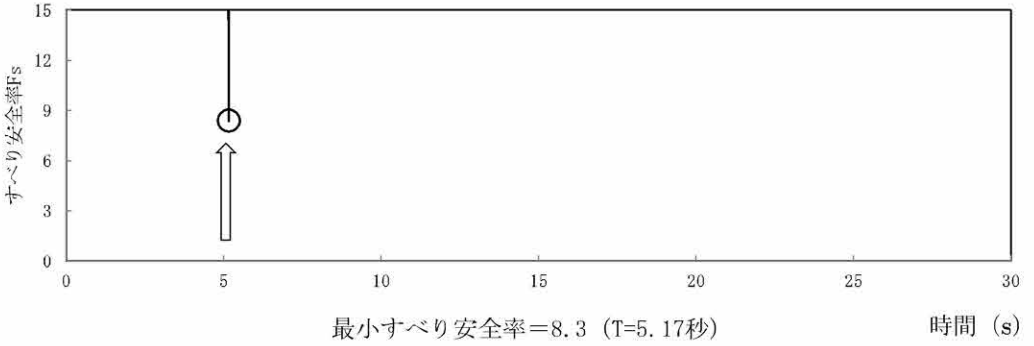
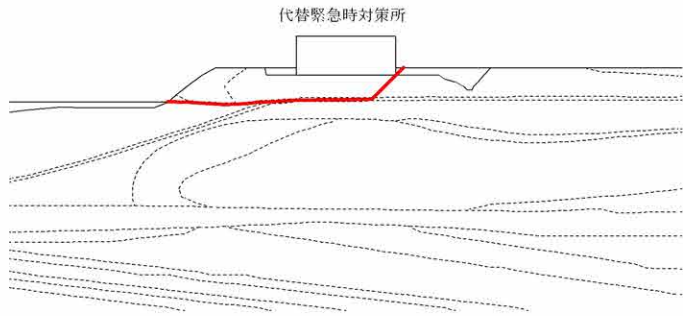
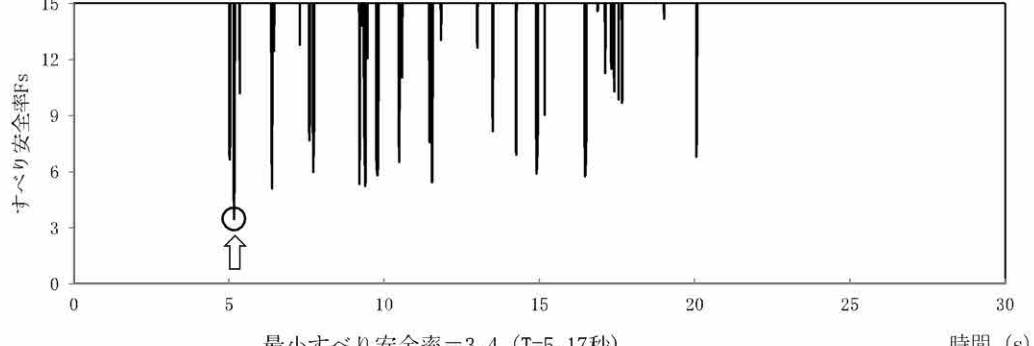
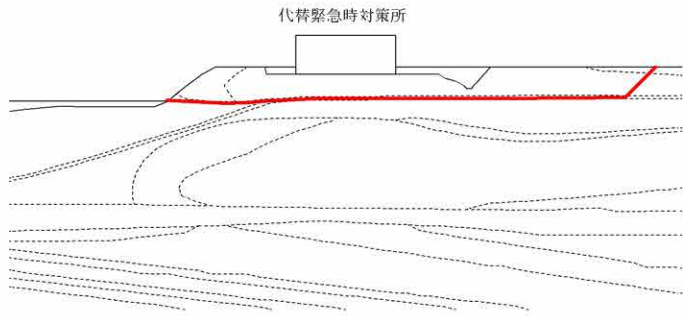
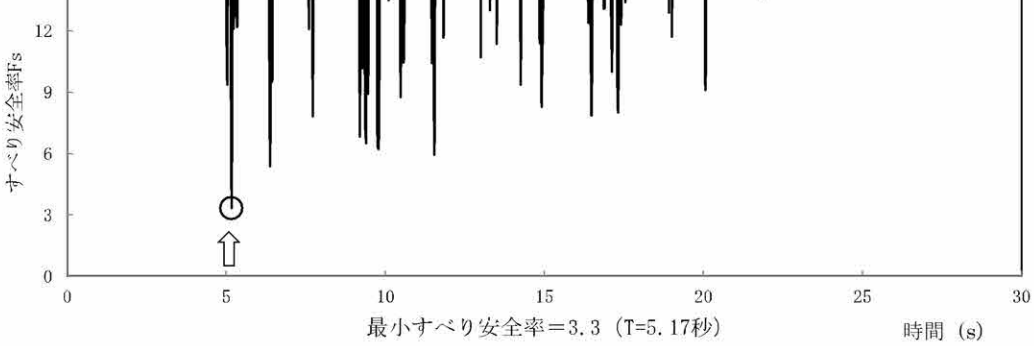
----- 岩種・岩級区分線

— すべり線

— 断層・シーム

○ すべり安全率の最小値

第 1.2-116 表(3) すべり安全率($X_{DK}-X_{DK}'$ 断面)(その 1)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
1	 <p>建屋底面のすべり</p>	Ss-1	11.3	4.96	 <p>最小すべり安全率=8.3 (T=5.17秒)</p>
		Ss-2	20.0 以上	12.61	
		Ss-3	20.0 以上	15.94	
		Ss-4	20.0 以上	7.51	
		Ss-5 (NS)	20.0 以上	6.98	
		Ss-5 (EW)	17.4	7.69	
		Ss-6	8.3	5.17	
2	 <p>岩盤中のすべり</p>	Ss-1	4.2	4.96	 <p>最小すべり安全率=3.4 (T=5.17秒)</p>
		Ss-2	9.9	12.61	
		Ss-3	5.8	15.95	
		Ss-4	4.4	7.51	
		Ss-5 (NS)	5.1	6.98	
		Ss-5 (EW)	4.9	7.95	
		Ss-6	3.4	5.17	
3	 <p>岩盤中のすべり</p>	Ss-1	4.1	4.96	 <p>最小すべり安全率=3.3 (T=5.17秒)</p>
		Ss-2	13.2	12.61	
		Ss-3	7.5	15.95	
		Ss-4	4.1	7.51	
		Ss-5 (NS)	5.1	6.98	
		Ss-5 (EW)	4.7	7.95	
		Ss-6	3.3	5.17	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む - - - - - 岩種・岩級区分線 — すべり線

第 1.2-116 表(4) すべり安全率($X_{DK}-X_{DK}'$ 断面)(その 2)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
4	<p>代替緊急時対策所</p> <p>岩盤中のすべり</p>	Ss-1	4.2	4.66	
		Ss-2	10.8	17.60	
		Ss-3	6.9	15.94	
		Ss-4	2.4 (2.7 ^{※2})	7.52	
		Ss-5 (NS)	5.7	6.97	
		Ss-5 (EW)	5.9	7.94	
		Ss-6	4.8	9.78	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む

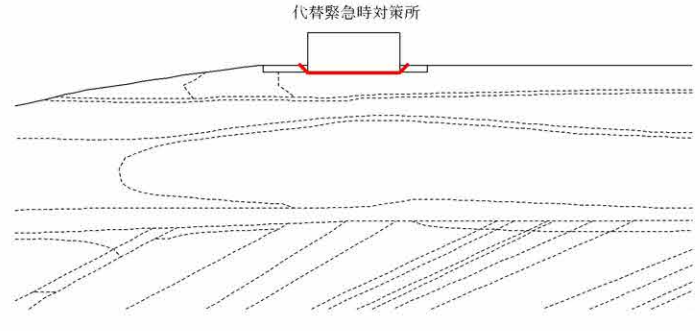
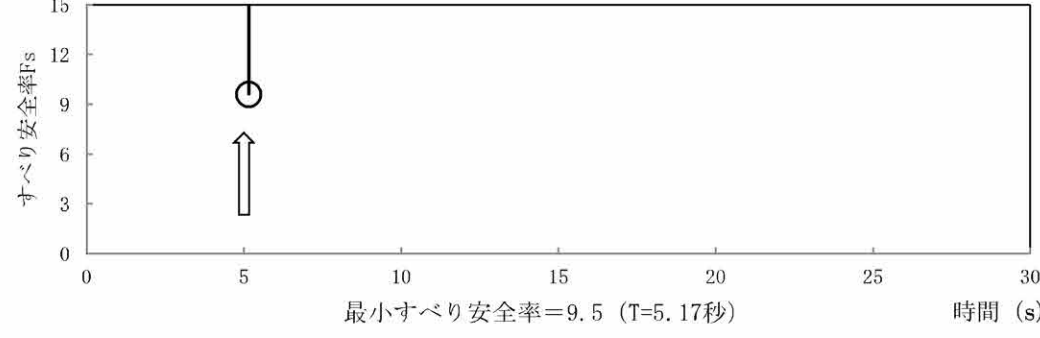
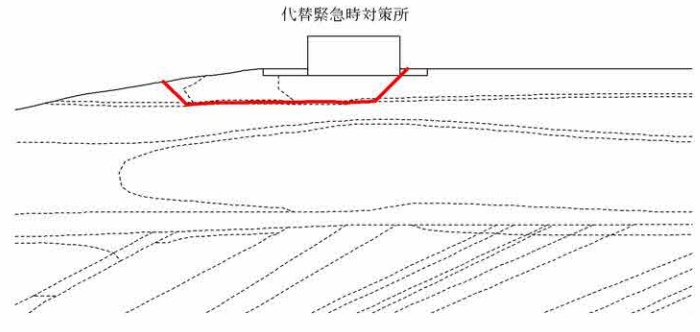
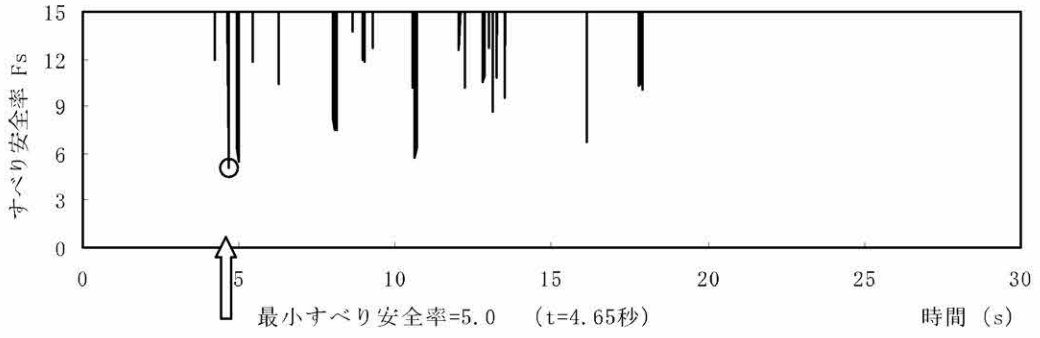
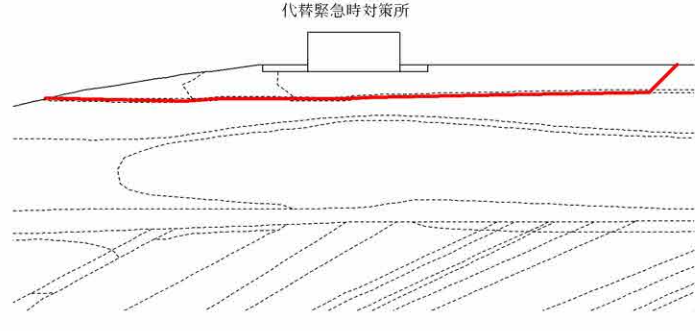
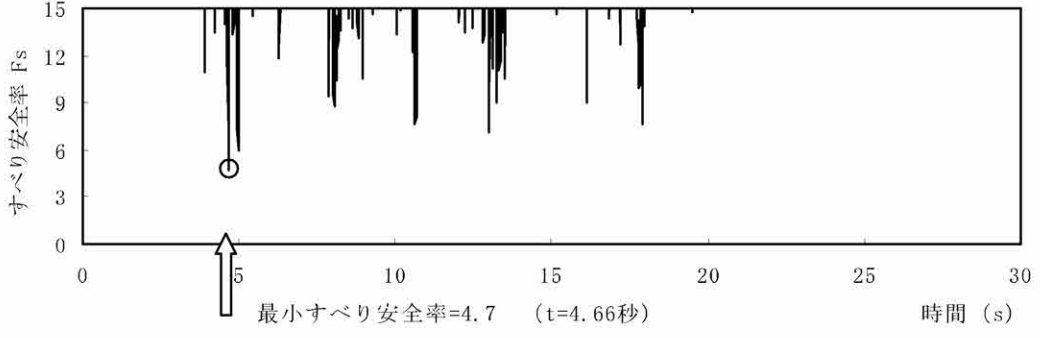
※2 応力再配分後のすべり安全率

----- 岩種・岩級区分線

— すべり線

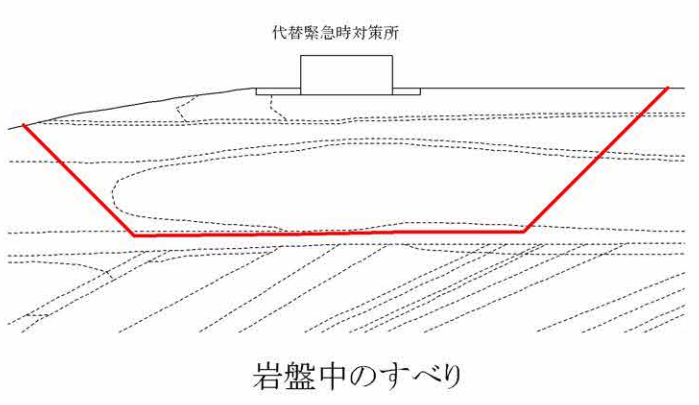
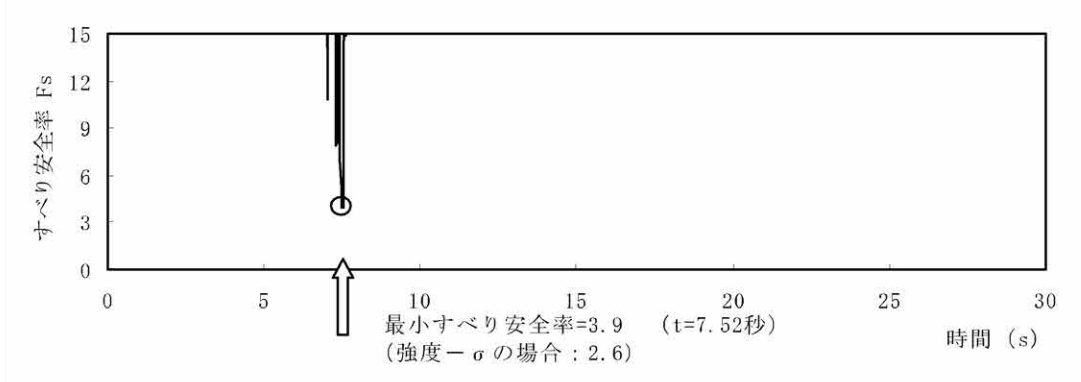
○ すべり安全率の最小値

第 1.2-116 表(5) すべり安全率($Y_{DK}-Y_{DK}'$ 断面)(その 1)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率※1	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
1	 <p>建屋底面のすべり</p>	Ss-1	12.5	4.66	 <p>最小すべり安全率=9.5 (T=5.17秒)</p>
		Ss-2	20.0 以上	11.95	
		Ss-3	14.4	13.96	
		Ss-4	18.5	7.51	
		Ss-5 (NS)	19.5	7.26	
		Ss-5 (EW)	14.9	7.96	
		Ss-6	9.5	5.17	
2	 <p>岩盤中のすべり</p>	Ss-1	5.0	4.65	 <p>最小すべり安全率=5.0 (t=4.65秒)</p>
		Ss-2	9.9	11.95	
		Ss-3	7.0	14.21	
		Ss-4	5.5	7.50	
		Ss-5 (NS)	6.1	6.98	
		Ss-5 (EW)	6.1	7.95	
		Ss-6	5.7	17.32	
3	 <p>岩盤中のすべり</p>	Ss-1	4.7	4.66	 <p>最小すべり安全率=4.7 (t=4.66秒)</p>
		Ss-2	11.1	11.95	
		Ss-3	6.0	13.96	
		Ss-4	5.6	7.51	
		Ss-5 (NS)	6.6	6.98	
		Ss-5 (EW)	5.8	7.96	
		Ss-6	4.8	5.17	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む - - - - - 岩種・岩級区分線 — すべり線

第 1.2-116 表(6) すべり安全率($Y_{DK}-Y_{DK}'$ 断面)(その 2)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
4		Ss-1	4.4	4.66	
		Ss-2	9.9	11.94	
		Ss-3	6.8	13.96	
		Ss-4	3.9 (3.9 ^{※2})	7.52	
		Ss-5 (NS)	6.5	6.97	
		Ss-5 (EW)	6.3	6.86	
		Ss-6	5.5	9.27	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む

※2 応力再配分後のすべり安全率

----- 岩種・岩級区分線

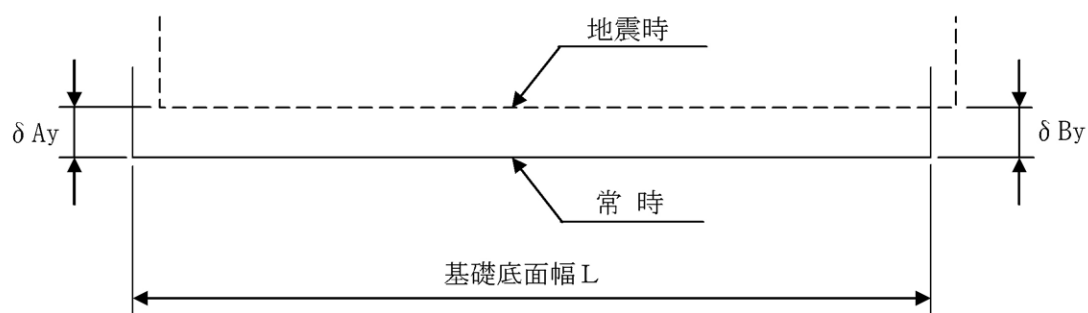
— すべり線

○ すべり安全率の最小値

第 1.2-117 表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜
($Y_M - Y_M'$ 断面)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
Ss-1	0.9	1/52,000
Ss-2	0.7	1/67,000
Ss-3	0.8	1/59,000
Ss-4	1.0	1/47,000
Ss-5 (NS)	0.7	1/67,000
Ss-5 (EW)	0.7	1/67,000
Ss-6	1.2	1/39,000

(記号の説明)

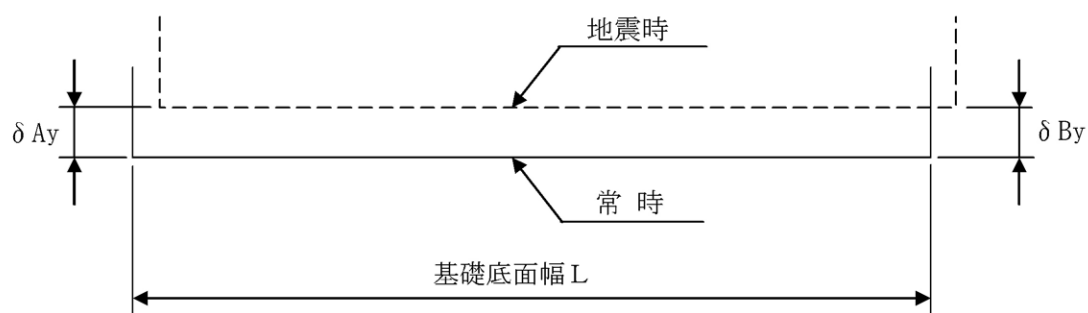


第 1.2-117 表(2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜

($X_{DK} - X_{DK}'$ 断面)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
Ss-1	0.6	1/25,000
Ss-2	0.2	1/74,000
Ss-3	0.4	1/37,000
Ss-4	0.5	1/30,000
Ss-5 (NS)	0.5	1/30,000
Ss-5 (EW)	0.6	1/25,000
Ss-6	0.5	1/30,000

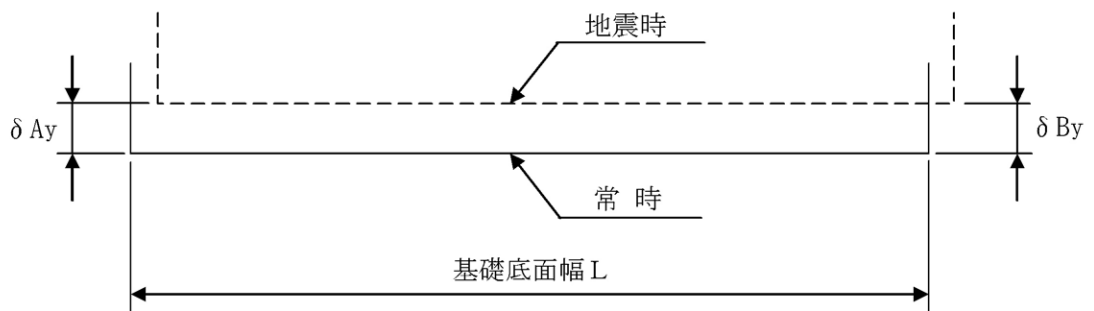
(記号の説明)



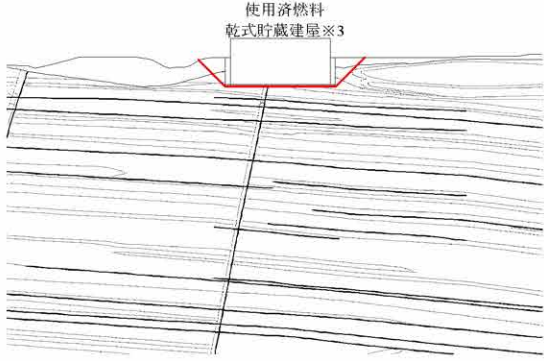
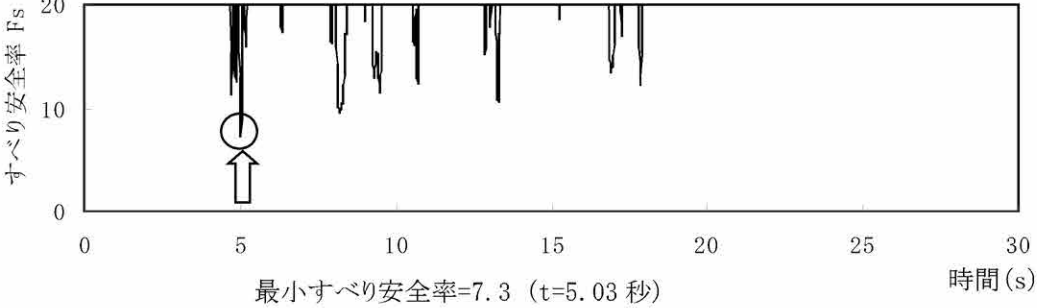
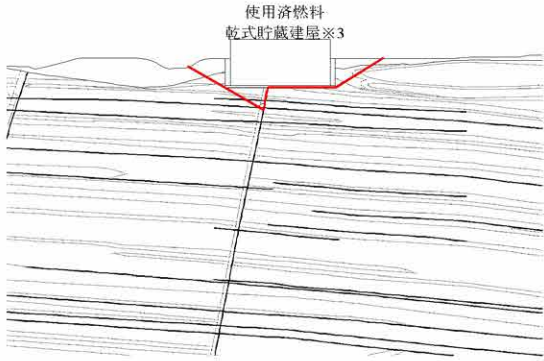
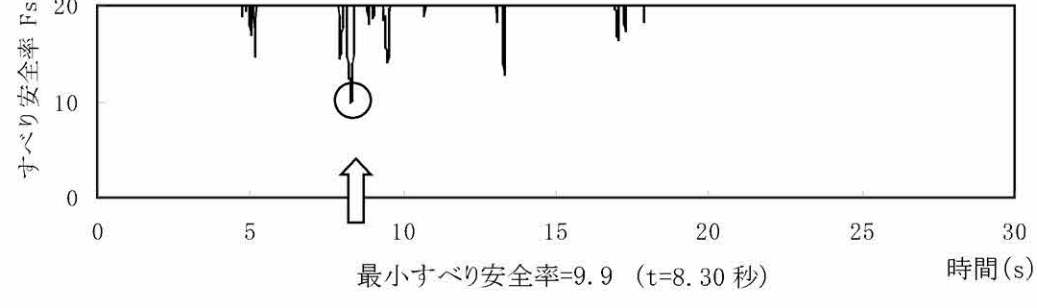
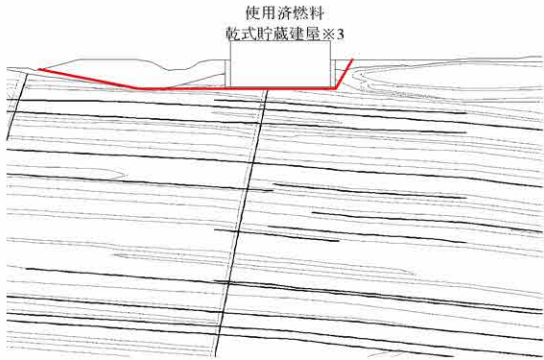
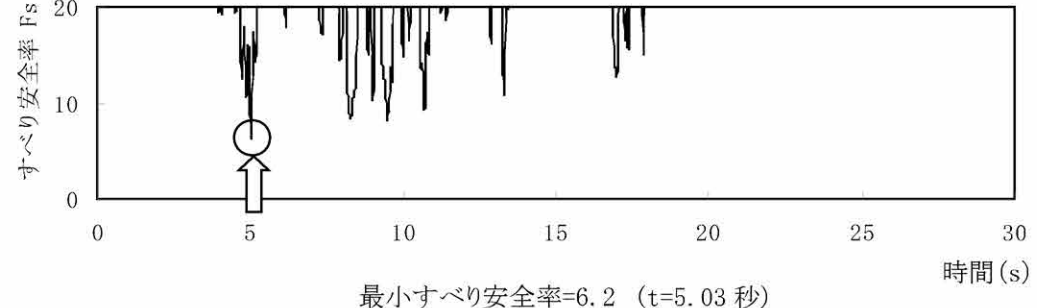
第 1.2-117 表 (3) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜
($Y_{DK} - Y_{DK}'$ 断面)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta Ay - \delta By $	最大傾斜 $\frac{ \delta Ay - \delta By }{L}$
Ss-1	0.6	1/23,000
Ss-2	0.2	1/68,000
Ss-3	0.5	1/27,000
Ss-4	0.6	1/23,000
Ss-5 (NS)	0.5	1/27,000
Ss-5 (EW)	0.5	1/27,000
Ss-6	0.5	1/27,000

(記号の説明)



第 1.2-121 表(1) すべり安全率(Xsc-Xsc'断面)(その1)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
1	 <p>建屋底面のすべり</p>	Ss-1	7.3	5.03	 <p>最小すべり安全率=7.3 (t=5.03 秒)</p>
		Ss-2	14.1	18.92	
		Ss-3	8.9	18.13	
		Ss-4	7.5	7.57	
		Ss-5 (NS)	8.7	7.03	
		Ss-5 (EW)	9.0	6.45	
		Ss-6	8.0	17.34	
2	 <p>建屋底面+断層・シームのすべり</p>	Ss-1	9.9	8.30	 <p>最小すべり安全率=9.9 (t=8.30 秒)</p>
		Ss-2	20.7	17.72	
		Ss-3	13.5	18.13	
		Ss-4	10.3	7.57	
		Ss-5 (NS)	11.2	6.41	
		Ss-5 (EW)	12.7	6.45	
		Ss-6	11.3	17.34	
3	 <p>建屋底面+岩盤中のすべり</p>	Ss-1	6.2 (7.2 ^{※2})	5.03	 <p>最小すべり安全率=6.2 (t=5.03 秒) (強度-1σの場合: 4.9)</p>
		Ss-2	12.1	18.92	
		Ss-3	9.8	15.79	
		Ss-4	6.6	7.72	
		Ss-5 (NS)	7.2	7.03	
		Ss-5 (EW)	7.6	6.45	
		Ss-6	9.3	17.34	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む

※2 応力再配分後のすべり安全率

----- 岩種・岩級区分線

— すべり線

— 断層・シーム

○ すべり安全率の最小値

※3 評価時点においては運用開始していない。

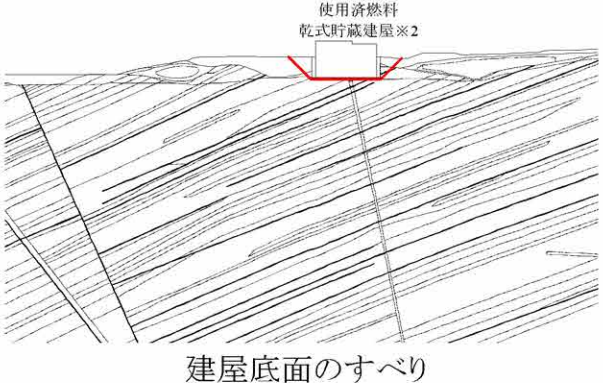
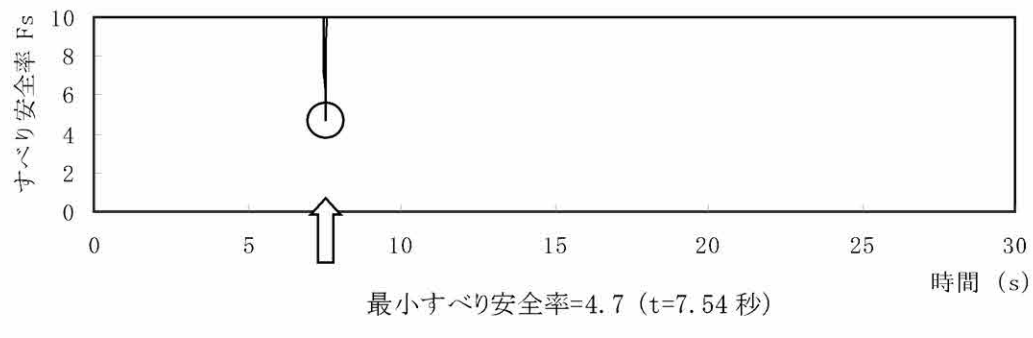
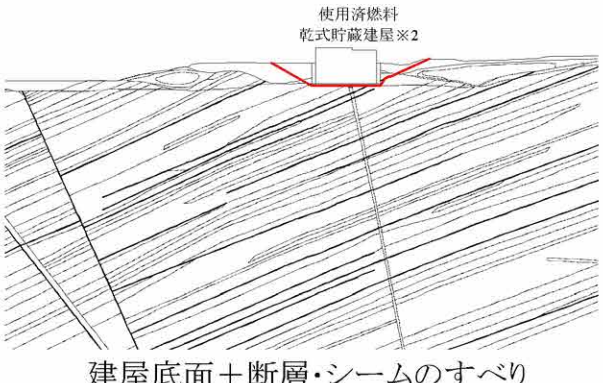
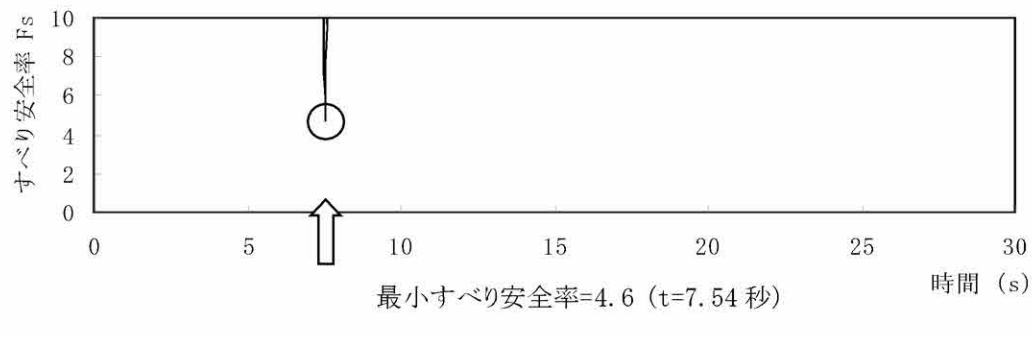
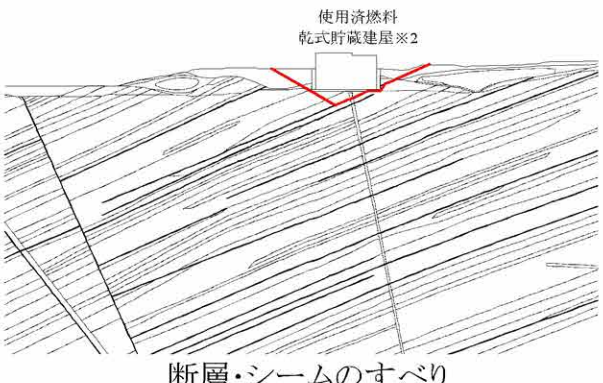
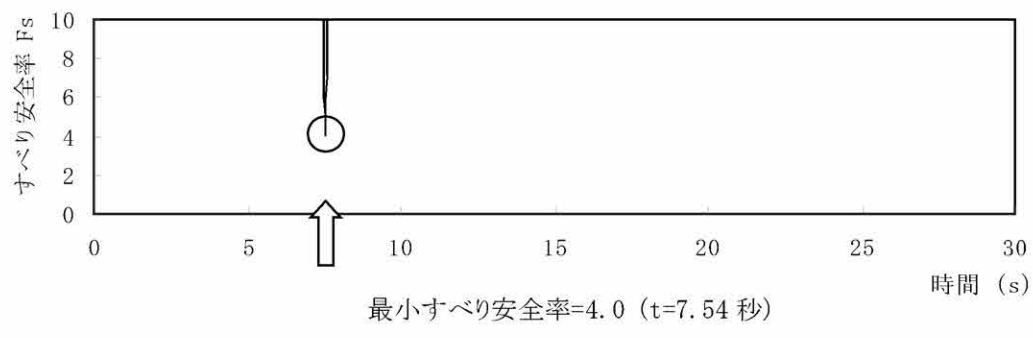
第 1.2-121 表(2) すべり安全率(Xsc-Xsc'断面)(その2)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
4	 <p data-bbox="617 724 816 756">岩盤中のすべり</p>	Ss-1	14.8	8.17	 <p data-bbox="1914 682 2300 714">最小すべり安全率=13.4 (t=7.57 秒)</p>
		Ss-2	22.9	17.73	
		Ss-3	20.4	16.50	
		Ss-4	13.4	7.57	
		Ss-5 (NS)	14.4	7.02	
		Ss-5 (EW)	15.5	7.99	
		Ss-6	14.5	17.34	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む - - - - - 岩種・岩級区分線 — 断層・シーム

※2 評価時点においては運用開始していない。

第 1.2-121 表(3) すべり安全率($Y_s - Y_s'$ 断面) (その1)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率※1	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
1	 <p>建屋底面のすべり</p>	Ss-1	6.2	13.25	 <p>最小すべり安全率=4.7 (t=7.54 秒)</p>
		Ss-2	17.2	11.95	
		Ss-3	8.3	13.96	
		Ss-4	4.7	7.54	
		Ss-5 (NS)	8.5	6.97	
		Ss-5 (EW)	9.5	7.97	
		Ss-6	7.4	17.31	
2	 <p>建屋底面+断層・シームのすべり</p>	Ss-1	5.9	13.25	 <p>最小すべり安全率=4.6 (t=7.54 秒)</p>
		Ss-2	15.8	11.86	
		Ss-3	8.1	13.96	
		Ss-4	4.6	7.54	
		Ss-5 (NS)	7.9	6.97	
		Ss-5 (EW)	8.7	7.97	
		Ss-6	7.2	17.31	
3	 <p>断層・シームのすべり</p>	Ss-1	5.1	13.25	 <p>最小すべり安全率=4.0 (t=7.54 秒)</p>
		Ss-2	13.8	11.86	
		Ss-3	6.7	13.96	
		Ss-4	4.0	7.54	
		Ss-5 (NS)	6.1	7.03	
		Ss-5 (EW)	6.7	6.40	
		Ss-6	5.7	17.31	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む - - - - - 岩種・岩級区分線 — 断層・シーム

※2 評価時点においては運用開始していない。

第 1.2-121 表(4) すべり安全率($Y_s - Y_s'$ 断面) (その2)

すべり線番号	すべり線形状	地震動	最小すべり安全率 ^{※1}	時間(秒)	すべり安全率タイムヒストリー (すべり安全率が最小となる地震動について示す。)
4		Ss-1	2.5 (3.1 ^{※2})	8.22	
		Ss-2	5.6	14.36	
		Ss-3	3.7	15.25	
		Ss-4	2.8	7.53	
		Ss-5 (NS)	2.7	7.01	
		Ss-5 (EW)	3.1	7.97	
		Ss-6	2.9	17.32	

※1 地震動の位相を反転させたケースを含む

※2 応力再配分後のすべり安全率

----- 岩種・岩級区分線

— 断層・シーム

— すべり線

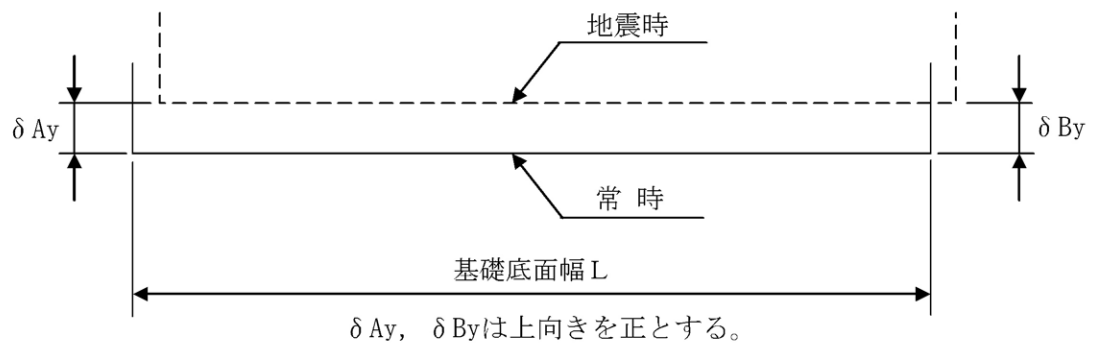
○ すべり安全率の最小値

※3 評価時点においては運用開始していない。

第 1.2-122 表 (1) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜
(Xsc-Xsc'断面)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
Ss-1	1.2	1/51,000
Ss-2	0.4	1/154,000
Ss-3	0.9	1/68,000
Ss-4	1.3	1/47,000
Ss-5 (NS)	1.0	1/62,000
Ss-5 (EW)	0.8	1/77,000
Ss-6	1.3	1/47,000

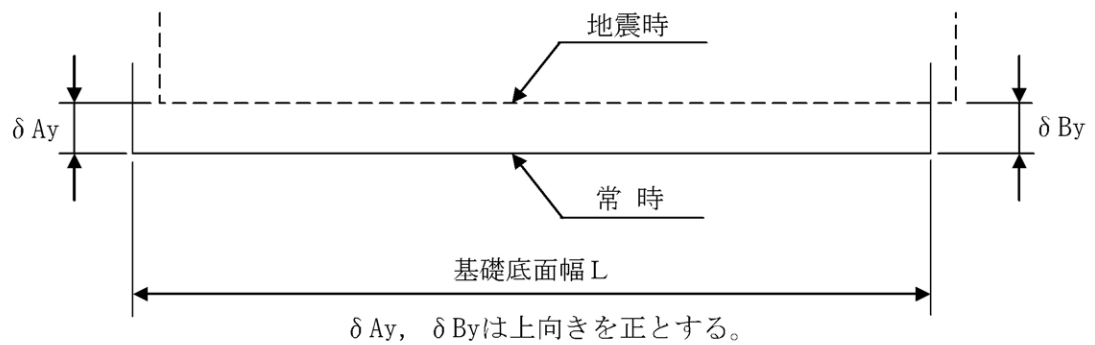
(記号の説明)



第 1.2-122 表 (2) 基礎底面両端の鉛直方向の相対変位・傾斜
($Y_s - Y_{s'}$ 断面)

地震動	最大相対変位 (mm) $ \delta A_y - \delta B_y $	最大傾斜 $\frac{ \delta A_y - \delta B_y }{L}$
Ss-1	0.9	1/53,000
Ss-2	0.7	1/68,000
Ss-3	0.9	1/53,000
Ss-4	1.2	1/40,000
Ss-5 (NS)	0.8	1/60,000
Ss-5 (EW)	0.7	1/68,000
Ss-6	1.1	1/43,000

(記号の説明)

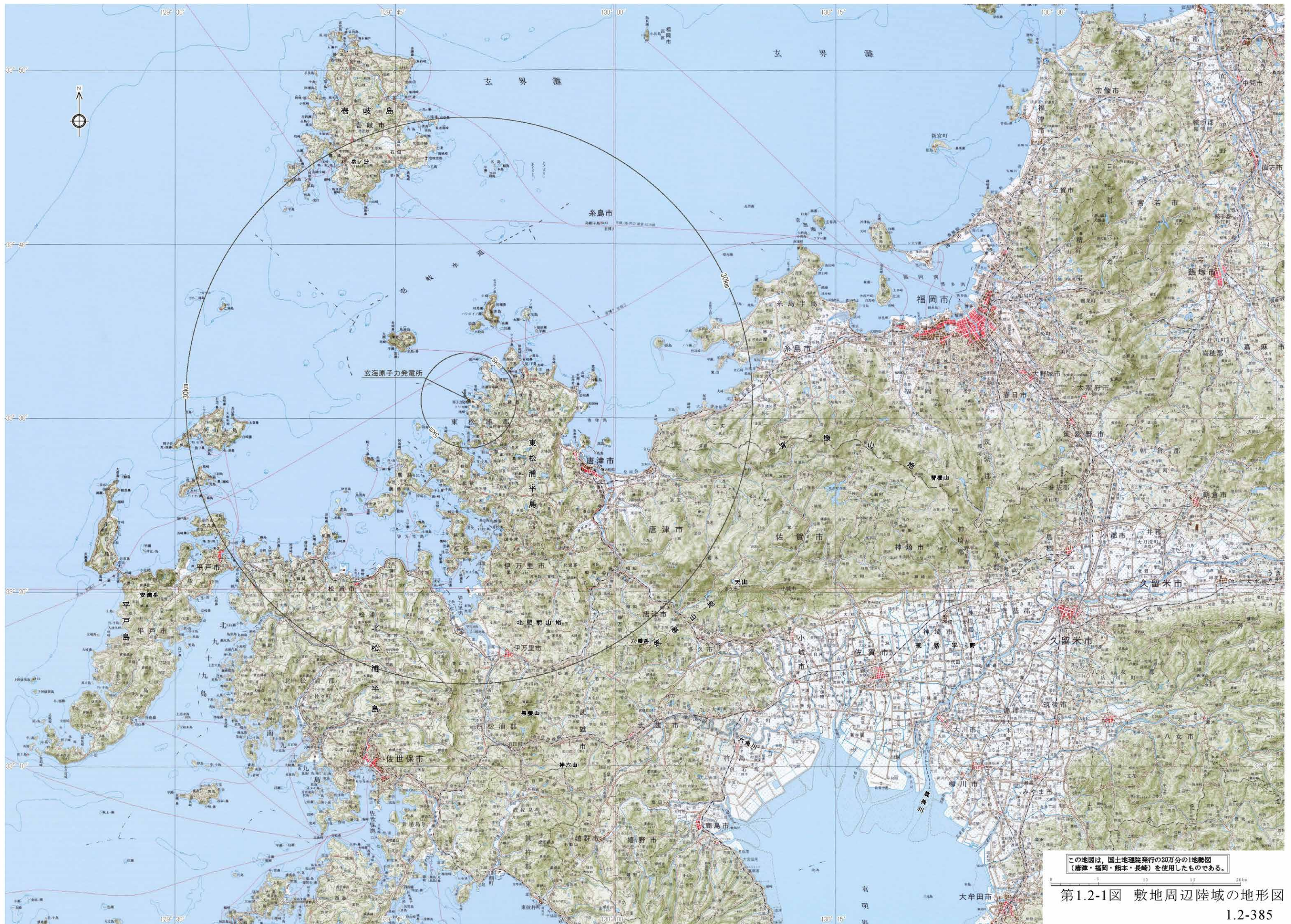


第1.2-123表 流入河川の流域面積・流路長・流量

河川名	流域面積 (km ²)	流路長 (m)	推定流量 (m ³ /s)
志礼川 七つ枝川 谷川 鬼木川	4.75	2,615 330 700 342	0.095
八田川	0.81	767	0.016
浜野浦川	1.69	1,515	0.034

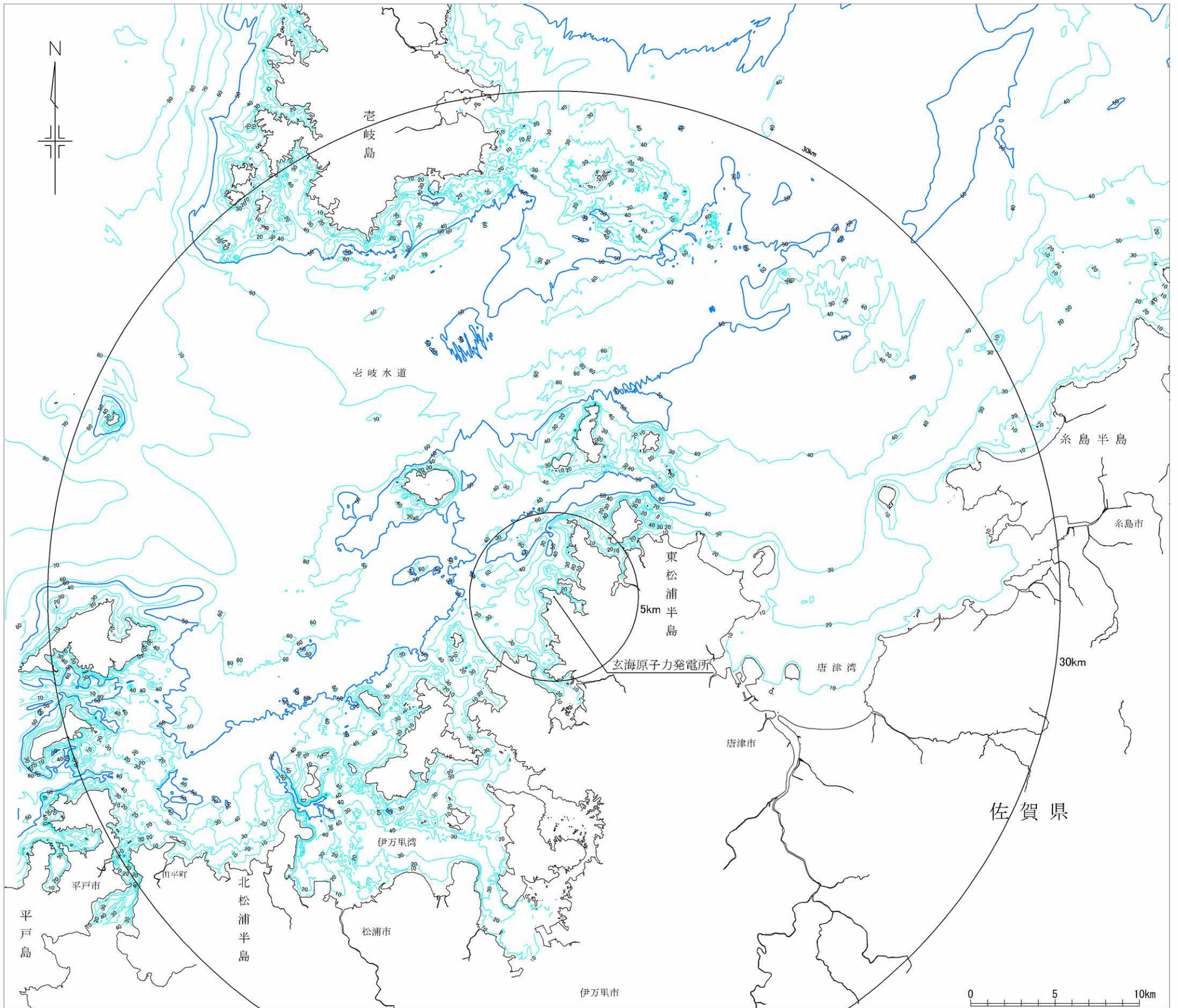
注：推定流量は、流域面積に比例しているものとして潟川の流量より算出した。

出典：佐賀県唐津土木事務所資料

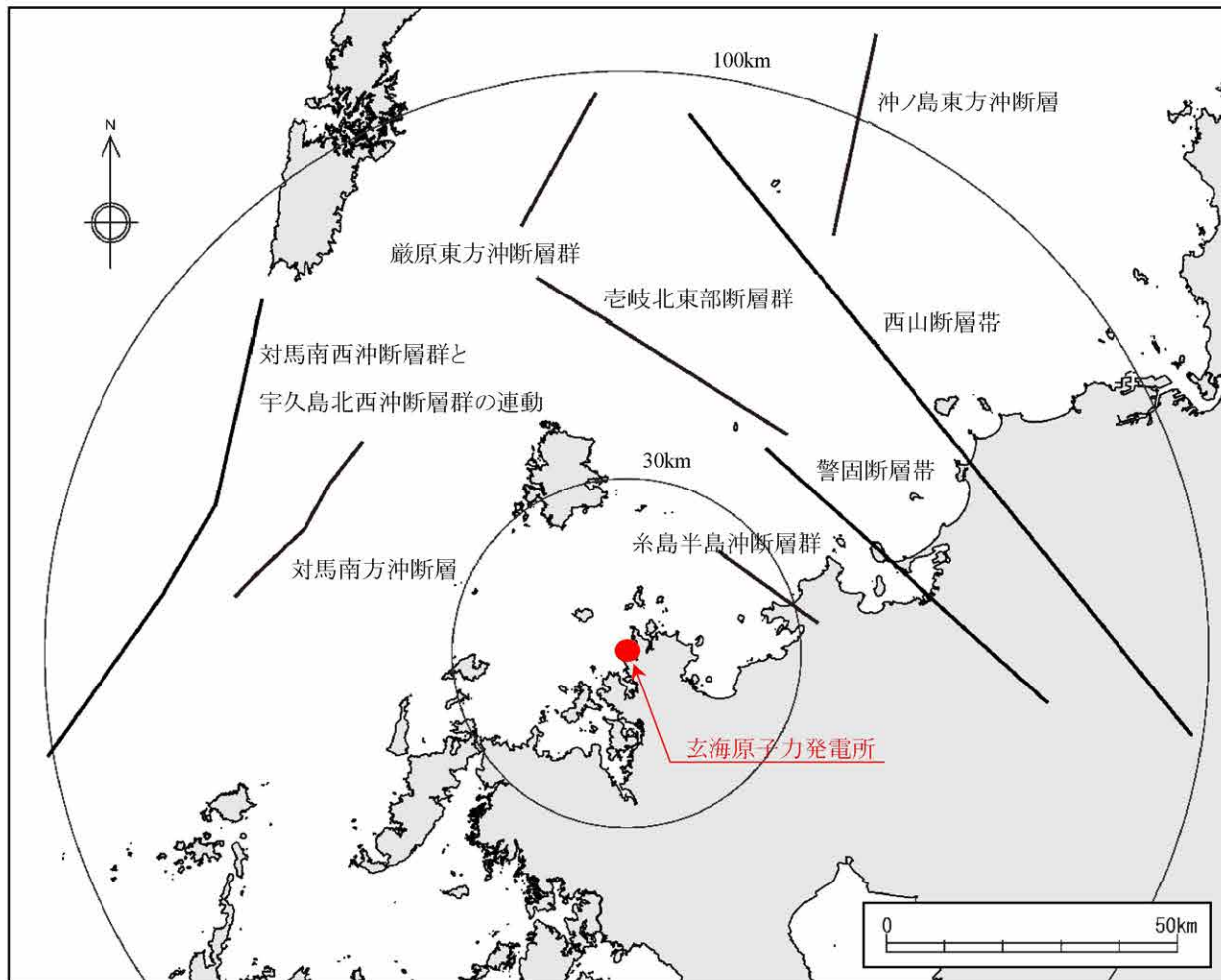


この地図は、国土院発行の20万分の1地形図
 (唐津・福岡・熊本・長崎)を使用したものである。

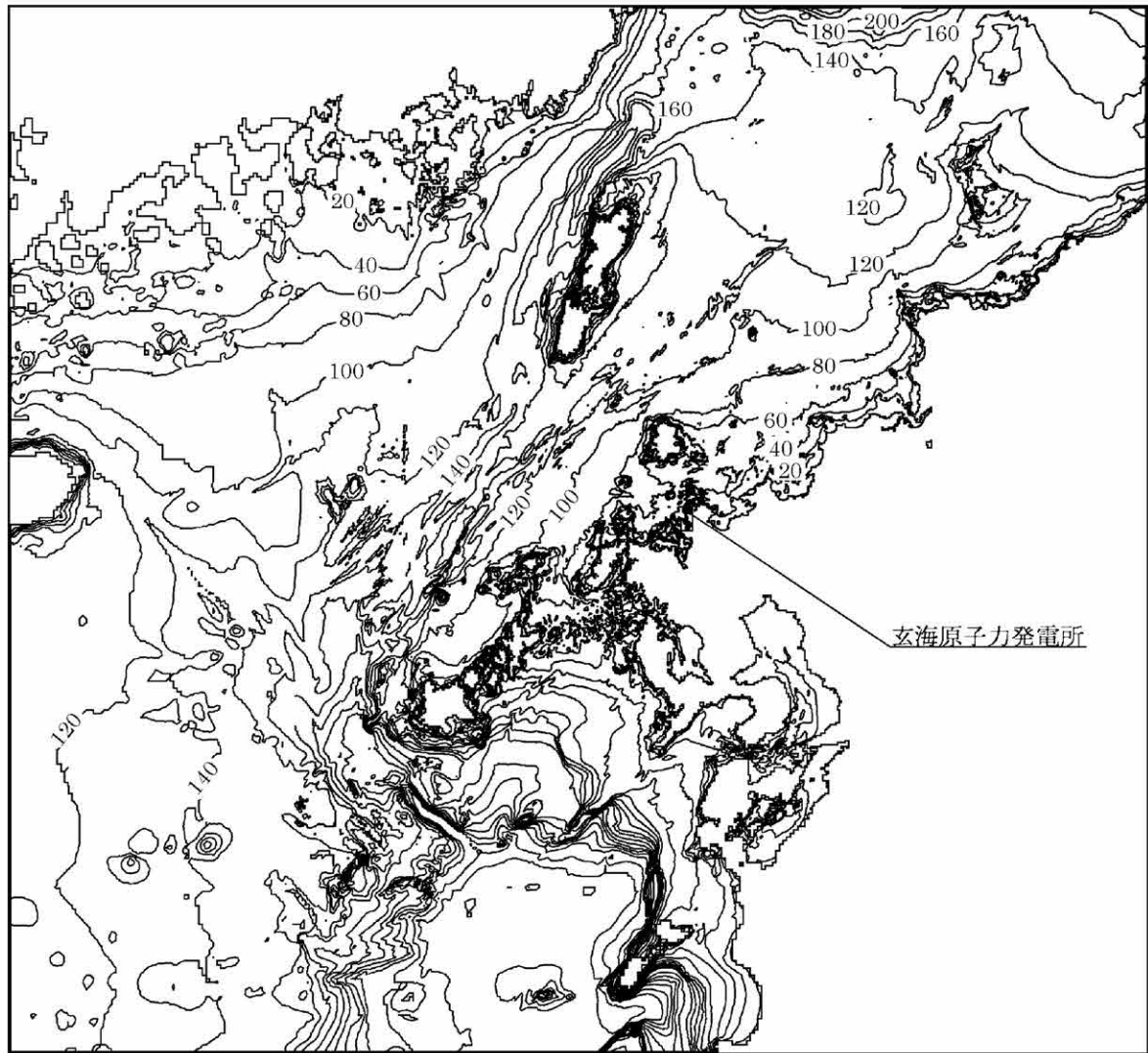
第1.2-1図 敷地周辺陸域の地形図



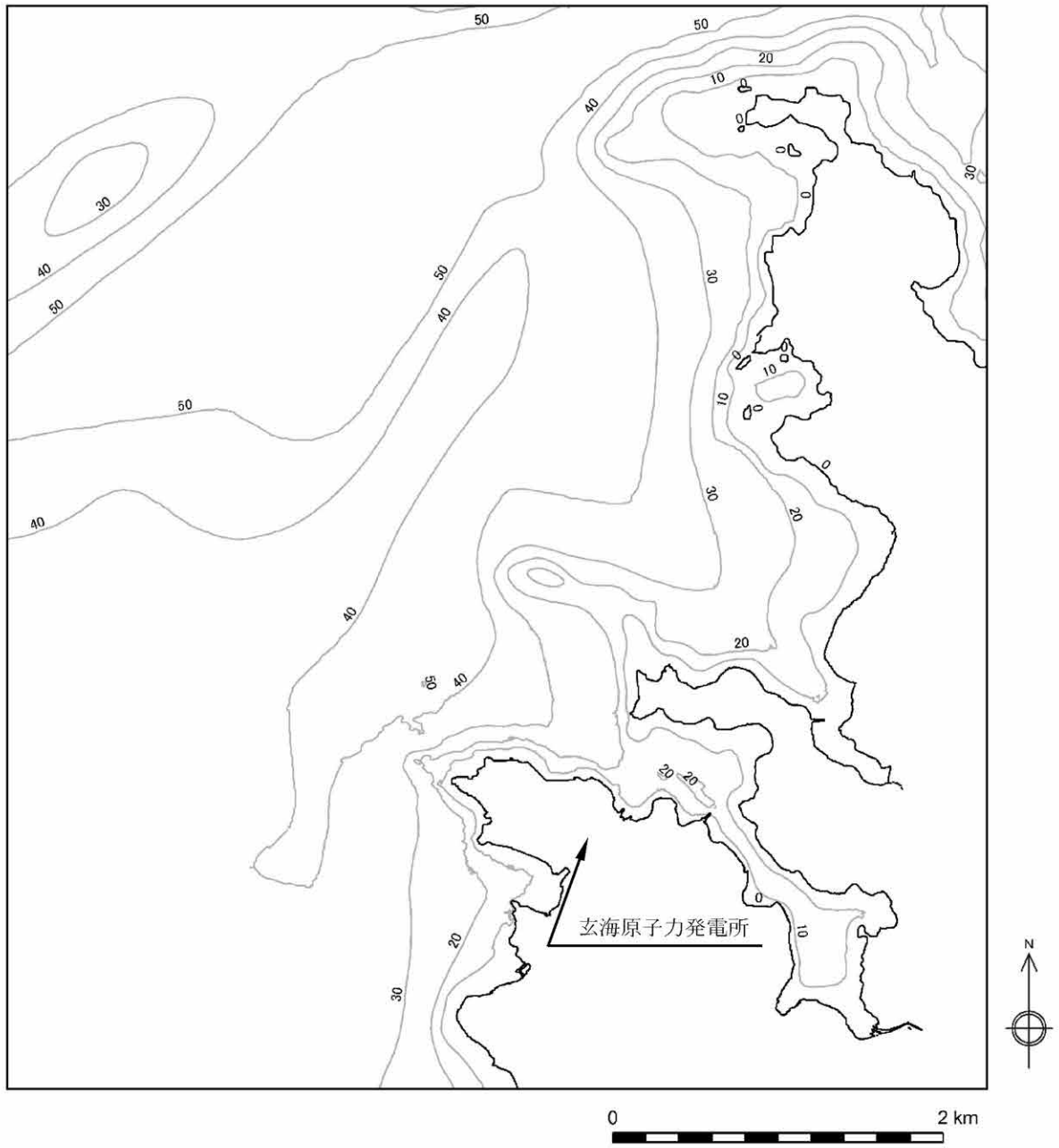
水涯線は、国土地理院発行の数値地図25000空間データ基盤(福岡)他を編集したものである。
 海域の地図は、国土地理院発行の2万5千分の1沿岸海域地形図(平戸)・海上保安庁発行の5万分の1沿岸の海の基本図(老岐南部・福岡湾)・九州電力による調査結果等を編集したものである。



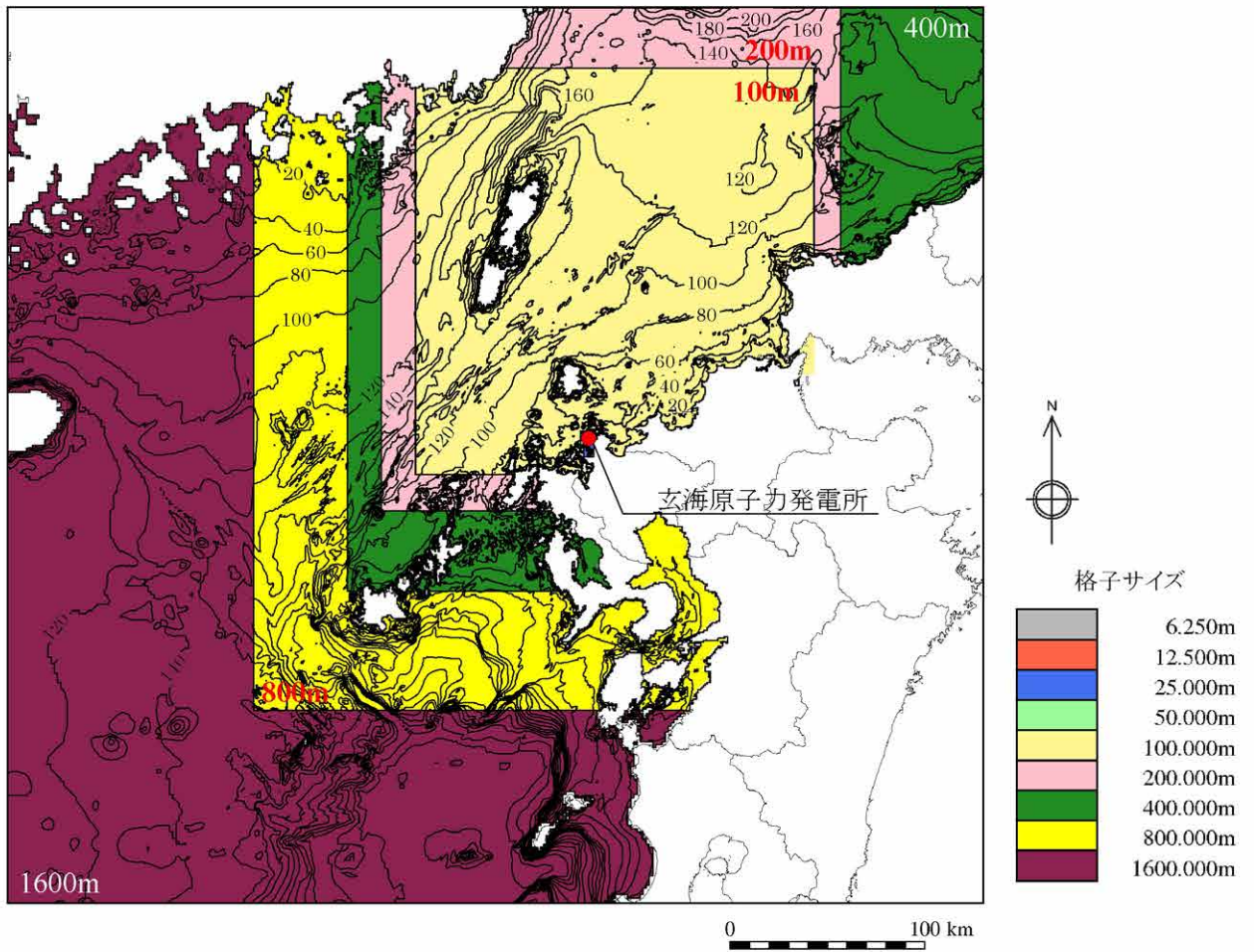
第1.2-4図 敷地周辺の海域活断層の津波波源の位置



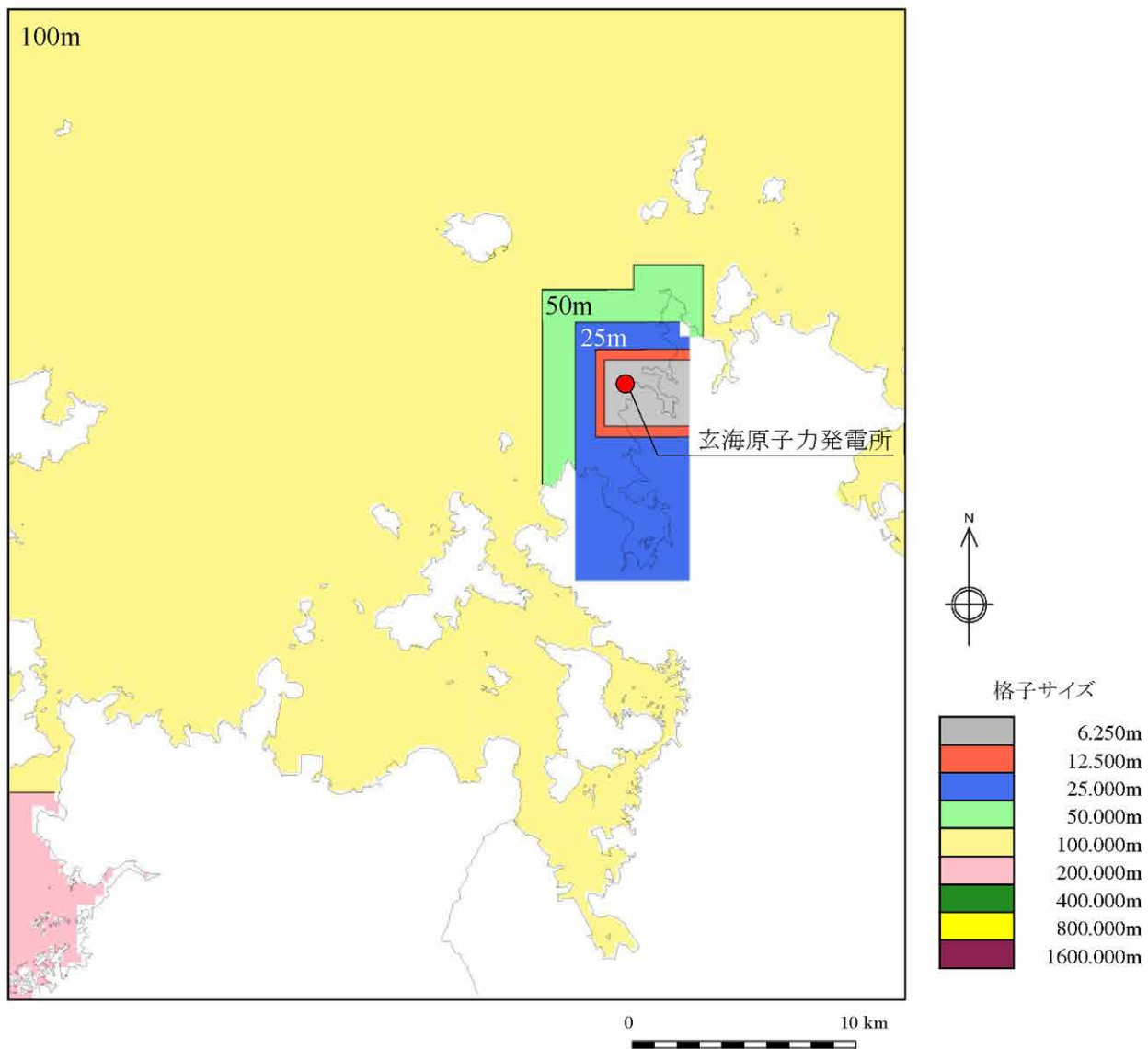
第1.2-5図(1) 海底地形(計算領域全体)



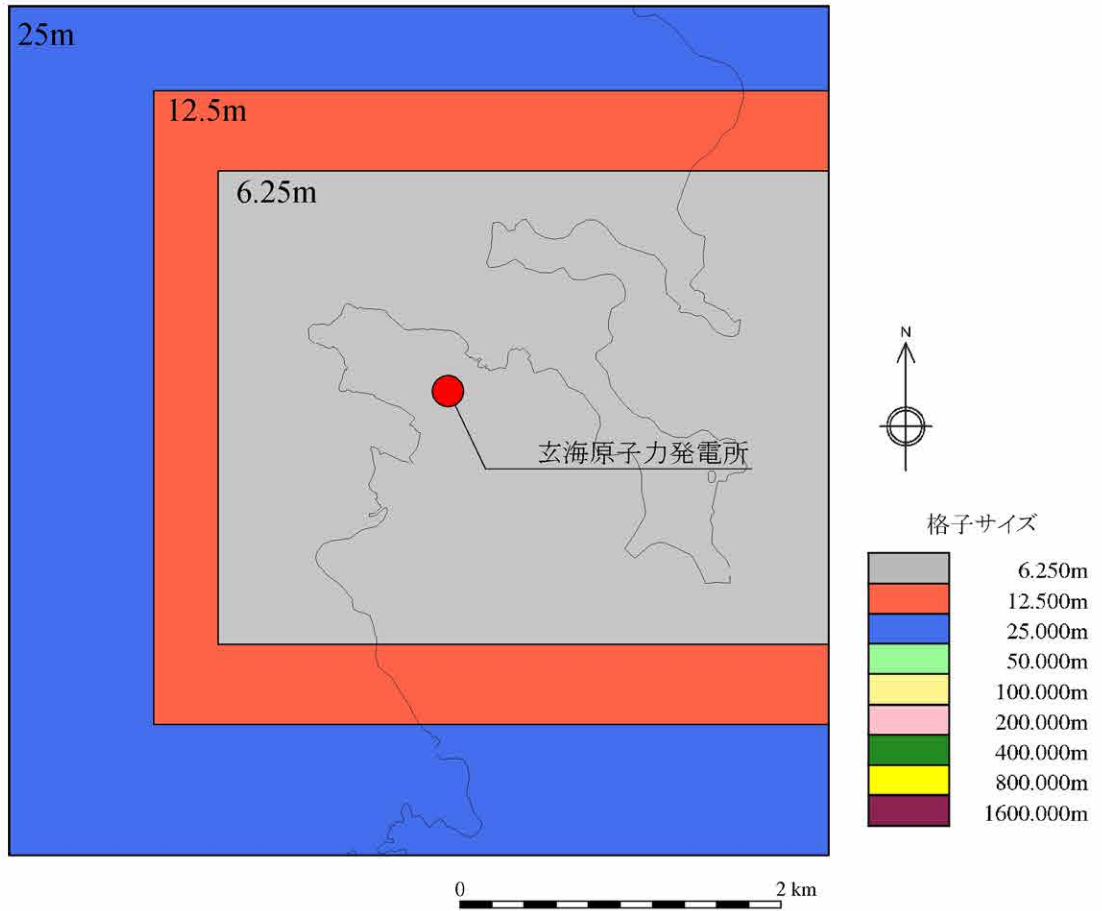
第1.2-5図(2) 海底地形(敷地近傍海域)



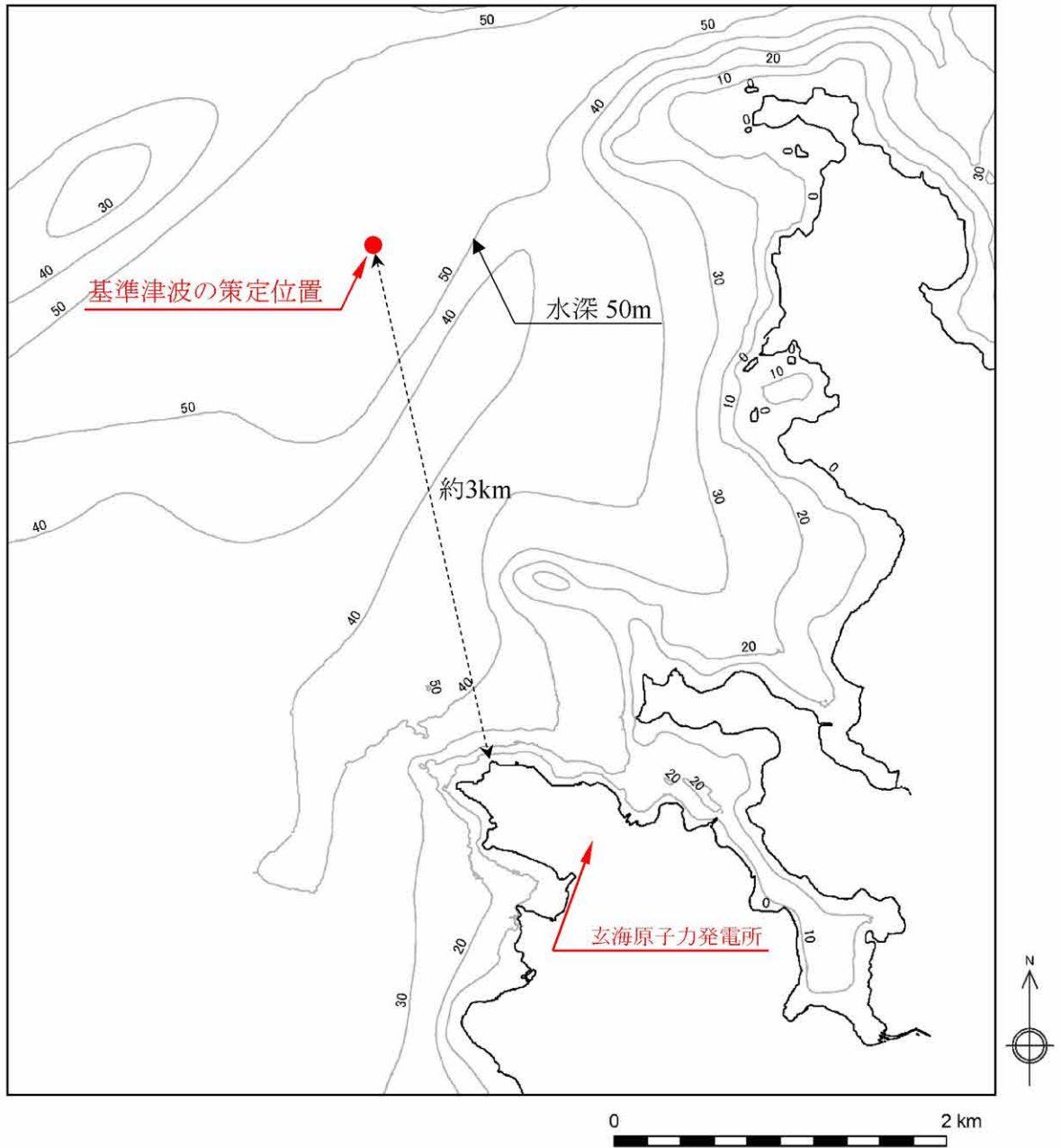
第1.2-6図(1) 計算格子分割(計算領域全体)



第1.2-6図(2) 計算格子分割(敷地前面海域)



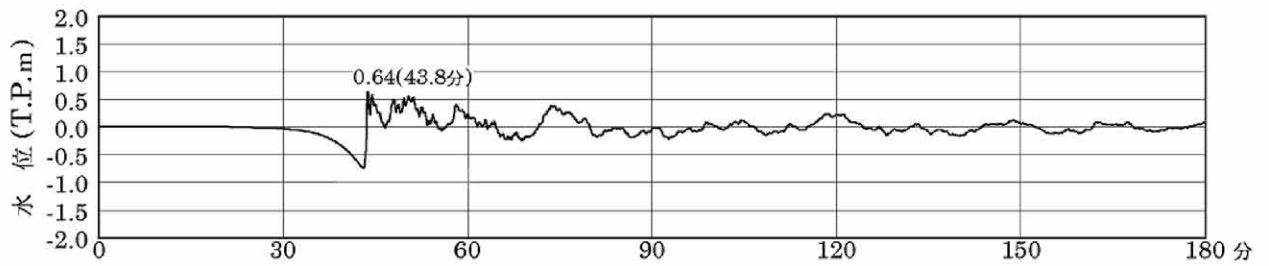
第1.2-6図(3) 計算格子分割(敷地近傍海域)



第1.2-7図 基準津波の策定位置

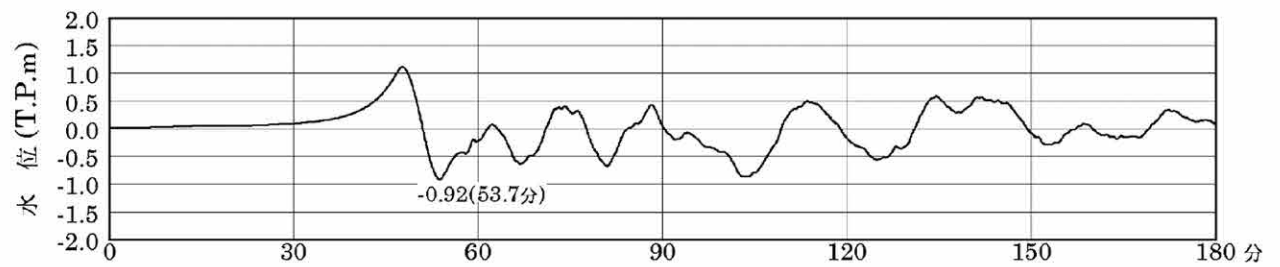
【水位上昇側】

対馬南西沖断層群と宇久島北西沖断層群の連動



【水位下降側】

西山断層帯

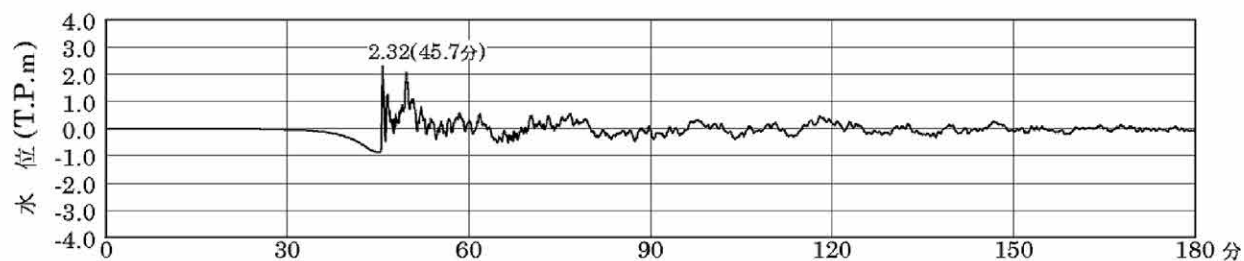


第1.2-8図 基準津波の策定位置での時刻歴波形

(初期潮位 : T.P. ± 0.00m)

【水位上昇側】

対馬南西沖断層群と宇久島北西沖断層群の連動

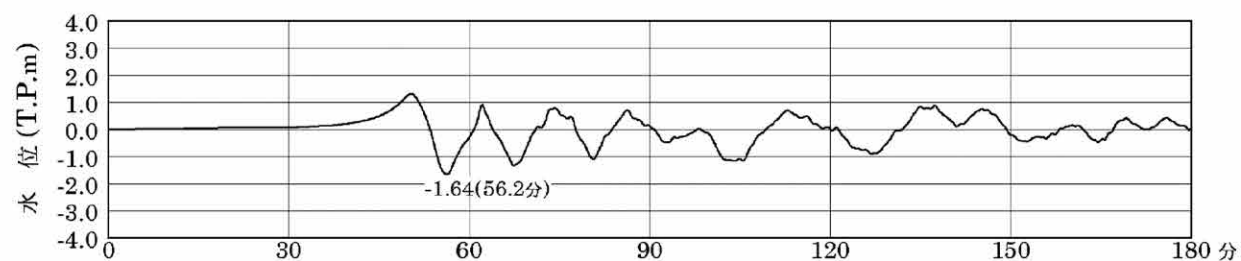


第1.2-9図(3) 基準津波の取水ピット前面位置での時刻歴波形

(初期潮位 : T.P. ± 0.00m)

【水位下降側】

西山断層帯

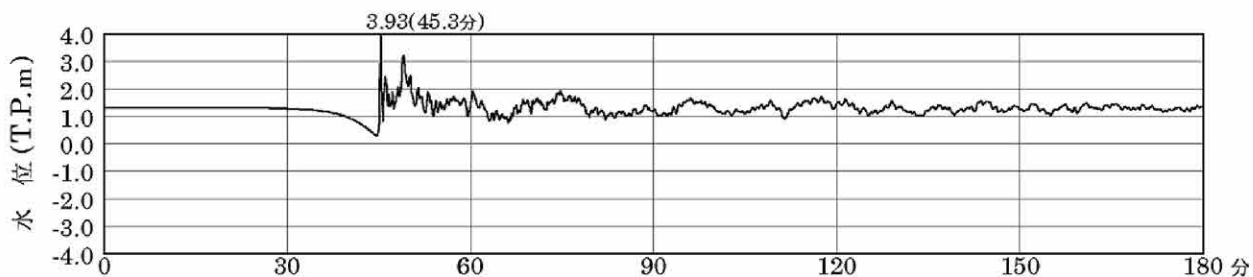


第1.2-9図(4) 基準津波の取水口位置での時刻歴波形

(初期潮位 : T.P. ± 0.00m)

【水位上昇側】

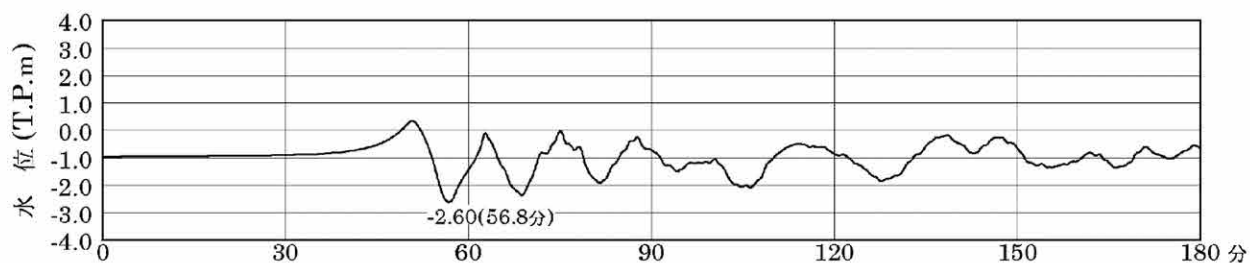
対馬南西沖断層群と宇久島北西沖断層群の連動



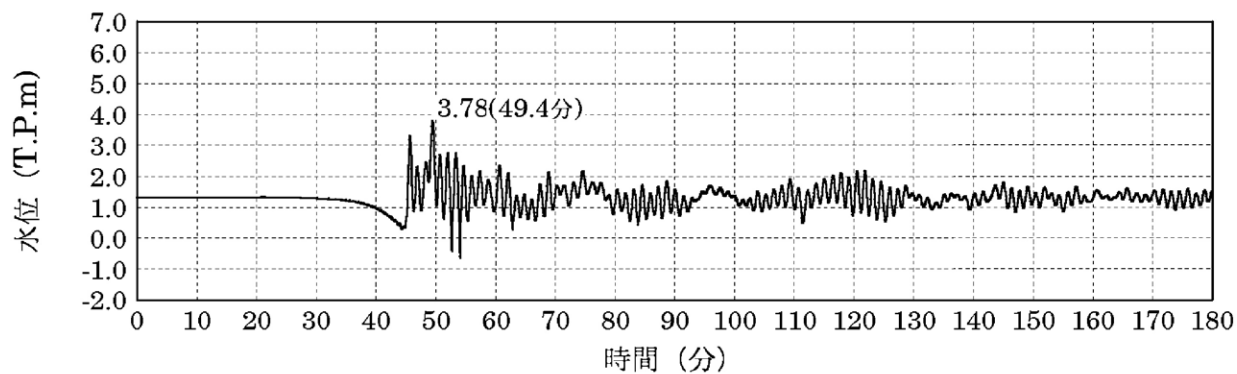
第1.2-10図(3) 基準津波の取水ピット前面位置での時刻歴波形
(朔望平均満潮位を考慮)

【水位下降側】

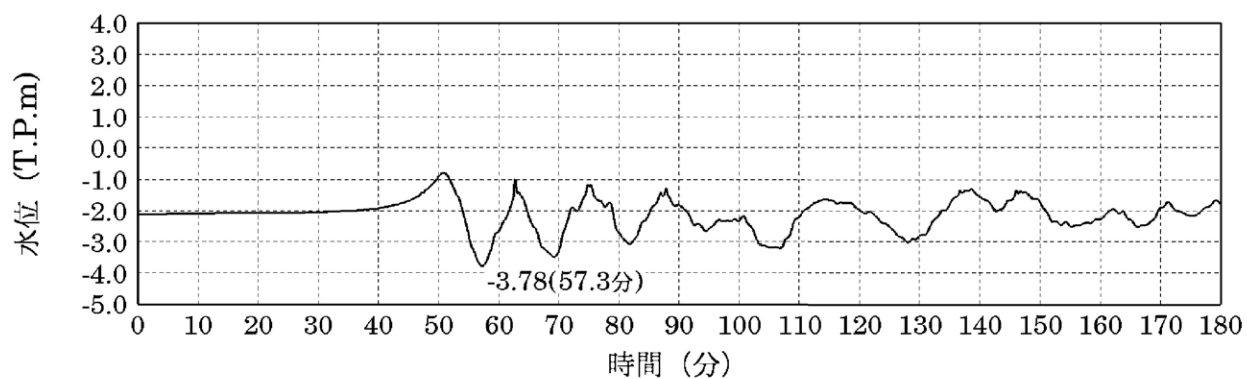
西山断層帯



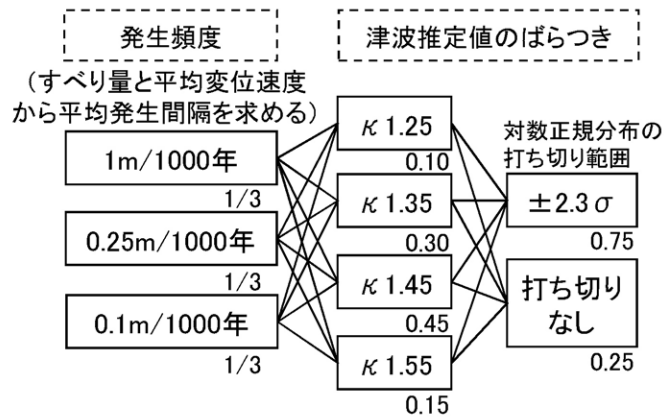
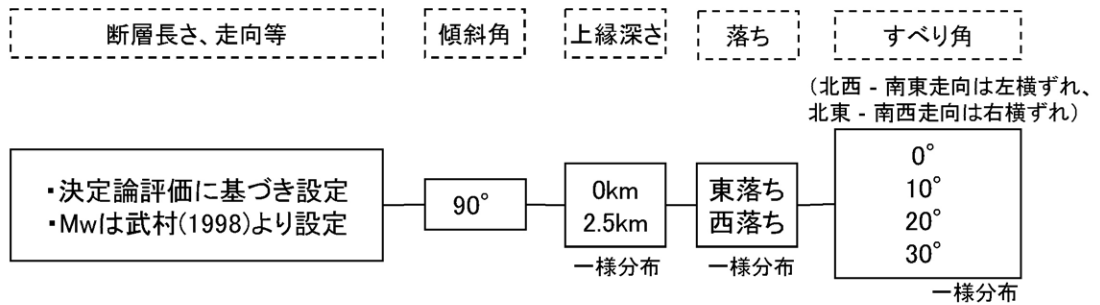
第1.2-10図(4) 基準津波の取水口位置での時刻歴波形
(朔望平均干潮位を考慮)



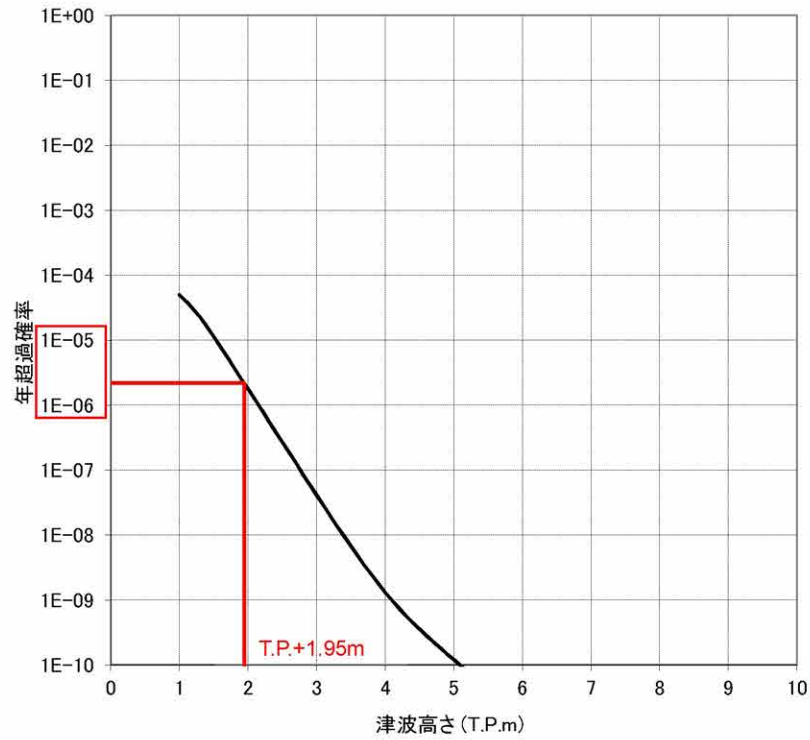
第1.2-12図(1) 取水ピットでの時刻歴波形
(水位上昇側、朔望平均満潮位を考慮)



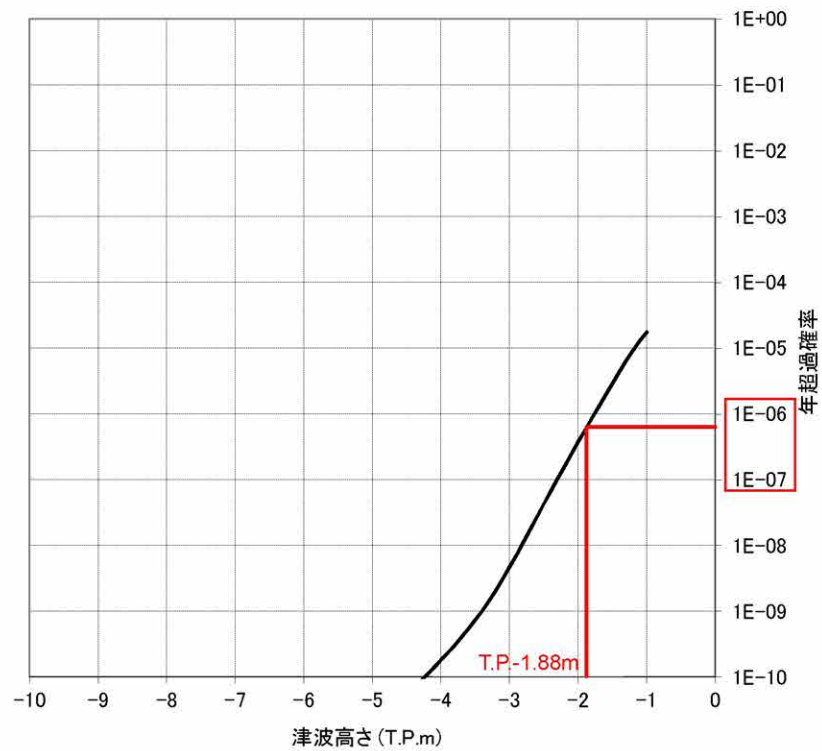
第1.2-12図(2) 取水ピットでの時刻歴波形
(水位下降側、朔望平均干潮位を考慮)



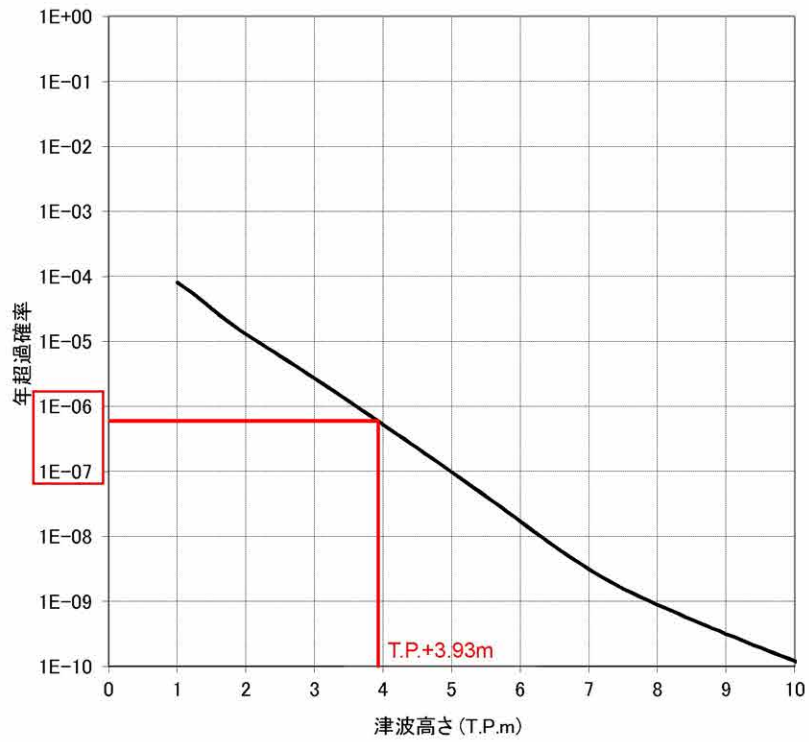
第1.2-14図 ロジックツリー(海域活断層による地殻内地震)



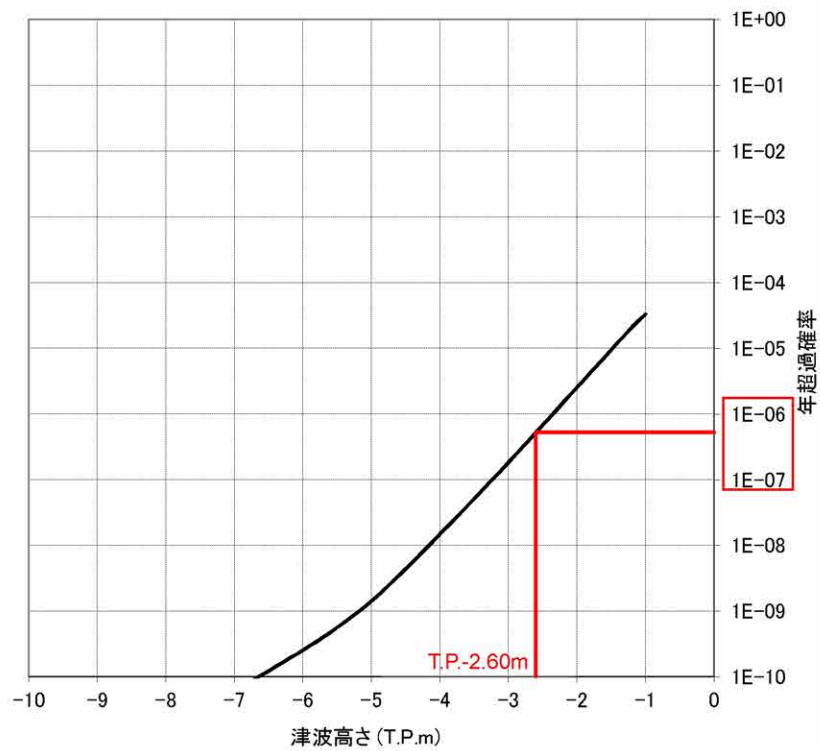
第1.2-15図(1) 基準津波の策定位置における
水位と年超過確率の関係(水位上昇側)



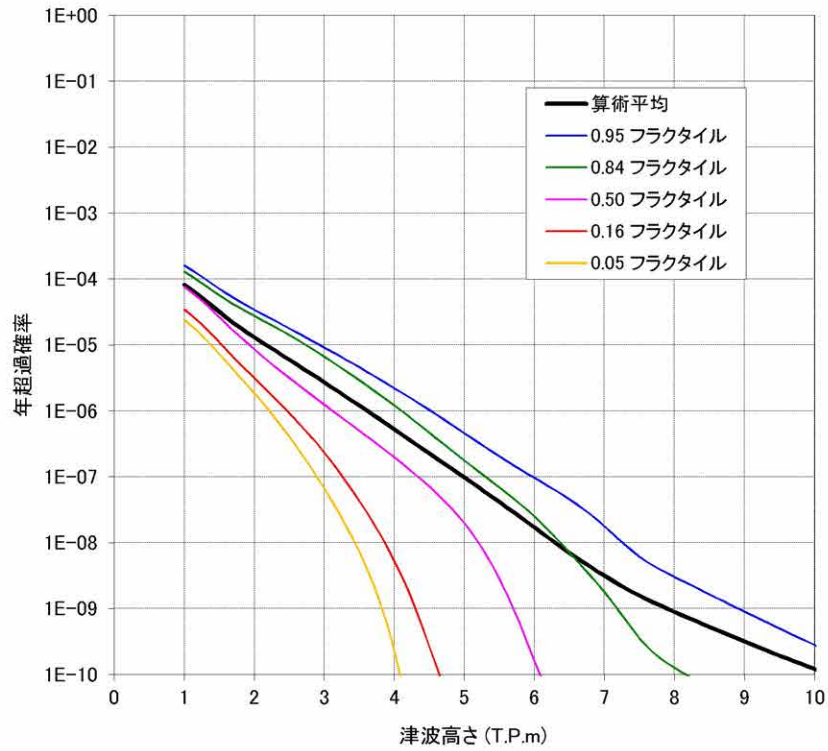
第1.2-15図(2) 基準津波の策定位置における
水位と年超過確率の関係(水位下降側)



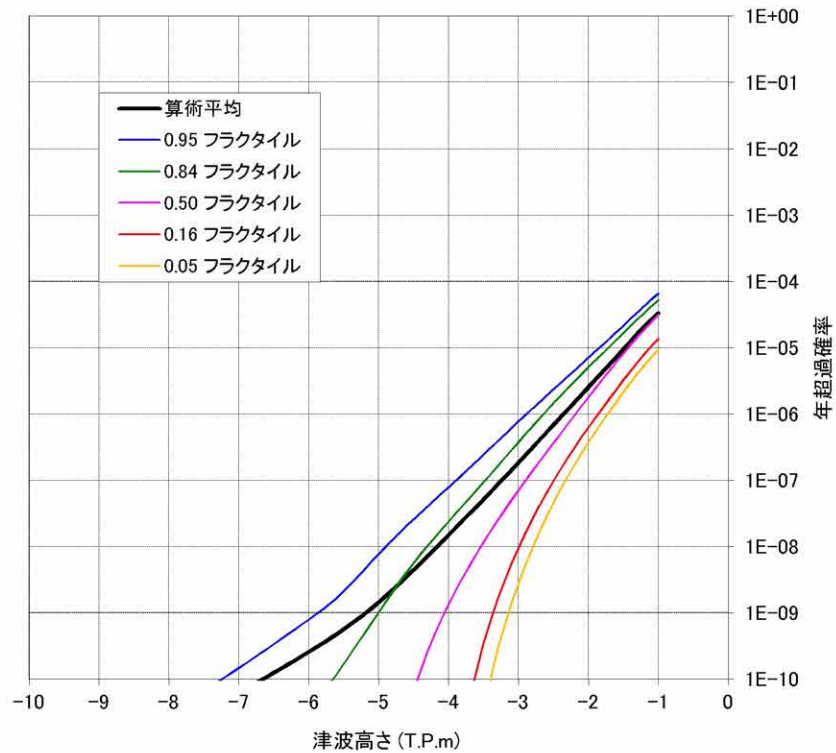
第1.2-15図(3) 取水ピット前面位置における
水位と年超過確率の関係(水位上昇側)



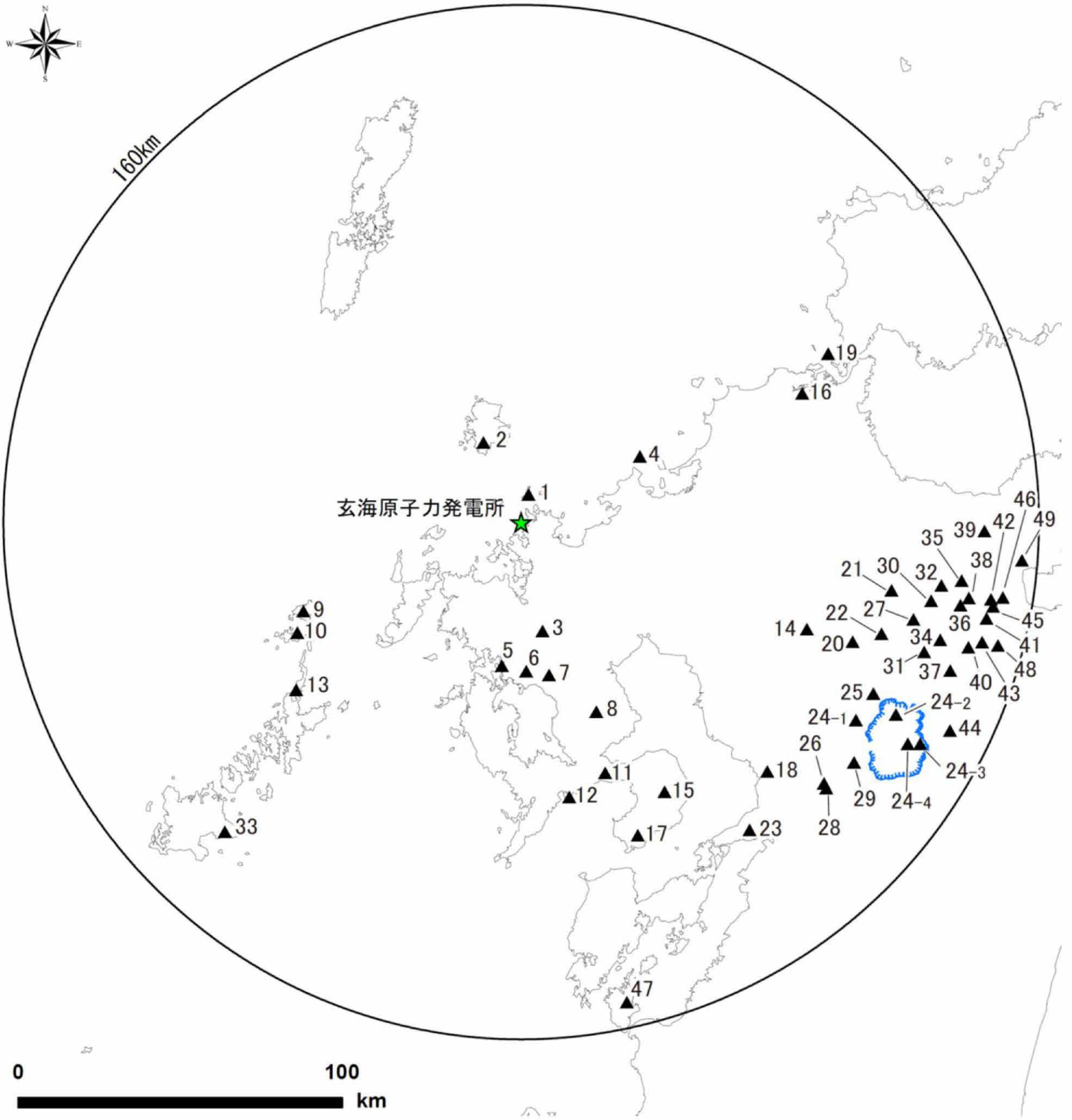
第1.2-15図(4) 取水口位置における
水位と年超過確率の関係(水位下降側)



第1.2-16図(1) 取水ピット前面位置における水位と年超過確率の関係(フラクタイル曲線)(水位上昇側)



第1.2-16図(2) 取水口位置における水位と年超過確率の関係(フラクタイル曲線)(水位下降側)



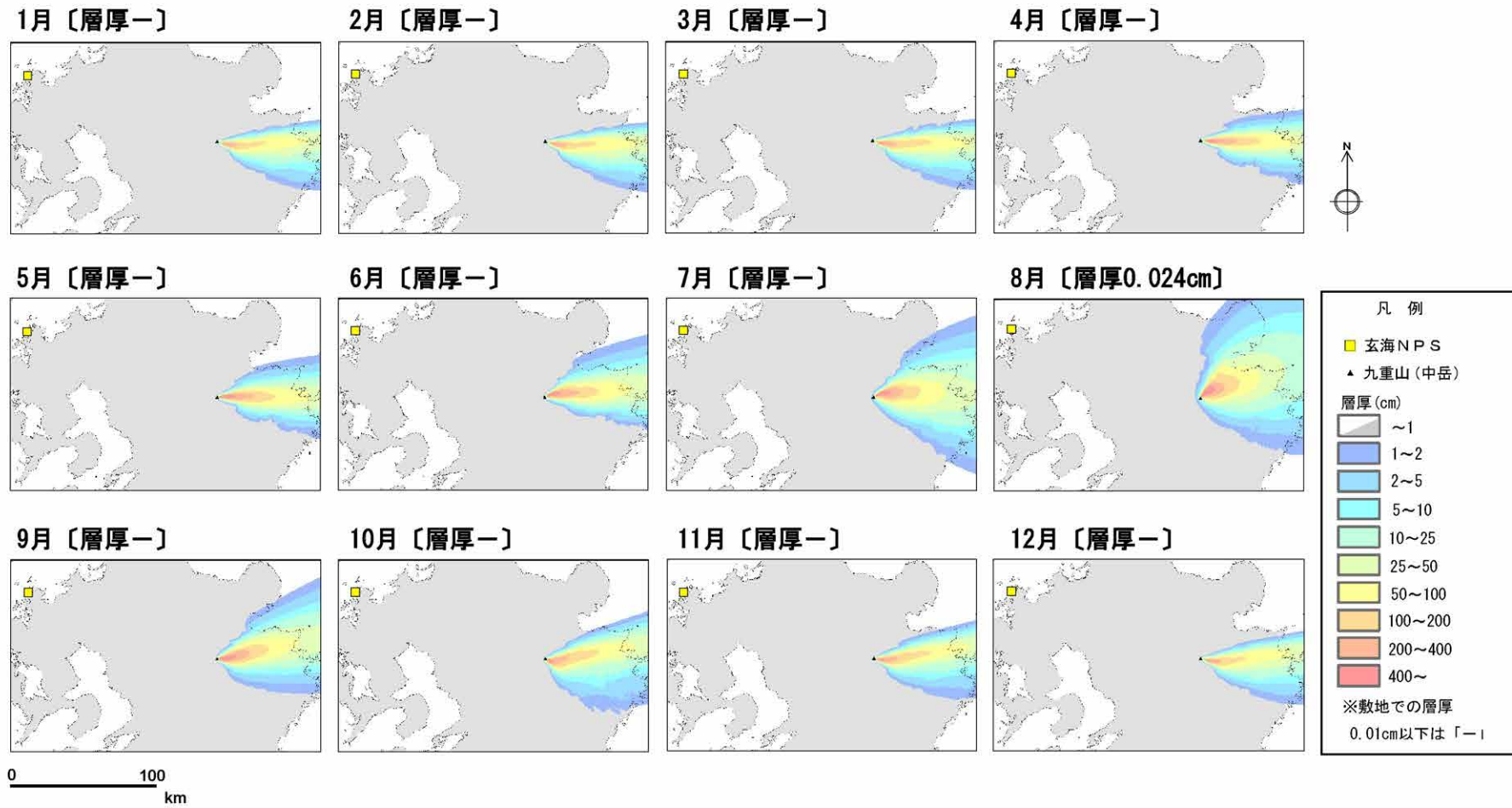
凡例



検討対象火山
(番号は第 1.2-14 表に対応)

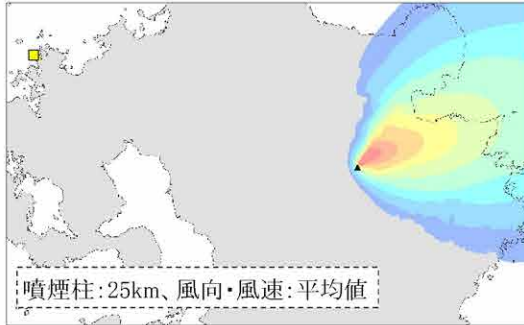


カルデラ

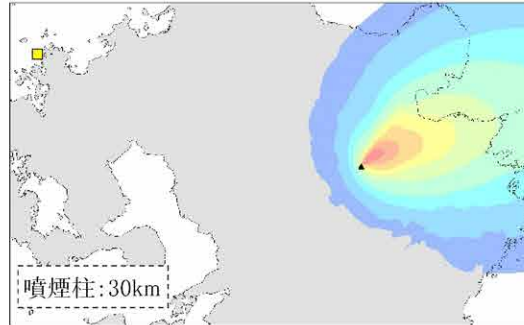


第1.2-18図(1) 九重第1噴火の数値シミュレーション結果

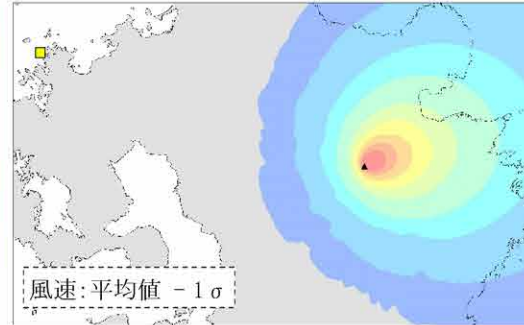
基本ケース [層厚0.024cm]



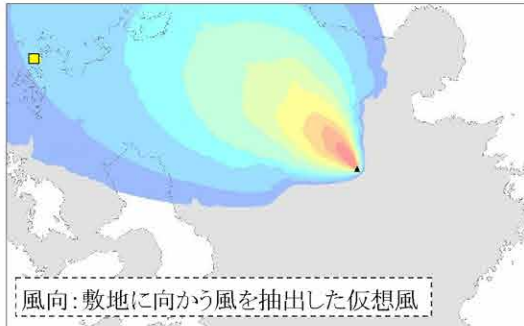
噴煙柱高さの不確かさ① [層厚0.081cm]



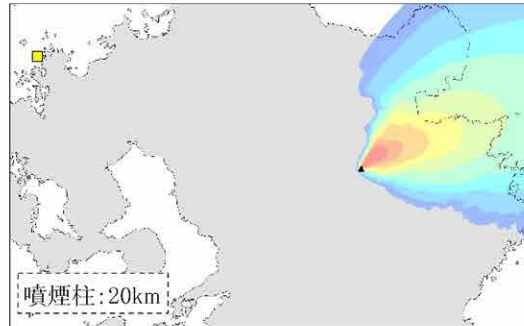
風速の不確かさ① [層厚0.15cm]



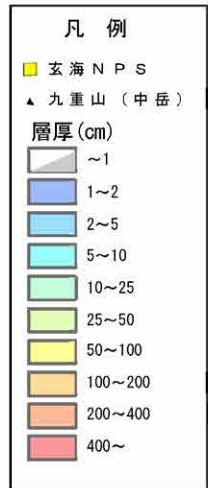
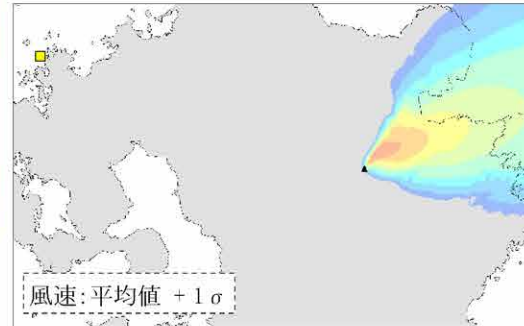
風向の不確かさ [層厚2.2cm]



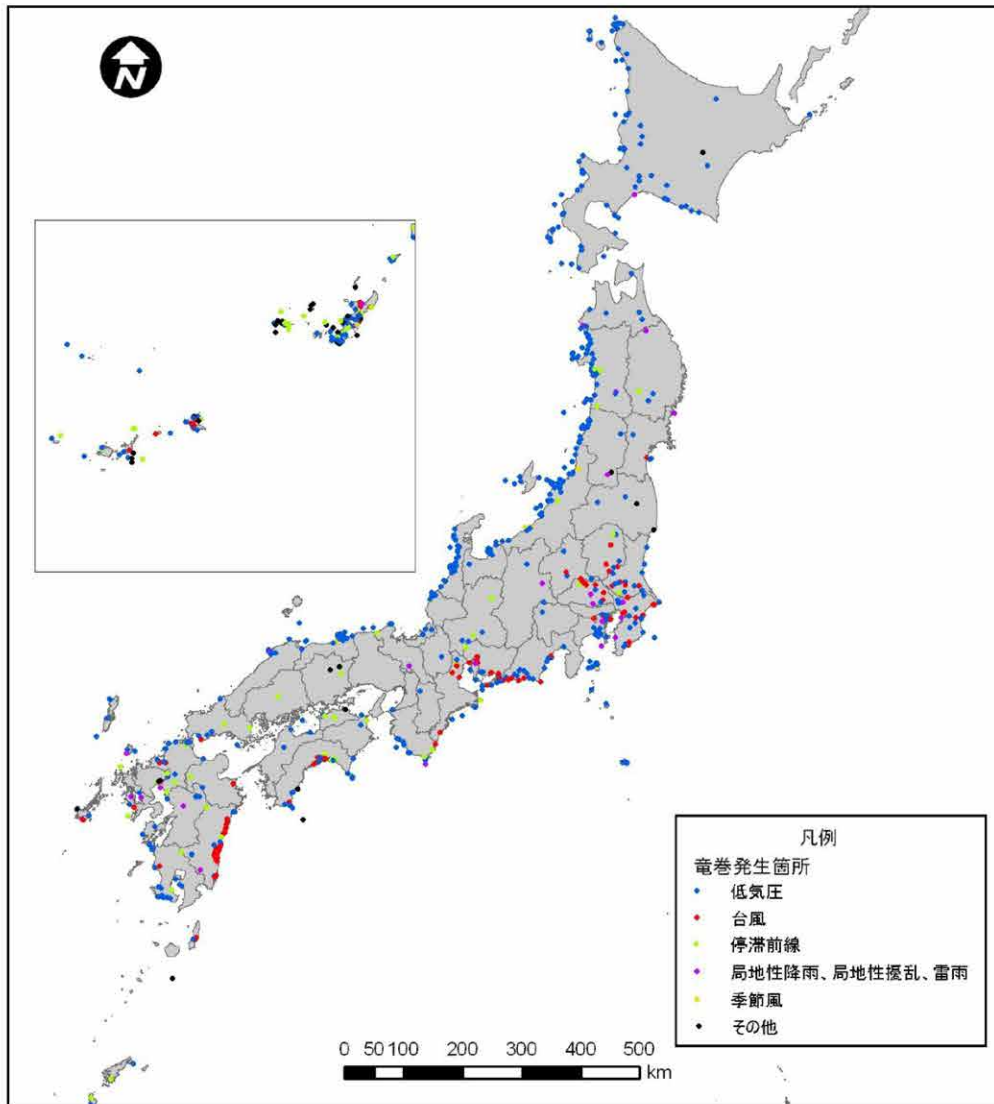
噴煙柱高さの不確かさ② [層厚0.024cm]



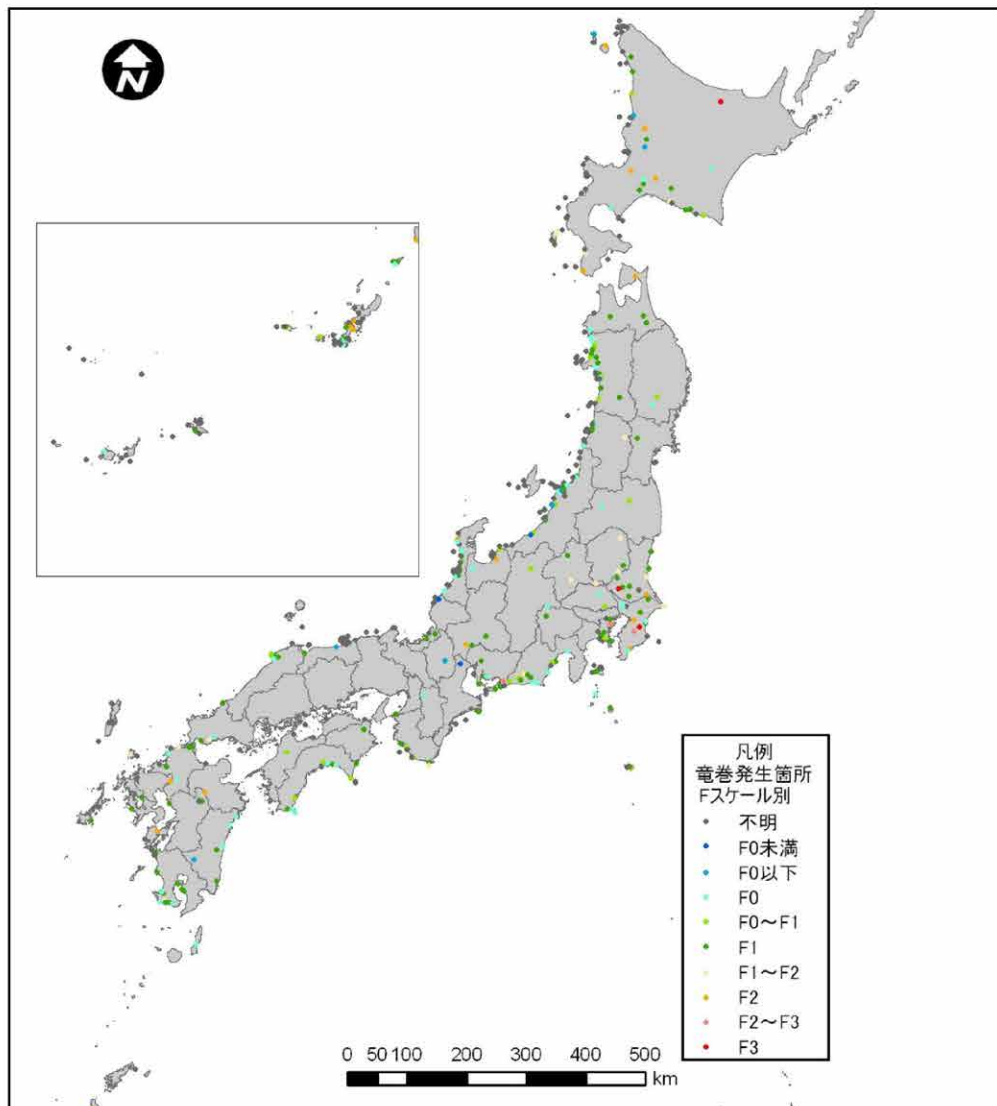
風速の不確かさ② [層厚0.0044cm]



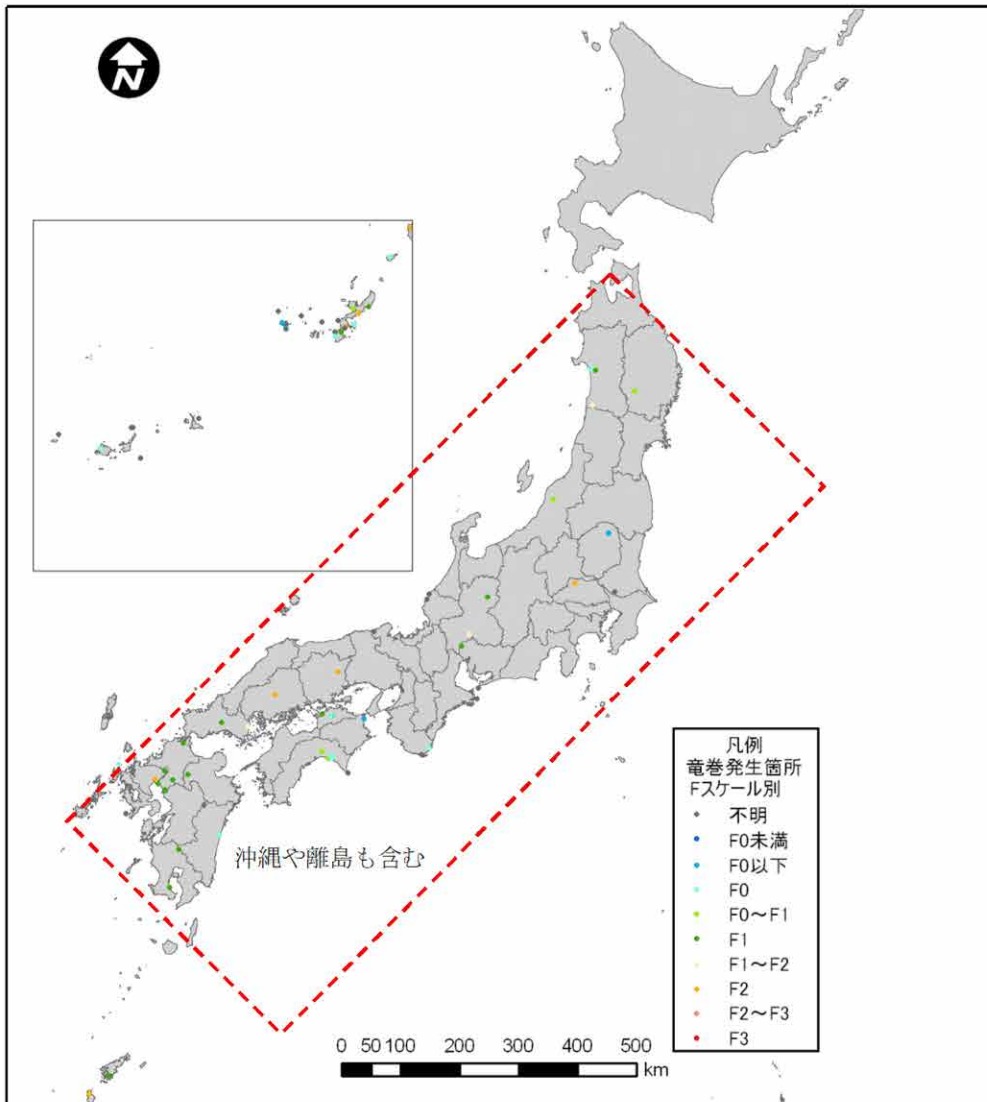
第1.2-18図(2) 数値シミュレーション結果(不確かさの考慮)



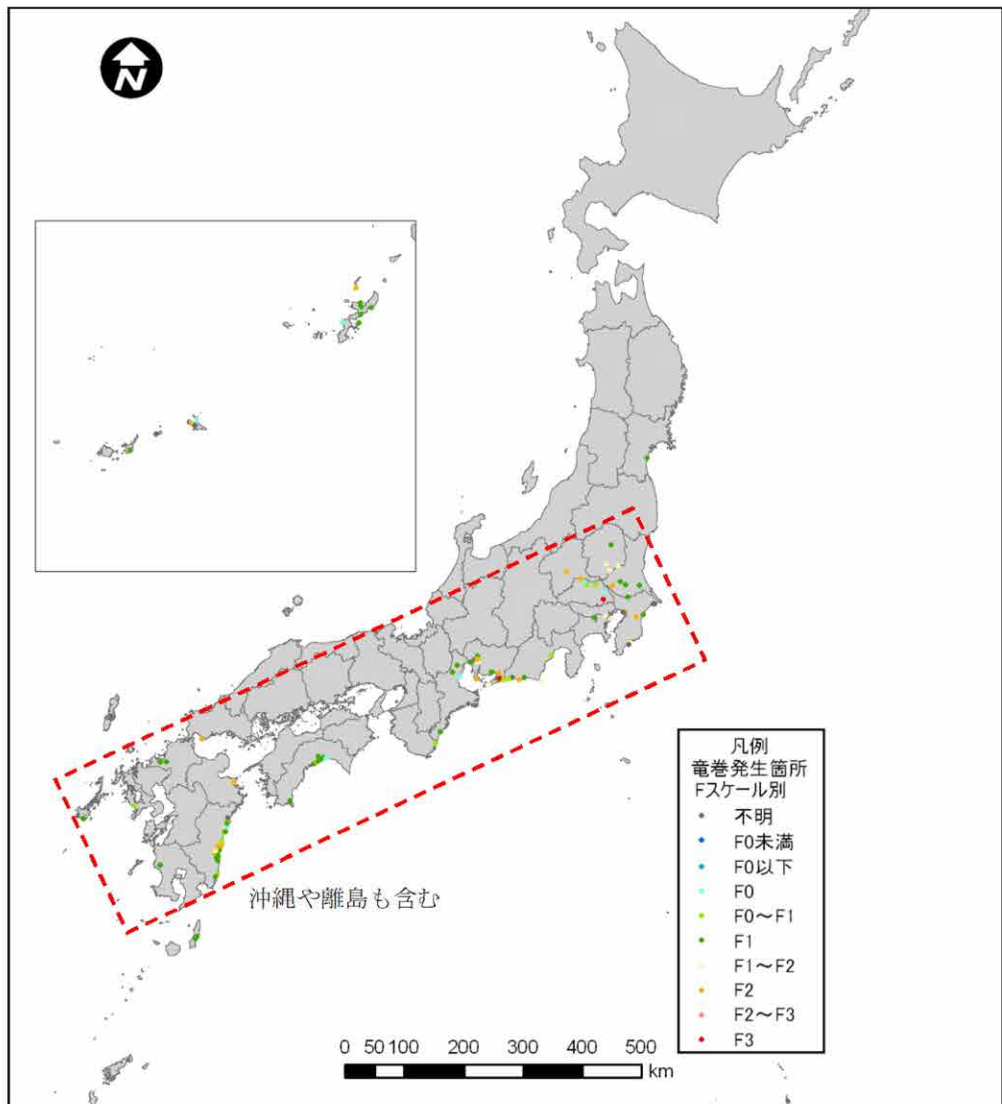
第1.2-19図 気象要因別の竜巻発生位置



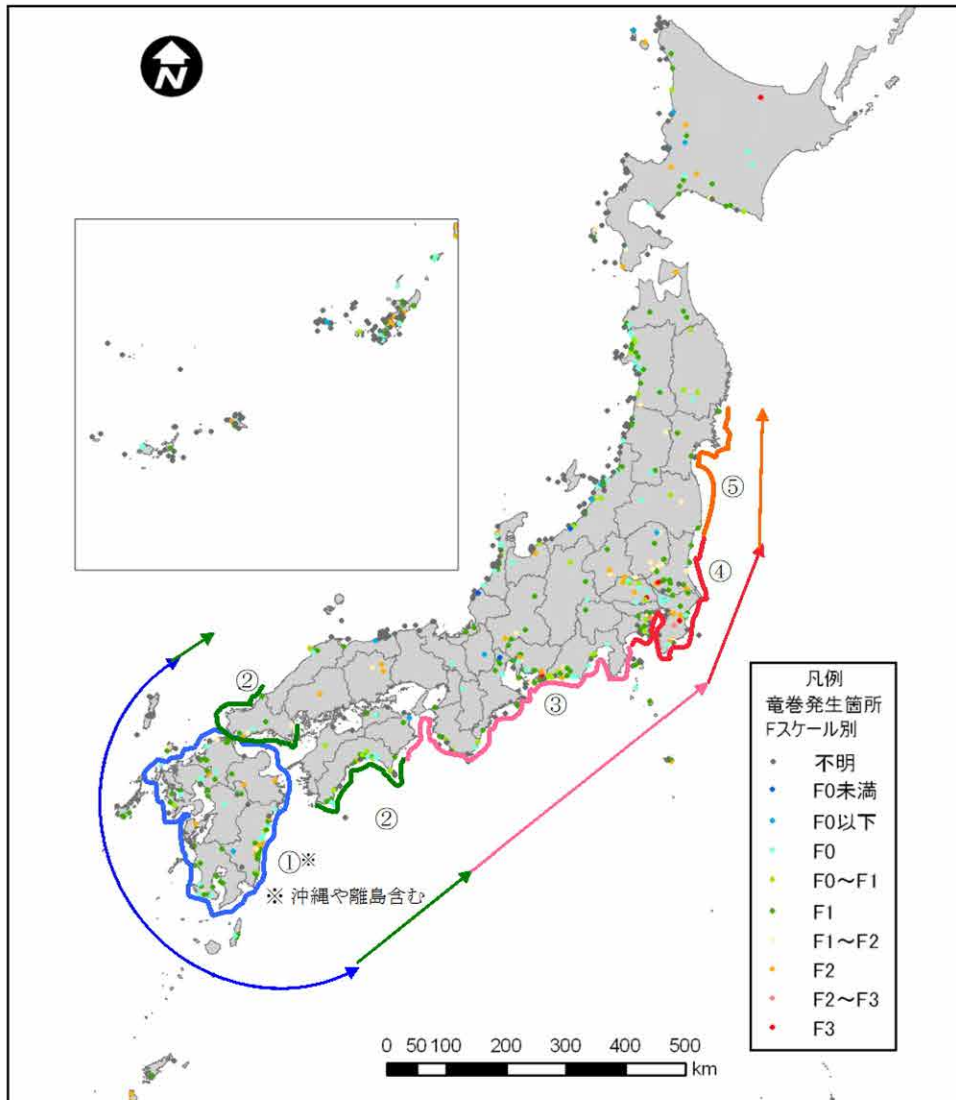
第1.2-20図 竜巻発生位置(低気圧起因)



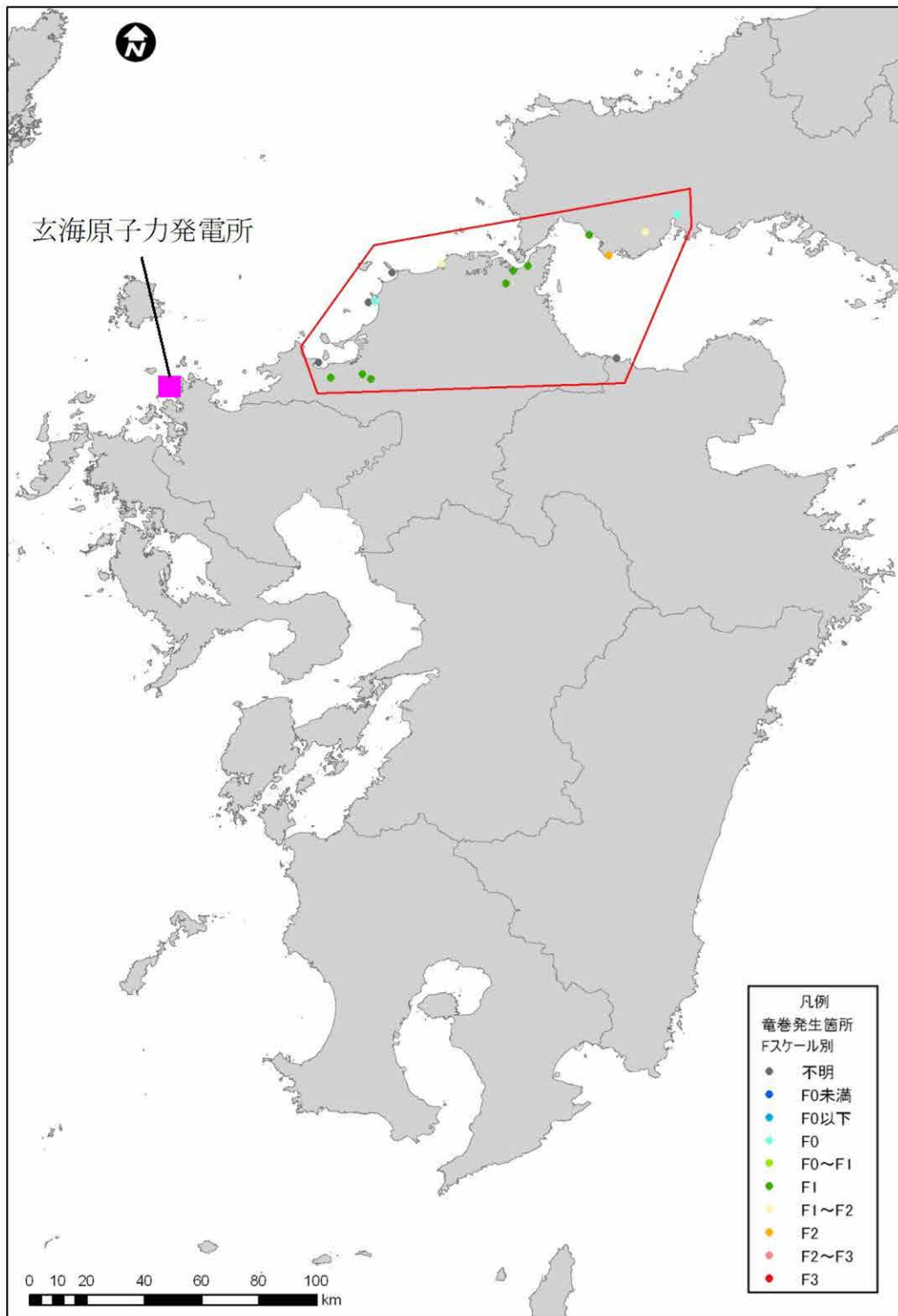
第1.2-21図 竜巻発生位置(停滞前線起因)



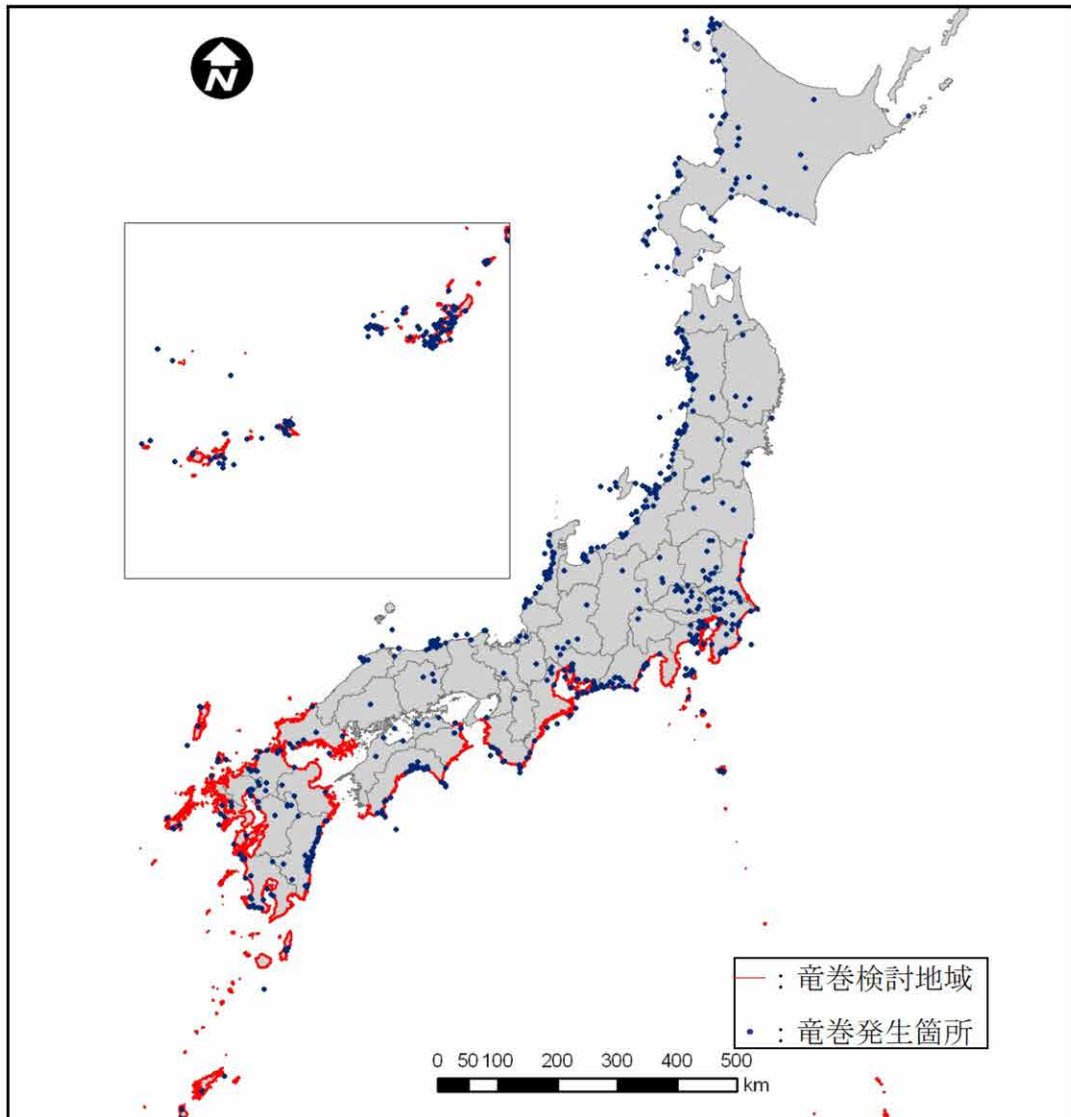
第1.2-22図 竜巻発生位置(台風起因)



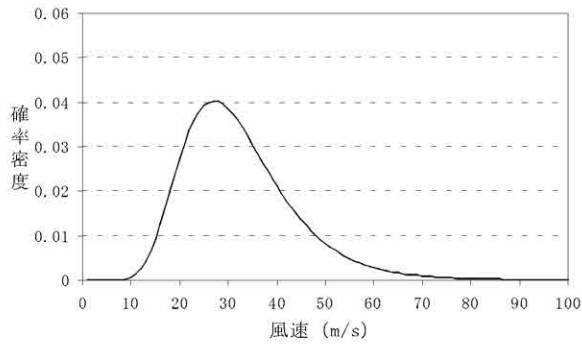
第1.2-23図 Fスケール別の竜巻発生位置



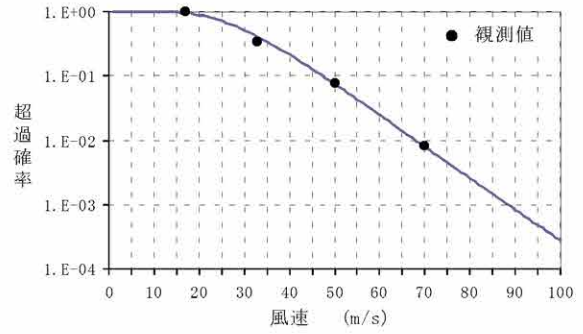
第1.2-24図 集中地域⑧におけるFスケール別竜巻発生位置



第1.2-25図 竜巻検討地域

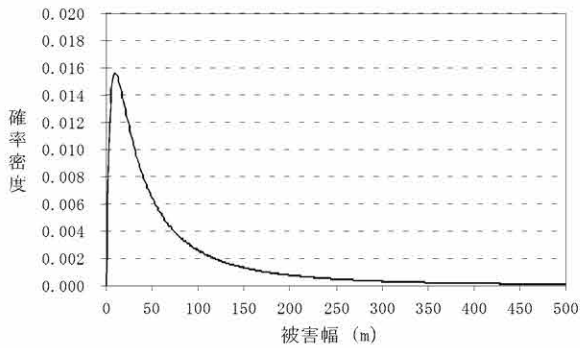


確率密度分布

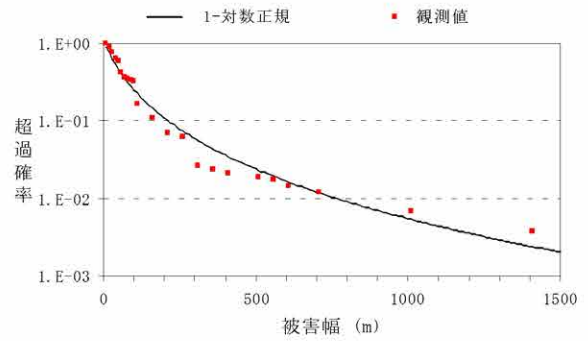


超過確率

第1.2-26図 風速の確率密度分布と超過確率

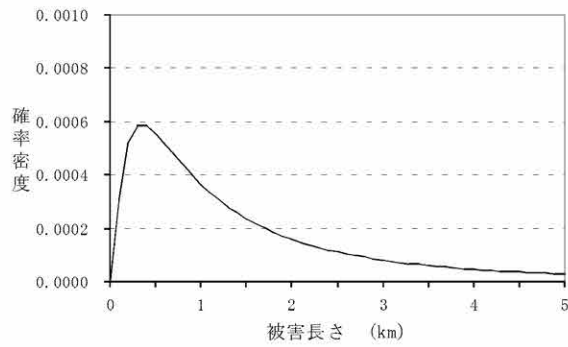


確率密度分布

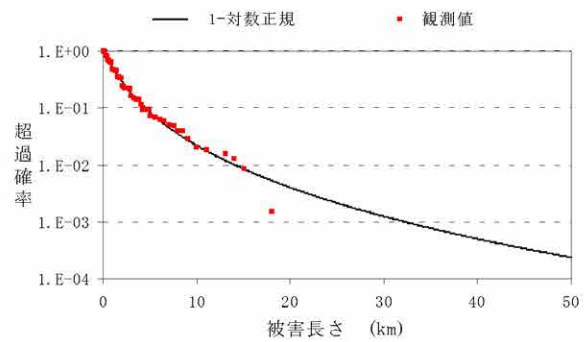


超過確率

第1.2-27図 被害幅の確率密度分布と超過確率

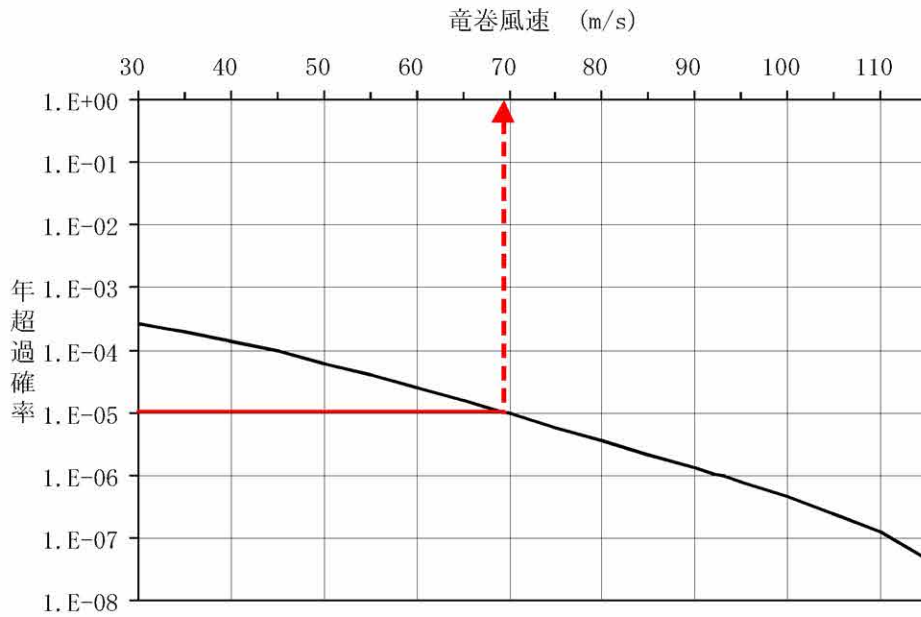


確率密度分布

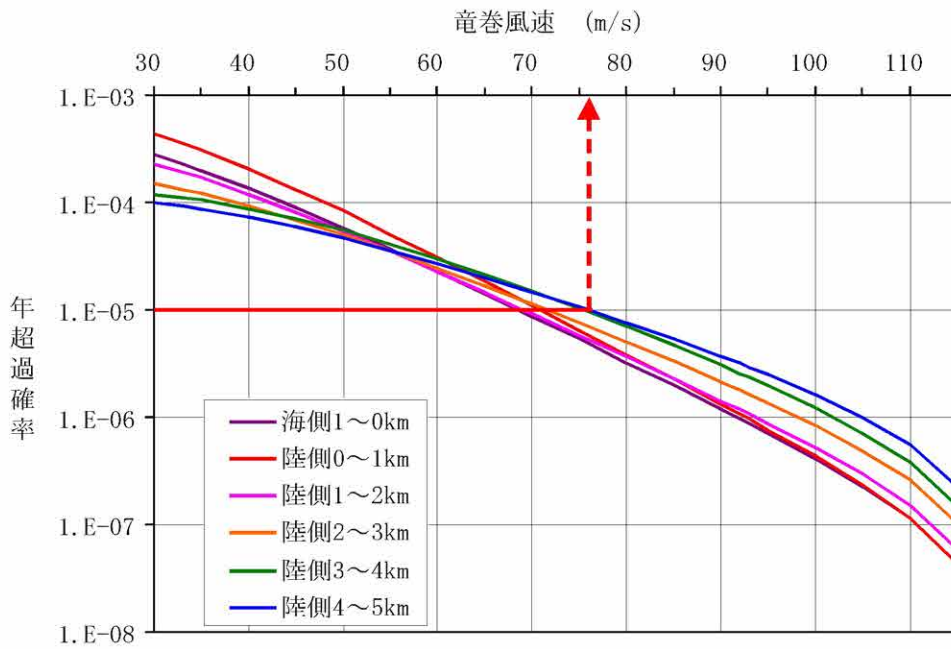


超過確率

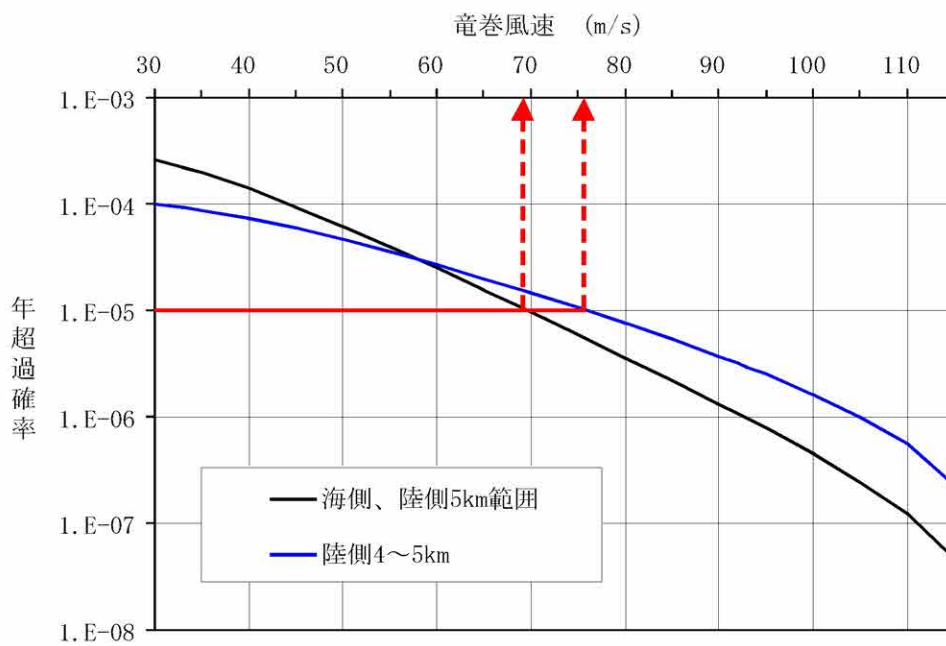
第1.2-28図 被害長さの確率密度分布と超過確率



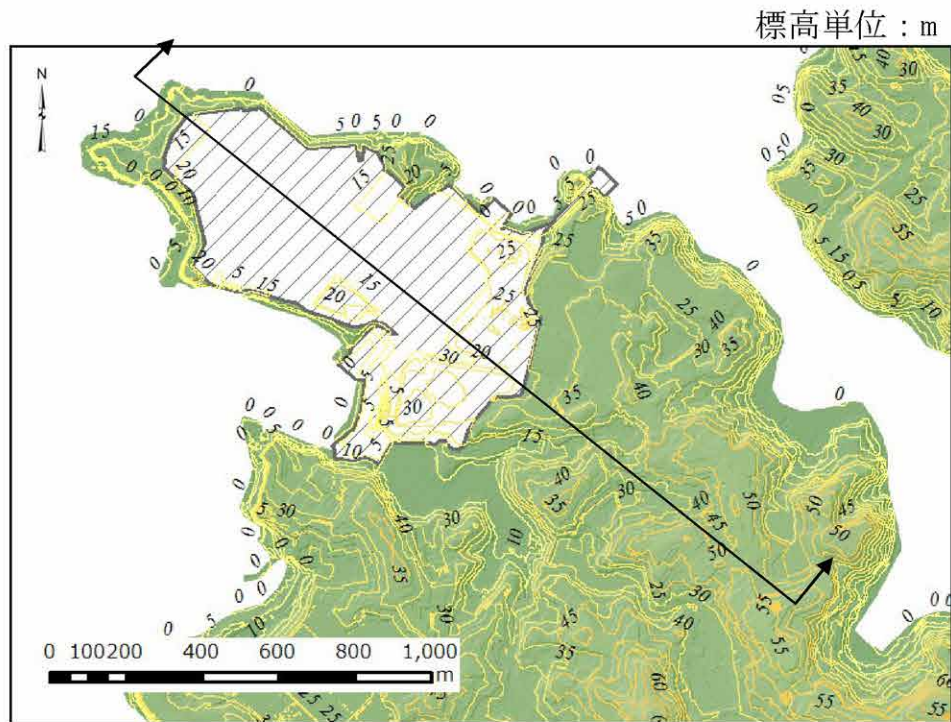
第1.2-30図 竜巻最大風速のハザード曲線(海側、陸側5km範囲)



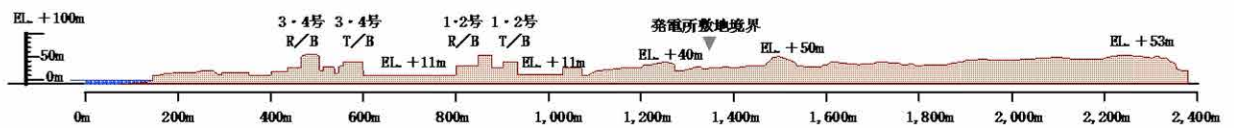
第1.2-31図 竜巻最大風速のハザード曲線(1km範囲)



第1.2-32図 竜巻最大風速のハザード曲線

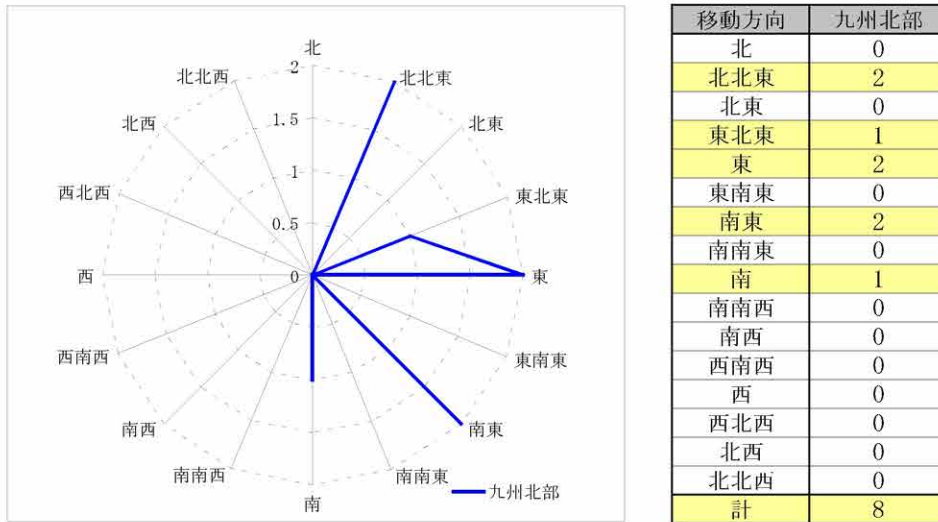


発電所周辺平面図



発電所周辺断面図

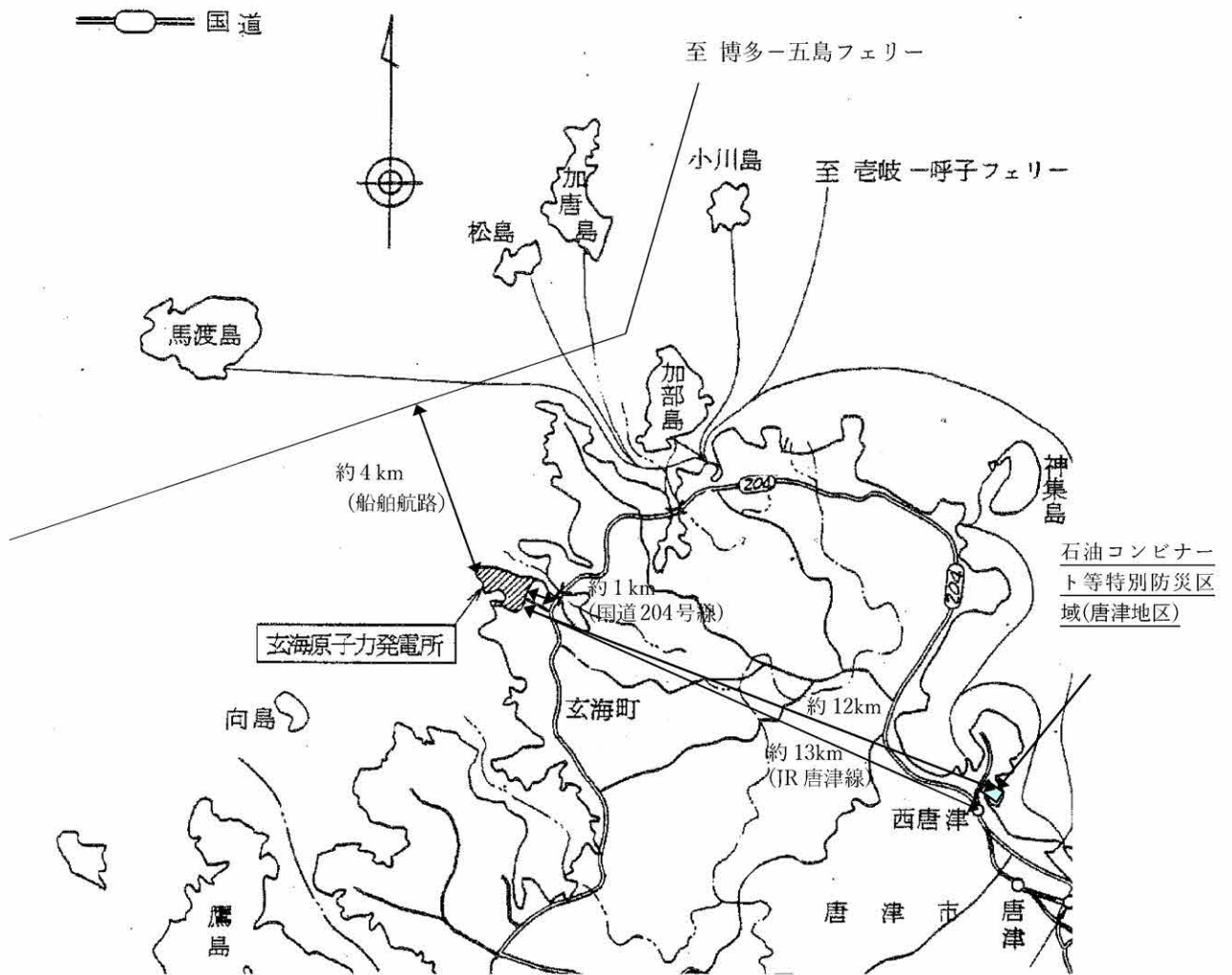
第1.2-33図 玄海原子力発電所敷地周辺の地形



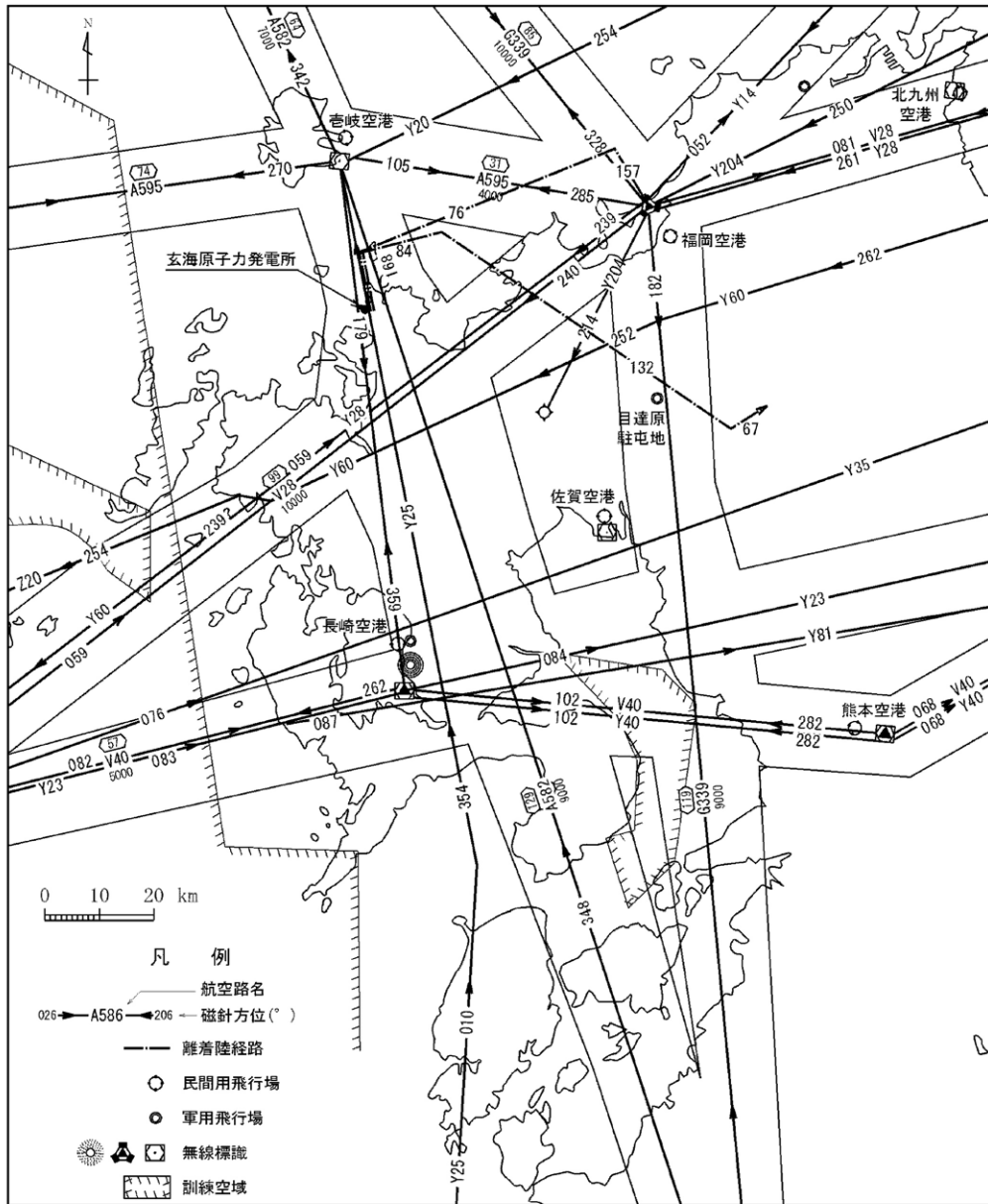
第1.2-34図 九州北部で過去に発生した竜巻の移動方向



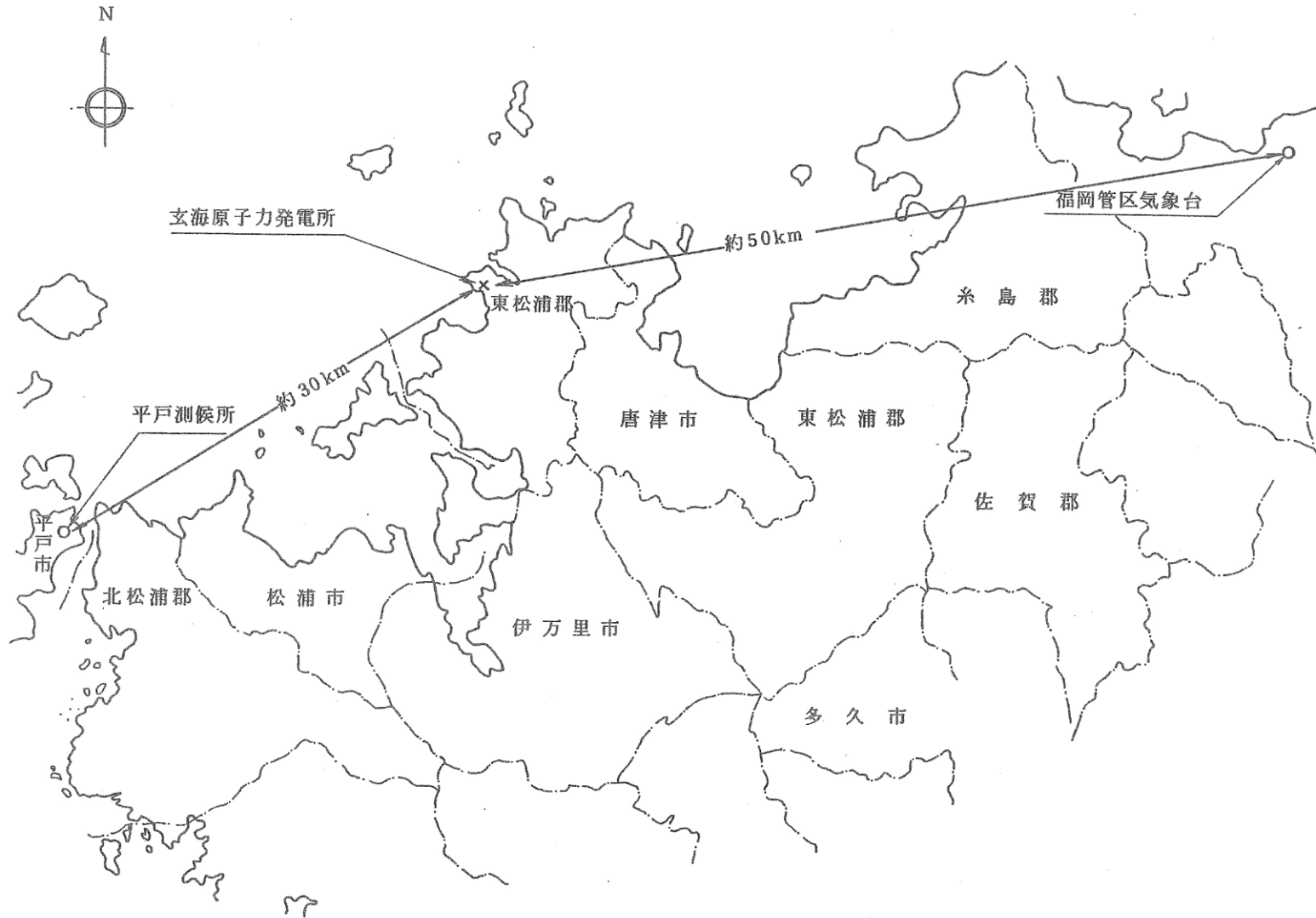
第1.2-35図 玄海原子力発電所の位置と竜巻の移動方向



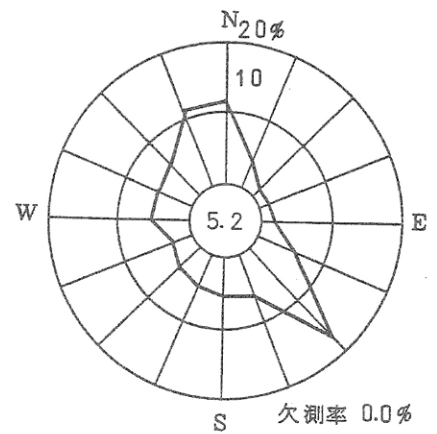
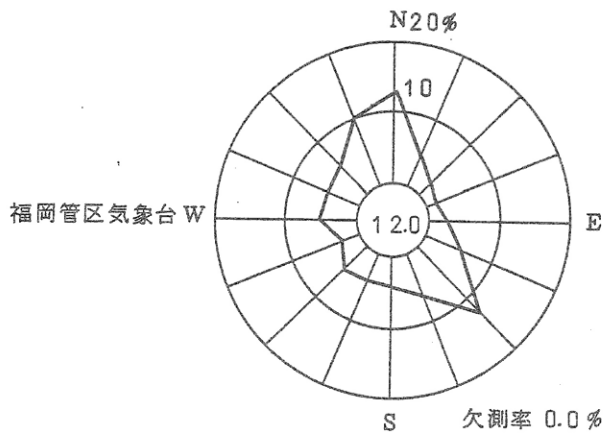
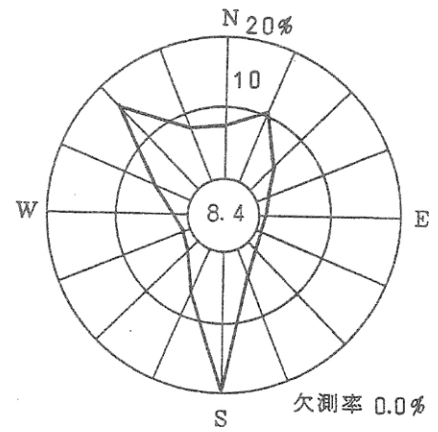
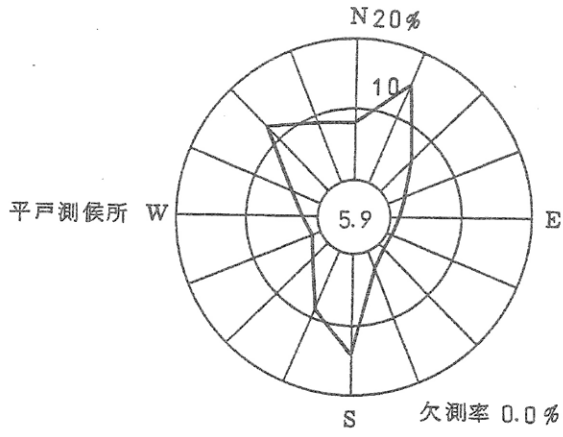
第1.2-36図 鉄道、主要道路及び海上航路



第1.2-37図 航空路等図



第1.2-38図 気象官署の位置図

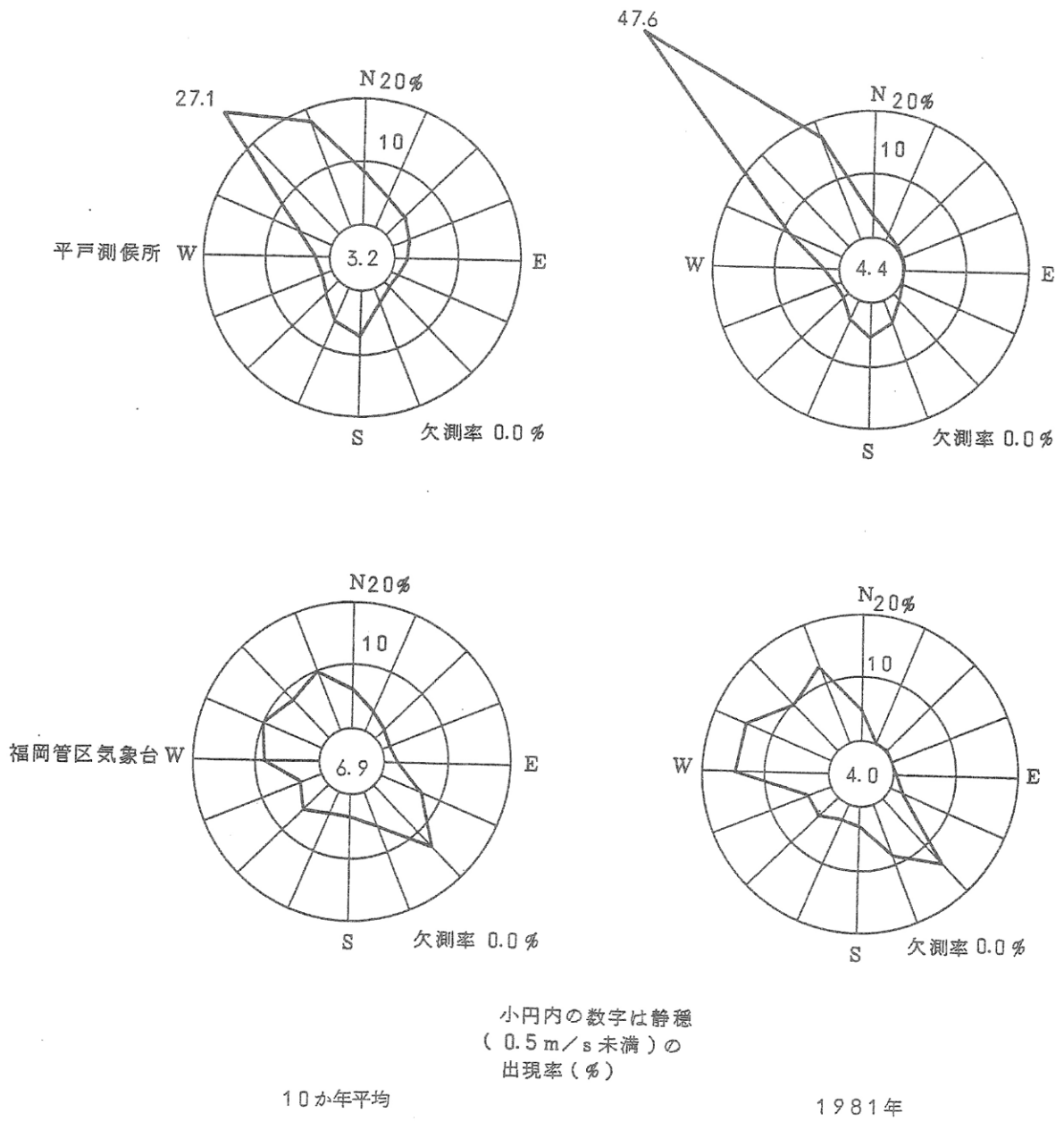


小円内の数字は静穏
(0.5 m/s 未満)の
出現率(%)

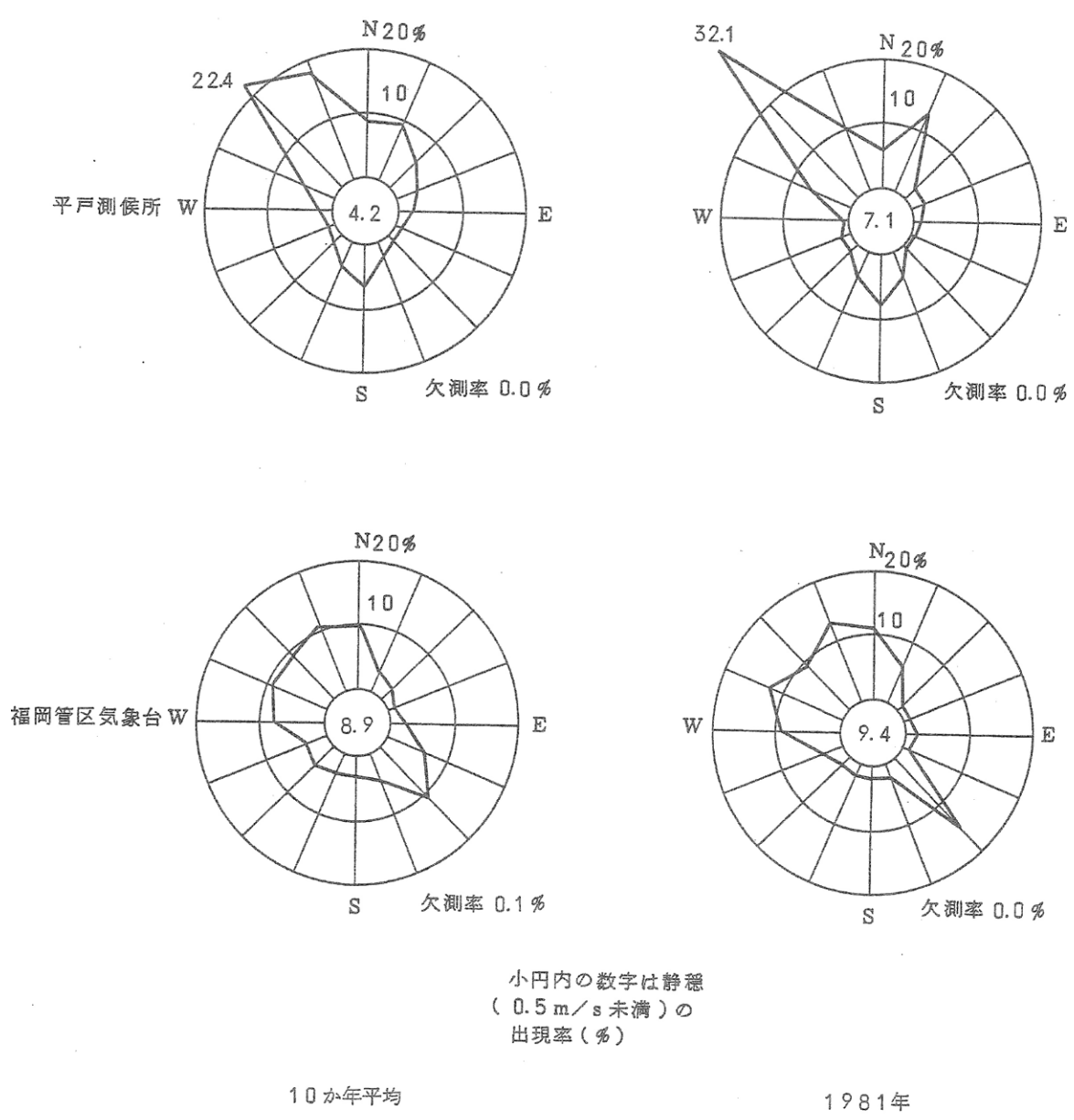
統計期間 10年
(1971年1月～1980年12月)

統計期間 1年
(1981年1月～1981年12月)

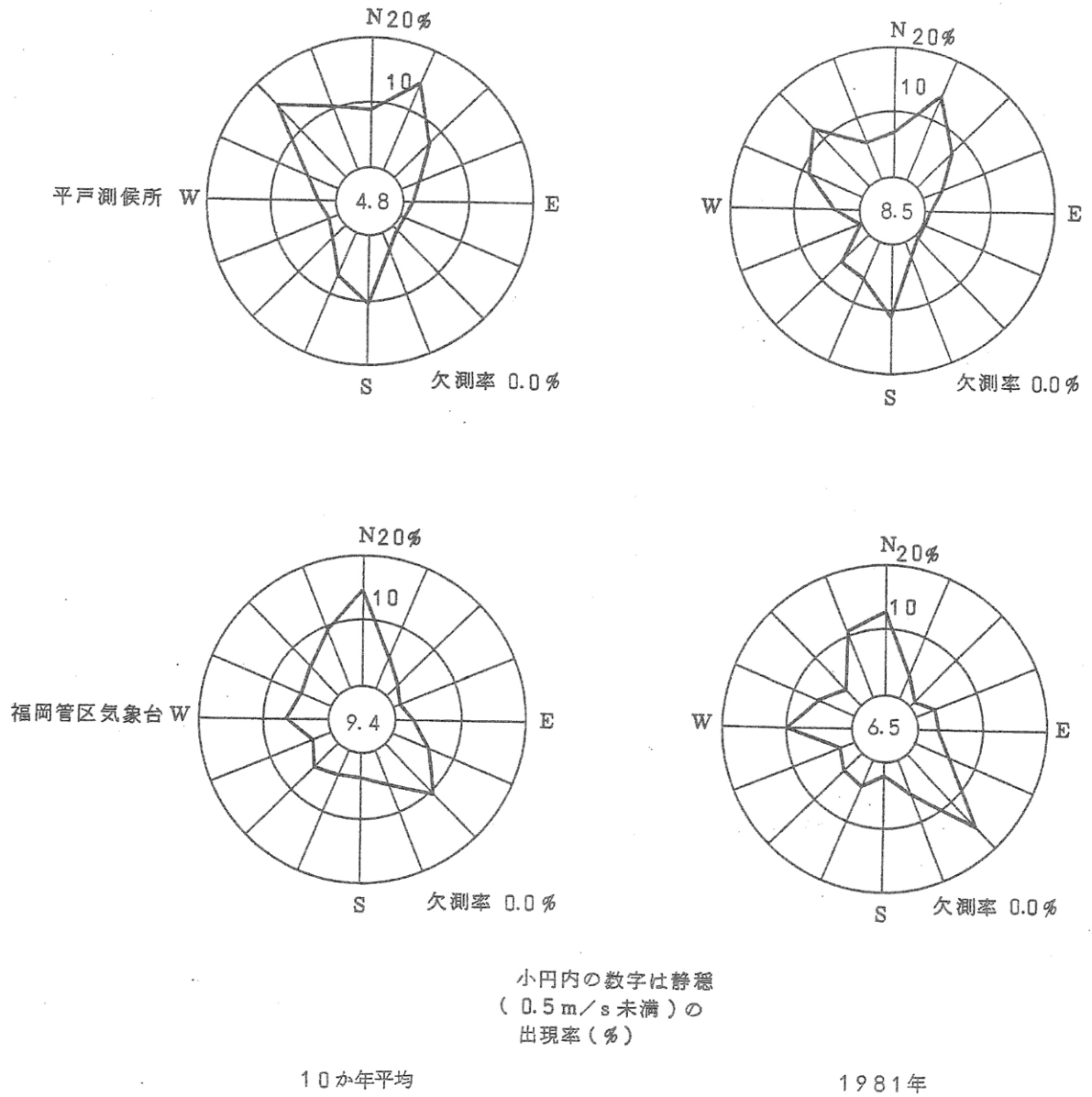
第1.2-39図 気象官署の風配図(全年)



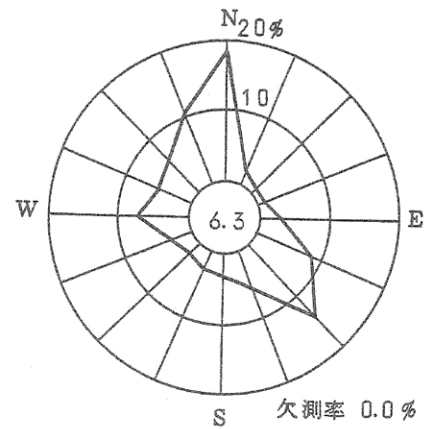
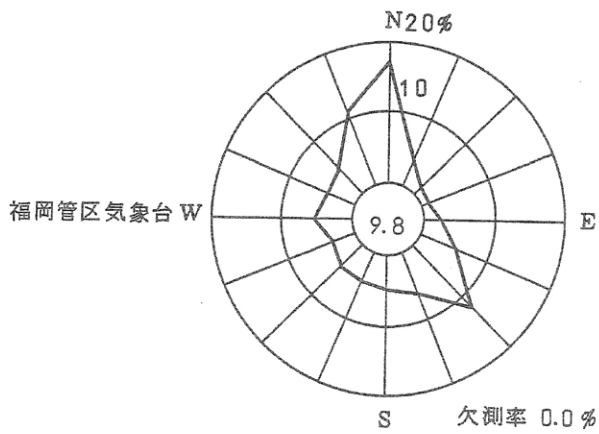
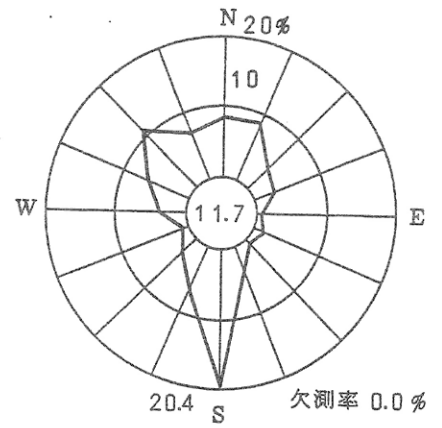
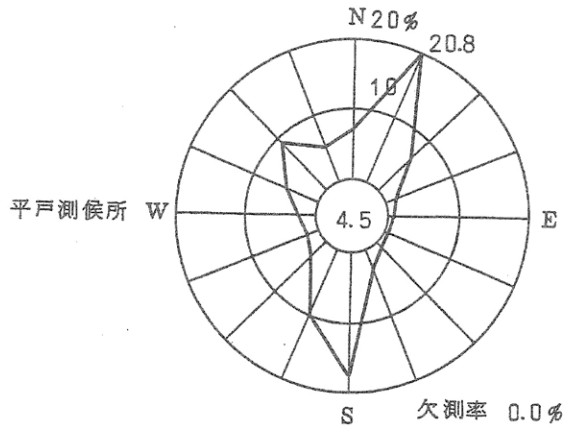
第1.2-40図(1) 気象官署の風配図(1月)



第1.2-40図(2) 気象官署の風配図(2月)



第1.2-40図(3) 気象官署の風配図(3月)

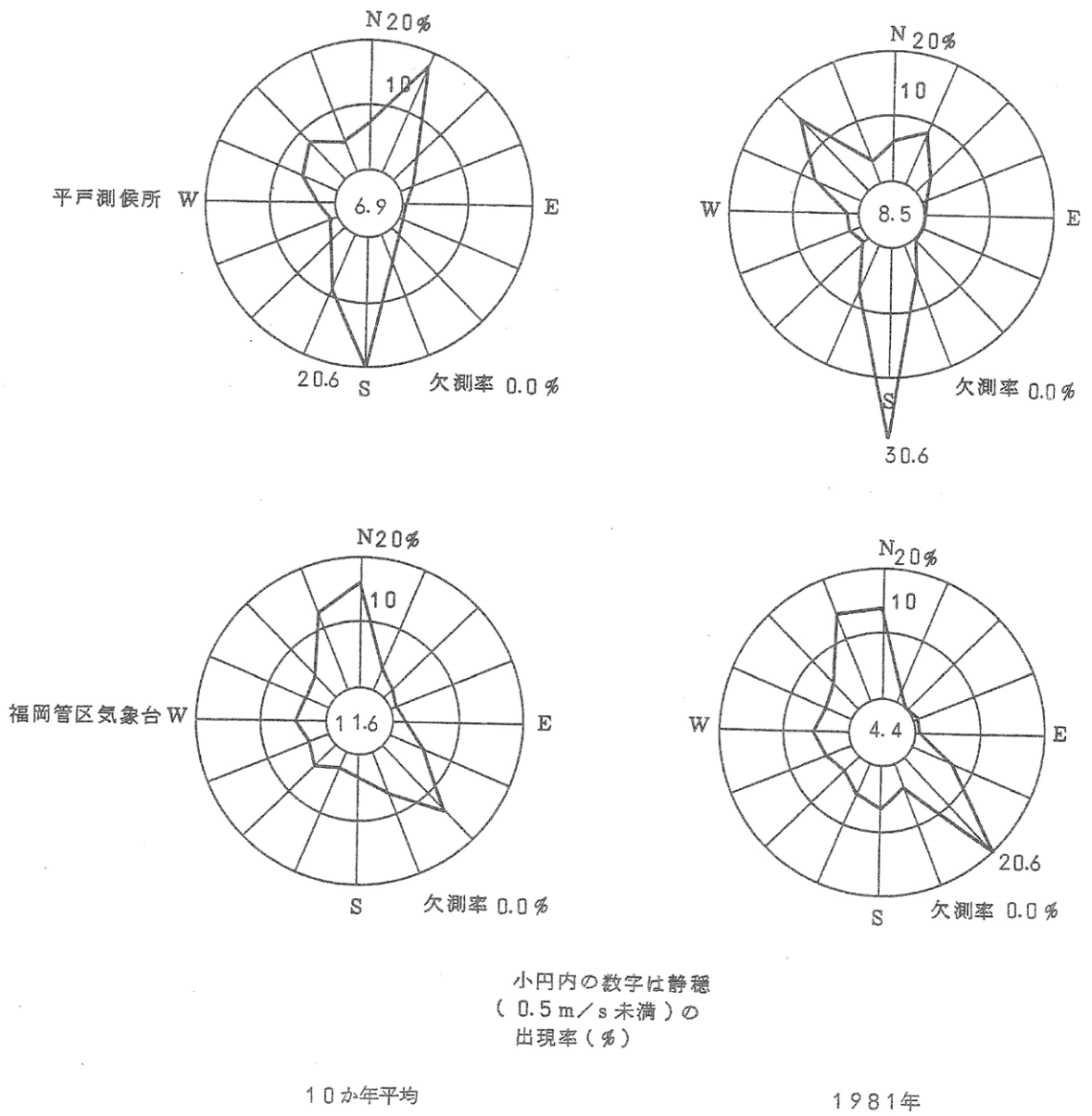


小円内の数字は静穏
(0.5 m/s 未満)の
出現率(%)

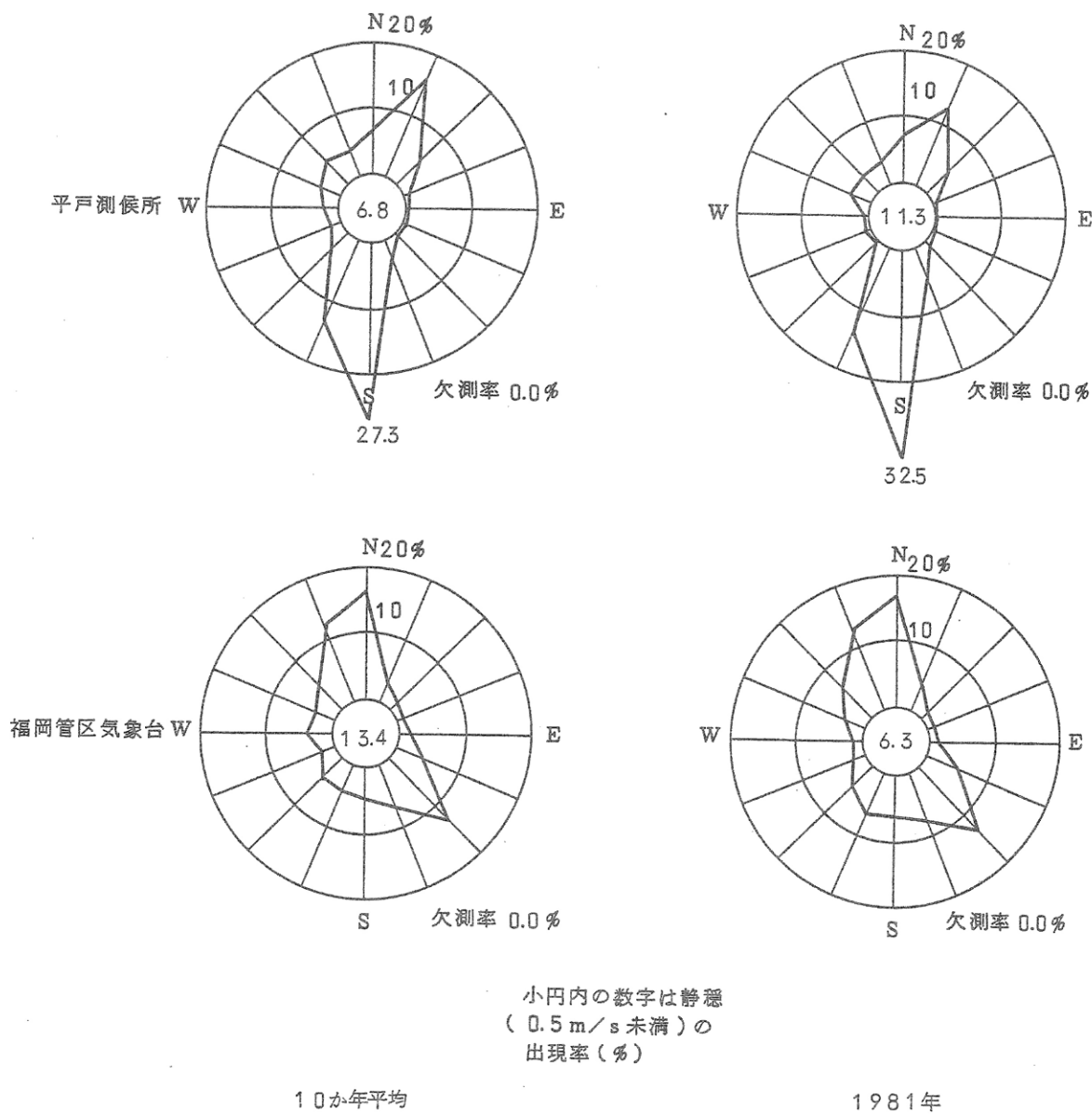
10か年平均

1981年

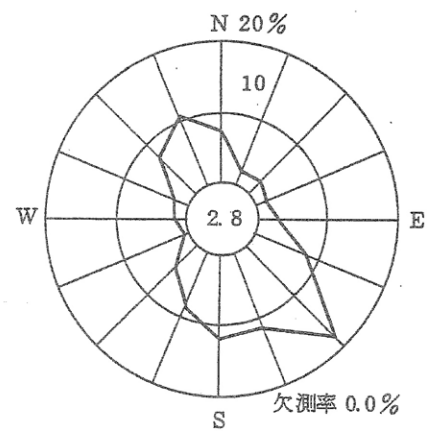
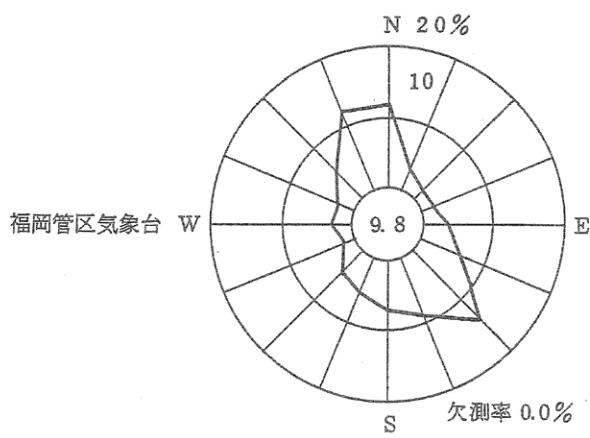
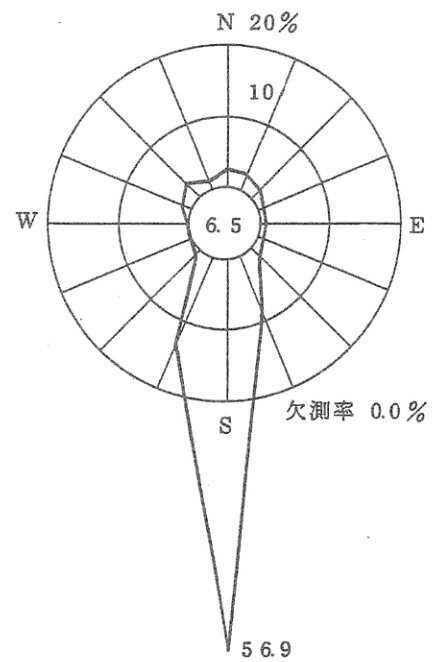
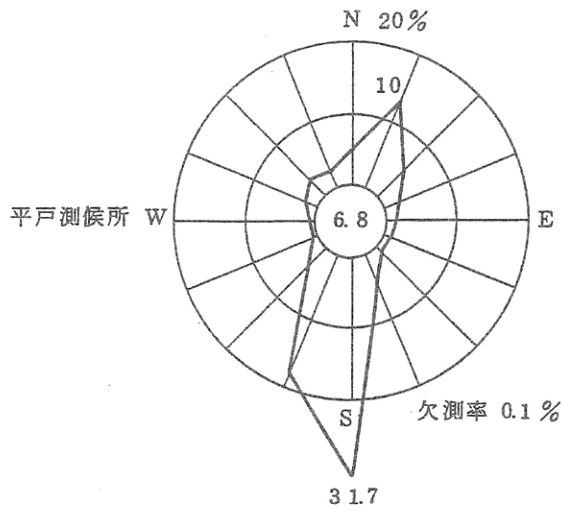
第1.2-40図(4) 気象官署の風配図(4月)



第1.2-40図(5) 気象官署の風配図(5月)



第1.2-40図(6) 気象官署の風配図(6月)

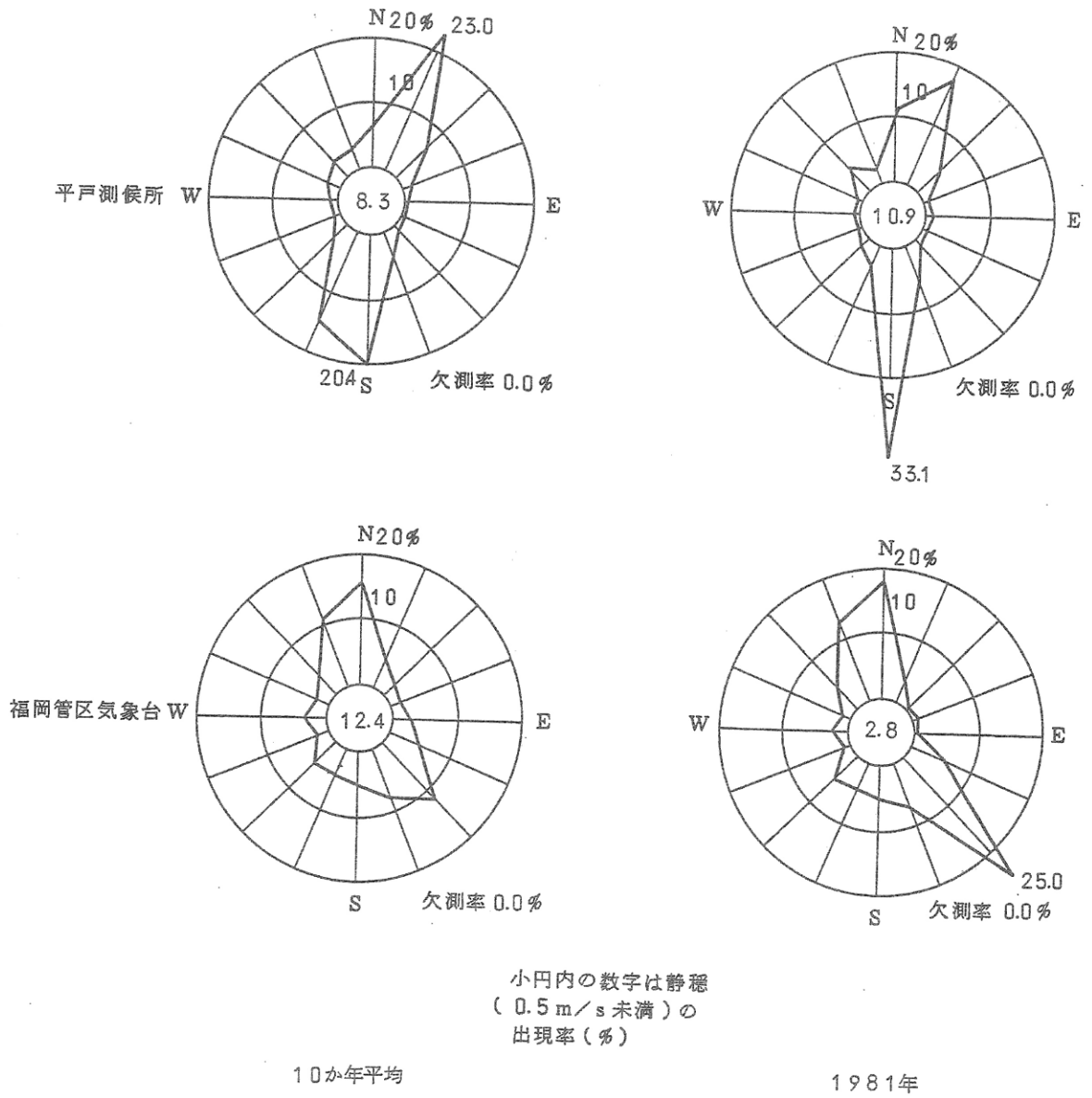


小円内の数字は静穏
(0.5m/s未満)の
出現率(%)

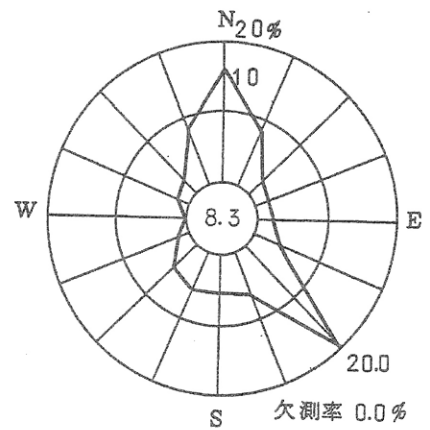
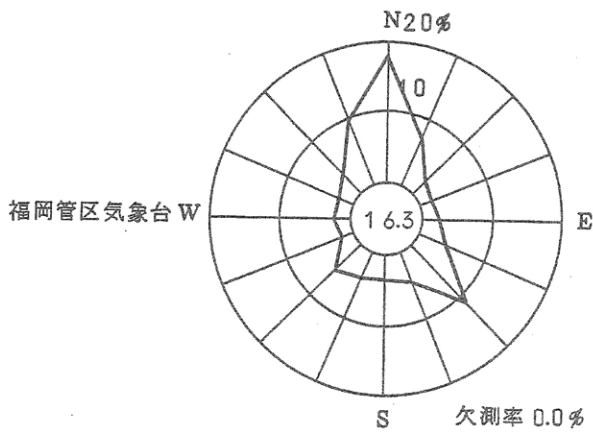
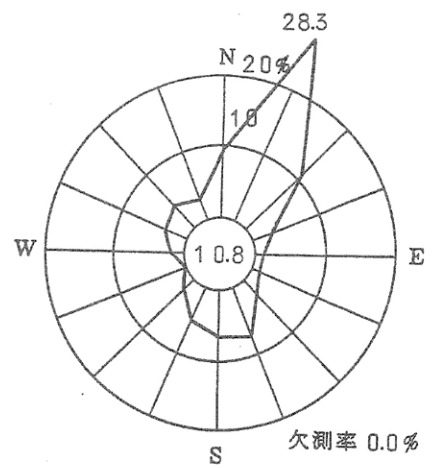
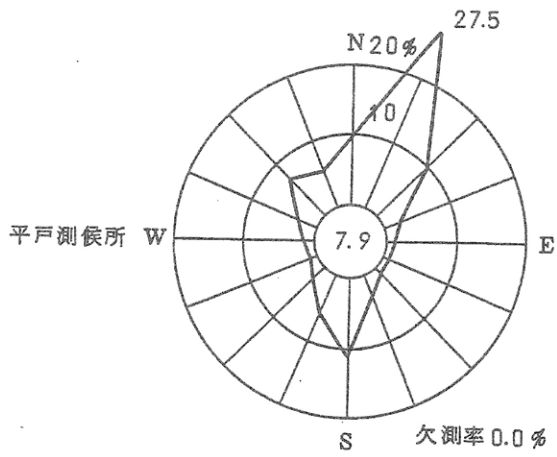
10か年平均

1981年

第1.2-40図(7) 気象官署の風配図(7月)



第1.2-40図(8) 気象官署の風配図(8月)

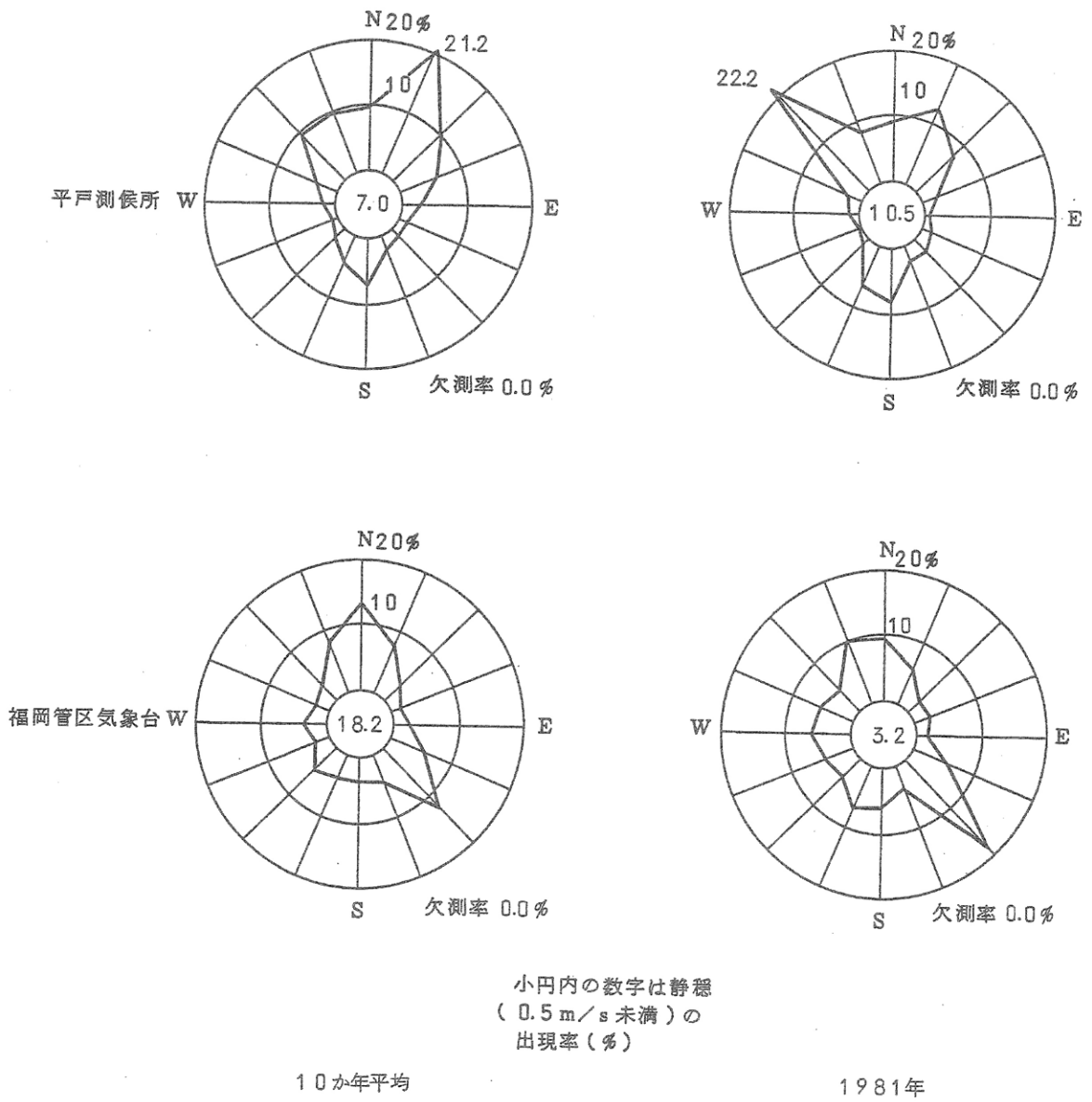


小円内の数字は静穏
(0.5 m/s 未満)の
出現率(%)

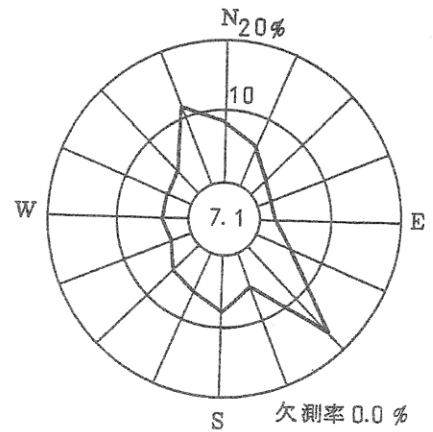
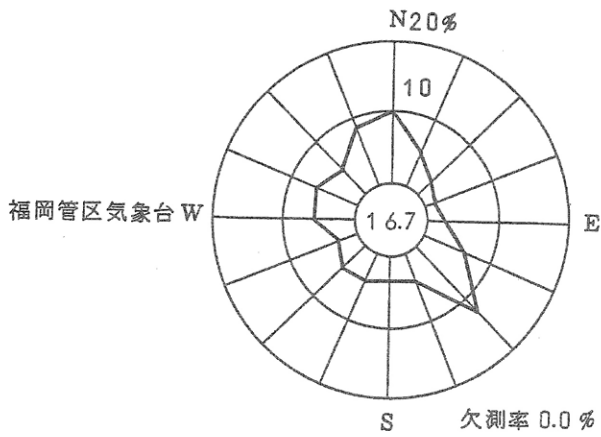
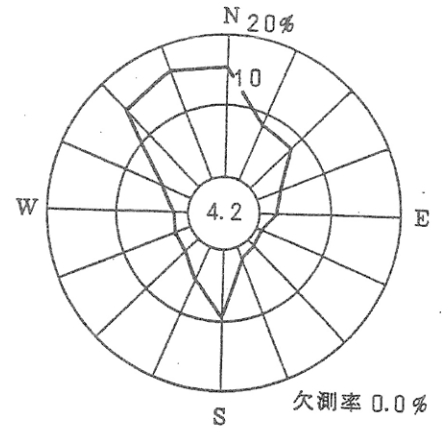
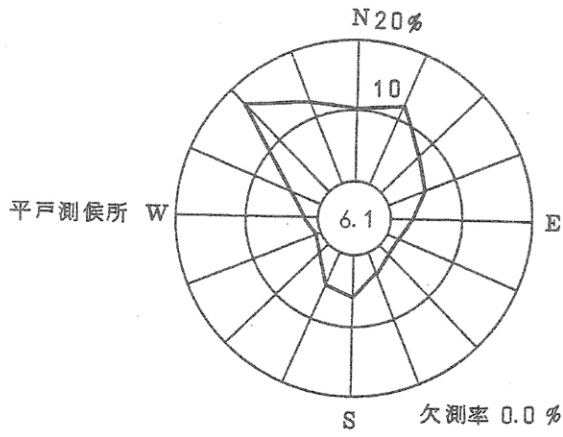
10 年平均

1981 年

第1.2-40図(9) 気象官署の風配図(9月)



第1.2-40図(10) 気象官署の風配図(10月)

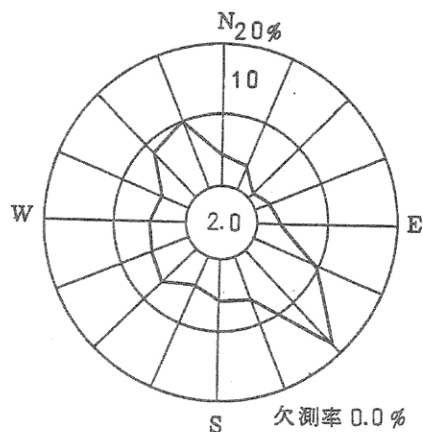
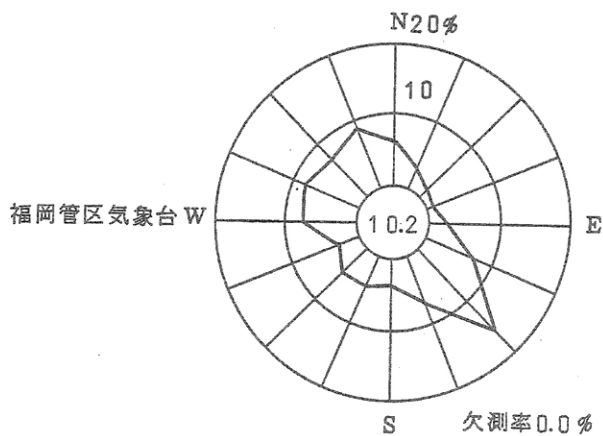
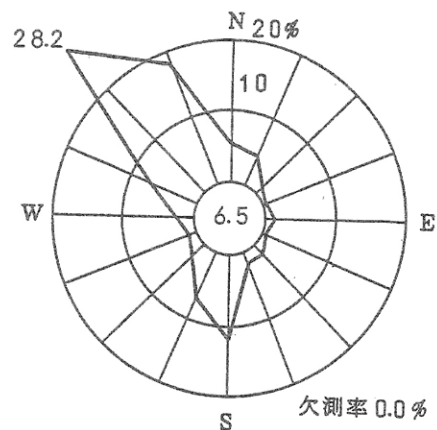
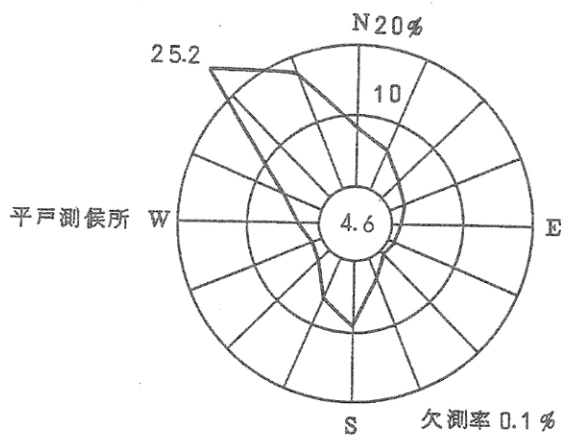


小円内の数字は静穏
(0.5 m/s 未満)の
出現率(%)

10か年平均

1981年

第1.2-40図(11) 気象官署の風配図(11月)

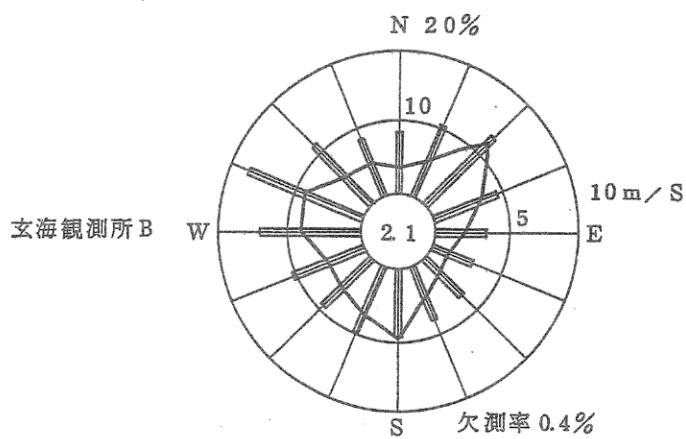


小円内の数字は静穏
(0.5 m/s 未満) の
出現率 (%)

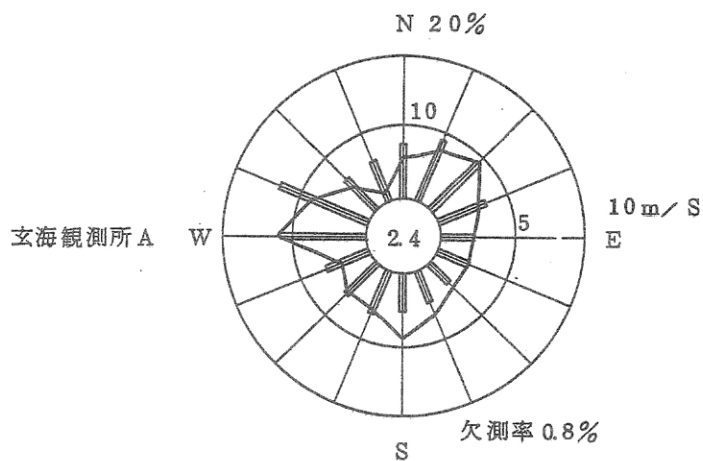
10 年平均

1981 年

第1.2-40図(12) 気象官署の風配図(12月)

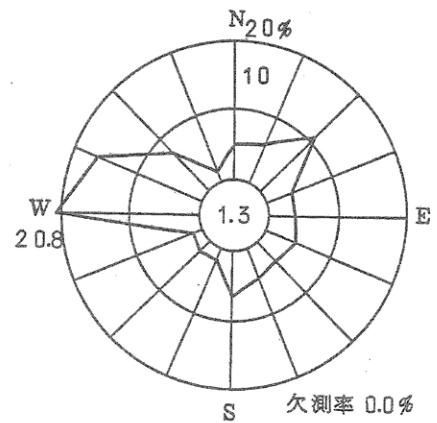
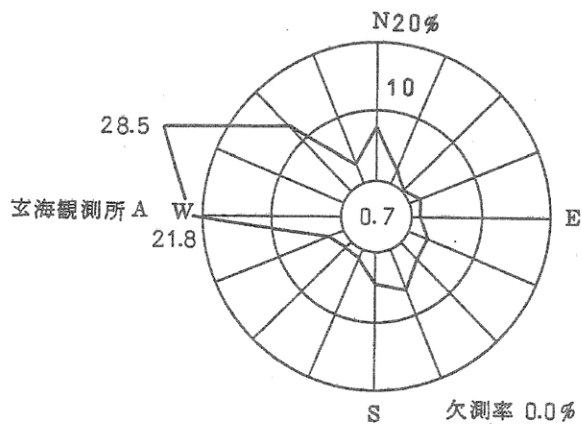
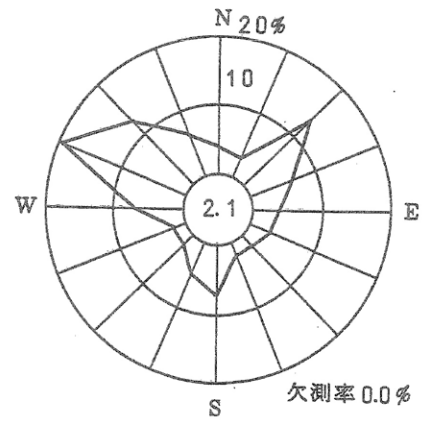
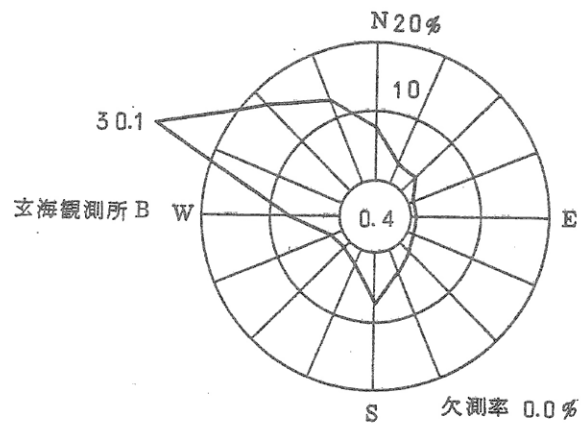


小円内の数字は静穏
(0.5m/s未満)の
出現率(%)



— 風向出現度数(%)
□ 平均風速(m/s)
統計期間 1年
(1981年1月~1981年12月)

第1.2-42図 全年の風配図

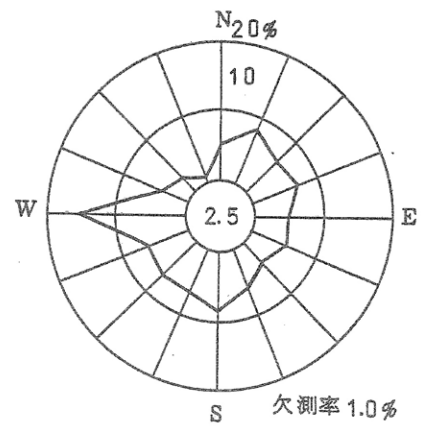
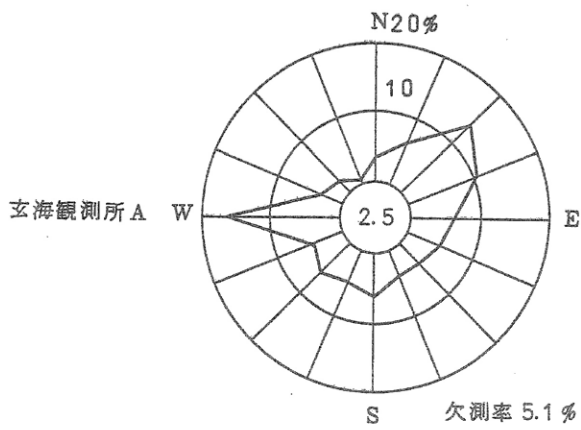
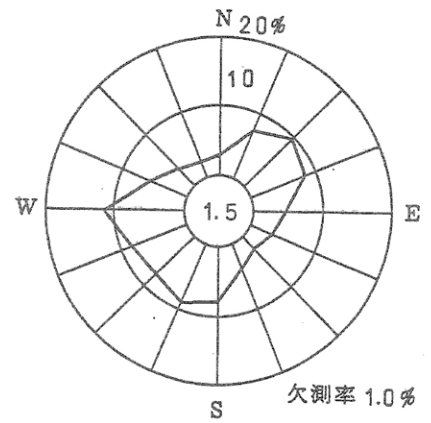
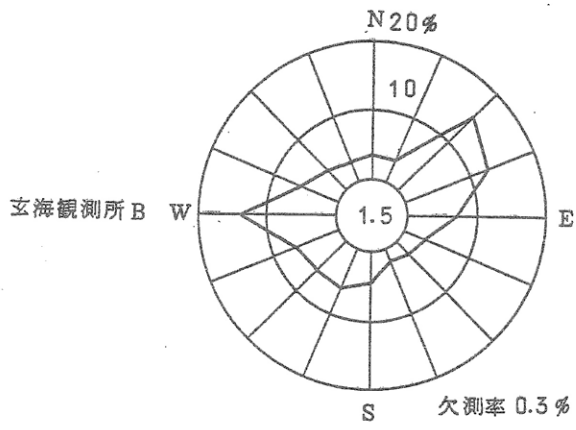


1981年1月

小円内の数字は静穏
(0.5 m/s未満)の
出現率(%)

2月

第1.2-43図(1) 月別風配図

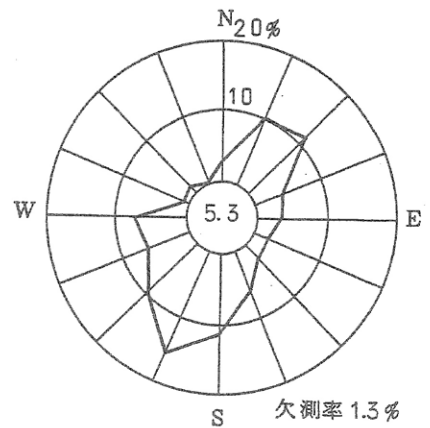
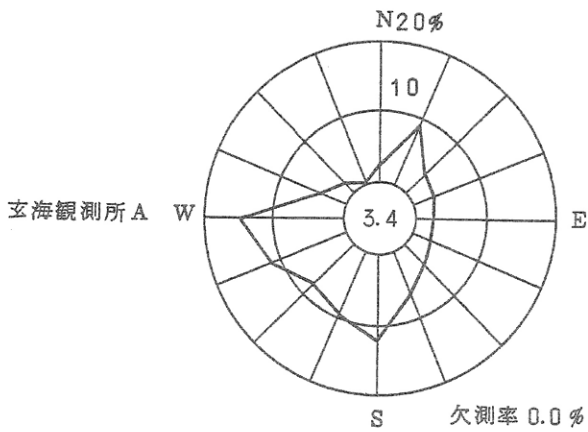
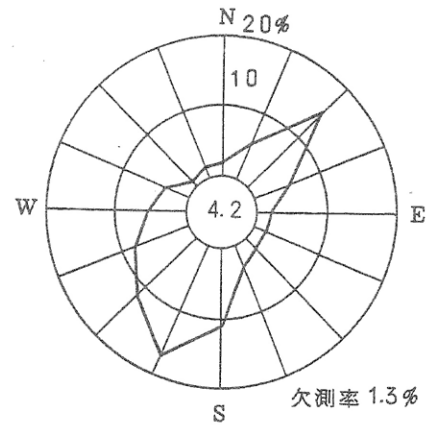
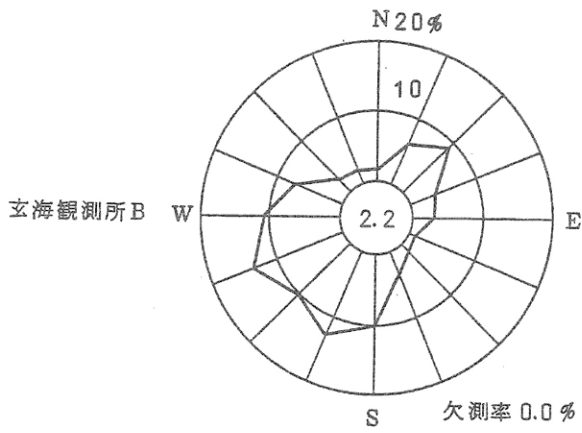


1981年3月

小円内の数字は静穏
(0.5 m/s未満)の
出現率(%)

4月

第1.2-43図(2) 月別風配図

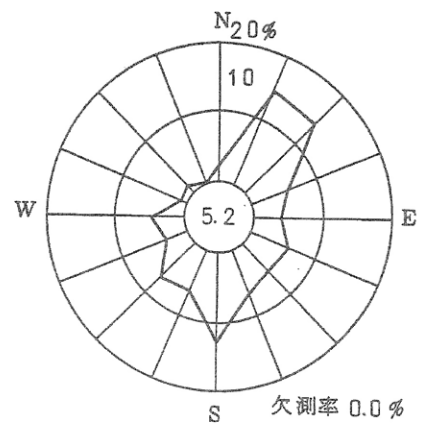
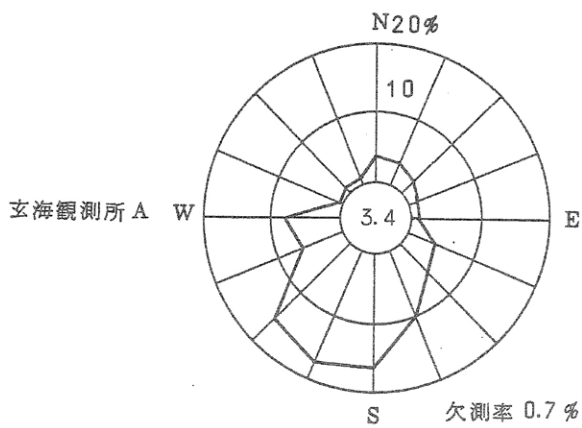
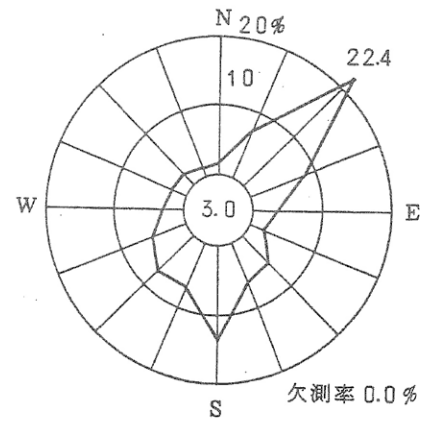
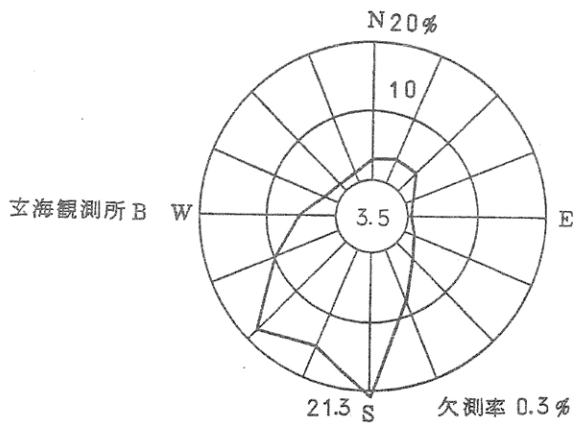


1981年5月

小円内の数字は静穏
(0.5 m/s未満)の
出現率(%)

6月

第1.2-43図(3) 月別風配図

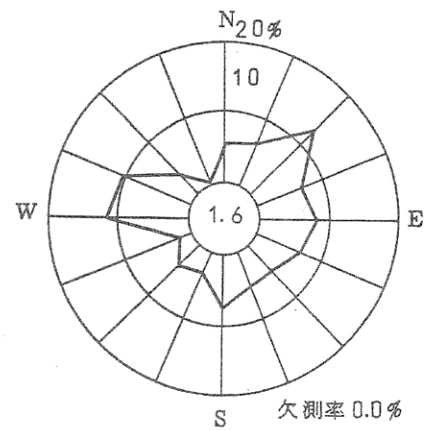
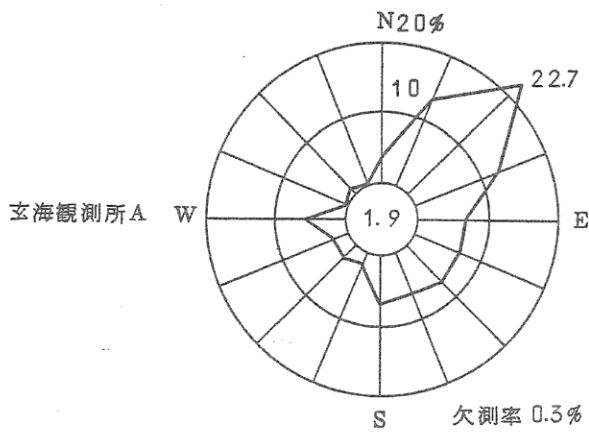
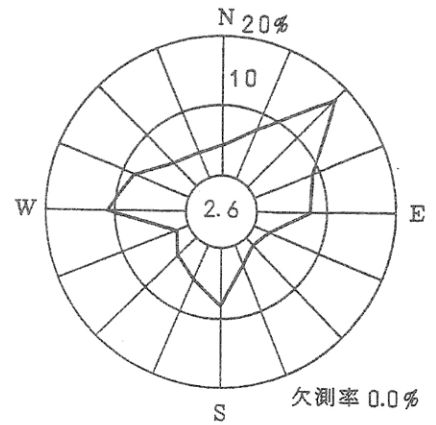
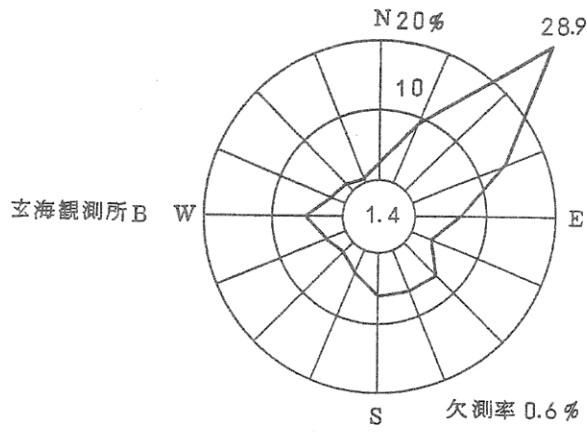


1981年7月

小円内の数字は静穏
(0.5 m/s未満)の
出現率(%)

8月

第1.2-43図(4) 月別風配図

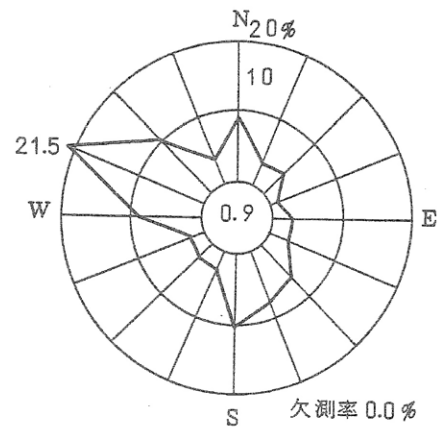
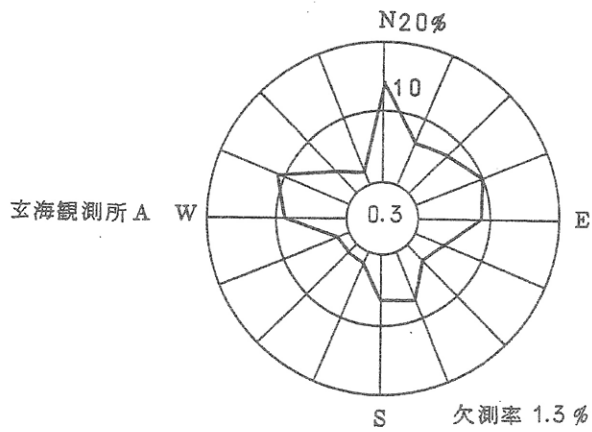
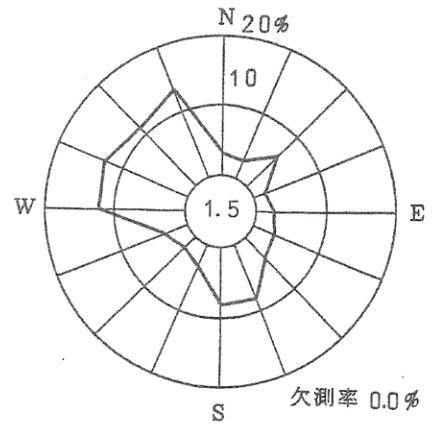
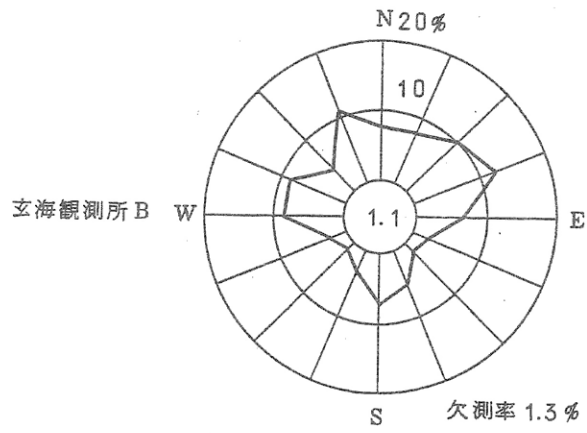


1981年9月

小円内の数字は静穏
(0.5 m/s 未満)の
出現率(%)

10月

第1.2-43図(5) 月別風配図

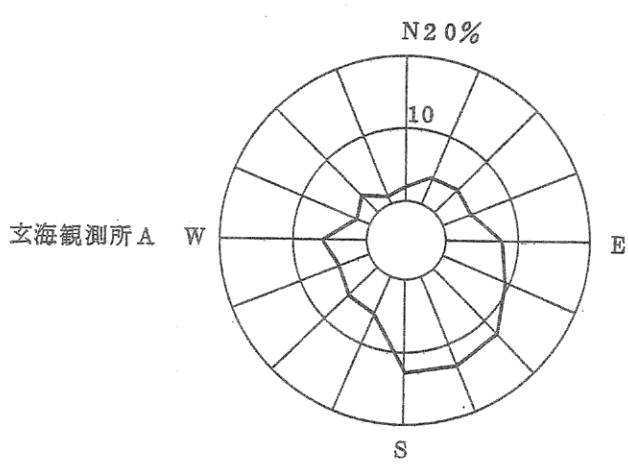
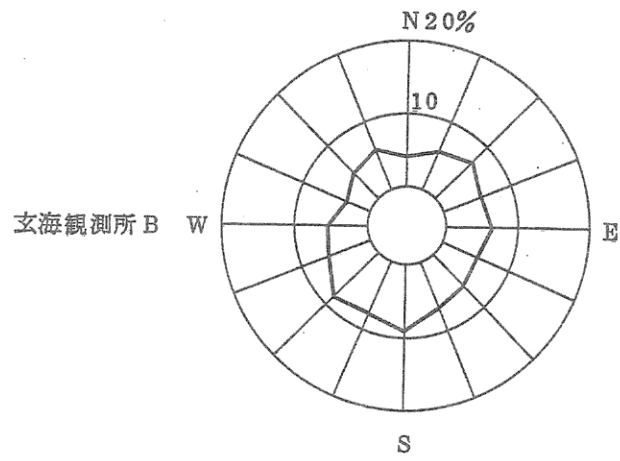


1981年11月

12月

小円内の数字は静穏
(0.5 m/s 未満)の
出現率(%)

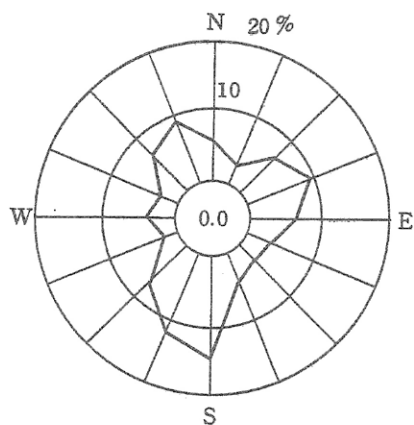
第1.2-43図(6) 月別風配図



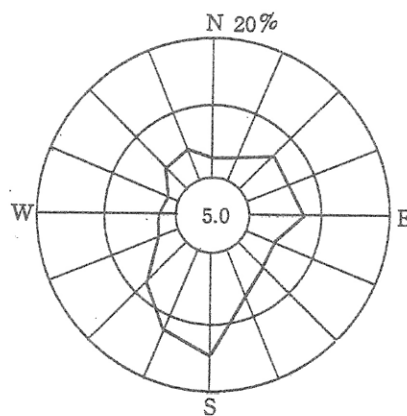
統計期間 1981年1月～1981年12月

第1.2-44図 低風速時(0.5～2.0m/s)の風配図(全年)

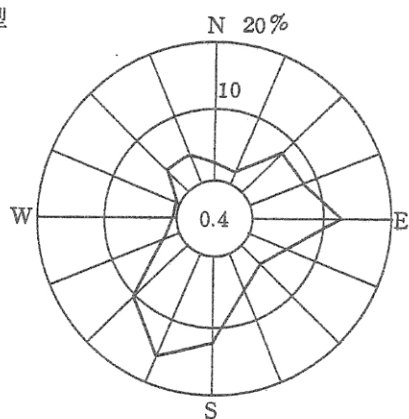
E 型



(E+F+G)型



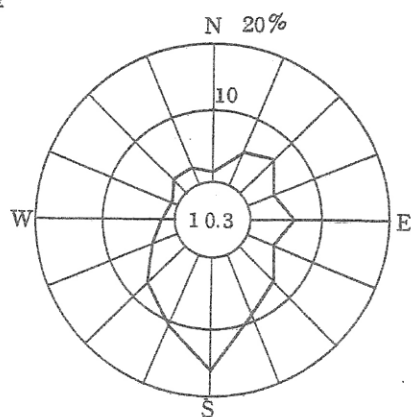
F 型



大気安定度	出現頻度 (%)
E	6.4
F	5.5
G	10.6
E+F+G	22.5

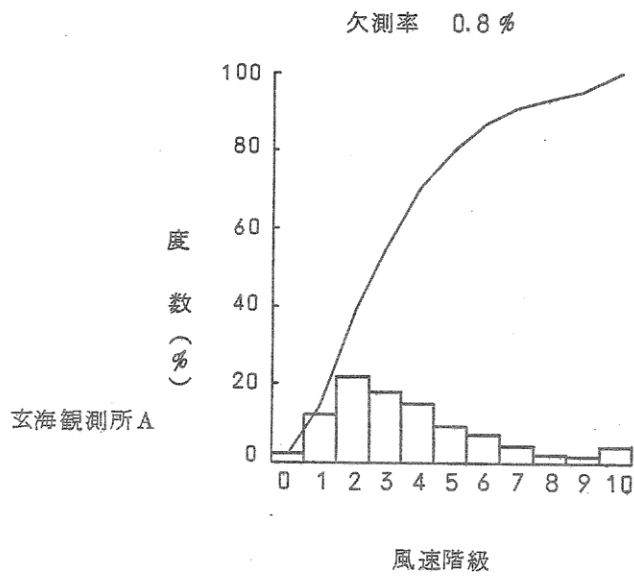
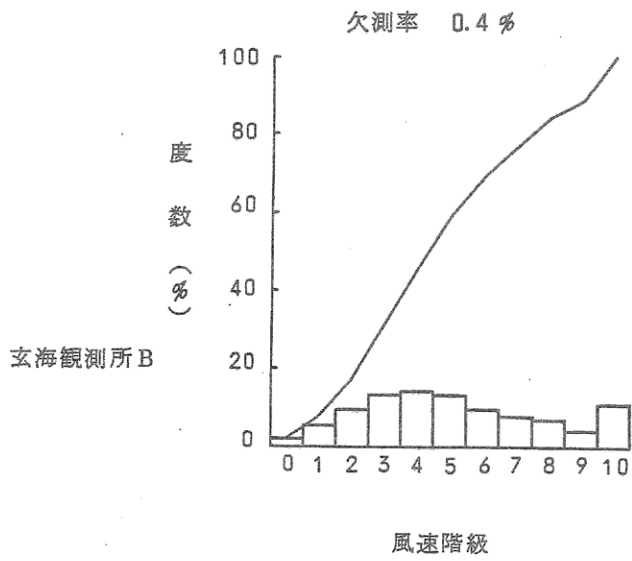
統計期間 1年
(1981年1月～
1981年12月)

G 型



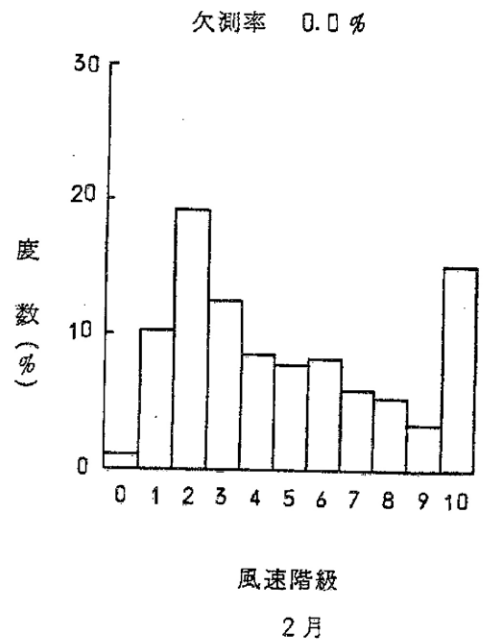
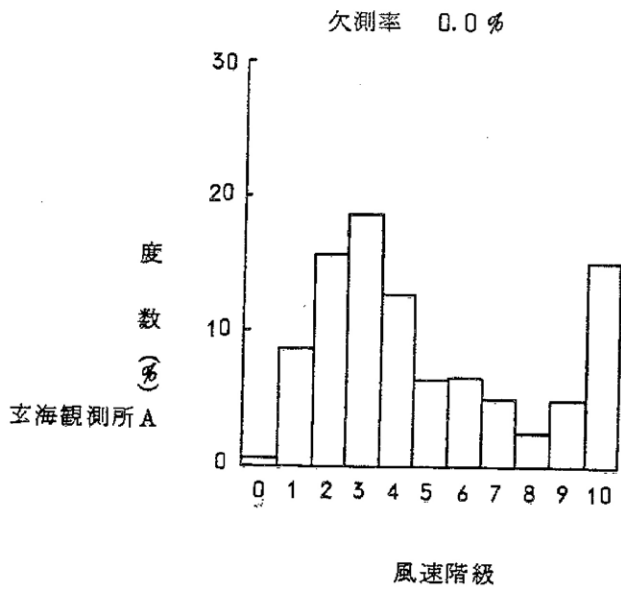
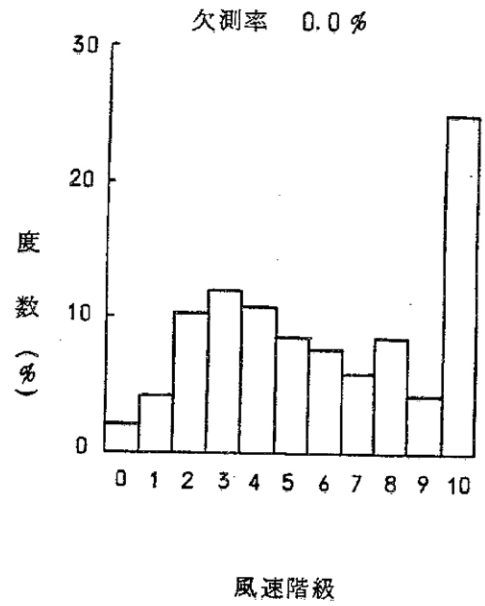
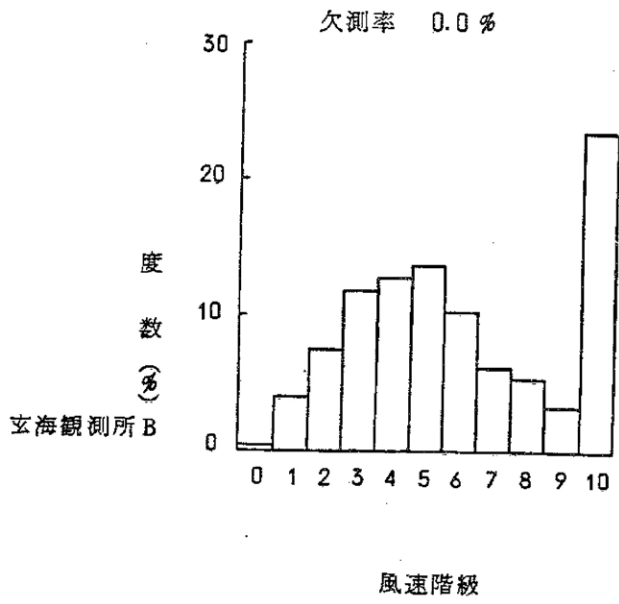
- 注) 1. 安定度は玄海観測所Aの風速によって算出し、風向別の分類は玄海観測所Bの風向風速による。
2. 小円内の数字は各大気安定度型の出現に対する静穏(0.5m/s未満)の出現率

第1.2-45図 大気安定度E、F、G型時の風配図(全年)



統計期間 1年
(1981年1月~1981年12月)

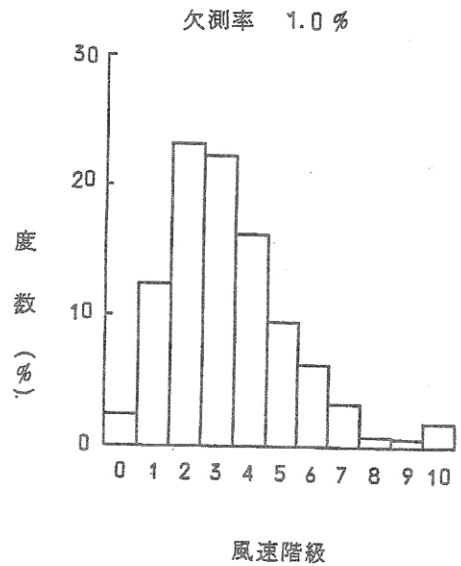
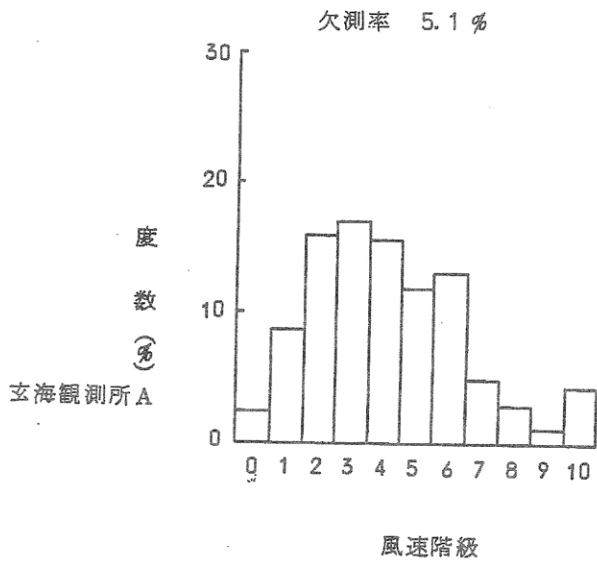
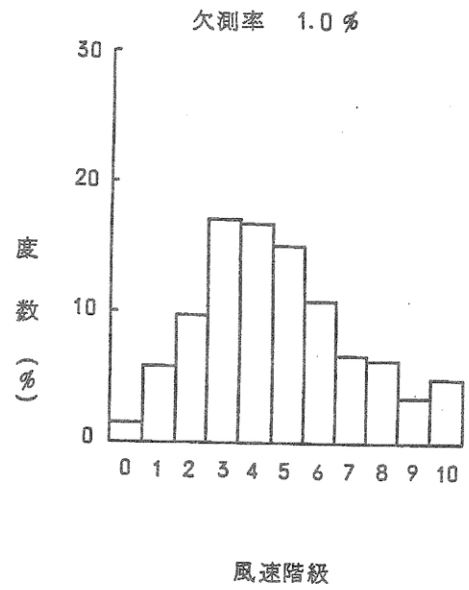
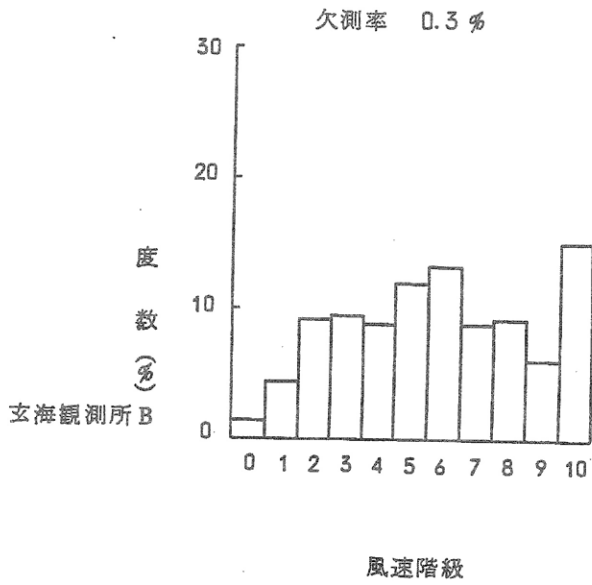
第1.2-46図 風速階級別出現度数分布及び累積度数分布(全年)



1981年1月

2月

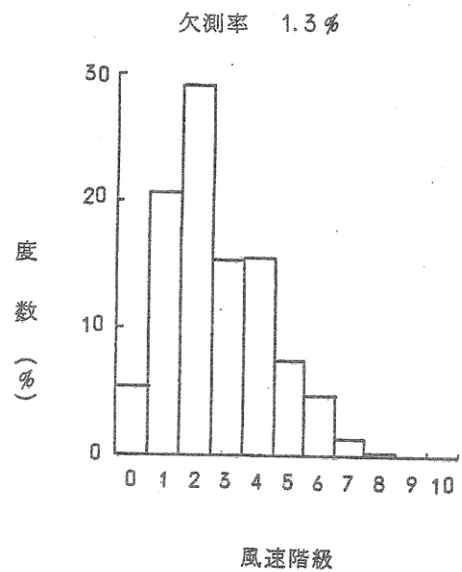
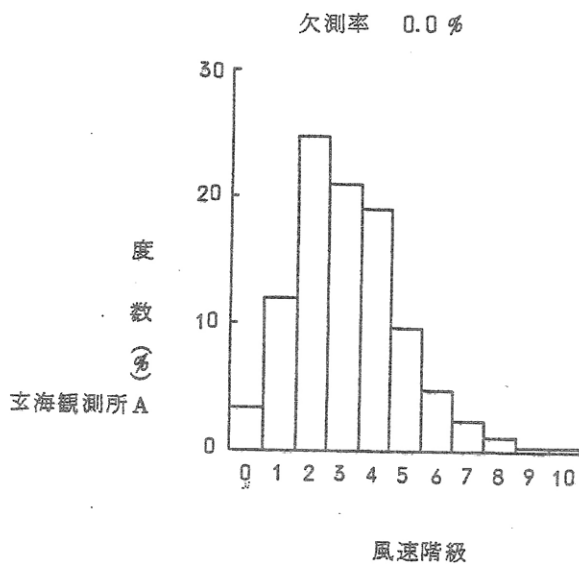
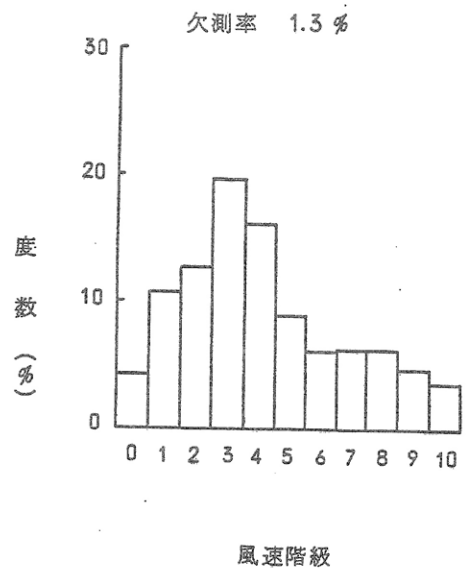
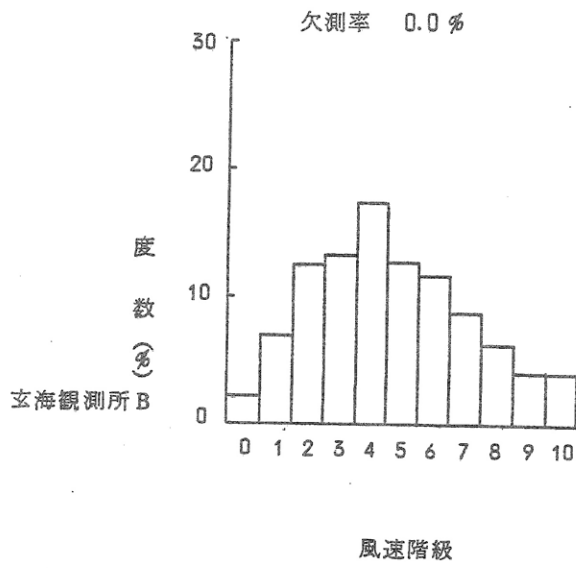
第1.2-47図(1) 月別の風速階級別出現度数分布



1981年3月

4月

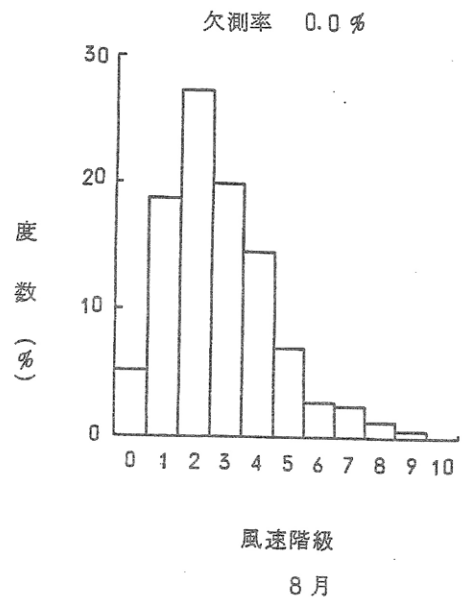
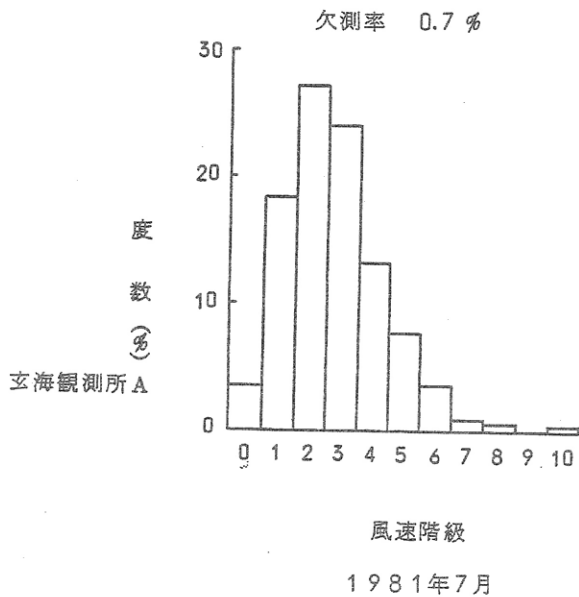
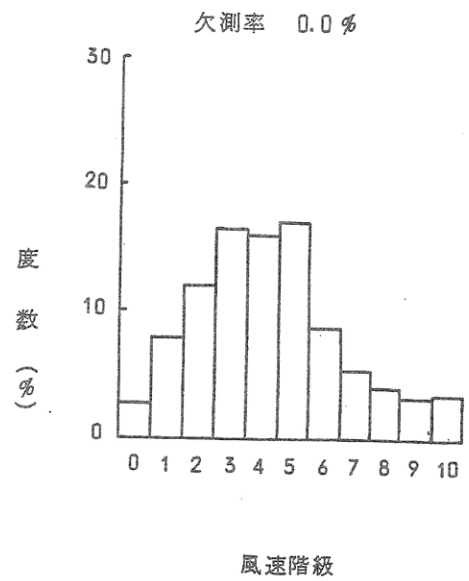
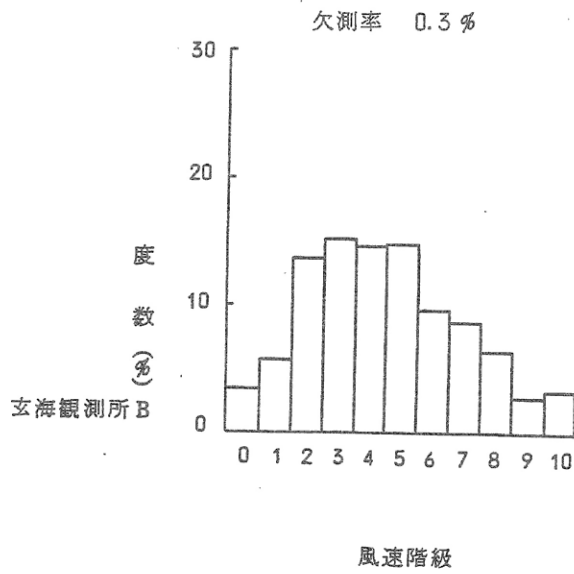
第1.2-47図(2) 月別の風速階級別出現度数分布



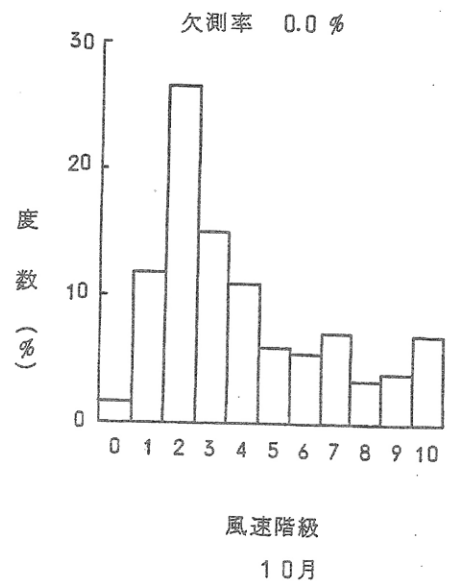
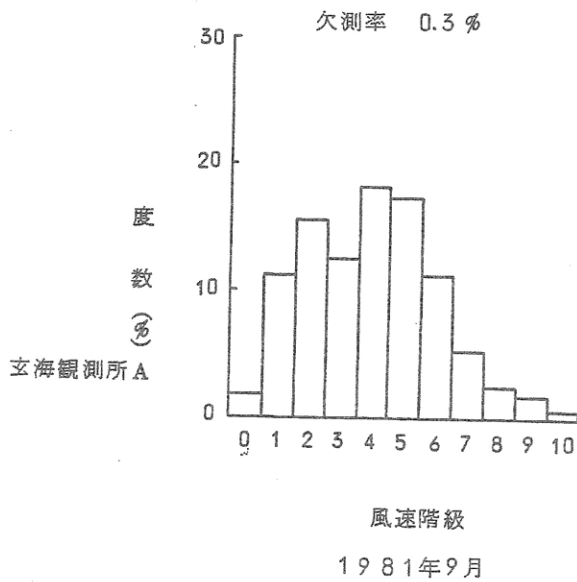
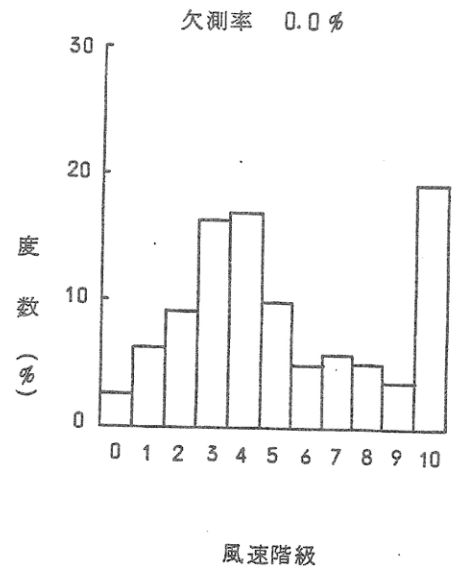
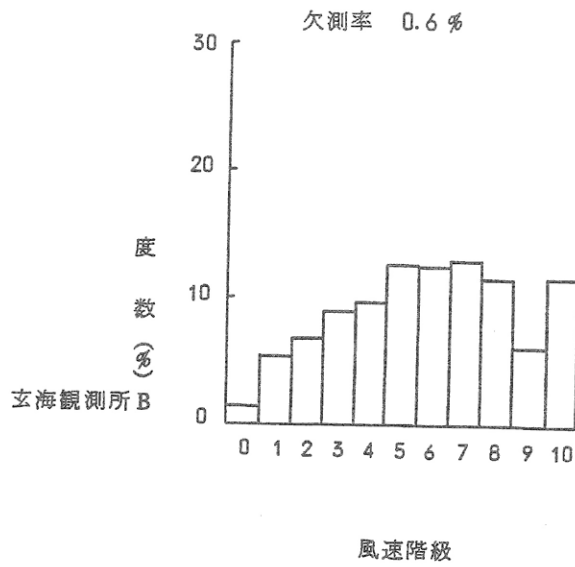
1981年5月

6月

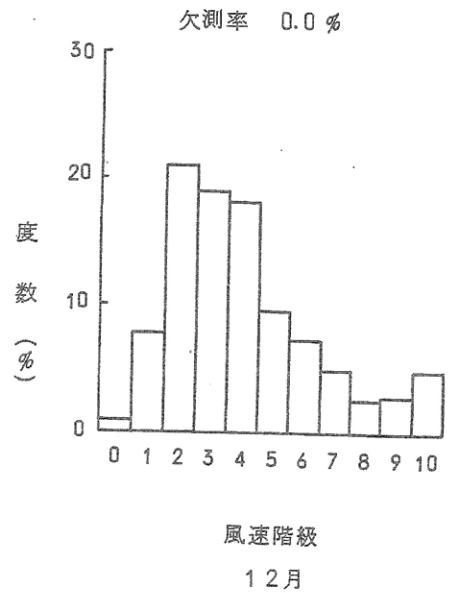
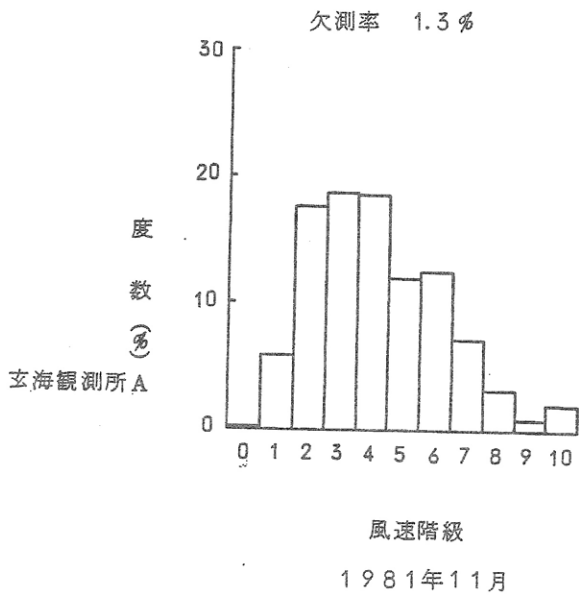
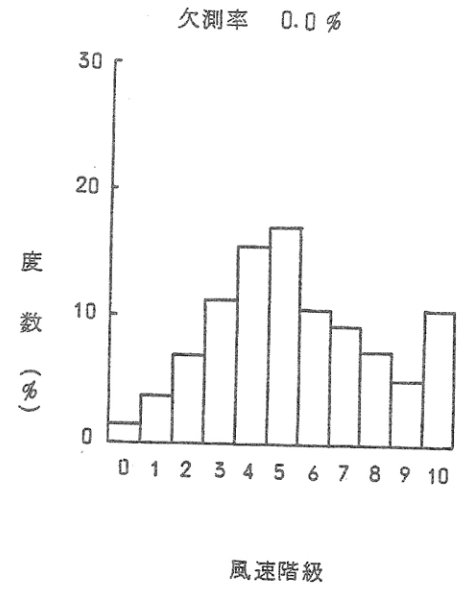
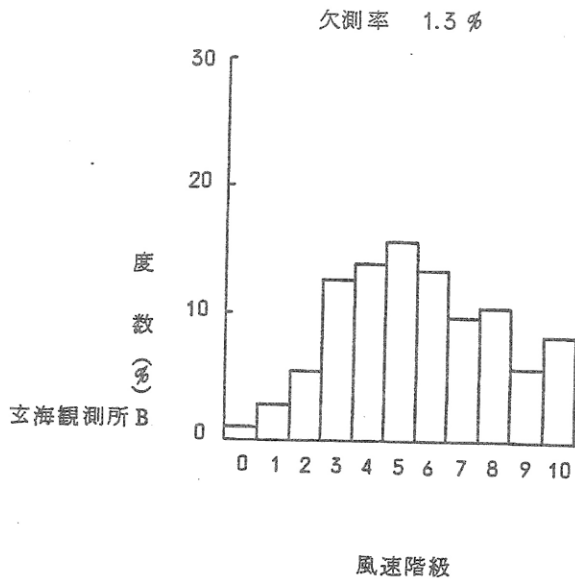
第1.2-47図(3) 月別の風速階級別出現度数分布



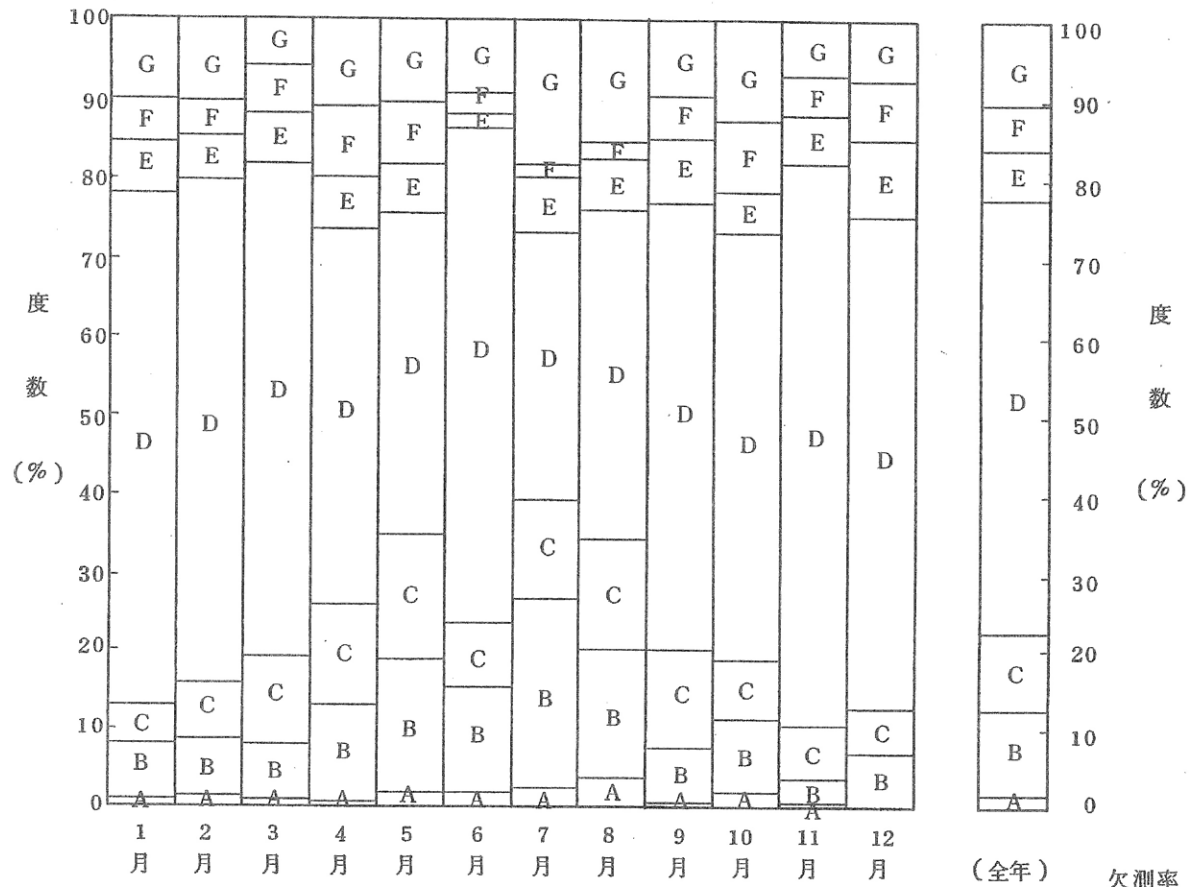
第1.2-47図(4) 月別の風速階級別出現度数分布



第1.2-47図(5) 月別の風速階級別出現度数分布



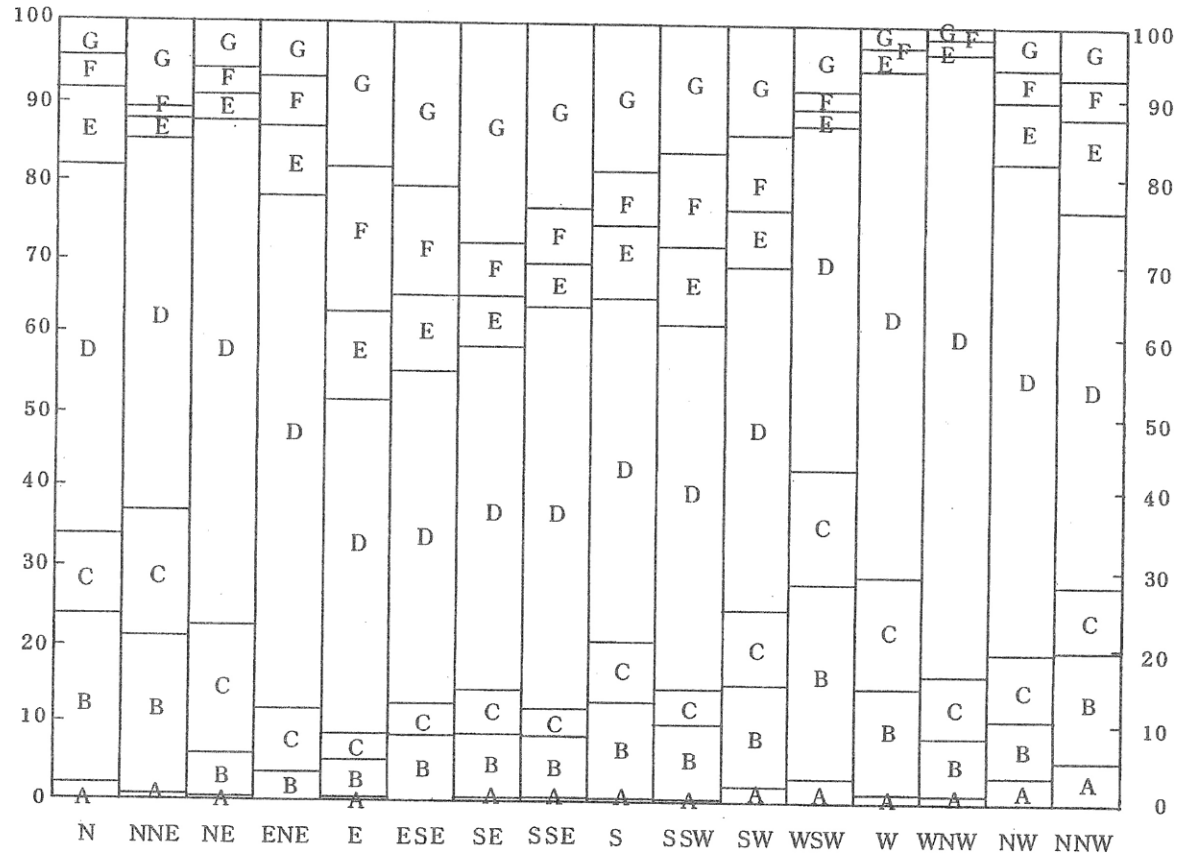
第1.2-47図(6) 月別の風速階級別出現度数分布



注) 統計方法: 大気安定度は、玄海観測所Aの風速によって求め、A-B、B-C及びC-D型は、それぞれB、C及びD型として計上し、統計処理を行った。

欠測率: 1.2%
 統計期間 1年
 (1981年1月~1981年12月)

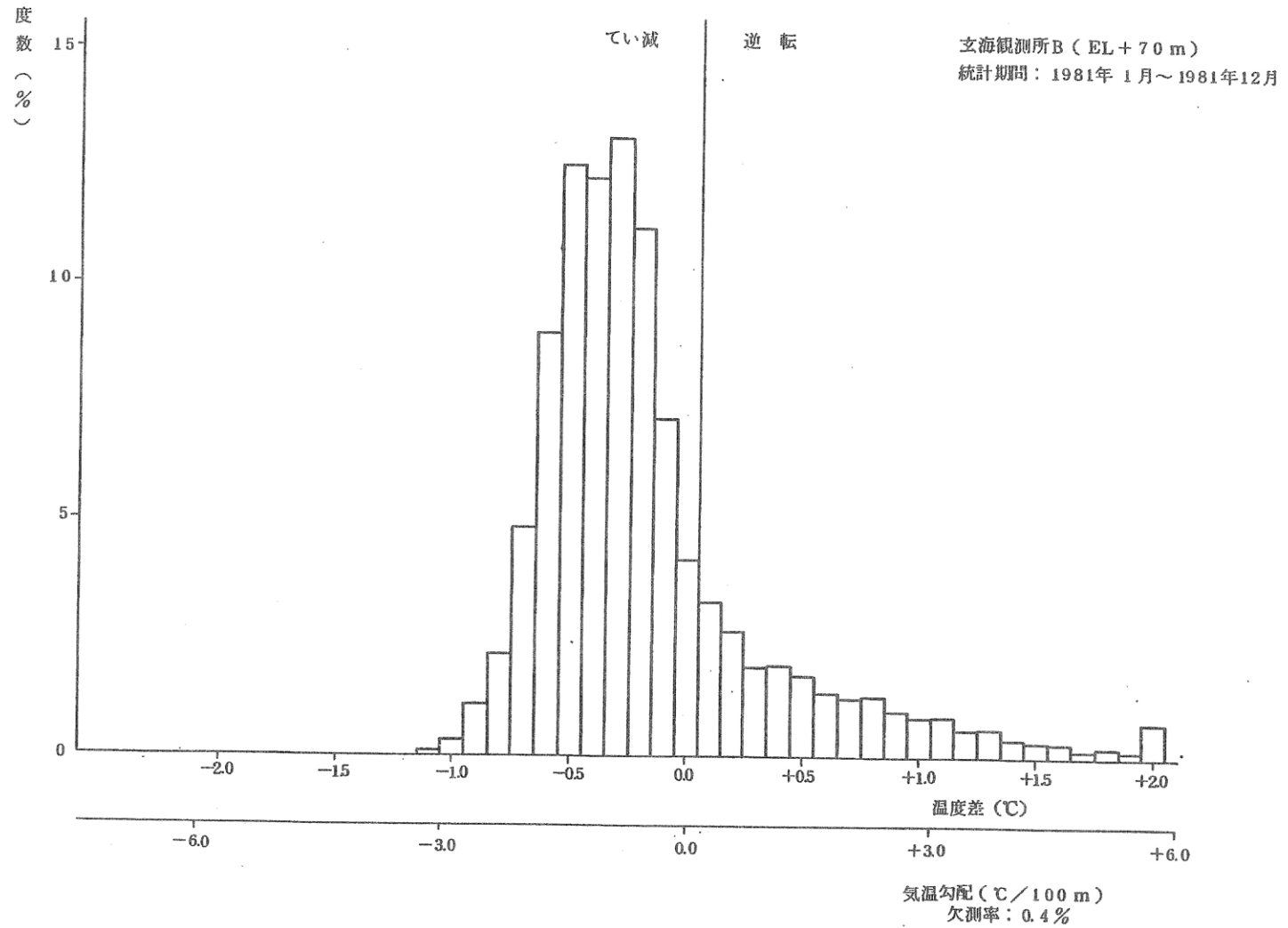
第1.2-48図 全年及び月別の大気安定度出現度数



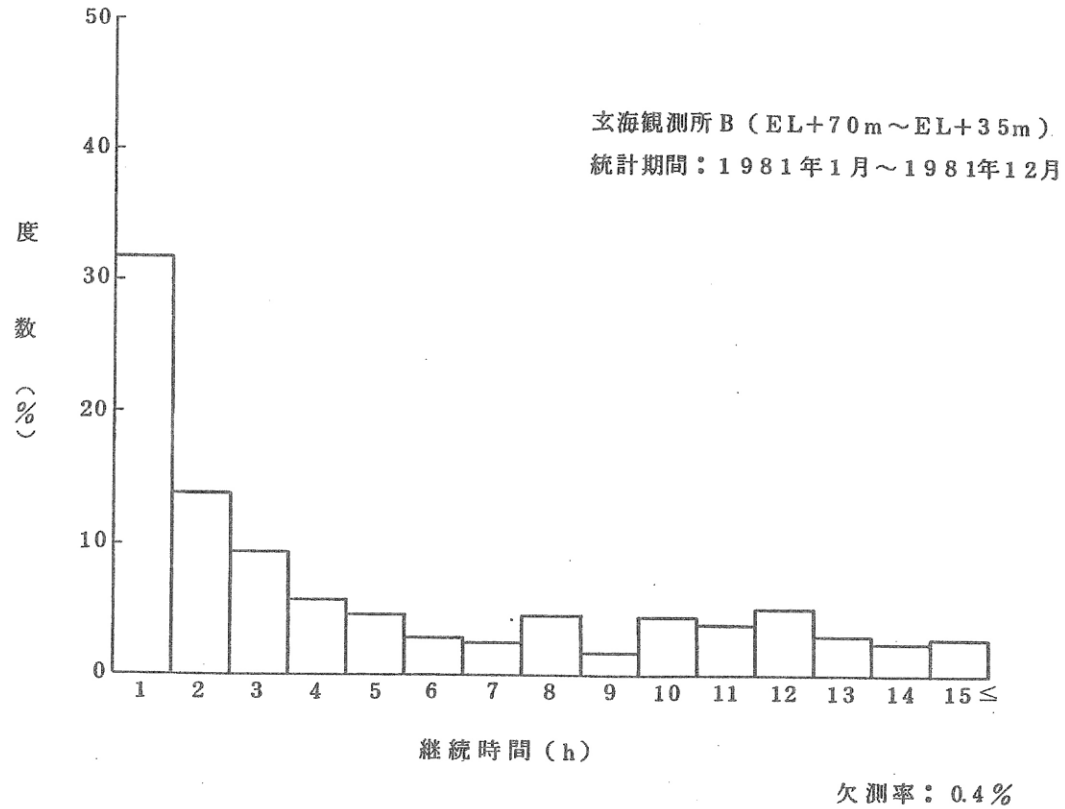
注) 統計方法: 大気安定度は、玄海観測所Aの風速によって求め、A-B、B-C及びC-D型は、それぞれB、C及びD型として計上し、玄海観測所Bの風向によって分類した。
 0.5 m/s未満の大気安定度出現回数は玄海観測所Bにおける0.5 m/s~2.0 m/sの風向出現率にしたがって各方位に配分した。

欠測率: 1.3%
 統計期間 1年
 (1981年1月~1981年12月)

第1.2-49図 風向別の大気安定度出現度数

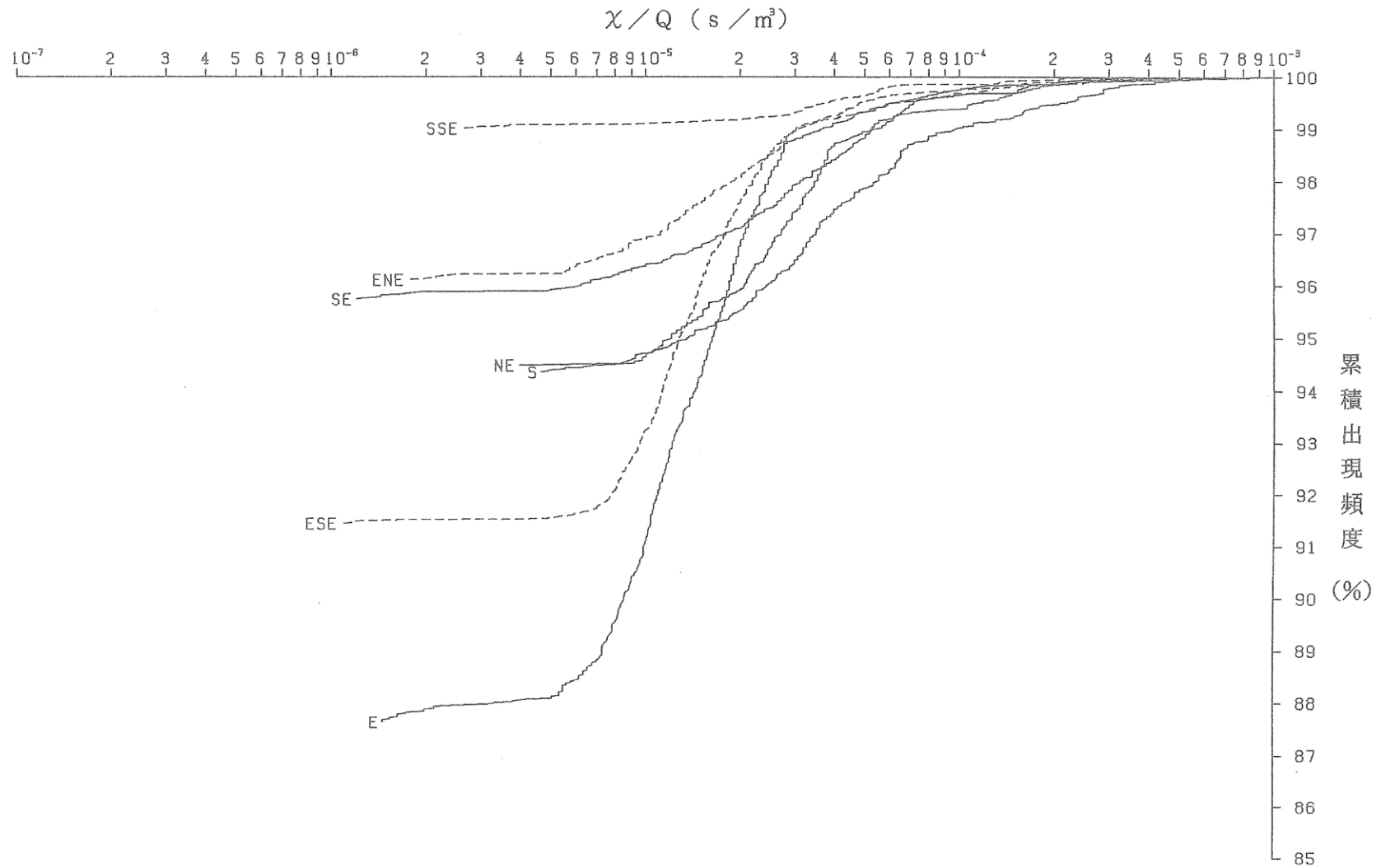


第1.2-50図 温度差別出現度数(全年)

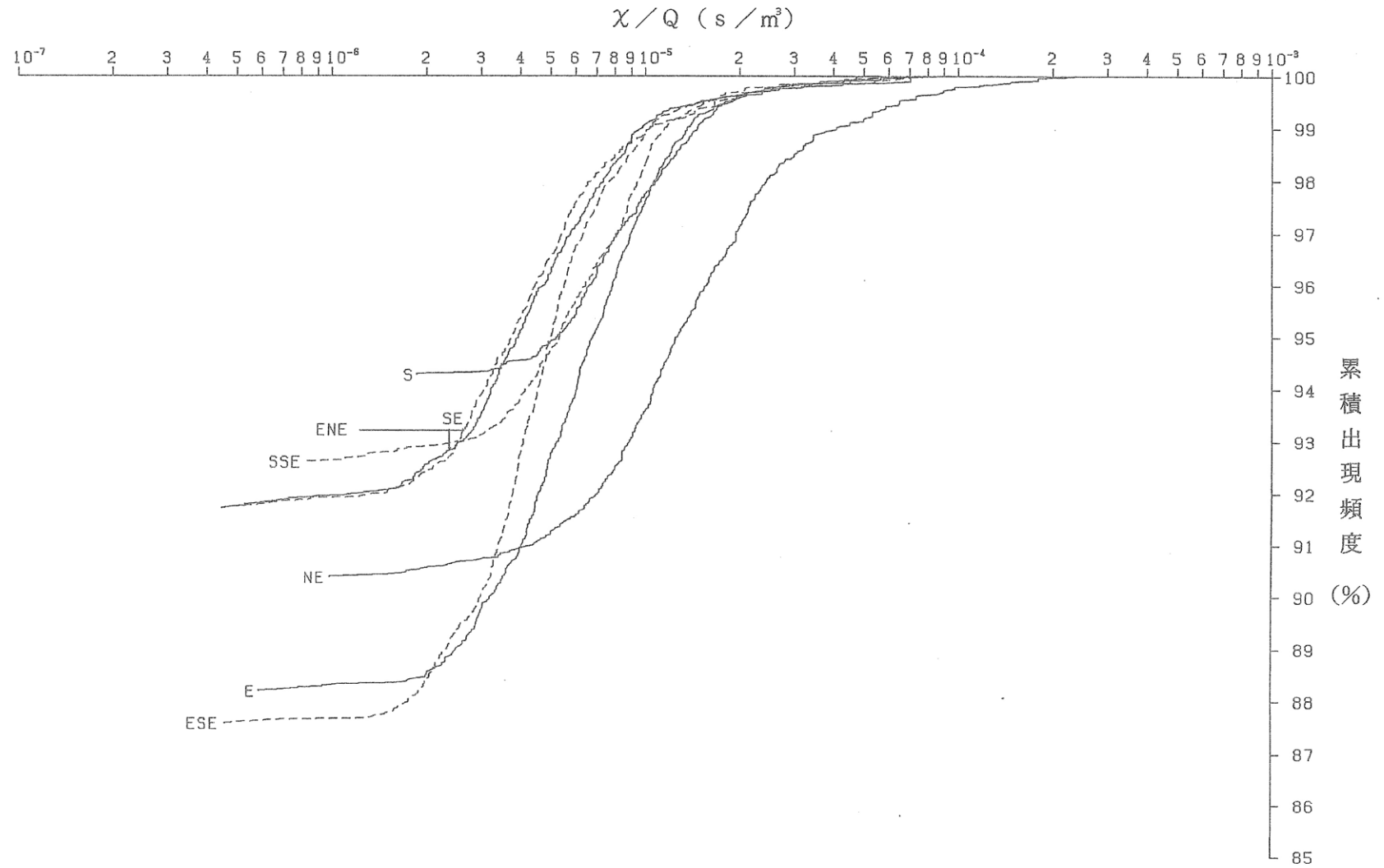


注) 逆転継続時間別の出現回数の合計に対する各継続時間の出現回数の割合を求め、図示したものである。

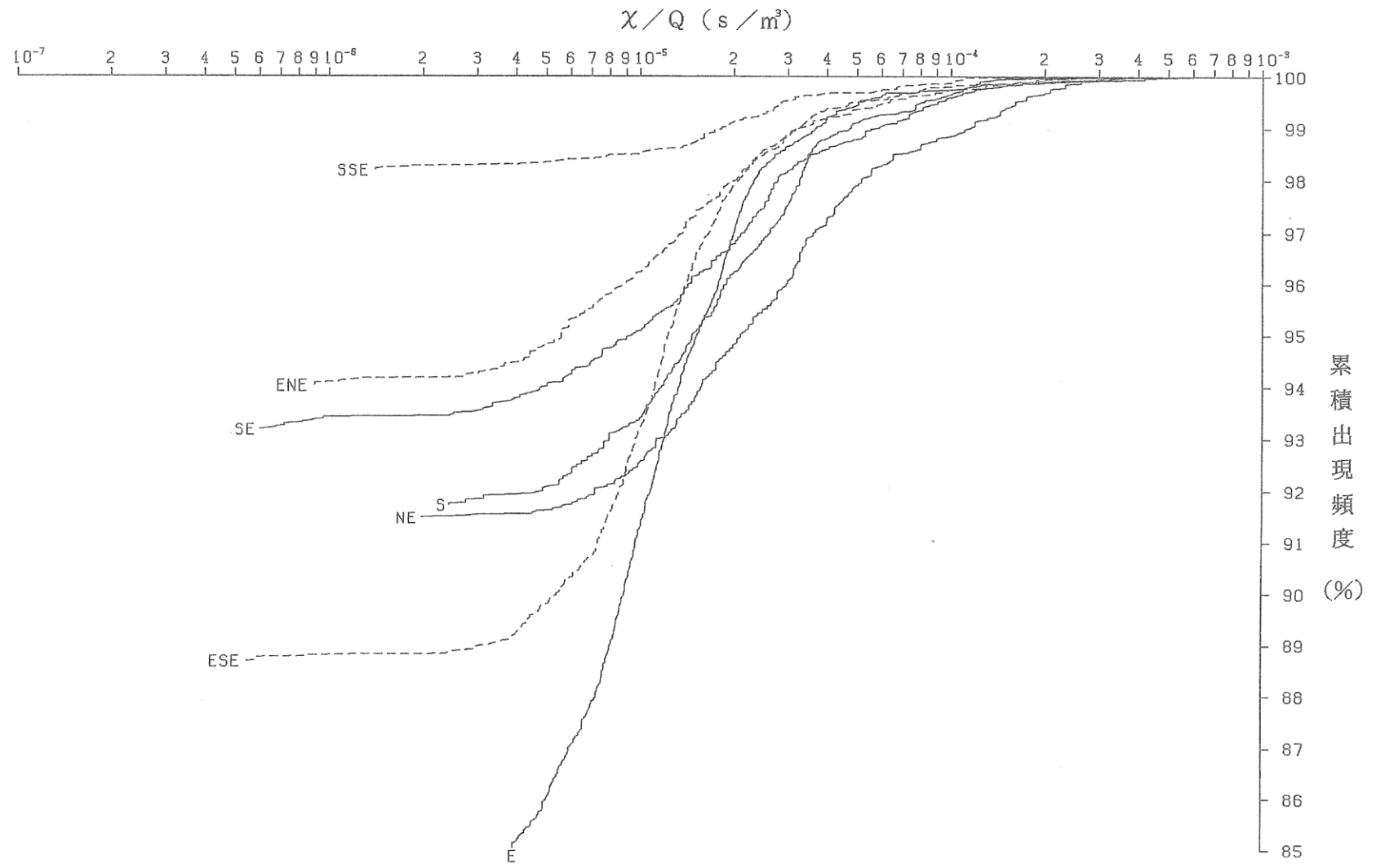
第1.2-51図 逆転現象継続時間の出現度数(全年)



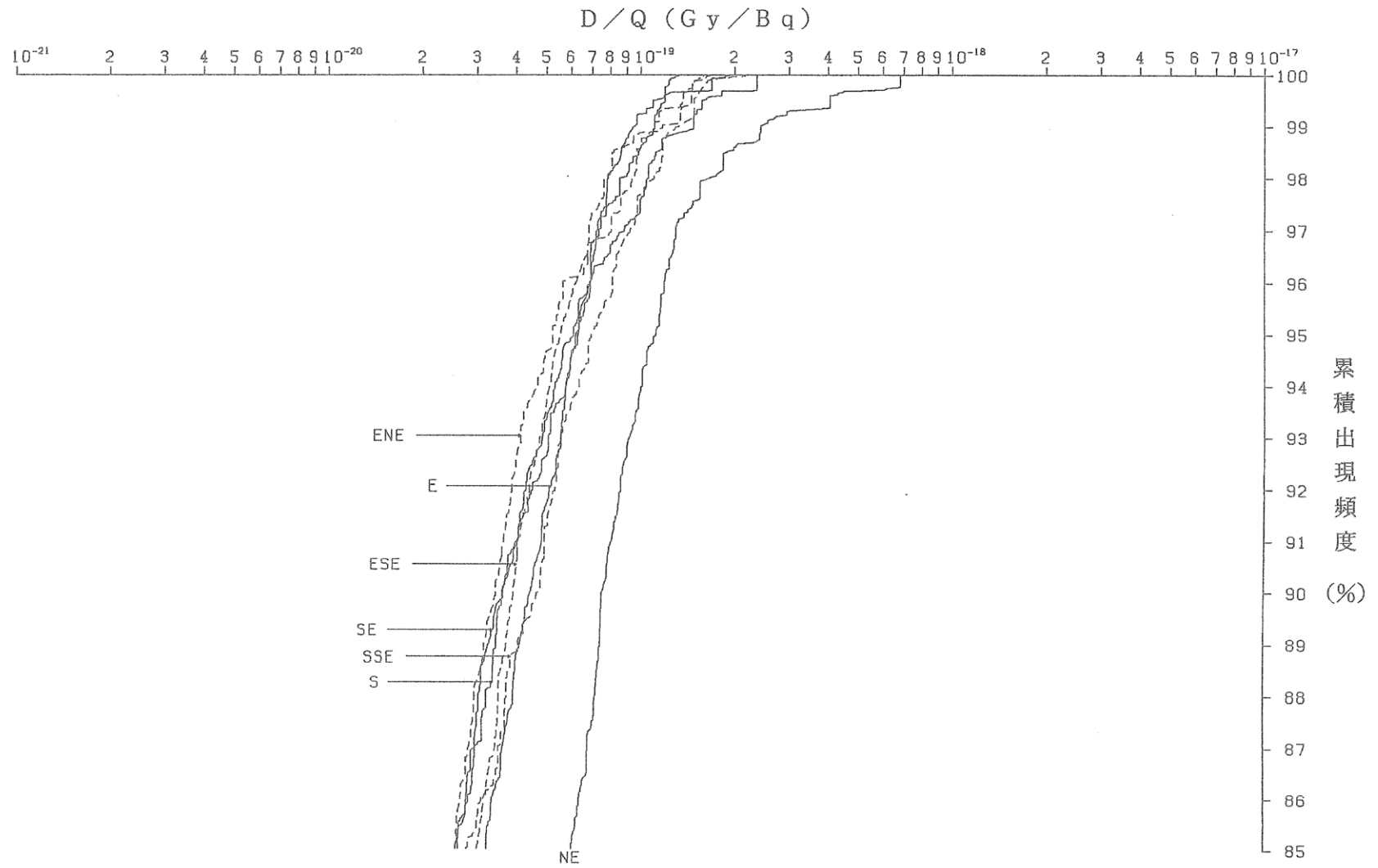
第1.2-52図(1) 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度
 [蒸気発生器伝熱管破損(事故時並びに重大事故及び仮想事故時)
 燃料集合体の落下]



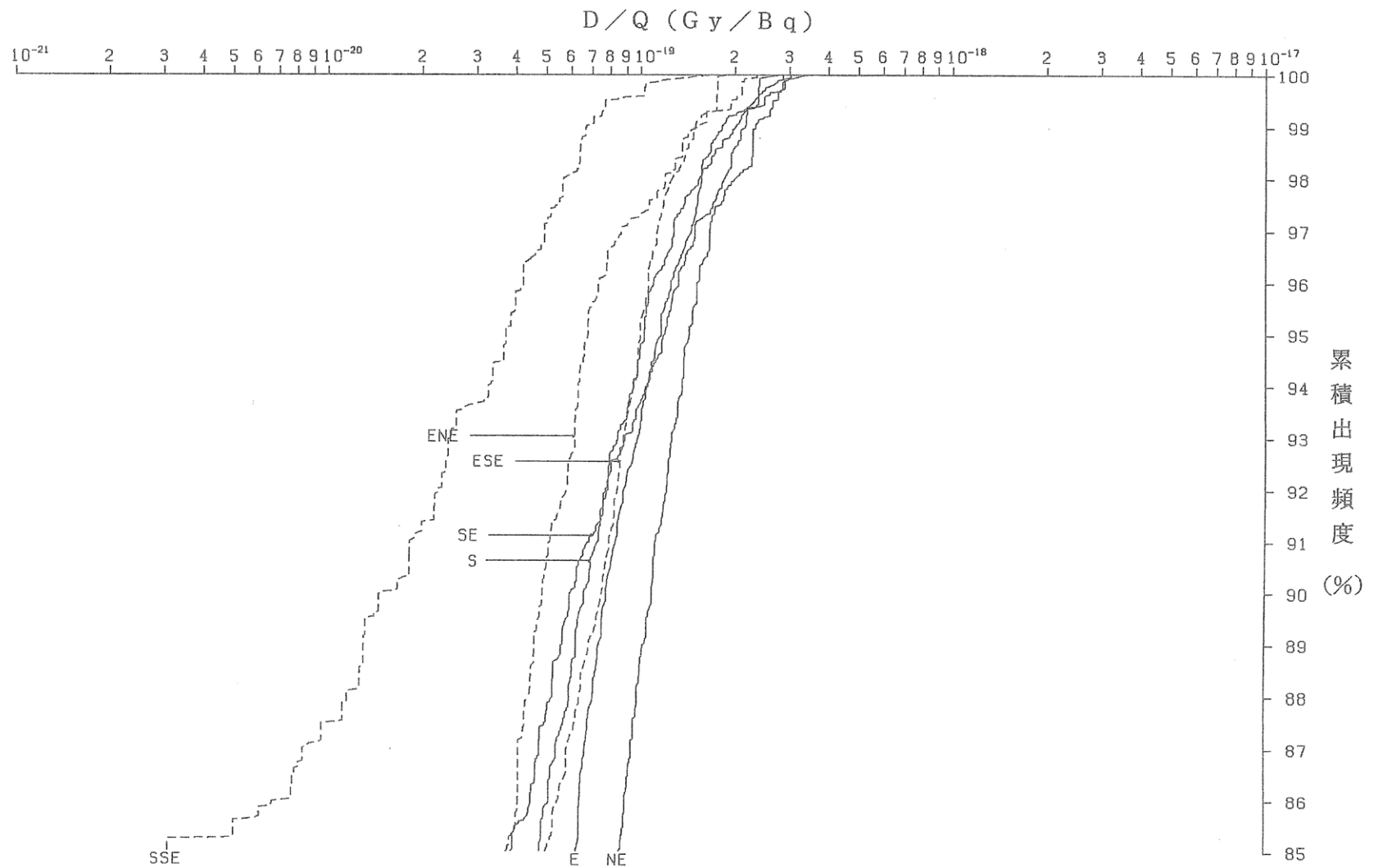
第1.2-52図(2) 方位別相対濃度(χ/Q)の累積出現頻度
 [制御棒飛び出し、排気筒放出分]



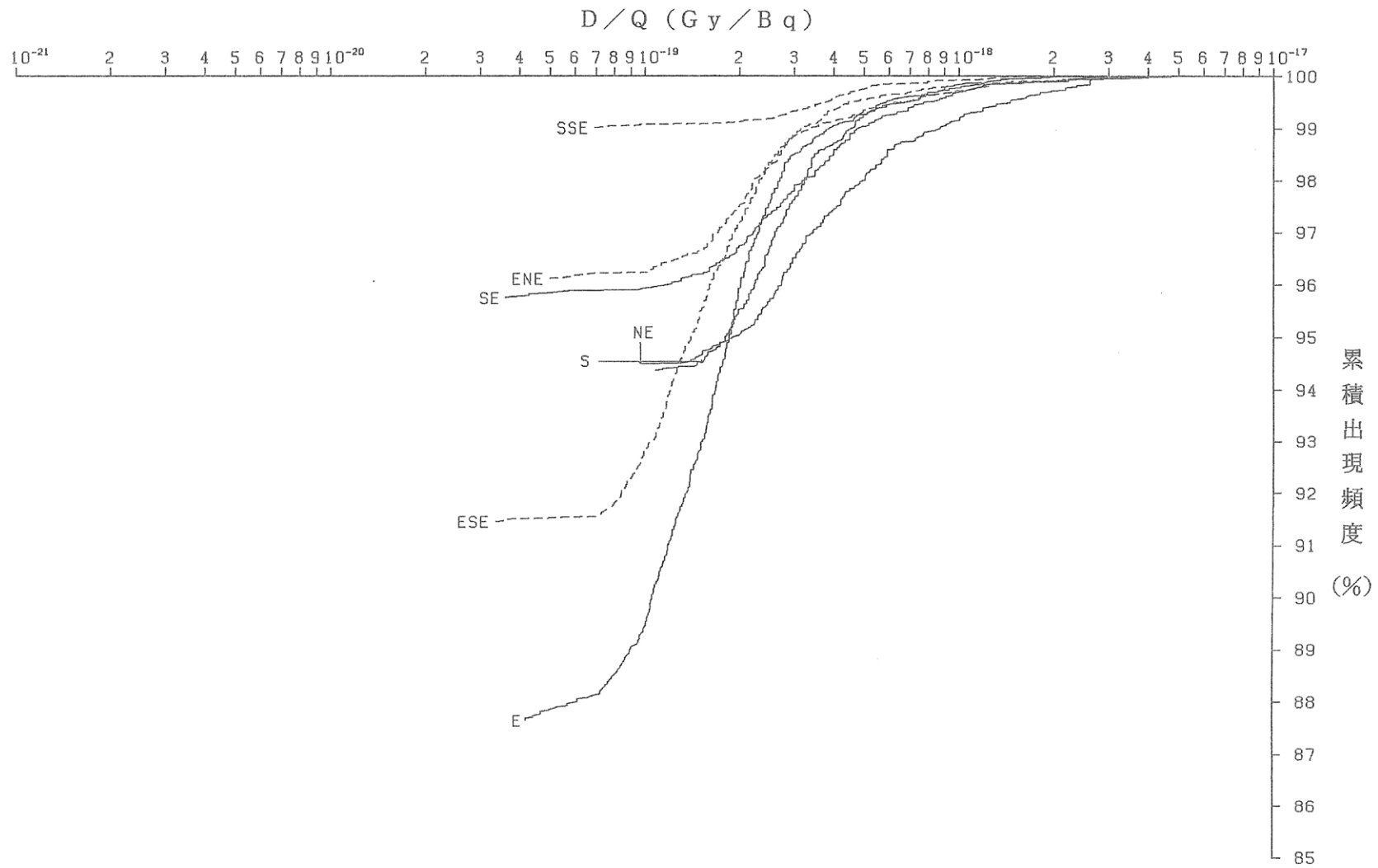
第1.2-52図(3) 方位別相対濃度(χ/Q)の累積出現頻度
 [制御棒飛び出し、地上放出分]



第1.2-52図(4) 方位別相対線量(D/Q)の累積出現頻度
 [原子炉冷却材喪失(事故時)、排気筒放出分]

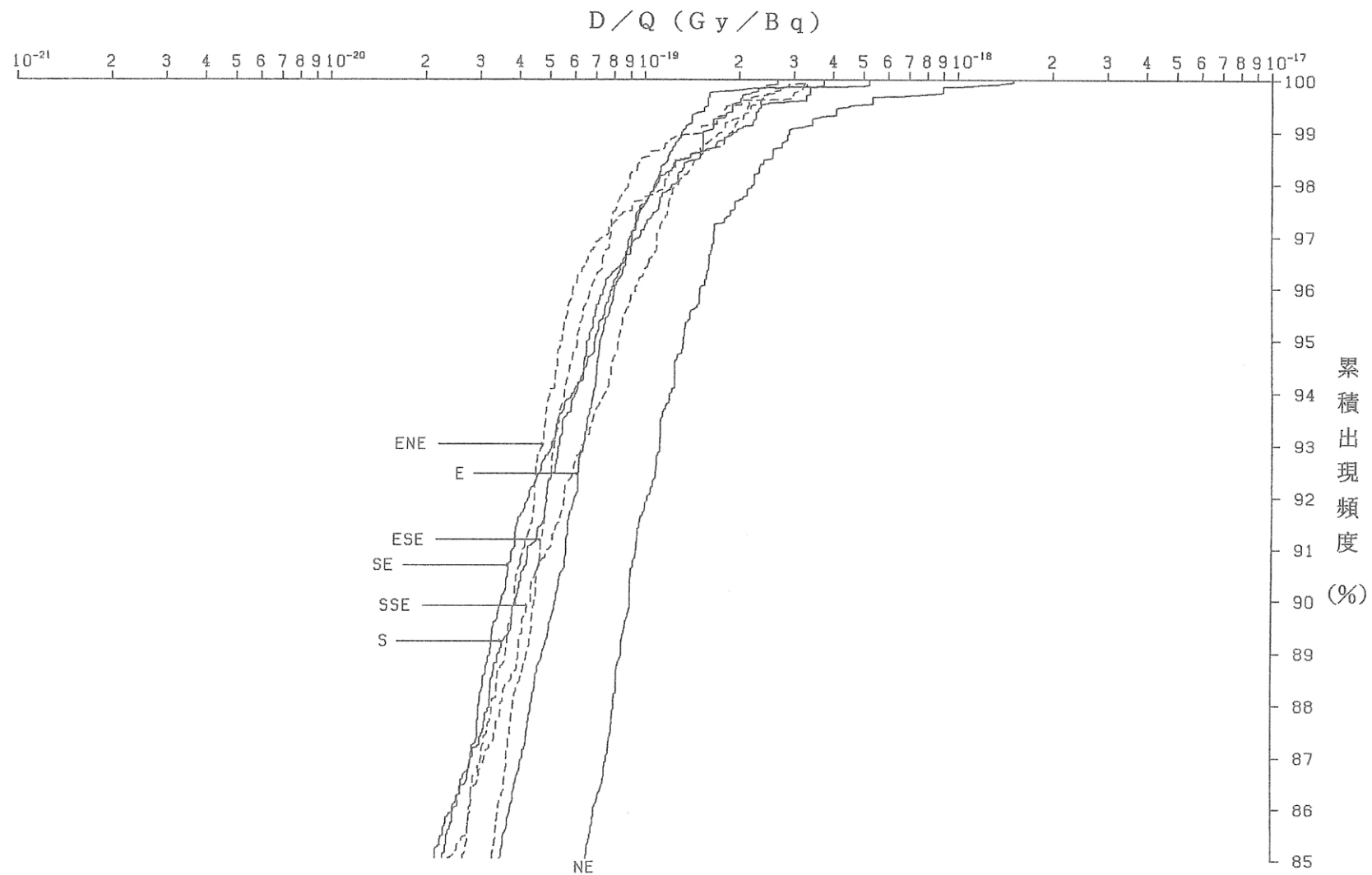


第1.2-52図(5) 方位別相対線量(D/Q)の累積出現頻度
 [原子炉冷却材喪失(事故時)、地上放出分]

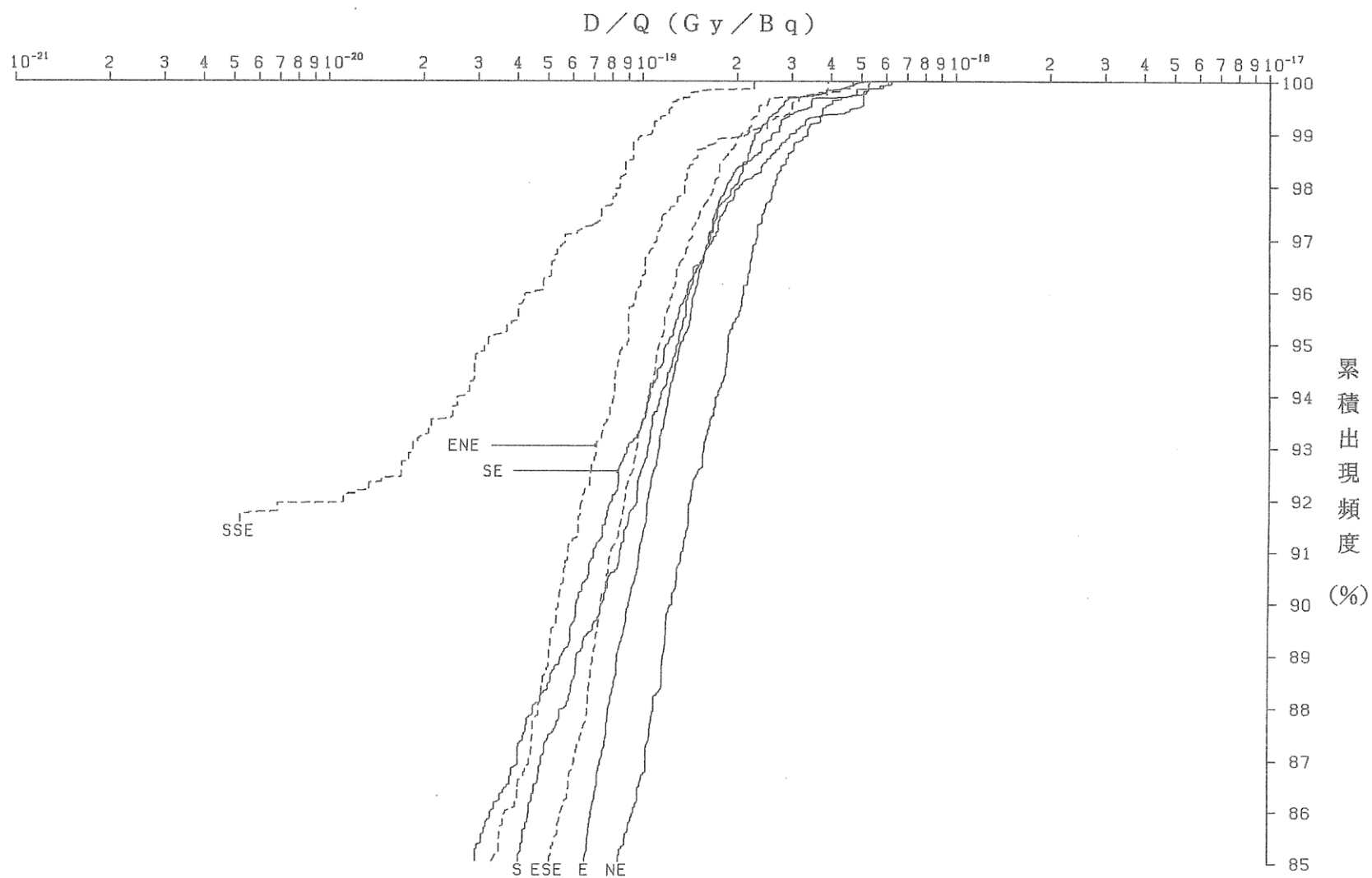


第1.2-52図(6) 方位別相対線量(D/Q)の累積出現頻度

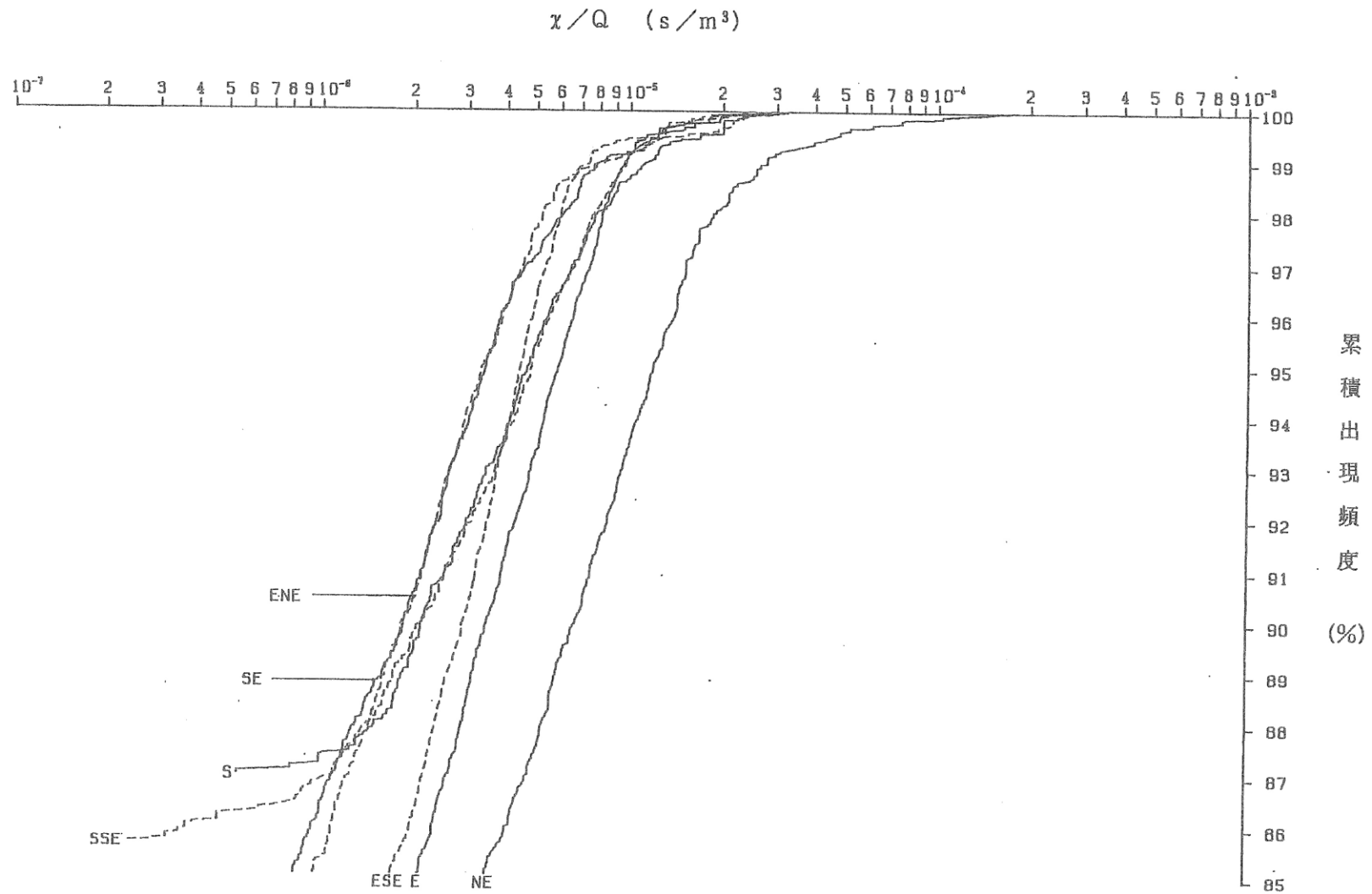
[蒸気発生器伝熱管破損(事故時並びに重大事故及び仮想事故時)
 燃料集合体の落下
 放射性気体廃棄物処理施設の破損]



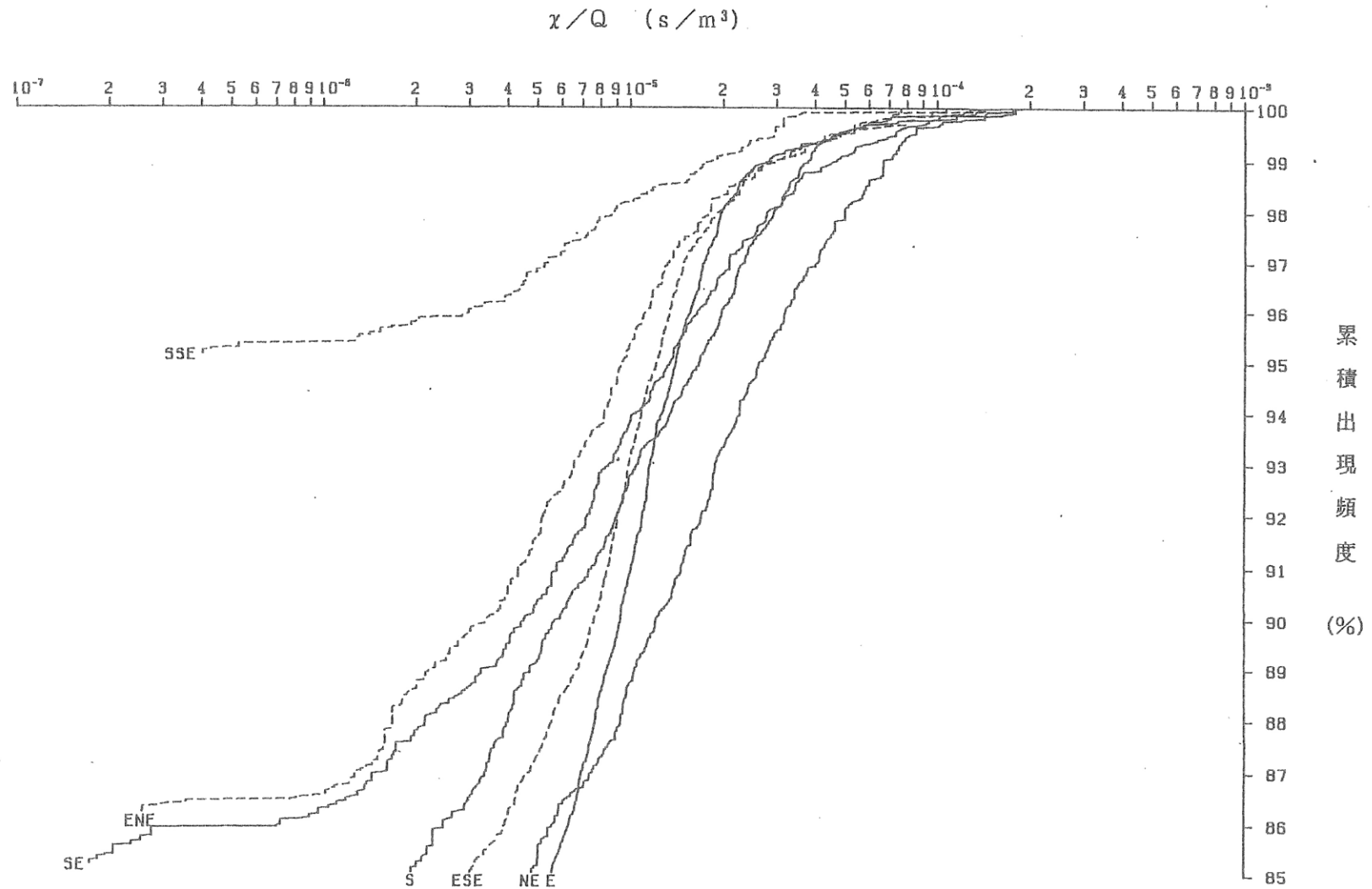
第1.2-52図(7) 方位別相対線量(D/Q)の累積出現頻度
 [制御棒飛び出し、排気筒放出分]



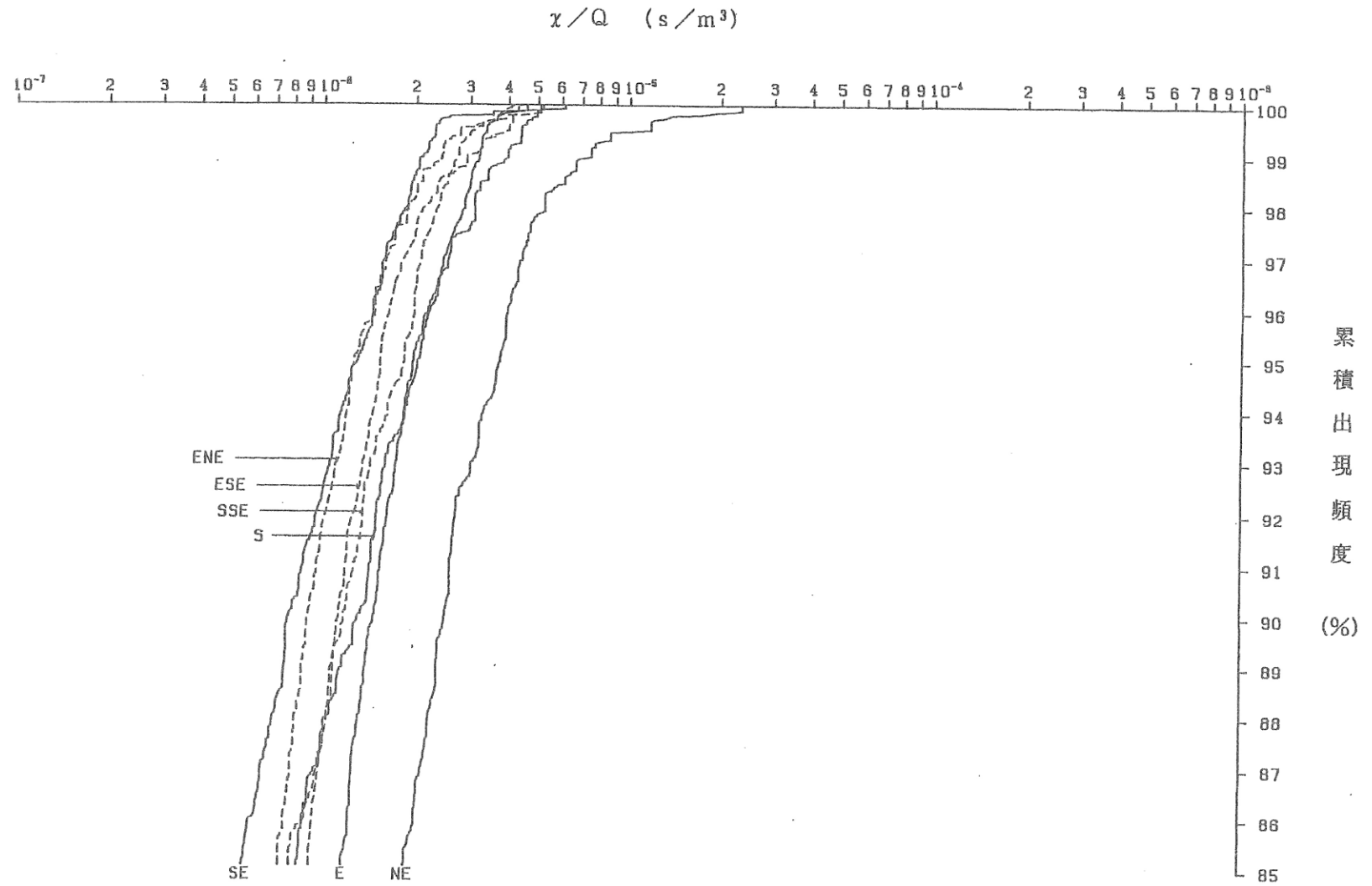
第1.2-52図(8) 方位別相対線量(D/Q)の累積出現頻度
 [制御棒飛び出し、地上放出分]



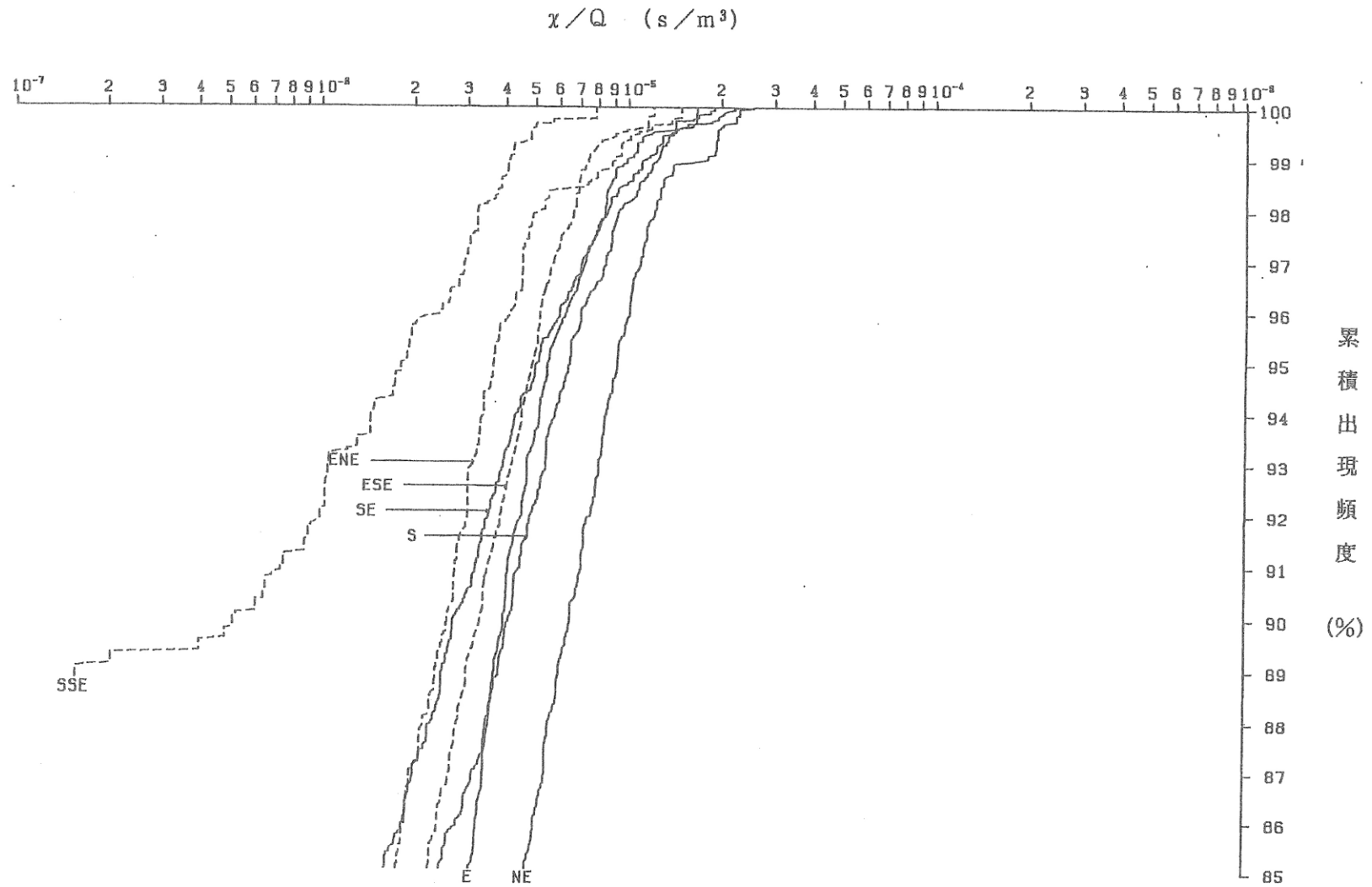
第1.2-52図(9) 方位別相対濃度(χ/Q)の累積出現頻度(3号炉)
[原子炉冷却材喪失(事故時)、排気筒放出分]



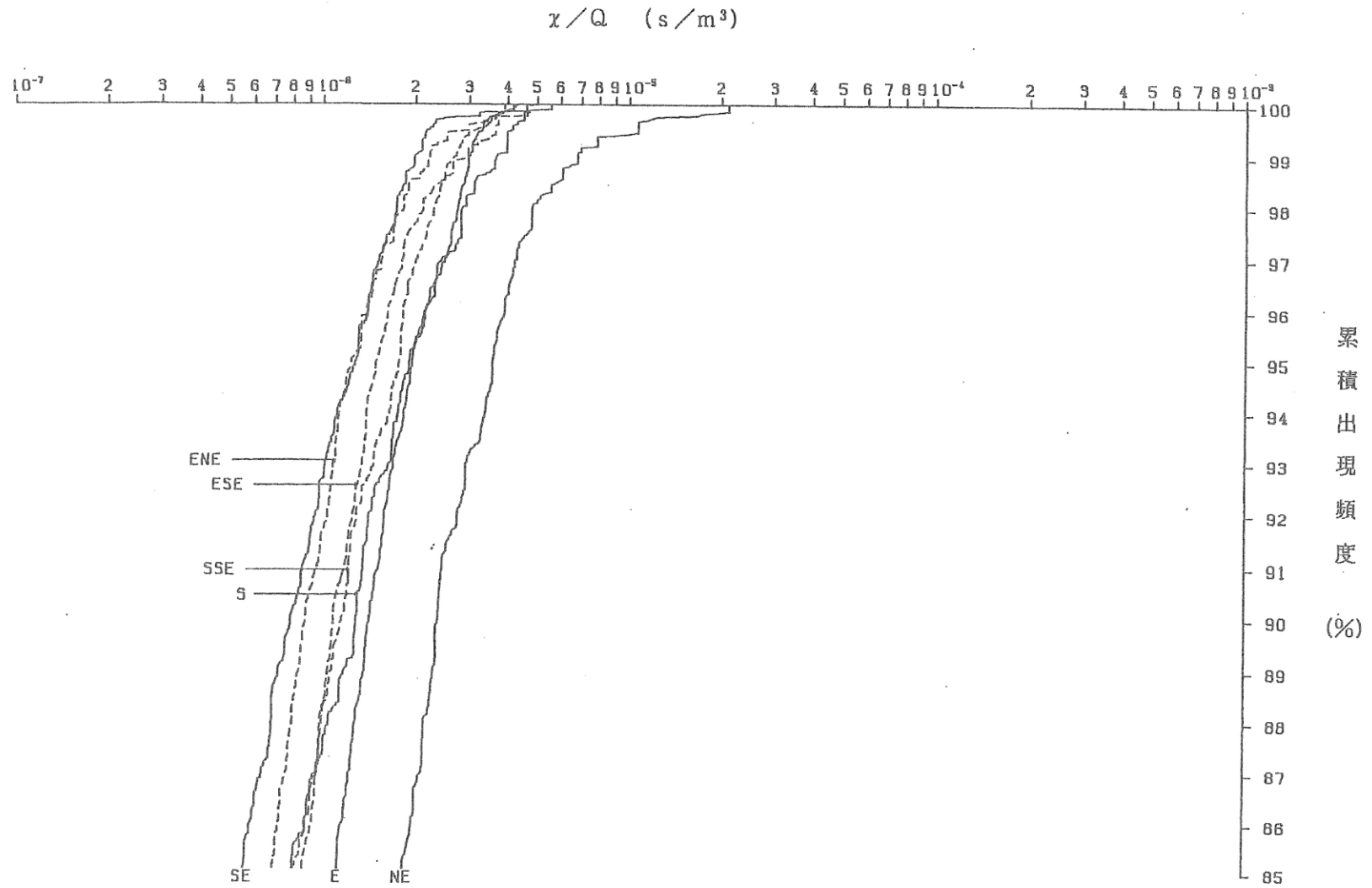
第1.2-52図(10) 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度(3号炉)
 [原子炉冷却材喪失(事故時)、地上放出分]



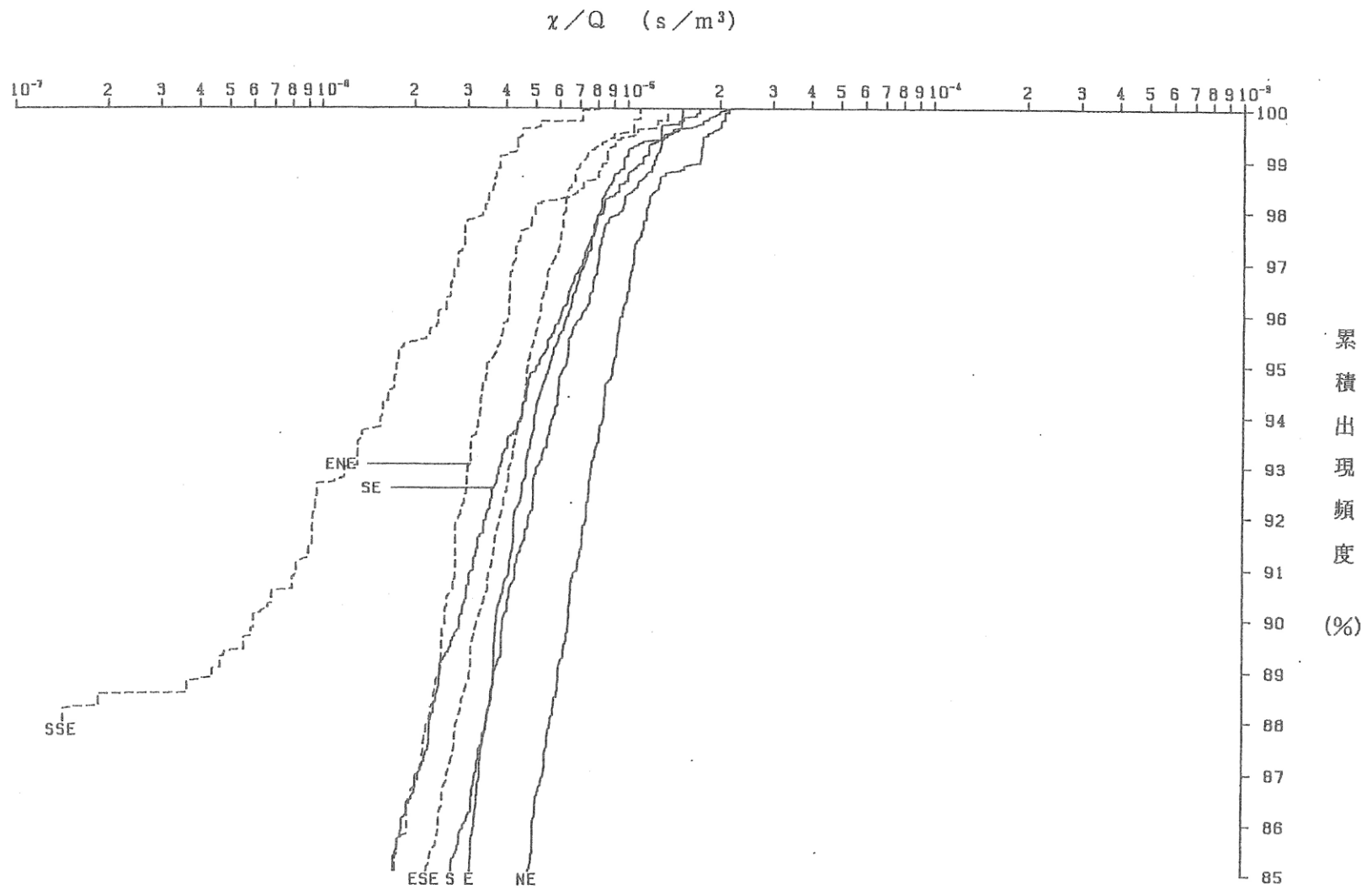
第1.2-52図(11) 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度 (3号炉)
 [原子炉冷却材喪失 (重大事故時)、排気筒放出分]



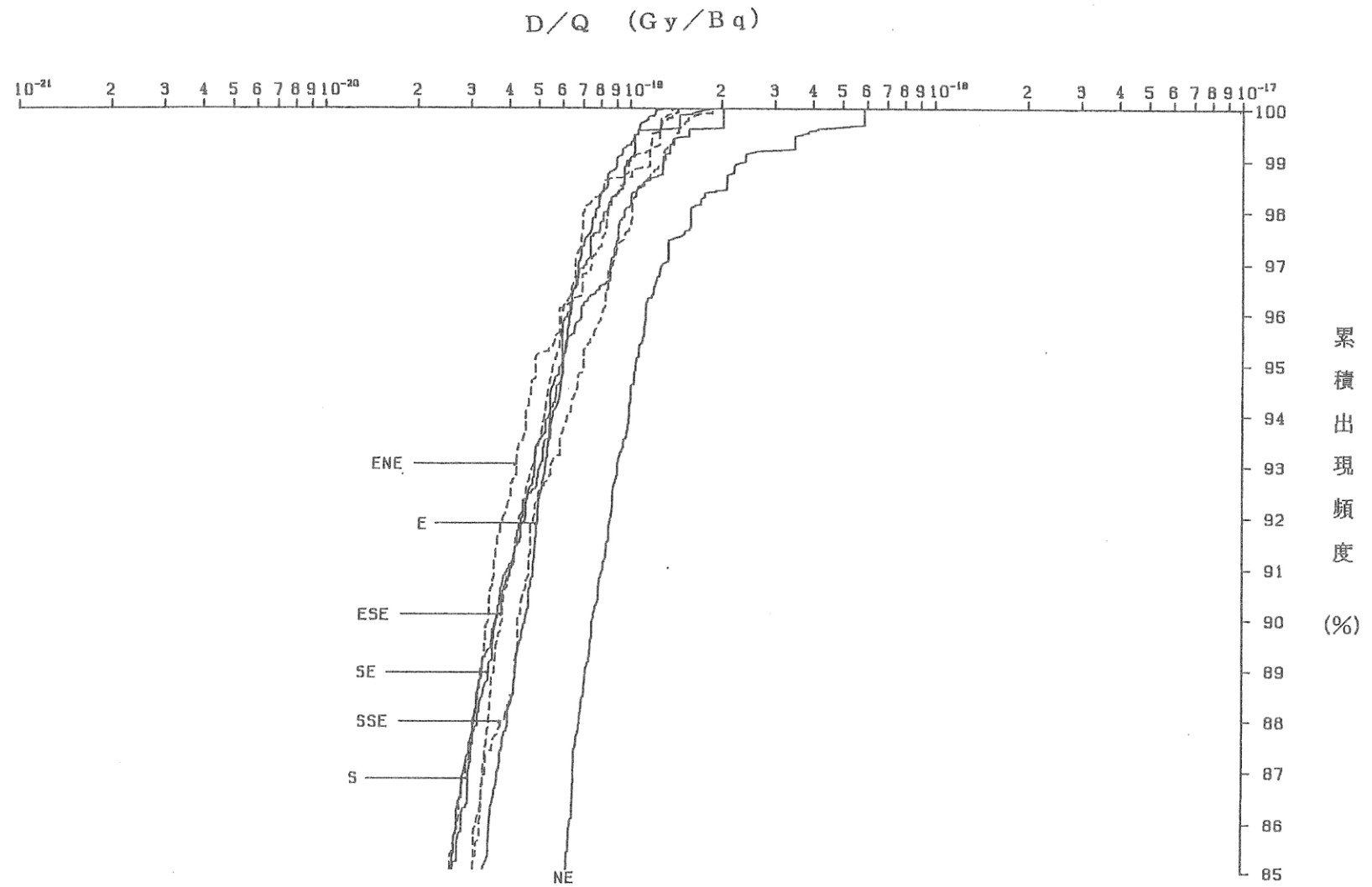
第1.2-52図(12) 方位別相対濃度(χ/Q)の累積出現頻度(3号炉)
 [原子炉冷却材喪失(重大事故時)、地上放出分]



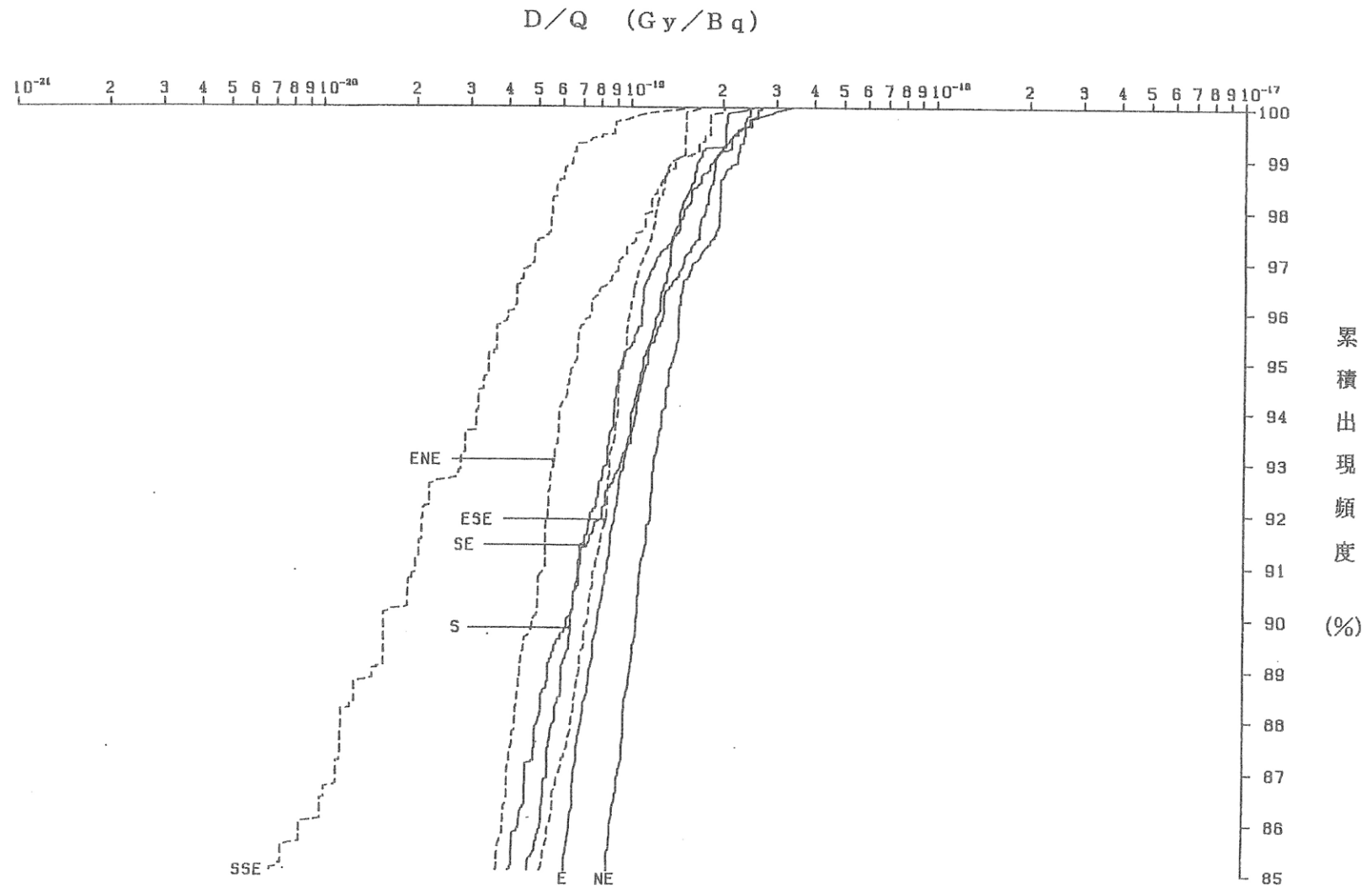
第1.2-52図(13) 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度(3号炉)
 [原子炉冷却材喪失(仮想事故時)、排気筒放出分]



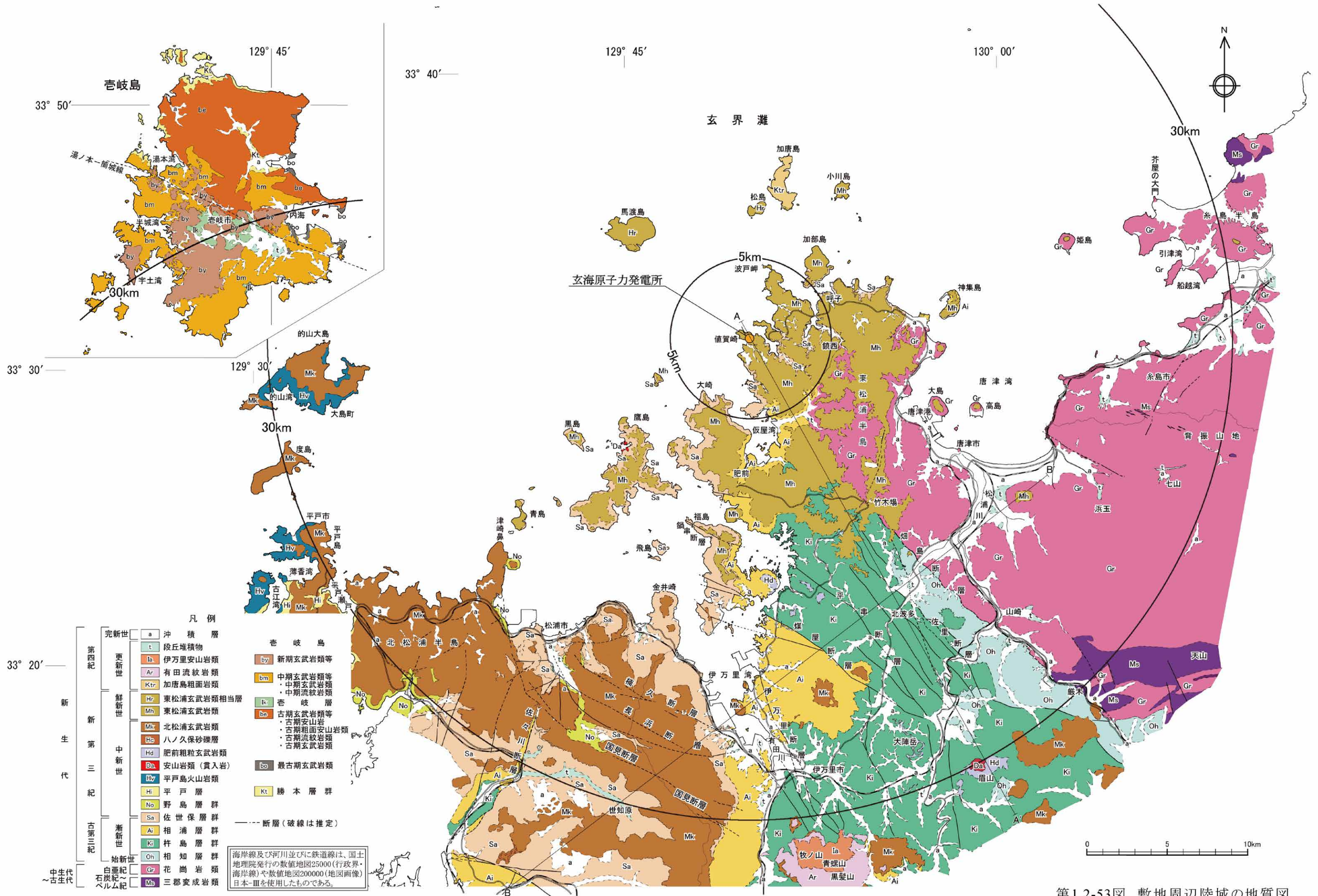
第1.2-52図(14) 方位別相対濃度 (χ/Q) の累積出現頻度(3号炉)
 [原子炉冷却材喪失(仮想事故時)、地上放出分]



第1.2-52図(15) 方位別相対線量(D/Q)の累積出現頻度(3号炉)
 [原子炉冷却材喪失(重大事故及び仮想事故時)、排気筒放出分]

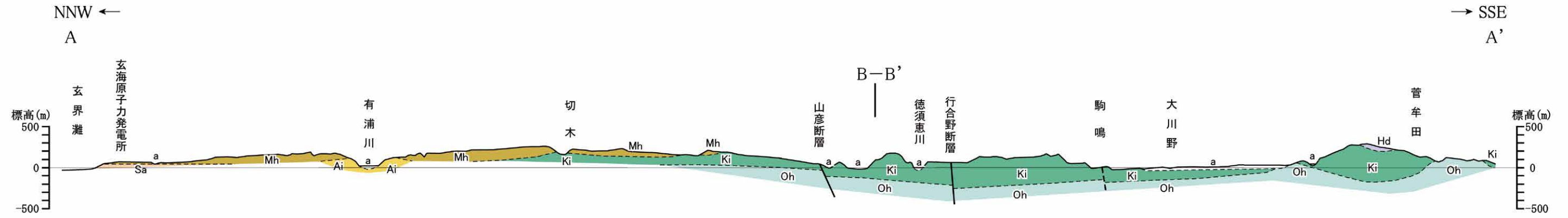


第1.2-52図(16) 方位別相対線量(D/Q)の累積出現頻度(3号炉)
 [原子炉冷却材喪失(重大事故及び仮想事故時)、地上放出分]

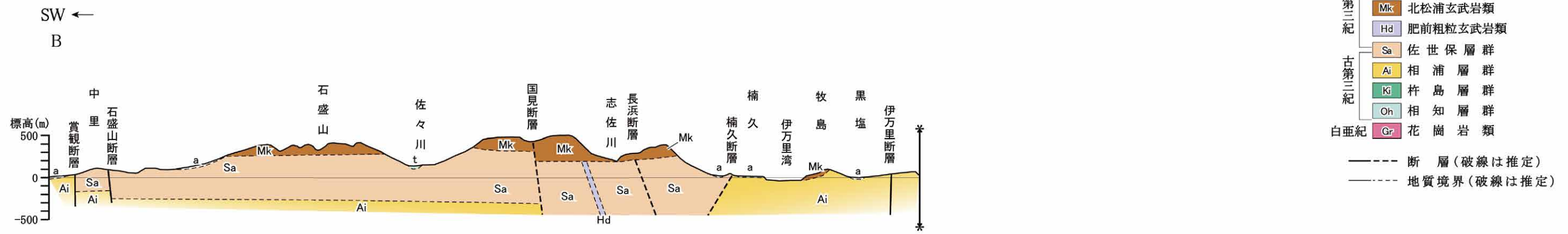


第1.2-53図 敷地周辺陸域の地質図

【A-A'断面図】

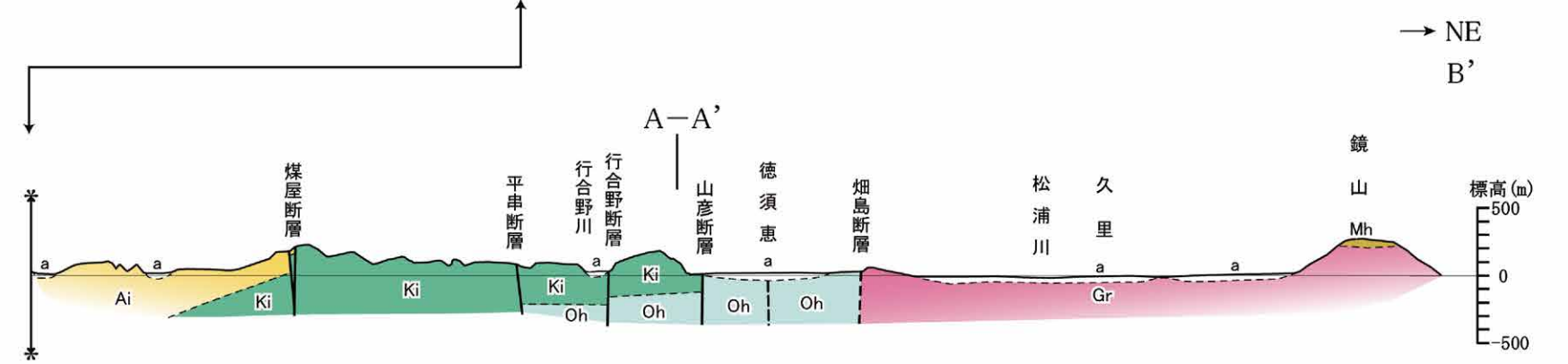


【B-B'断面図】

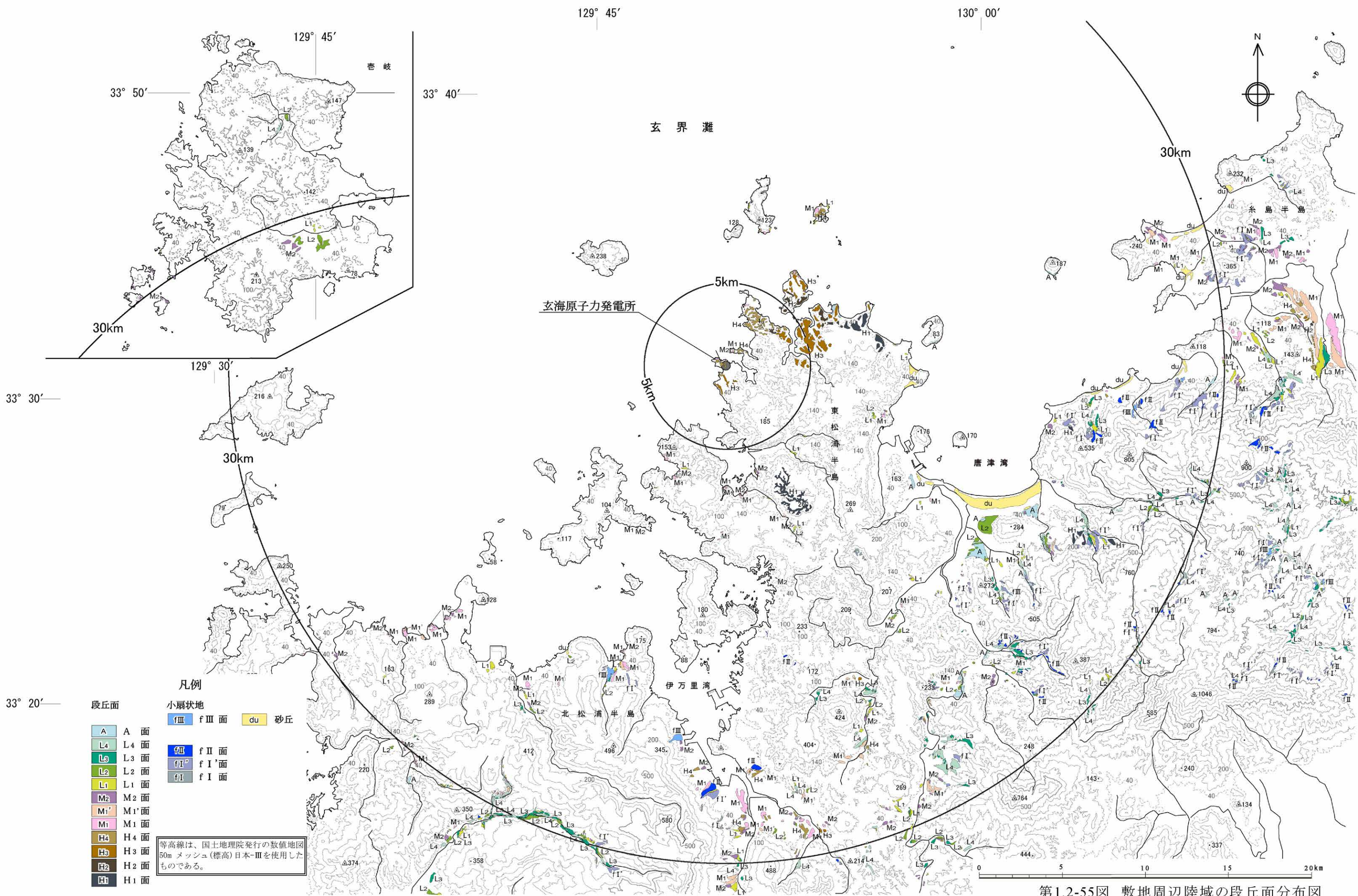


- 凡例
- | | | |
|------|----|----------|
| 第四紀 | a | 沖積層 |
| | t | 段丘堆積物 |
| 新第三紀 | Mh | 東松浦玄武岩類 |
| | Mk | 北松浦玄武岩類 |
| | Hd | 肥前粗粒玄武岩類 |
| 古第三紀 | Sa | 佐世保層群 |
| | Ai | 相浦層群 |
| | Ki | 杵島層群 |
| | Oh | 相知層群 |
| 白亜紀 | Gr | 花崗岩類 |
- - - 断層(破線は推定)
 - · - · 地質境界(破線は推定)

0 5 10km
H:V=1:2

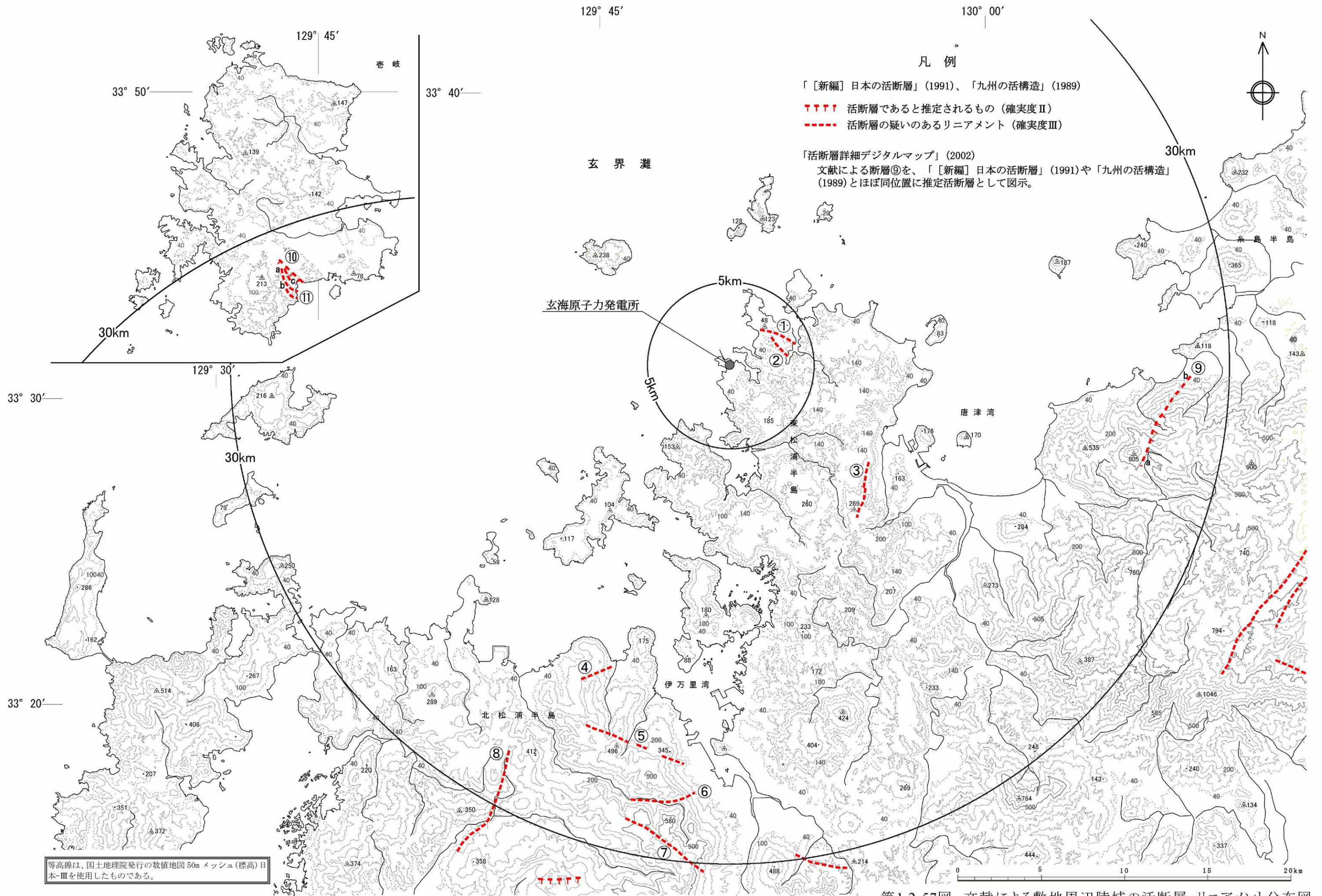


第1.2-54図 敷地周辺陸域の地質断面図



- 凡例
- | | | | | | |
|-----|-------|------|---------|----|----|
| A | A 面 | fIII | f III 面 | du | 砂丘 |
| L4 | L4 面 | fII | f II 面 | | |
| L3 | L3 面 | fI' | f I' 面 | | |
| L2 | L2 面 | fI | f I 面 | | |
| L1 | L1 面 | | | | |
| M2 | M2 面 | | | | |
| M1' | M1' 面 | | | | |
| M1 | M1 面 | | | | |
| H4 | H4 面 | | | | |
| H3 | H3 面 | | | | |
| H2 | H2 面 | | | | |
| H1 | H1 面 | | | | |
- 等高線は、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)日本-IIIを使用したものである。

第1.2-55図 敷地周辺陸域の段丘面分布図



第1.2-57図 文献による敷地周辺陸域の活断層・リニアメント分布図



リニアメント

凡例	記号
	LA※
	LB
	LC
	LD

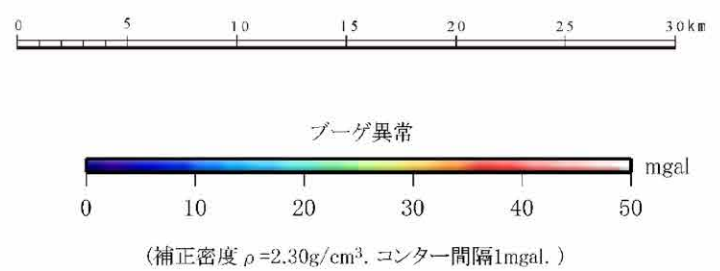
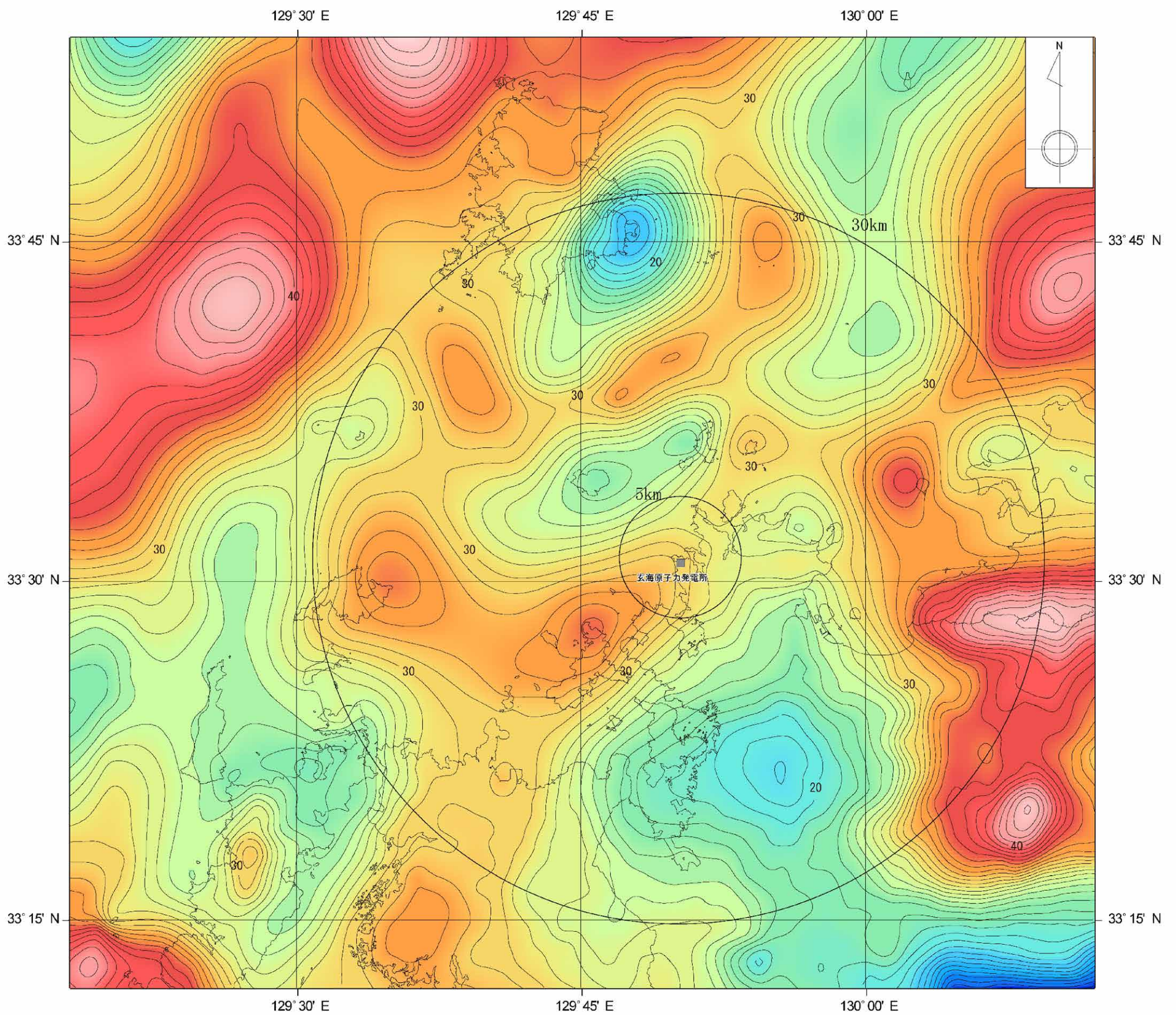
短線は低下側を、矢印の方向は横ずれの方向を示す。

↓↓ 撓み・傾動方向・急傾斜部

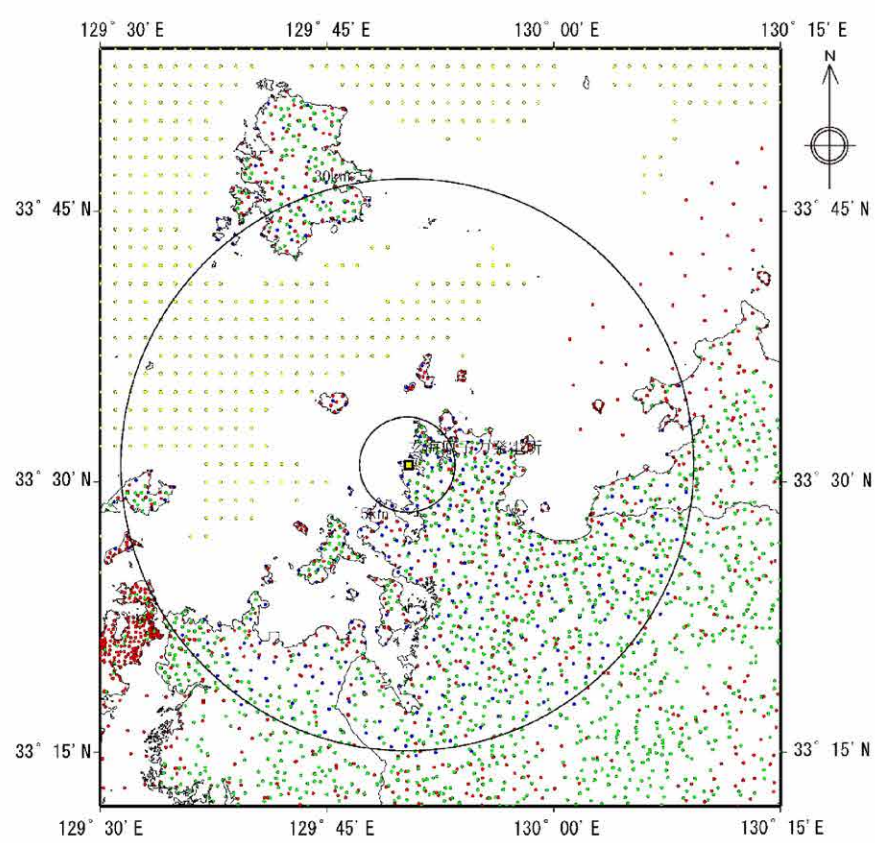
※本地域には、LAリニアメントは判読されない。

等高線は、国土地理院発行の数値地図 50m メッシュ(標高)を使用したものである。

第1.2-58図 敷地周辺陸域のリニアメント分布図



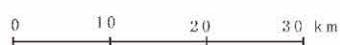
重力異常図は、陸域については、地質調査総合センター編(2013)「日本重力データベースDVD版」、Yamamoto et al.(2011)Gravity Database of Japan (CD-ROM)及び九州電力株式会社、海域については、Sandwell and Smith(1997)及び笹原・矢沼・矢吹(2006)による重力データを使用。



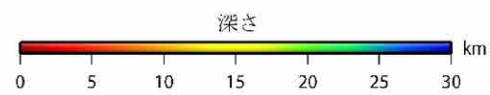
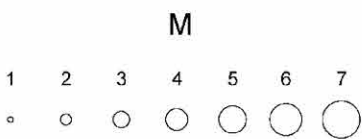
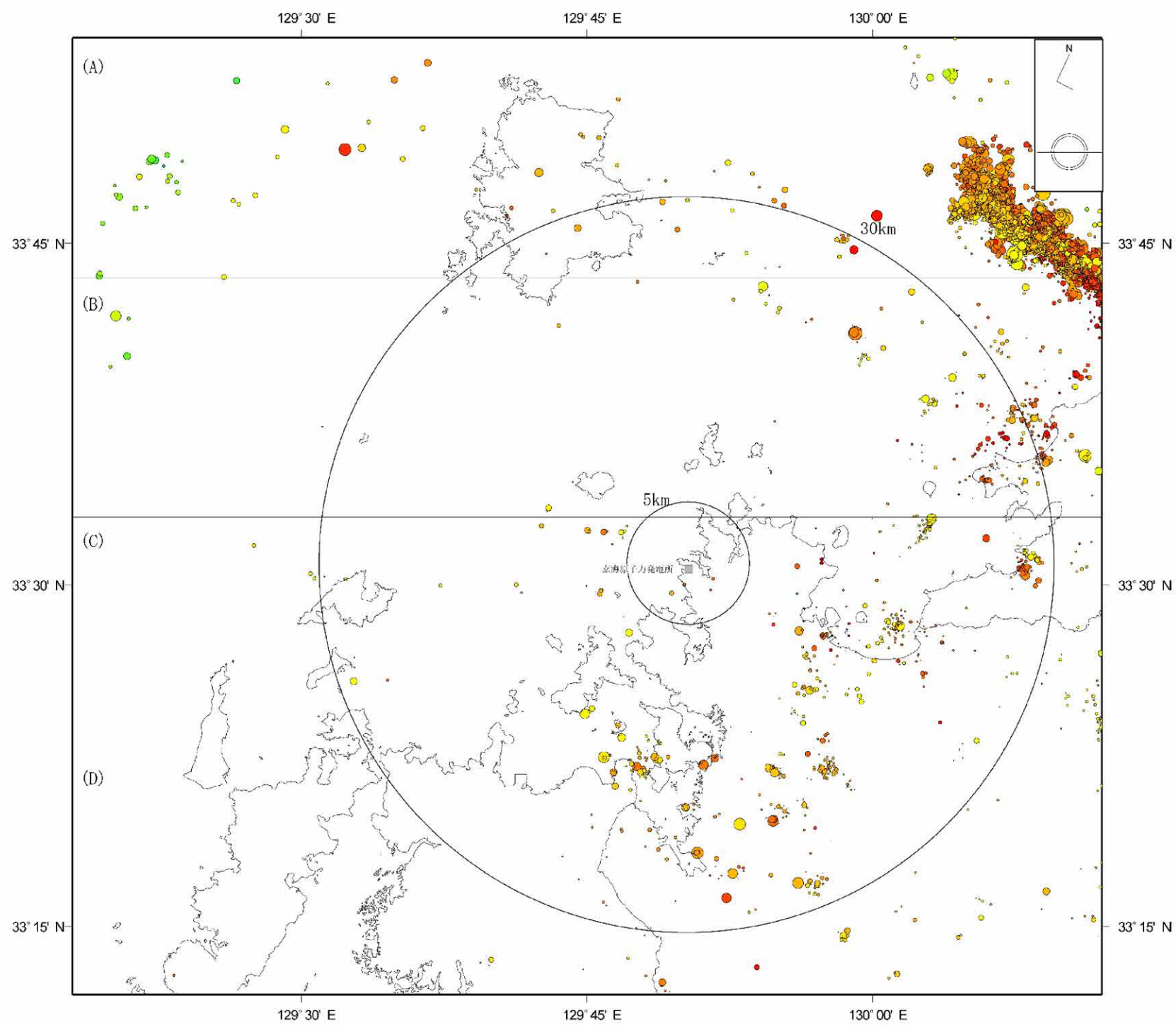
- 重力データ測定点分布凡例
- 九州電力株式会社
 - Sandwell and Smith(1997)及び笹原・矢沼・矢吹(2006)
 - 地質調査総合センター
 - Yamamoto et al. (2011)

海岸線及び県境線は、国土地理院発行の数値地図25000(行政区・海岸線)を使用したものである。

重力データ測定点分布図

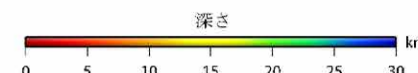
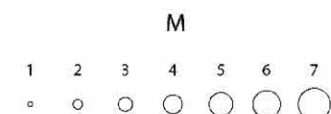
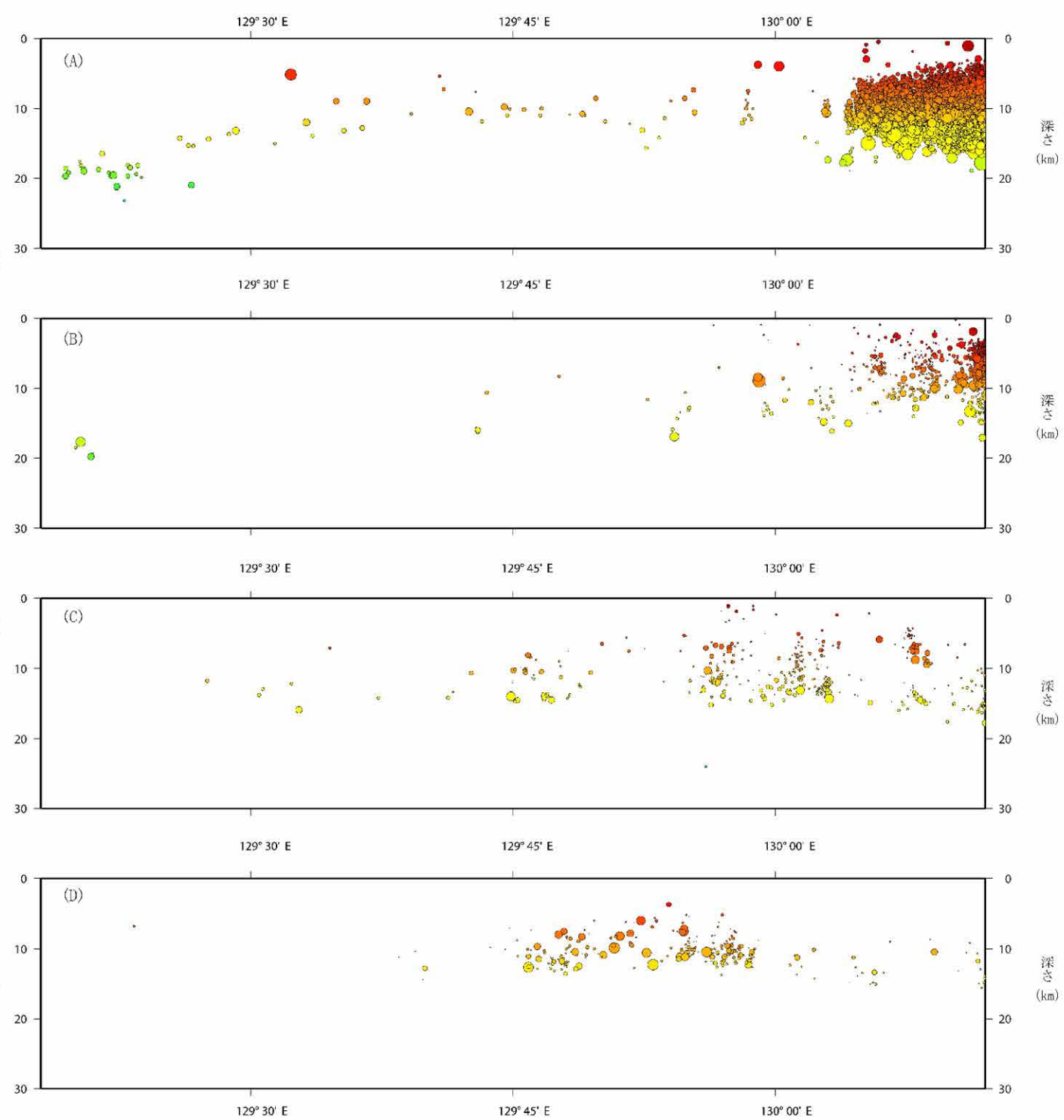


第1.2-59図 敷地周辺の重力異常図



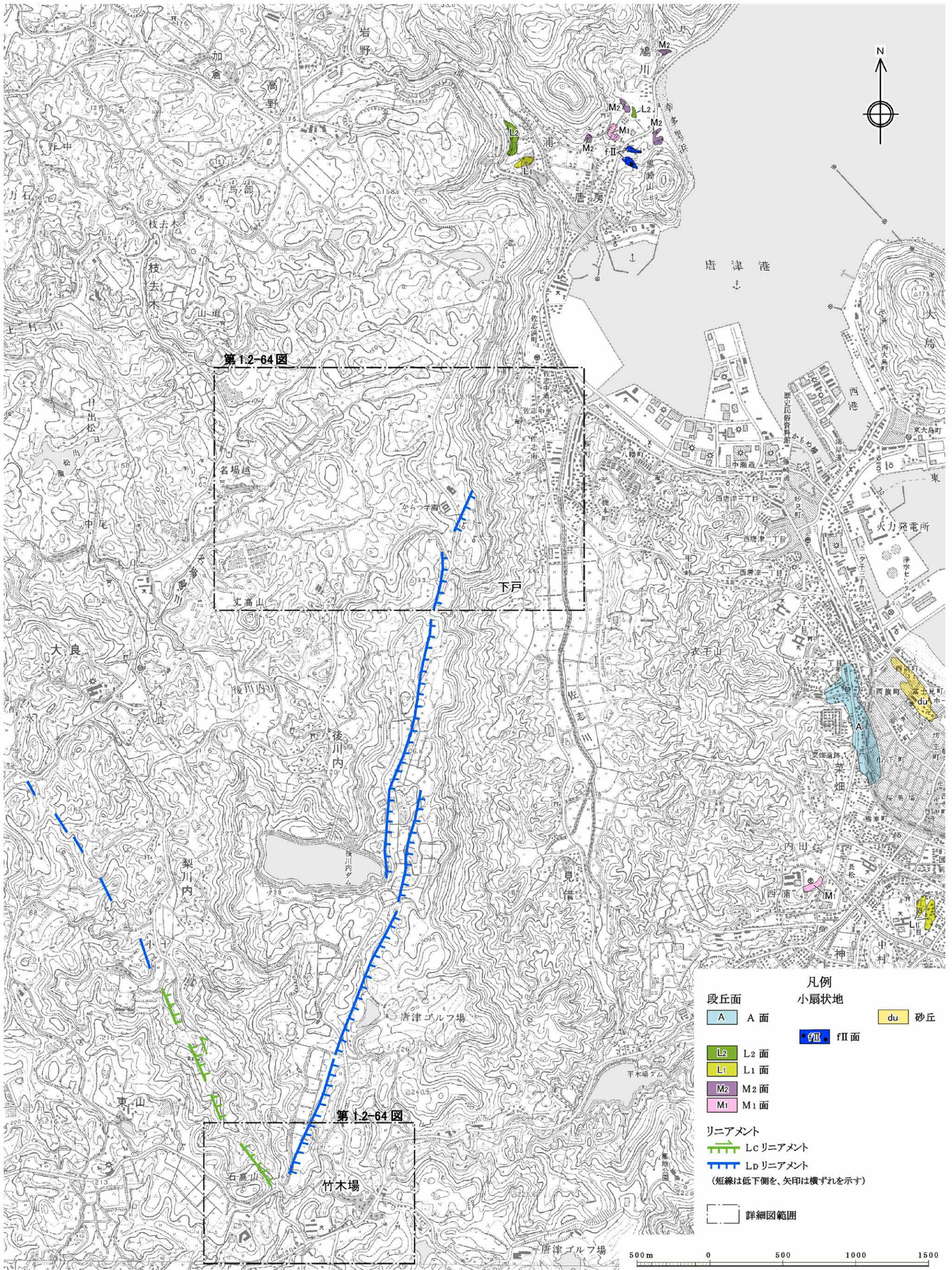
(気象庁震源カタログデータ(期間: 1923-2012年12月)を使用、 $M \geq 0$ 、深さ30km以浅)

海岸線及び県境線は、国土地理院発行の数値地図 25000(行政界・海岸線)を使用したものである。



震源分布断面図
(気象庁震源カタログデータ(期間: 1923-2012年12月)を使用、 $M \geq 0$ 、深さ30km以浅)

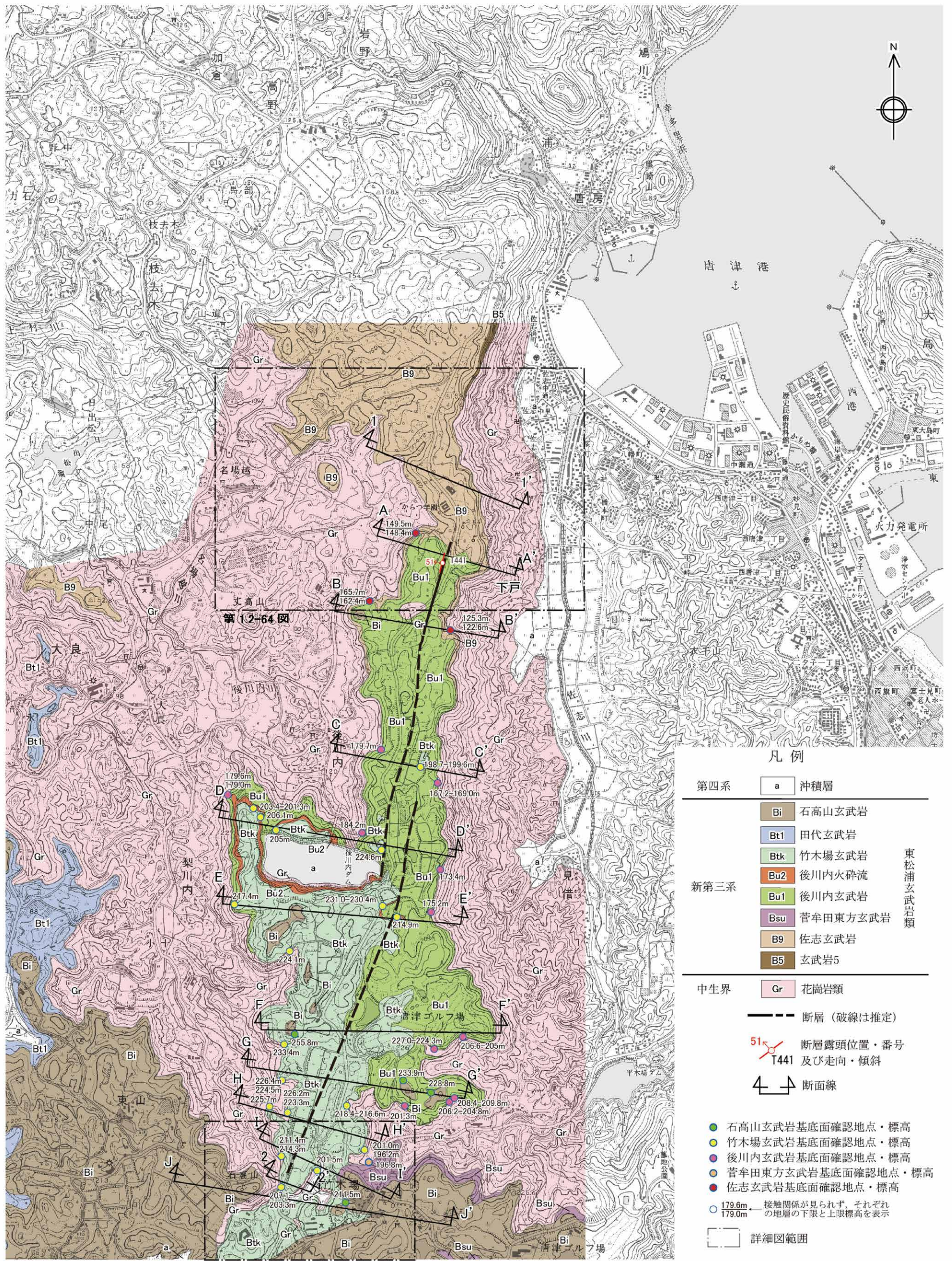
第1.2-60図 敷地周辺の微小地震分布図



- 凡例
- | | | |
|---------------------|-------|----|
| 段丘面 | 小扇状地 | 砂丘 |
| A 面 | fII 面 | du |
| L2 面 | | |
| L1 面 | | |
| M2 面 | | |
| M1 面 | | |
| リニアメント | | |
| Lc リニアメント | | |
| Ld リニアメント | | |
| (短線は低下側を、矢印は横ずれを示す) | | |
| 詳細図範囲 | | |

この地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図(唐津)を使用したものである。

第1.2-61図 竹木場断層周辺の空中写真判読図



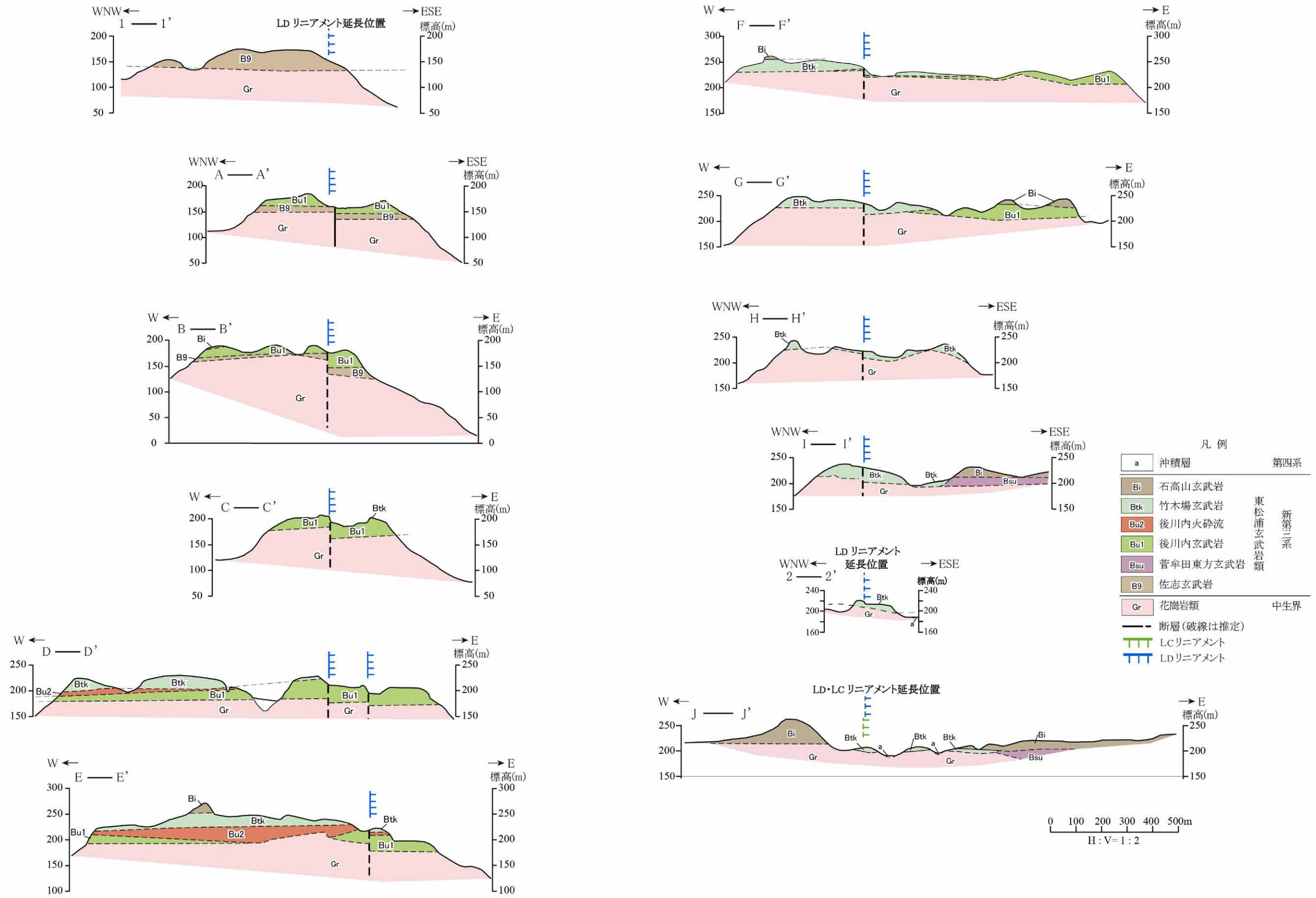
- 凡例
- | | | | |
|------|-----|----------|---------|
| 第四系 | a | 沖積層 | |
| | Bi | 石高山玄武岩 | |
| | Bt1 | 田代玄武岩 | |
| | Btk | 竹木場玄武岩 | 東松浦玄武岩類 |
| | Bu2 | 後川内火砕流 | |
| 新第三系 | Bu1 | 後川内玄武岩 | |
| | Bsu | 菅牟田東方玄武岩 | |
| | B9 | 佐志玄武岩 | |
| | B5 | 玄武岩5 | |
| 中生界 | Gr | 花崗岩類 | |
- - - 断層 (破線は推定)
 51 T441 断層露頭位置・番号及び走向・傾斜
 断面線
- 石高山玄武岩基底面確認地点・標高
 - 竹木場玄武岩基底面確認地点・標高
 - 後川内玄武岩基底面確認地点・標高
 - 菅牟田東方玄武岩基底面確認地点・標高
 - 佐志玄武岩基底面確認地点・標高
- 179.6m 接触関係が見られず、それぞれの地層の下限と上限標高を表示
- 詳細図範囲

第1.2-64図

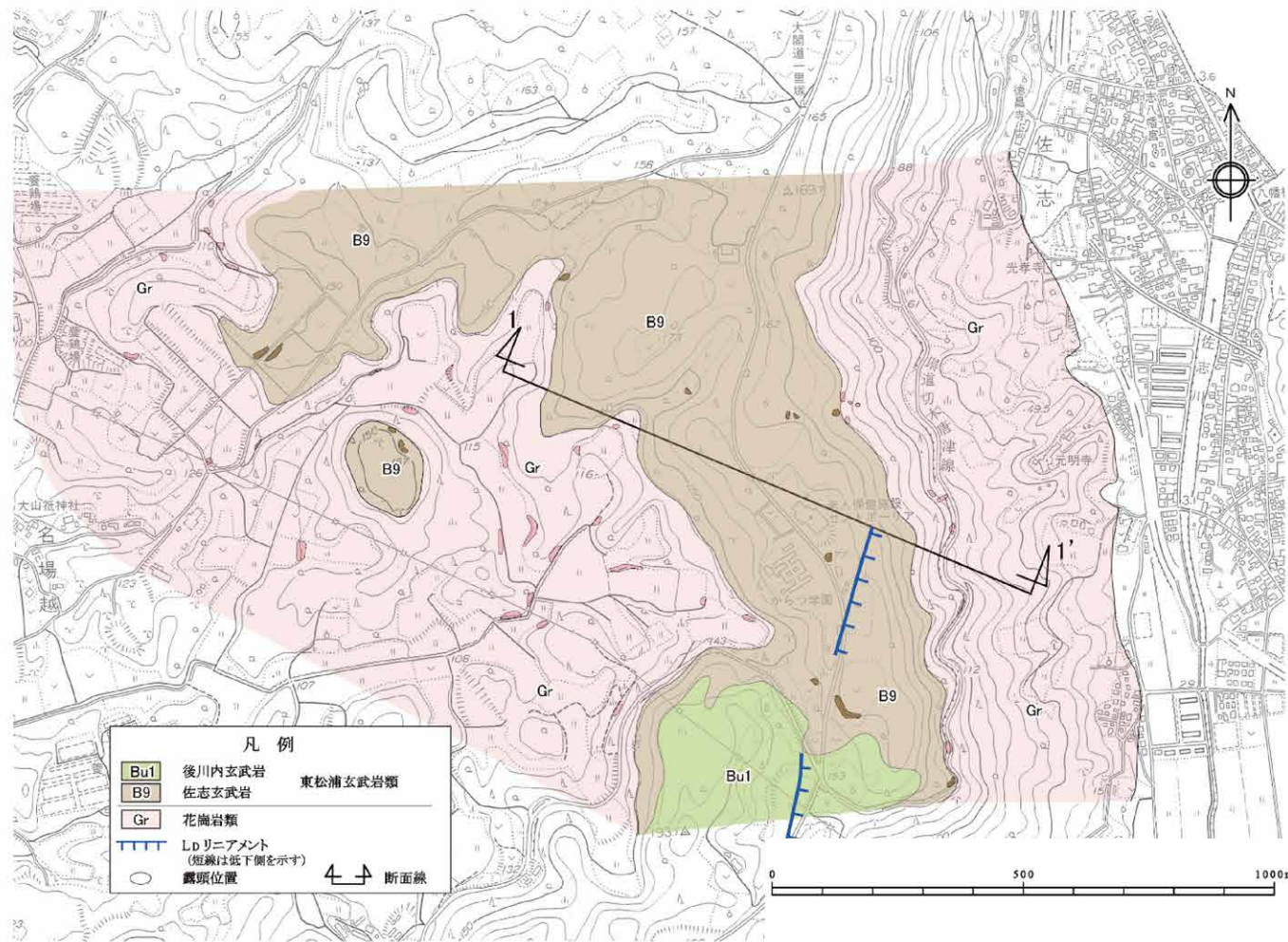
500m 0 500 1000 1500

この地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図(唐津)を使用したものである。

第1.2-62図 竹木場断層周辺の地質図

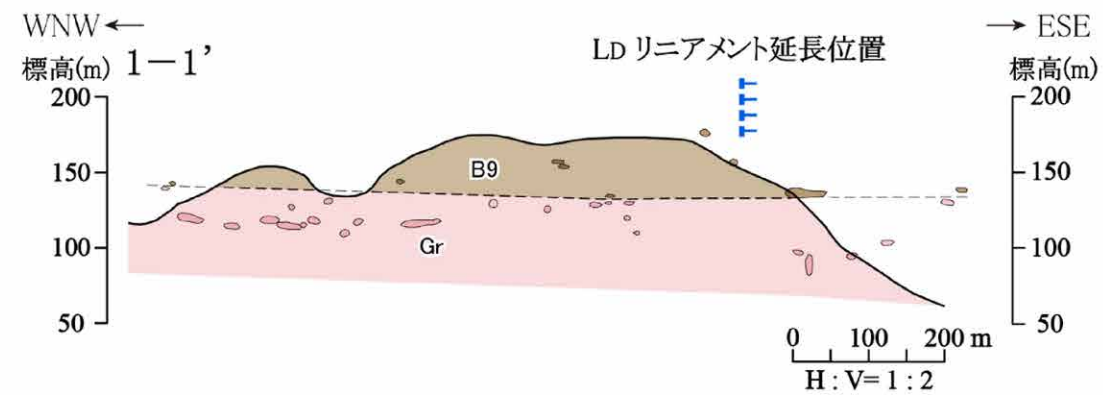


第1.2-63図 竹木場断層周辺の地質断面図

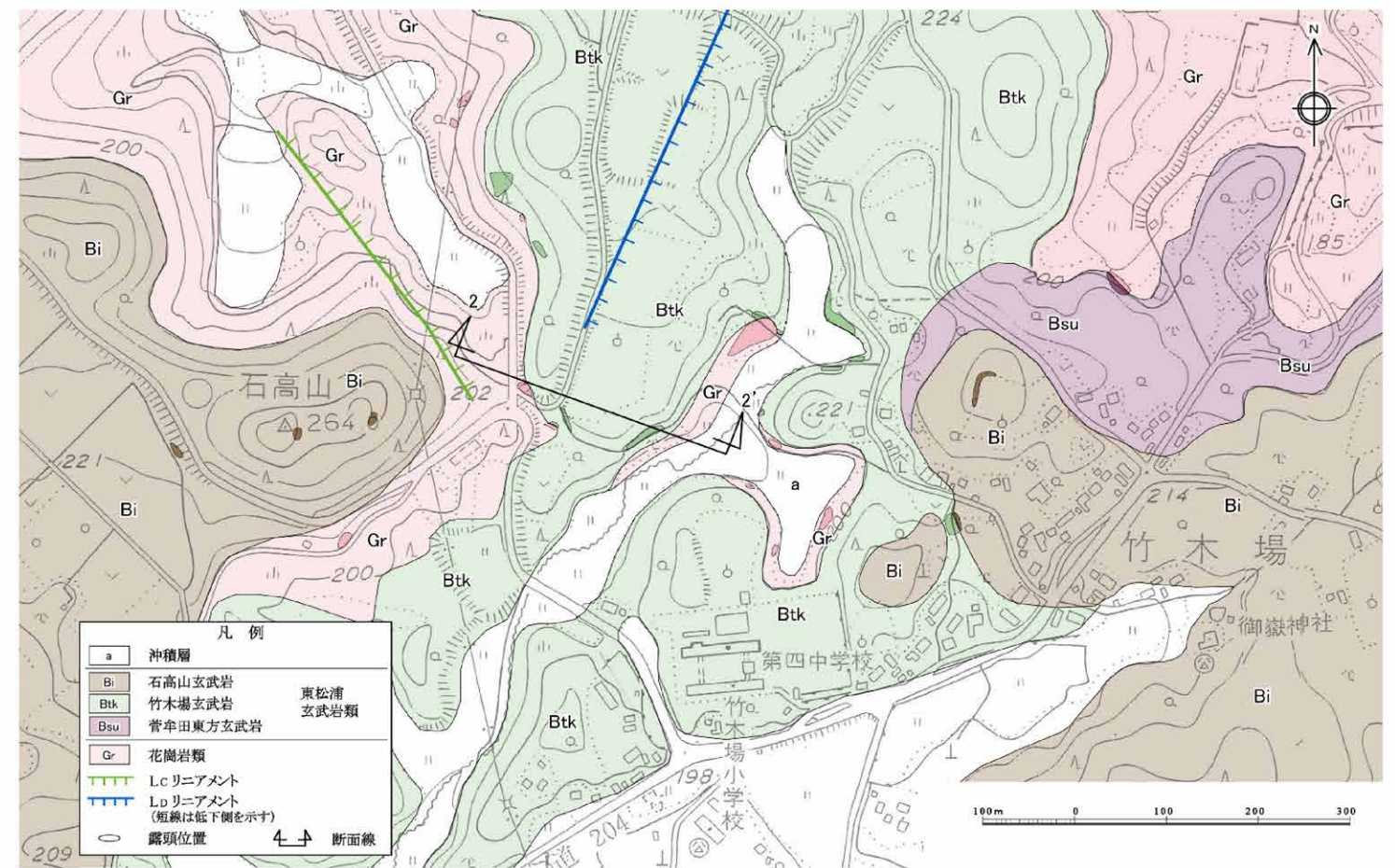


凡例

- | | | |
|-----|----------|---------|
| Bu1 | 後川内玄武岩 | 東松浦玄武岩類 |
| B9 | 佐志玄武岩 | |
| Gr | 花崗岩類 | |
| ○ | 露頭位置 | |
| --- | 地層・岩相の境界 | (破線は推定) |

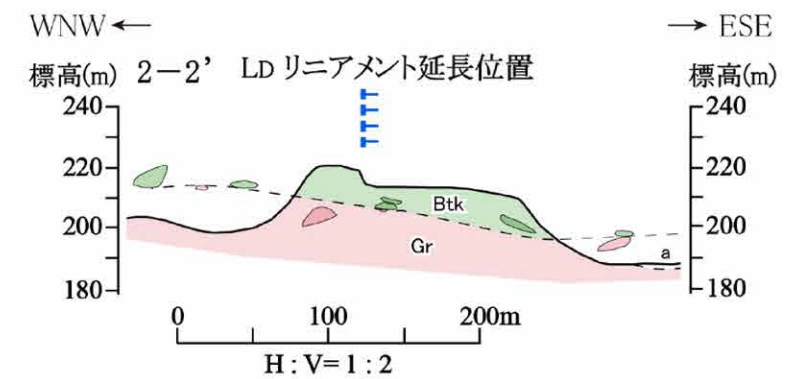


唐津市下戸付近



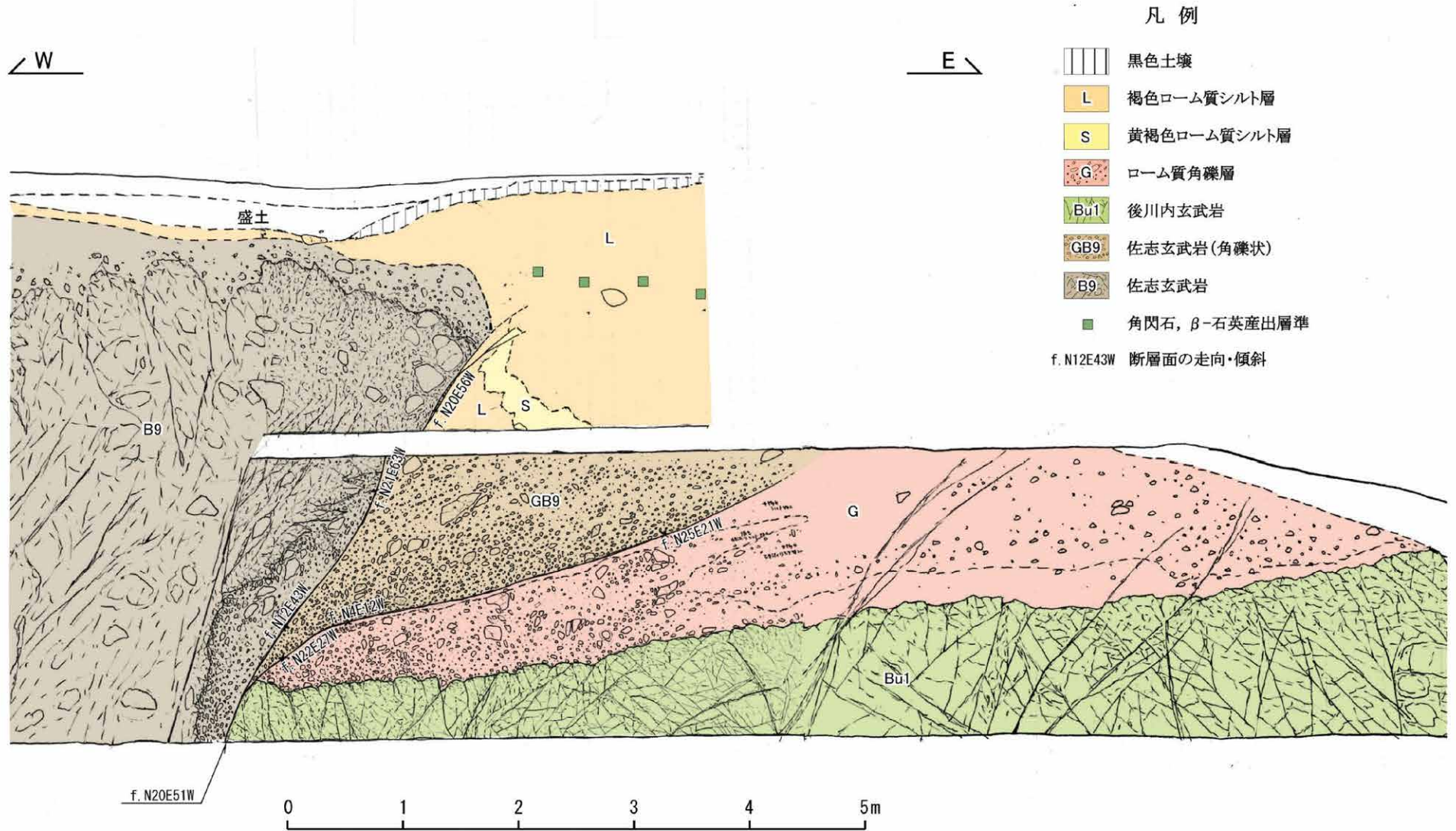
凡例

- | | | |
|-----|----------|---------|
| a | 沖積層 | |
| Btk | 竹木場玄武岩 | 東松浦玄武岩類 |
| Gr | 花崗岩類 | |
| ○ | 露頭位置 | |
| --- | 地層・岩相の境界 | (破線は推定) |

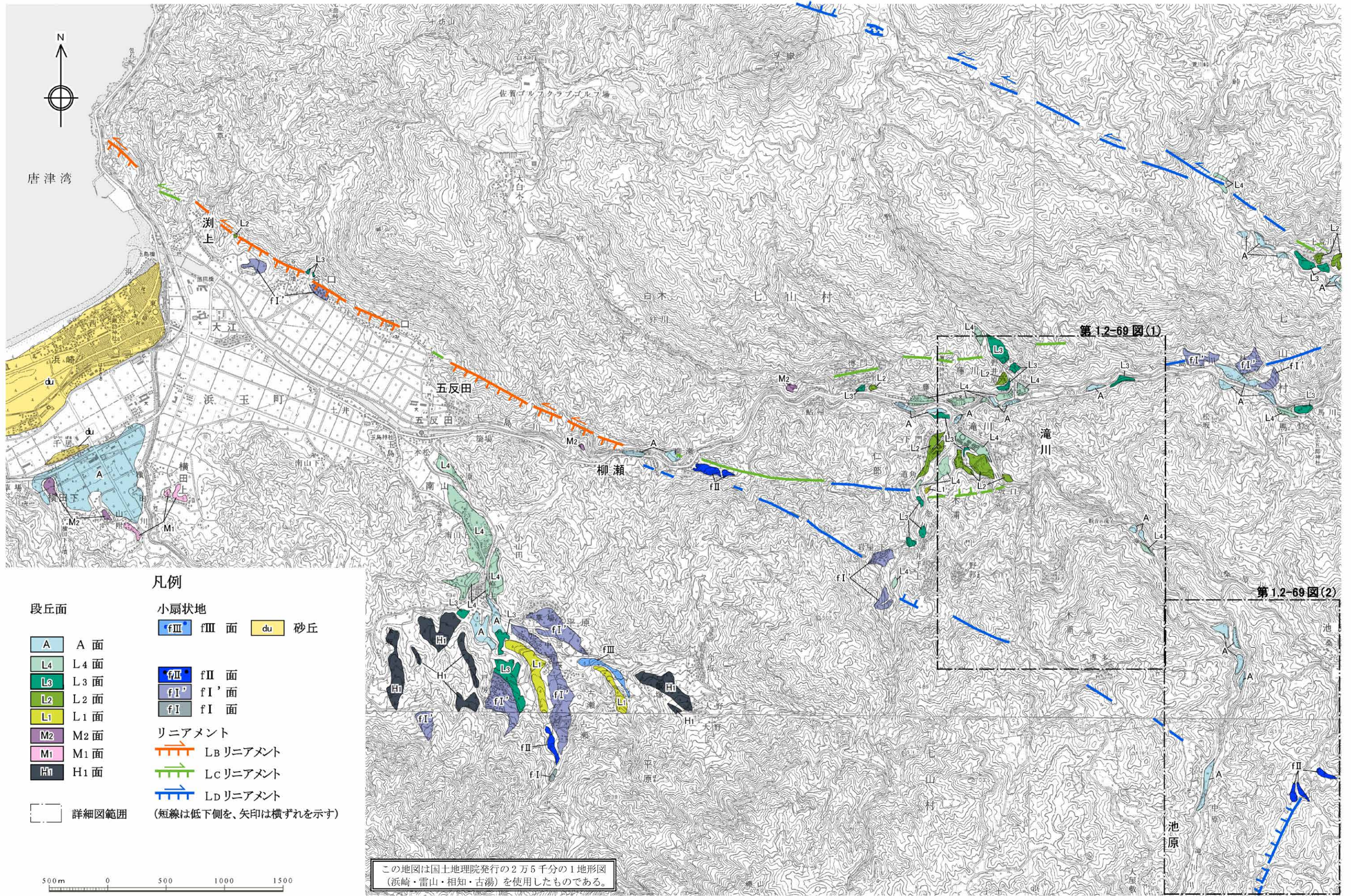


唐津市竹木場付近

第1.2-64図 唐津市下戸付近及び竹木場付近のルートマップ・地質断面図



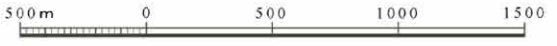
第1.2-65図 露頭スケッチ (Loc.T441、唐津市下戸西)



唐津湾

凡例

- | | |
|------------|---------------------|
| 段丘面 | 小扇状地 |
| A 面 | fIII 面 |
| L4 面 | fII 面 |
| L3 面 | fI' 面 |
| L2 面 | fI 面 |
| L1 面 | |
| M2 面 | リニアメント |
| M1 面 | Lb リニアメント |
| H1 面 | Lc リニアメント |
| | Ld リニアメント |
| | (短線は低下側を、矢印は横ずれを示す) |

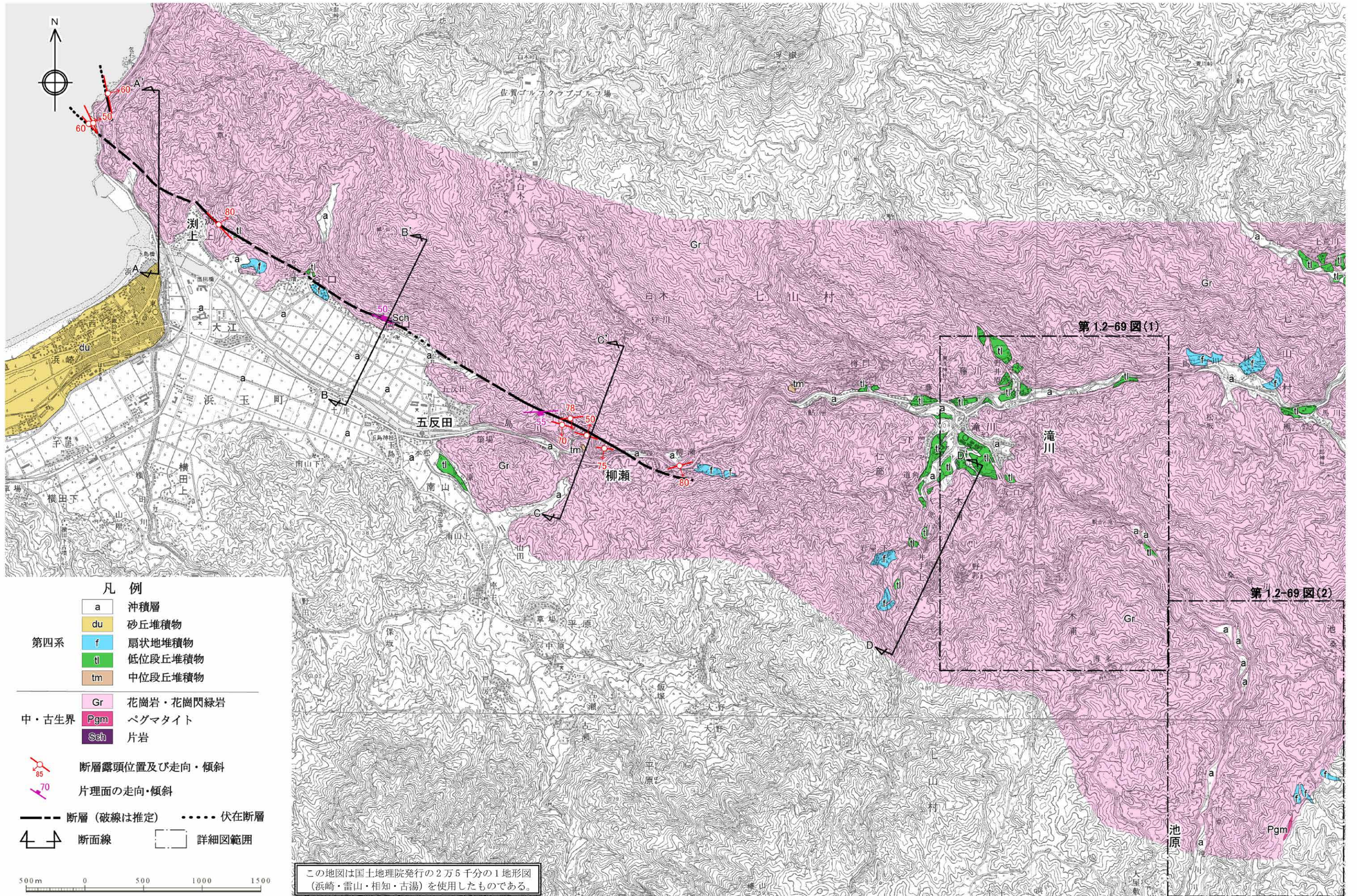


この地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図
(浜崎・雷山・相知・古湯)を使用したものである。

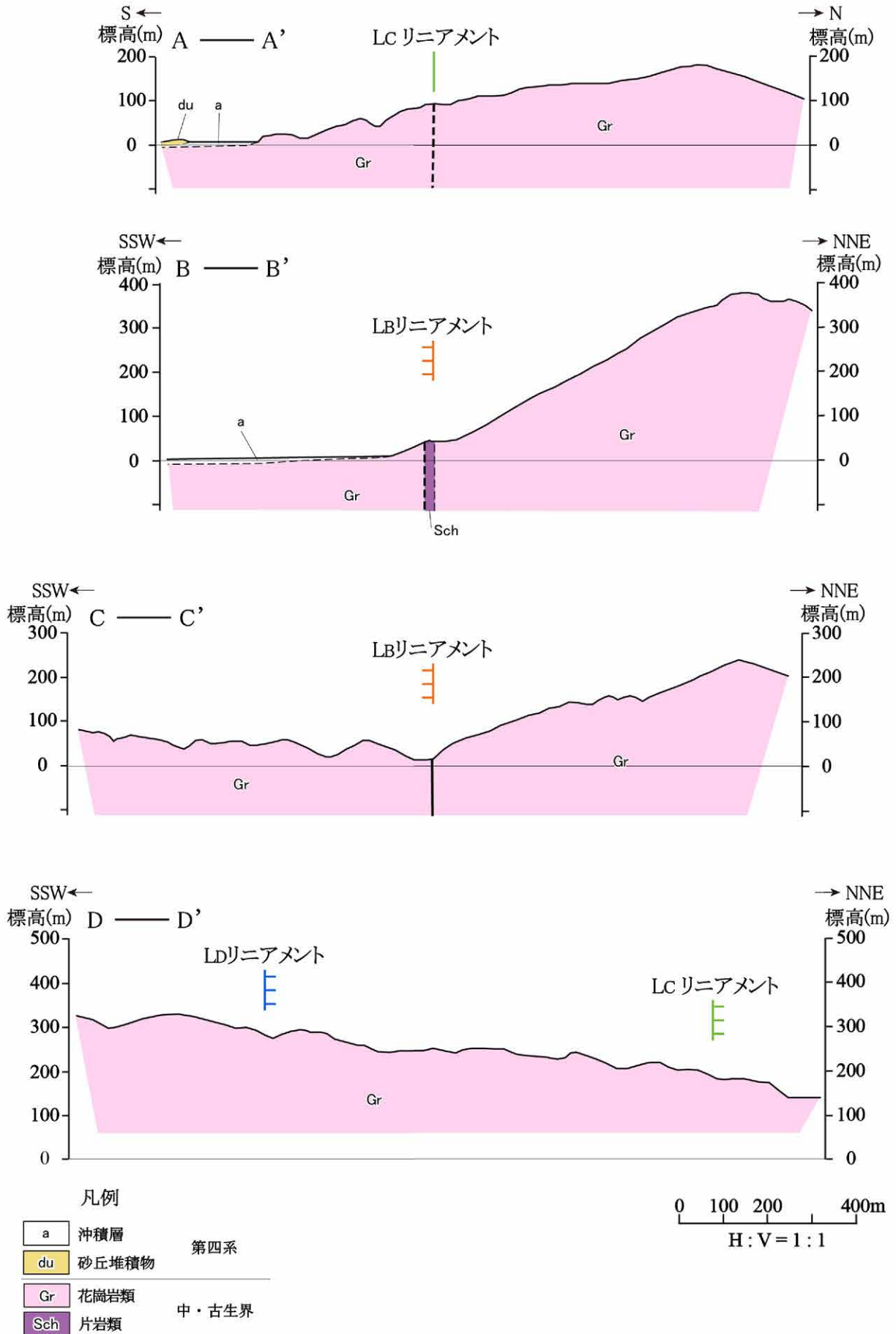
第1.2-69図(1)

第1.2-69図(2)

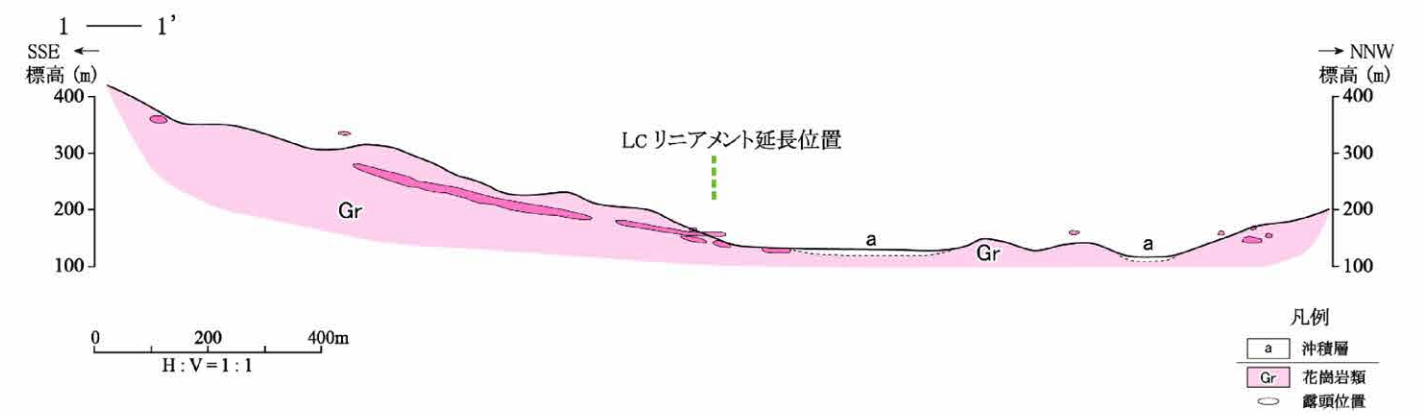
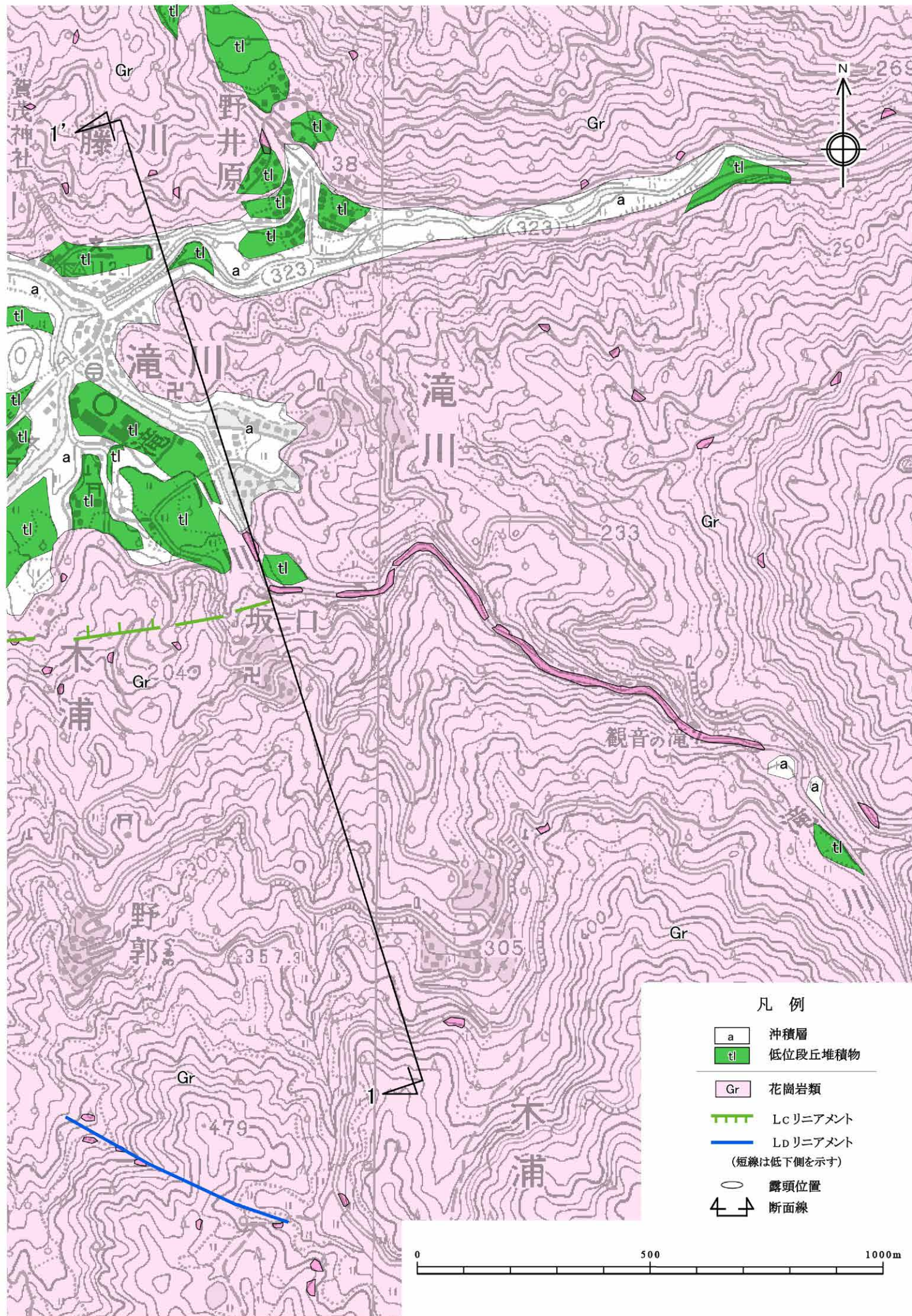
第1.2-66図 城山南断層周辺の空中写真判読図



第1.2-67図 城山南断層周辺の地質図

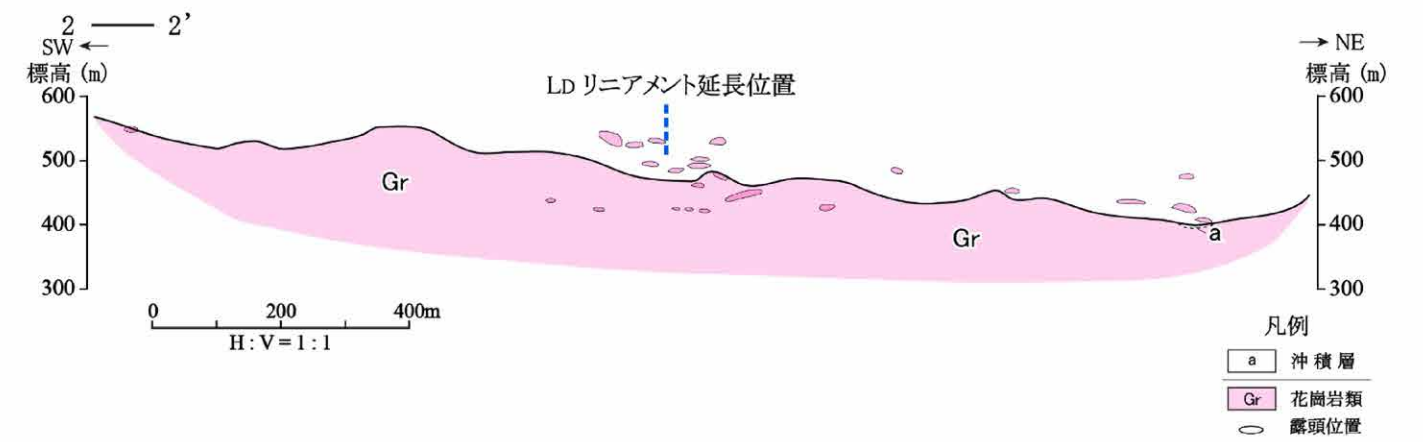
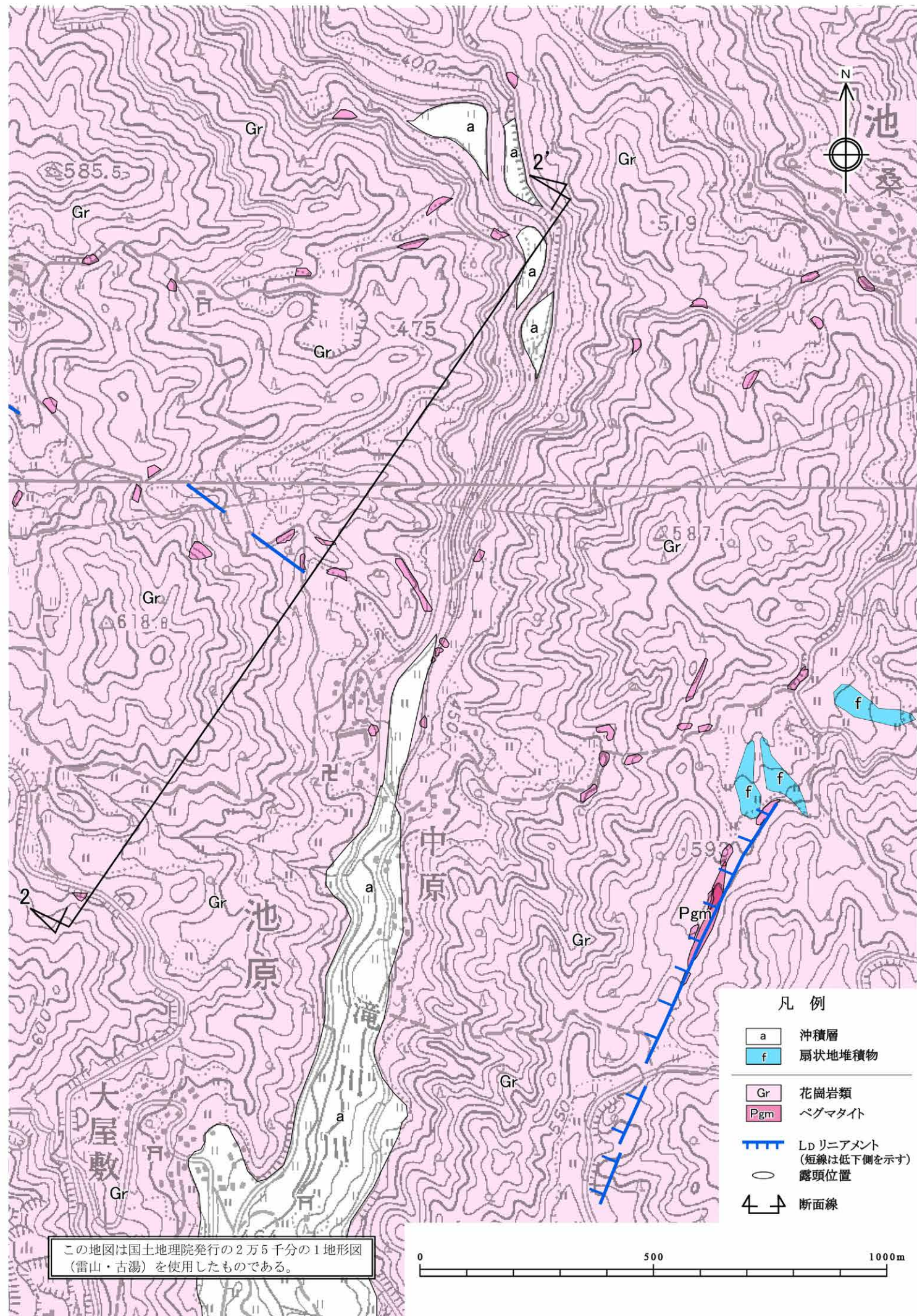


第1.2-68図 城山南断層周辺の地質断面図

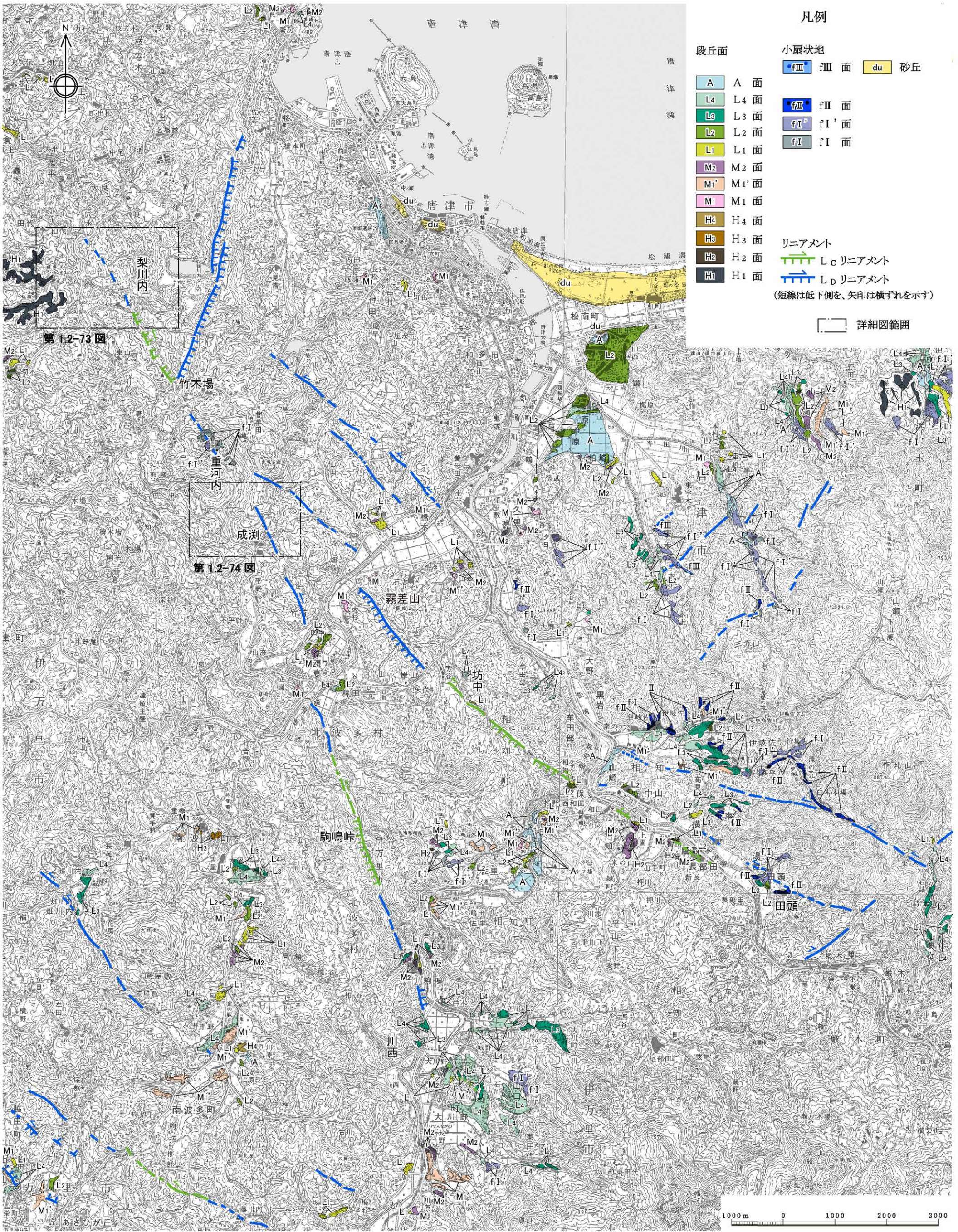


この地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図
(浜崎・雷山)を使用したものである。

第1.2-69図(1) 唐津市七山滝川付近のルートマップ・地質断面図



第1.2-69図(2) 唐津市七山池原付近のルートマップ・地質断面図



凡例

- | | | |
|------------|---------------------|-----------|
| 段丘面 | 小扇状地 | 砂丘 |
| A A面 | fIII fIII面 | du 砂丘 |
| L4 L4面 | fII fII面 | |
| L3 L3面 | fI' fI'面 | |
| L2 L2面 | fI fI面 | |
| L1 L1面 | | |
| M2 M2面 | | |
| M1' M1'面 | | |
| M1 M1面 | | |
| H4 H4面 | | |
| H3 H3面 | | |
| H2 H2面 | | |
| H1 H1面 | | |
| | リニアメント | |
| | → Lc リニアメント | |
| | → Ld リニアメント | |
| | (短線は低下側を、矢印は横ずれを示す) | |

□ 詳細図範囲

第1.2-73図

第1.2-74図

1.2-487

この地図は国土地理院発行の5万分の1地形図(唐津・浜崎・伊万里・武雄)を使用したものである。

第1.2-70図 畑島リニアメント・駒鳴峠リニアメント周辺の空中写真判読図